

荒砥大日塚遺跡

昭和56年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 4

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

寄贈

群
馬
県
様

3. 1

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第178集
 荒砥大日塚遺跡 正誤表

誤	正
凡例(4)扉面	扉面
第75図左スケール1:80	1:400
第125図ロームブロック	ロームブロック
報告書抄録第 集	第178集
写真図版PL.19上の写真番号	番号1
写真図版PL.33上の写真番号	番号1

資料	群馬県埋蔵文化財	01-353
	調査事業団保管	
No. 98-5032	平成11年 5月13日	(?)

荒砥大日塚遺跡

昭和56年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1 9 9 4

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

前橋市の旧荒砥村地区では、県営荒砥南部圃場整備事業に続いて昭和56年度より一般国道50号線の北の地域を対象にした県営荒砥北部圃場整備事業が始まり、平成3年度まで行われました。圃場整備の対象となった地域は、県内でも有数の埋蔵文化財が分布しており、多くの埋蔵文化財が記録保存の発掘調査の対象となりました。

当事業団では昭和56、57、58、59年度に対象となった事業地域の埋蔵文化の発掘調査を行いました。諸般の事情により調査報告書の刊行が遅れていましたが、関係者の努力により今年度から本格的に荒砥北部圃場整備事業に伴い発掘調査された遺跡の報告書刊行のための整備作業が始まりました。その手始めとして昭和56年度に調査された二之宮、荒口地区に所在する大日塚遺跡から着手しました。大日塚遺跡は、古墳時代から平安にかけての集落跡、浅間山B軽石に埋没した水田跡、中世の女堀等の遺構が調査されています。このうち、女堀については昭和59年度に他の地域の女堀遺構と共に調査報告書を刊行しています。

この度、一年の月日をかけて整備作業が完了しましたので、ここに「荒砥大日塚遺跡」の調査報告書を上梓することになりました。

発掘調査から調査報告書まで、群馬県農政部土地改良課、前橋土地改良事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者にはご協力を賜りました。これら関係者の皆様には衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の地域の解明のために活用されることを願い序とします。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

1. 本書は1981（昭和56）年度の県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う荒砥大日塚遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は群馬県前橋市二之宮町94、95、97-1番地他、荒口町394、398-3、399-1番地他に所在する。
3. 発掘調査は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県農政部および群馬県教育委員会と委託契約を締結し実施した。
4. 発掘調査は1981（昭和56）年11月5日に開始し、翌年2月28日で終了した。
5. 調査時の事業団組織は次の通りである。

管理・指導	小林起久治、沢井良之助、井上唯雄、近藤平志、細野雅男
事務担当	国定 均、山本朋子、柳岡良宏、笠原秀樹、吉田有光、吉田恵子、野島のお江、 並木綾子
調査担当	細野雅男（調査研究第3課長） 菊池 実（調査研究員） 斎藤利昭（調査研究員）
6. 本書作成のための整理作業は、群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県教育委員会より委託され、1993（平成5）年4月1日から1994年3月31日まで実施した。
7. 本書作成時の事業団組織および担当者は以下の通りである。

管理・指導	中村英一、近藤 功、佐藤 勉、神保侑史、巾 隆之、斉藤俊一
事務担当	調査時の職員他に、船津 茂、高橋定義、松下 登、角田みづほ、松井美智代、 塩浦ひろみが関係した。
編 集	菊池 実（主任調査研究員）と黒沢はるみ（嘱託員）で協議し行った。
文章執筆	調査担当であった菊池と斎藤利昭（主任調査研究員）で協議し、さらに巾 隆之（調査研究第3課長）、大西雅広（主任調査研究員）深澤敦仁（調査研究員）、の協力を得た。執筆分担はA区の遺構を菊池、B・C区の遺構を斎藤が執筆した。また遺物観察表は深澤を中心に黒沢、牧野がこれを補佐した。
図版作成	黒沢はるみ、新谷さか江、平林照美、牧野裕美、光安文子、小菅優子、増田政子
遺構写真	細野雅男、菊池 実、斎藤利昭
遺物写真	佐藤元彦（主任技師）
石材鑑定	陣内圭一（元群馬県立自然科学資料館）
8. 出土遺物は群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
9. 調査にあたっては、地元の方々には作業に従事していただくとともに多くの便宜を図っていただきました。

凡 例

1. 調査においては、圃場整備事業の工事中基準杭を使用して調査範囲内に5×5mのグリッドを設定した。東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で呼称した。各グリッドの名称はA区・B区においてはその北西隅をあて、C区は南西隅をあてた。また全体図の中に国家座標上の位置を記載した。
2. 挿図中に使用した方位は磁北で真北よりN-8°-Wである。
3. 本書における遺構番号は、A・B・C区で調査時に付したものをそのまま使用している。
4. 本書の遺構・遺物挿図の指示は次の通りである。

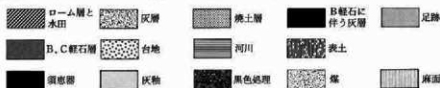
(1) 挿図縮尺

竪穴住居跡……1/60	井戸……1/60
竈 ……1/40	溝 ……1/60、1/120
土 坑……1/60	水田……1/200、1/400
土器実測図……1/3	石器実測図……1/3

(2) レベルは標高を示す。

(3) 遺物番号は本文、挿図、表と一致する。

(4) 挿図中のスクリーントーンの指示は次の通りである。



5. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。

観察表の内、「胎土・焼成・色調」は上段が胎土、中段が焼成、下段が色調を表している。胎土のI～IIIは当遺跡出土の古墳時代～平安時代土器での相対的な砂粒の量で、Iが少なくIIIが多い。次のA～Eは含まれる鉱物の見た目の特徴であり、Aは赤色鉱物、Bは光沢のある黒色鉱物、Cは軟らかい白色鉱物、Dは透明鉱物、Eは不透明鉱物である。

色調については『新版 標準土色帖』1988年度版によった。

6. 竪穴住居跡の面積はカマドを除いた床面積であり、計測にはプランメーターを用いて3回計測しその平均を面積とした。
7. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1（「大胡」）地形図、20万分の1（「宇都宮」）地勢図を使用した。

目 次

序 例 言 凡 例

1 章 調査の経過

【1】調査に至る経過	3
【2】調査の経過	4
【3】調査の方法	6

2 章 遺跡の立地と環境

【1】地理的環境	8
【2】歴史的環境	9

3 章 A区の遺構と遺物

【1】調査の概要	14
【2】竪穴住居跡・竪穴状遺構	17~73
A区1号住居跡	17
A区2号住居跡	23
A区3号住居跡	31
A区4号住居跡	34
A区5号住居跡	38
A区6号住居跡	39
A区7号住居跡	40
A区8号住居跡	44
A区9号住居跡	46
A区10号住居跡	47
A区11号住居跡	49
A区12号住居跡	51
A区13号住居跡	52
A区14号住居跡	54

A区15号住居跡	55
A区16号住居跡	57
A区17号住居跡	58
A区18号住居跡	61
A区19号住居跡	64
A区20号住居跡	65
A区21号住居跡	66
A区22号住居跡	67
A区23号住居跡	70
A区24号住居跡	71
A区1号竪穴状遺構	73
【3】土坑・ピット	74~77
A区1号土坑	74
A区2号土坑	74
A区3号土坑	74
A区4号土坑	74
A区5号土坑	74
A区6号土坑	74
A区7号土坑	74
A区8号土坑	75
A区9号土坑	75
A区10号土坑	75
A区11号土坑	75
A区12号土坑	75
A区13号土坑	75
A区ピット	75
【4】井 戸	77~78
A区1号井戸	77
【5】溝	79~84
A区1号溝	79
A区2号溝	79
A区3号溝	79
A区4号溝	80
A区5号溝	80
A区6号溝	83
A区7号溝	84
【6】水 田 跡	84~88
【7】グリッド	89~97

4章 B区の遺構と遺物

【1】 竪穴住居跡	101～112
B区1号住居跡	101
B区2号住居跡	103
B区3号住居跡	106
B区4号住居跡	109
【2】 土坑・ビット群・柵列	113～116
B区1号土坑	113
B区2号土坑	113
B区3号土坑	113
B区5号土坑	114
B区ビット群	114
B区1号柵列	115
B区2号柵列	116
B区3号柵列	116
【3】 井戸	117～121
B区1号井戸	117
B区2号井戸	118
【4】 溝	122～125
B区1号溝	122
B区2号溝	123
B区4号溝	124
B区5号溝	124

B区6号溝	124
B区7号溝	125

【5】 水田跡	126～128
---------	---------

5章 C区の遺構と遺物

【1】 竪穴住居跡	133～152
C区1号住居跡	133
C区2号住居跡	135
C区3号住居跡	138
C区4号住居跡	141
C区5号住居跡	146
【2】 溝	153～154
C区1号溝	153
【3】 水田跡	155
【4】 グリッド	156～157

結	158
---	-----

報告書抄録

写真図版	遺構 PL.1～PL.55
	遺物 PL.56～PL.73

挿 図 目 次

第 1 図	瓦葺大日塚遺跡の位置 (矢印)	2	第 60 図	A 区 1号 竪穴状遺構と出土遺物	73
第 2 図	瓦葺大日塚遺跡 (A・B・C) 位置	3	第 61 図	A 区 1～7号土坑	74
第 3 図	地形分類図	8	第 62 図	A 区 8～13号土坑・ピット	75
第 4 図	周辺遺跡の分布図	10	第 63 図	ピット群	76
第 5 図	A 区全体図	折り込み	第 64 図	A 区 1号井戸	77
第 6 図	A 区 1号住居跡	17	第 65 図	A 区 1号井戸出土遺物	78
第 7 図	A 区 1号住居跡出土遺物 (1)	18	第 66 図	A 区 1号溝	79
第 8 図	A 区 1号住居跡出土遺物 (2)	19	第 67 図	A 区 2号溝と出土遺物	79
第 9 図	A 区 1号住居跡出土遺物 (3)	20	第 68 図	A 区 3号溝	80
第 10 図	A 区 2号住居跡	23	第 69 図	A 区 5号溝	80
第 11 図	A 区 2号住居跡出土遺物 (1)	24	第 70 図	A 区 4号溝と出土遺物	81
第 12 図	A 区 2号住居跡出土遺物 (2)	25	第 71 図	A 区 4号溝	82
第 13 図	A 区 2号住居跡出土遺物 (3)	26	第 72 図	A 区 6号溝と出土遺物	83
第 14 図	A 区 2号住居跡出土遺物 (4)	27	第 73 図	A 区 7号溝	84
第 15 図	A 区 2号住居跡出土遺物 (5)	28	第 74 図	A 区水田様式図	85
第 16 図	A 区 3号住居跡	31	第 75 図	A 区 Aa-B 下水田跡①	85
第 17 図	A 区 3号住居跡出土遺物 (1)	32	第 76 図	A 区 Aa-B 下水田跡②	86
第 18 図	A 区 3号住居跡出土遺物 (2)	33	第 77 図	A 区 Aa-B 下水田跡③	87
第 19 図	A 区 4号住居跡	34	第 78 図	A 区 Aa-B 下水田跡④	88
第 20 図	A 区 4号住居跡カマド	35	第 79 図	A 区グリッド出土遺物	89
第 21 図	A 区 4号住居跡出土遺物 (1)	35	第 80 図	A 区グリッド出土遺物 (1)	89
第 22 図	A 区 4号住居跡出土遺物 (2)	36	第 81 図	A 区グリッド出土遺物 (2)	90
第 23 図	A 区 5号住居跡と出土遺物	38	第 82 図	A 区グリッド出土農文土器	91
第 24 図	A 区 6号住居跡と出土遺物	39	第 83 図	A 区グリッド出土農文土器 (1)	92
第 25 図	A 区 7号住居跡	40	第 84 図	A 区グリッド出土農文土器 (2)	93
第 26 図	A 区 7号住居跡カマド	41	第 85 図	B 区全体図	100
第 27 図	A 区 7号住居跡出土遺物 (1)	41	第 86 図	B 区 1号住居跡	101
第 28 図	A 区 7号住居跡出土遺物 (2)	42	第 87 図	B 区 1号住居跡出土遺物	102
第 29 図	A 区 7号住居跡出土遺物 (3)	43	第 88 図	B 区 2号住居跡	103
第 30 図	A 区 8号住居跡	44	第 89 図	B 区 2号住居跡出土遺物 (1)	104
第 31 図	A 区 8号住居跡出土遺物	45	第 90 図	B 区 2号住居跡出土遺物 (2)	105
第 32 図	A 区 9号住居跡と出土遺物	46	第 91 図	B 区 3号住居跡	106
第 33 図	A 区 10号住居跡	47	第 92 図	B 区 3号住居跡掘り方・カマド	107
第 34 図	A 区 10号住居跡出土遺物	48	第 93 図	B 区 3号住居跡出土遺物	108
第 35 図	A 区 11号住居跡	49	第 94 図	B 区 4号住居跡	109
第 36 図	A 区 11号住居跡出土遺物	50	第 95 図	B 区 4号住居跡掘り方	110
第 37 図	A 区 12号住居跡と出土遺物	51	第 96 図	B 区 4号住居跡カマド	111
第 38 図	A 区 13号住居跡	52	第 97 図	B 区 4号住居跡出土遺物	112
第 39 図	A 区 13号住居跡出土遺物	53	第 98 図	B 区 1～3号土坑と出土遺物	113
第 40 図	A 区 14号住居跡	54	第 99 図	B 区 5号土坑	114
第 41 図	A 区 14号住居跡出土遺物	55	第 100 図	B 区ピット群	114
第 42 図	A 区 15号住居跡	55	第 101 図	B 区ピット群	115
第 43 図	A 区 15号住居跡出土遺物	56	第 102 図	B 区 1号櫛形	115
第 44 図	A 区 16号住居跡	57	第 103 図	B 区 2・3号櫛形	116
第 45 図	A 区 17号住居跡と出土遺物 (1)	58	第 104 図	B 区 1号井戸と出土遺物	117
第 46 図	A 区 16号住居跡～22号住居跡	折り込み	第 105 図	B 区 2号井戸と出土遺物 (1)	118
第 47 図	A 区 17号住居跡出土遺物 (2)	61	第 106 図	B 区 2号井戸出土遺物 (2)	119
第 48 図	A 区 18号住居跡と出土遺物 (1)	62	第 107 図	B 区 2号井戸出土遺物 (3)	120
第 49 図	A 区 18号住居跡出土遺物 (2)	63	第 108 図	B 区 1号溝	122
第 50 図	A 区 19号住居跡と出土遺物 (1)	64	第 109 図	B 区 2号溝と出土遺物	123
第 51 図	A 区 19号住居跡と出土遺物 (2)	65	第 110 図	B 区 4～6号溝	124
第 52 図	A 区 20号住居跡	65	第 111 図	B 区 4号溝出土遺物	125
第 53 図	A 区 20号住居跡出土遺物	66	第 112 図	B 区 7号溝	125
第 54 図	A 区 21号住居跡と出土遺物	67	第 113 図	B 区 Aa-B 下水田跡	127
第 55 図	A 区 22号住居跡と出土遺物 (1)	68	第 114 図	B 区 Aa-B 下水田跡	128
第 56 図	A 区 22号住居跡出土遺物 (2)	69	第 115 図	C 区全体図	折り込み
第 57 図	A 区 23号住居跡	70	第 116 図	C 区 1号住居跡	133
第 58 図	A 区 24号住居跡	71	第 117 図	C 区 1号住居跡出土遺物	134
第 59 図	A 区 24号住居跡出土遺物	72	第 118 図	C 区 2号住居跡	135

第119回	C区2号住居跡出土遺物(1)	136
第120回	C区2号住居跡出土遺物(2)	137
第121回	C区3号住居跡	138
第122回	C区3号住居跡	139
第123回	C区3号住居跡出土遺物	140
第124回	C区4号住居跡	141
第125回	C区4号住居跡	142
第126回	C区4号住居跡出土遺物(1)	143
第127回	C区4号住居跡出土遺物(2)	144

第128回	C区5号住居跡カマド	146
第129回	C区5号住居跡	147
第130回	C区5号住居跡出土遺物(1)	148
第131回	C区5号住居跡出土遺物(2)	149
第132回	C区5号住居跡出土遺物(3)	150
第133回	C区1号溝	153
第134回	C区1号溝	154
第135回	C区As-B下水田跡	155
第136回	C区グッド出土遺物	156

PLATES

PL. 1	航空写真
PL. 2	A区、B区周辺航空写真
PL. 3	A区全景
PL. 4	A区1号住居跡
PL. 5	A区2号住居跡
PL. 6	A区2号住居跡・A区3号住居跡
PL. 7	A区4号住居跡
PL. 8	A区5号住居跡・A区6号住居跡
PL. 9	A区6号住居跡・A区7号住居跡
PL. 10	A区7号住居跡
PL. 11	A区9号住居跡・A区10号住居跡
PL. 12	A区11号住居跡
PL. 13	A区12号住居跡・A区13号住居跡
PL. 14	A区13号住居跡・A区14号住居跡
PL. 15	A区15号住居跡
PL. 16	A区16～23号住居跡・8号土坑
PL. 17	A区16号住居跡・A区17号住居跡
PL. 18	A区17号住居跡・A区18号住居跡
PL. 19	A区18号住居跡
PL. 20	A区19号住居跡
PL. 21	A区19～21号住居跡
PL. 22	A区22号住居跡
PL. 23	A区22号住居跡・A区23号住居跡
PL. 24	A区24号住居跡・A区竈穴状遺構
PL. 25	A区竈穴状遺構・1～4号土坑
PL. 26	A区2～7号・9号土坑
PL. 27	A区1号井戸・1.2号溝
PL. 28	A区3～6号溝
PL. 29	A区As-B下水田
PL. 30	A区As-B下水田
PL. 31	A区As-B下水田
PL. 32	A区As-B下水田
PL. 33	A区As-B下水田
PL. 34	A区(As-B下水田)・女堀
PL. 35	A区女堀
PL. 36	A区女堀
PL. 37	A区女堀
PL. 38	B区全景

PL. 39	B区1号住居跡
PL. 40	B区2号住居跡
PL. 41	B区3号住居跡
PL. 42	B区4号住居跡
PL. 43	B区4号住居跡・1.2号土坑
PL. 44	B区3.5号土坑・1.2号井戸・1.2号溝
PL. 45	B区3～6号溝
PL. 46	B区4～7号溝
PL. 47	B区2.3棚列・ピット群
PL. 48	B区As-B下水田
PL. 49	C区全景
PL. 50	C区1号住居跡
PL. 51	C区2号住居跡
PL. 52	C区2号住居跡・C区3号住居跡
PL. 53	C区4号住居跡
PL. 54	C区5号住居跡
PL. 55	C区1号溝・As-B下水田
PL. 56	A区1号住居跡
PL. 57	A区1号住居跡・A区2号住居跡
PL. 58	A区2号住居跡
PL. 59	A区2号住居跡
PL. 60	A区3号住居跡・A区4号住居跡
PL. 61	A区4～7号住居跡
PL. 62	A区7～9号住居跡
PL. 63	A区10～13号住居跡
PL. 64	A区14.15.17.18号住居跡
PL. 65	A区19～22号住居跡
PL. 66	A区22.24号住居跡・1号竈穴状遺構 A区1号井戸・2.4.6号溝・グリッド
PL. 67	A区グリッド・グリッド出土縄文土器
PL. 68	A区グリッド出土縄文土器 B区1号住居跡・B区2号住居跡
PL. 69	B区2～4号住居跡・1号土坑・1.2号井戸
PL. 70	B区2号井戸・2.4号溝・C区1号住居跡
PL. 71	C区2～4号住居跡
PL. 72	C区4号住居跡・C区5号住居跡
PL. 73	C区5号住居跡・グリッド

1章 調査の経過

【1】 調査に至る経過

前橋市の東南部にあたる荒砥地区は、赤城山の西南麓に立地しており、肥沃な台地が展開している。群馬県では1975（昭和50）年度に群馬県新総合計画が策定された。この結果農用地総合整備事業の一環として、1974（昭和49）年度より1981（昭和56）年度の8年間にわたり、国道50号線の南側にあたる二之宮町・飯土井町を対象として荒砥南部地区県営圃場整備事業が実施された。

この地区一帯の中には、国指定史跡である荒砥三古墳（前二子山・中二子山・後二子山古墳）をはじめ女廻・今井神社古墳などの埋蔵文化財が豊富である状況を踏まえ、県農政部と県教育委員会文化財保護課において、埋蔵文化財の扱いについて協議が行われた。その結果、なるべく遺跡地については除外地区にすること。やむを得ず工事によって破壊される地域については、事前の発掘調査を実施することで了承した。以後8年間にわたり「荒砥南部県営圃

場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」が、県教育委員会文化財保護課及び埋蔵文化財調査事業団の手によって行われ、多大な成果をあげ無事に終了した。

荒砥南部地区の圃場整備事業が進展する中、国道50号線北側の荒子町・大屋町・泉沢町などが所属する北部地区においても、引き続き圃場整備事業を実施する計画が浮上した。このため、県教育委員会文化財保護課では、再度県農政部及び埋蔵文化財調査事業団とその扱いについて協議を行った。この結果、南部地区同様工事予定地に対する事前調査を実施することで合意し、その調査を当事業団が委託することとした。

荒砥北部地区の圃場整備事業の対象地は30aにわたる広大なものであるため、遺跡地の認定にあたっては事前に分布調査を実施した。分布調査は県教育委員会文化財保護課によって実施され、71遺跡の存在が確認された。このため圃場整備事業の速やかな



第2図 荒砥大日塚遺跡（A・B・C）位置

1章 調査の経過

進捗を図るためには、荒砥南部地区と同様、埋蔵文化財の存在する地区についてなるべく工事除外地区に指定することとし、発掘調査の対象地は水路や道路などによって破壊される地区を基本に、切り土・盛り土を行う工事場所に限定するなど、最小限にとどめることとした。

南部地区の発掘調査が終了した1981（昭和56）年度に、北部地区の最初の発掘調査として実施されたのが荒砥大日塚遺跡である。翌年の1982（昭和57）年度には、引き続き荒砥上之坊遺跡・荒砥下押切遺跡の調査が行われている。しかし、圃場整備事業に対する工事変更が出され、調査面積が大幅に増加すること、堅穴住居跡などの遺構数が、当初の見込みより多くなること、翌年の農作業に支障のないようにするためには期間内の完了が必要であること、などから調査予定地の年度内完了が危ぶまれる状況となった。そこで工事と発掘調査の工程について調整が行われた結果、両遺跡の一部について文化財保護課が直轄で調査を行うこととなった。更に、1984（昭

和59）年度からは、遺跡調査会を結成し、三組織で調査を実施することとなった。

北部地区で本事業団が実施した発掘調査は、1984（昭和59）年度で終了となった。このため同年からは、従来から続けられてきていた南部地区に伴う整理事業に専念することとなった。

南部地区の整理事業は、群馬県から「公共開発関連出土品等整理事業」として、1980（昭和55）年度から委託を受け実施してきたが、1992（平成4）年度ですべての遺跡の整理事業が終了することとなった。南部地区の整理事業が終了するにあたり、引き続き北部地区の整理事業をどのように進めるかについて、県教育委員会及び県農政部と協議を重ねた。その結果、改めて「県営圃場整備事業荒砥北部地区関連調査出土品等整理事業」として、県と委託契約を締結することとなった。

本遺跡の整理事業は、以上の状況の中で、荒砥北部地区の整理事業の最初として1993（平成5）年度に実施することになったものである。

【2】

調査の経過

前橋市荒砥北部地区では、その地形的な複雑さ、道路の狭隘などから、その整備は年来の懸案であった。そして、それに答えるべく昭和56年度より土地改良事業が施行されることとなった。そこで、群馬県農政部・群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者が協議した結果、埋蔵文化財包蔵地及び発掘調査の必要区域を事前調査することと

り、その調査を当事業団で受託することに決定した。調査は農政負担分と文化庁の国庫補助金を受け実施されたものである。今年度はその初年度にあたり、区域は国道50号の北で、二之宮町・荒口町に及んでいる。

昭和56年10月26日、土地改良区事務所において埋蔵文化財調査についての具体的な話し合いがもた



A区住居跡写真撮影準備



A区住居跡調査状況



A区女堀調査状況



A区女堀調査状況

調査名	1981年 1月 12月												1982年 1月											
	6	10	14	18	22	26	30	4	8	12	16	20	24	28	31	6	10	14	18	22	26	30	31	
1~8号住居	[Patterned bar]																							
9~15号住居	[Patterned bar]																							
16~24号住居	[Patterned bar]																							
1号堅穴	[Patterned bar]																							
土坑	[Patterned bar]																							
1号井戸	[Patterned bar]																							
溝	[Patterned bar]																							
A-B下水田	[Patterned bar]																							

A区調査工程

調査名	1982年 1月 2月												1982年 1月 2月											
	17	21	25	29	31	4	8	12	16	20	24	24	28	30	1	5								
1号住	[Patterned bar]																							
2号住	[Patterned bar]																							
3号住	[Patterned bar]																							
4号住	[Patterned bar]																							
1号井戸	[Patterned bar]																							
2号井戸	[Patterned bar]																							
A-B下水田	[Patterned bar]																							
1号溝	[Patterned bar]																							
2号溝	[Patterned bar]																							
3号溝	[Patterned bar]																							
4号溝	[Patterned bar]																							
5号溝	[Patterned bar]																							
6号溝	[Patterned bar]																							

B区調査工程



B区住居跡調査状況



B区住居跡調査状況

1章 調査の経過

た。調査担当者の紹介に始まり、調査事務所の建設場所、調査開始年月日についての検討を行った。調査開始日については11月5日とし、作業員は1日当たり40名を確保することになった。この作業員確保にあたっては土地改良区事務所面で面積割り当てを実施して戴いて、荒口町4人(10%)、二之宮町16人(40%)、荒子町20人(50%)の作業員参加となった。作業時間は午前8時30分から午後4時30分までとし、日当3,400円。厳冬のなか短期間での調査が始まった。



C区住居跡調査状況

遺跡名	1982年 2月													
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1号住	[調査記録]													
2号住	[調査記録]													
3号住	[調査記録]													
4号住	[調査記録]													
5号住	[調査記録]													
1号溝	[調査記録]													
A-B 下水道	[調査記録]													

【3】 調査の方法

①遺跡名の選定

発掘調査対象地区は前橋市二之宮町・荒口町にまたがる広範囲である。このため調査地区の3箇所を便宜的にA地区・B地区・C地区と呼称して調査を進めた。A地区の字名は大日塚、B地区は峠下、C地区は大道であり、最初に調査を始めた大日塚の字名を使用して荒砥大日塚遺跡と総称した。

②調査区(グリッド)の設定

調査の実施にあたっては5×5mの方眼を調査対象地域全域にわたって設定した。A区・B区のグリッドは東西軸にアルファベットを付し西からA、B、C……Zとし、南北軸にアラビア数字を北から0、1、2、3……と付した。各区画の呼称は5m方眼の北西隅をもってそのグリッドの名称とした。しかしC区においては調査の進行上から南北軸のアラビア数字を南から0、1、2、3……と付したために、各区画の呼称は5m方眼の南西隅をもってそのグリッドの名称とせざるを得なかった。

③調査手順

昭和56年11月からA地区の調査を開始し、年が明

けた1月22日まで調査し、1月19日から2月9日までB地区の調査、2月9日から2月23日までC地区の調査を継続的に実施した。各地区とも縦横に走る計画道路及び排水路を中心に行ったが、並行して各地区の試掘調査も実施して行った。

④遺構の調査

重機による表土剥ぎの後、遺構の確認調査に入った。各遺構の調査にあたっては土層観察用のベルトを残し実施し、実測はグリッド軸にそった平板測量で行った。基準測量は工事用水準杭を用いた。

⑤遺物の取り上げ方

出土遺物のなかで遺構に伴わないものはグリッドで取り上げ、遺構に伴うもので床面よりはるかに高く、小さな破片は覆土として取り上げた。それ以外の遺物は平面・垂直位置・写真撮影等の記録を行った。

⑥写真撮影

遺構写真は35mm白黒フィルムとカラーズライドフィルム及び6×9cm白黒フィルムを用いた地上撮影を実施した。

2章 遺跡の立地と環境

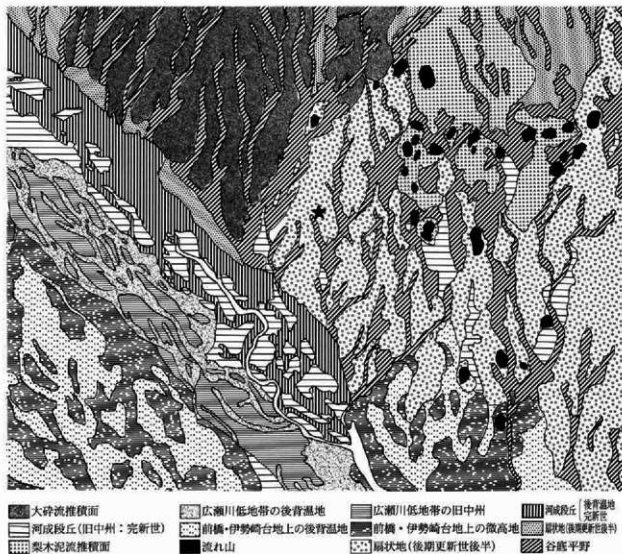
【1】 地理的環境

本道跡は前橋市の市街地から国道50号線を東へ約10km、上武道路と交差する地点の北東500mの地点に所在する。

道跡（第3図★印）は、複合成層火山である赤城山（1,828m）の南に広く延びる裾野の末端部に位置している。山麓端部は河川の浸食が著しく、山体の北側や西側には河岸段丘が形成され、山体の南西麓や南東麓は直線的な崖線地形が発達している。また、山体自体も河川や湧水に浸食され、北麓や西麓では大規模なV字状の深い谷と広大な裾野地形が発達する。一方、南麓では標高500m地帯で山地帯から丘

陵性台地への地形変換点が見られ、200mより下位の地域は低台地化している。大小の河川や湧水が豊富で、南北に長い沖積地と丘陵性の台地が交互に入り組む、複雑な地形を呈している。また、その末端は旧利根川の浸食による崖線が形成され、利根川の氾濫源によって南側の前橋台地と隔絶されている。

本道跡は荒砥川左岸の丘陵性台地に立地している。またA区の東側を流れる宮川は流路幅2～4mで中流域には両岸に1km前後の奥行きを有する小支谷を合わせており、この部分の沖積地は幅300mにも達している。



第3図 地形分類図（1：7500）

【2】 歴史的環境

前橋市東南部に位置する荒砥地区（二之宮町、荒口町、荒子町、今井町、泉沢町、東・西大室町、飯土井町）は、県営の園場整備・公園建設・団地造成・上武国道（国道17号線）等の大規模開発とその他中小規模開発に伴い多くの遺跡が調査されている。

前橋市教育委員会発行の前橋市埋蔵文化財調査地一覧表と添付された分布図でも同地区は、調査地点を示す部分が縦横に記され遺跡の多さを物語る。

本地区に於ける遺跡の分布及び分析は、既に荒砥南部園場整備事業・上武国道建設事業等の各発掘調査報告書等々で詳細に述べられており、それらの報告書を参照されたい。本書では、本遺跡各調査区の立地する台地を中心に周辺遺跡を概観する。

A区及びC区は、荒砥川及び宮川の形成した沖積低地に挟まれた台地上に位置する。荒砥川左岸部中流域から下流域にかけては、低地から低台地そして台地へと変化が見られ、部分的に小谷地が入り込む。荒砥川左岸部中流域の台地西縁部では、古墳時代の居館跡を検出した丸山遺跡や同期の集落を検出した北原遺跡が所在する。県道前橋・今井線南では沖積地の広がりが見られ、低台地から台地へと移行する。この低台地上に諏訪西遺跡が立地する。同遺跡は、古墳時代初頭及び同後期から平安時代にかけての集落が検出され、中近世には居館が出現する。その他に円墳数基、As-B埋没水田等が発見された。同遺跡東側の台地上には遺跡を見下ろす恰好に方形周溝墓群を検出した諏訪西遺跡が立地し、また諏訪西遺跡南に続く宮田遺跡でも同遺跡と同様な集落が検出され、同遺跡南側では、As-B水田及びその下層の洪水砂で覆われた水田2面を検出した。この水田遺構は、市道を挟んで南接する前田遺跡へと続く。その他に底台地と台地の間に入り込む小谷地部分で軽石に覆われた水平面を検出した。

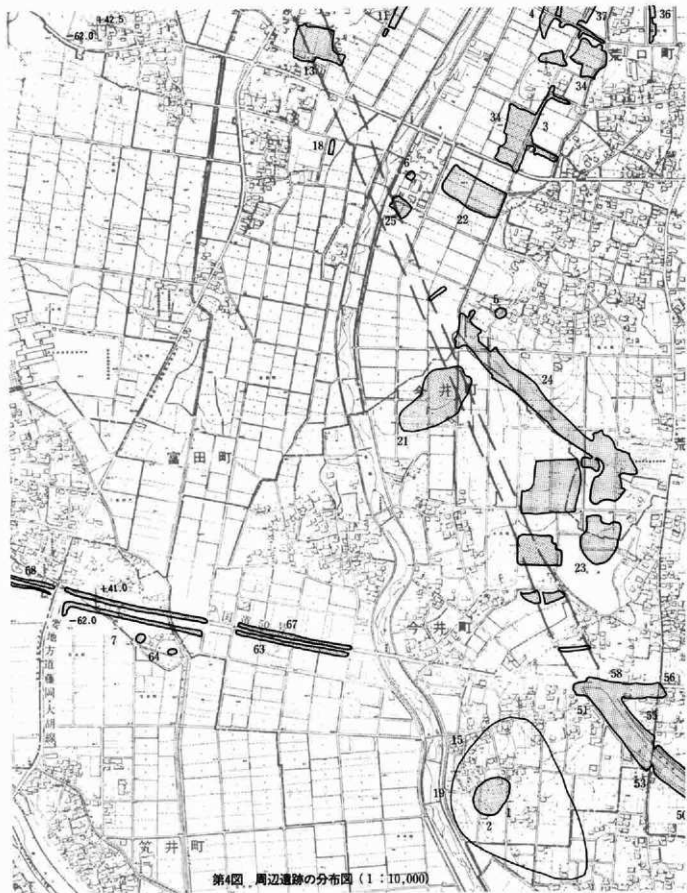
前田遺跡東方の台地上には弥生時代中期後半の住居が発見された荒口前原遺跡が立地し、更に下流の台地が迫り出す部分に縄文時代草創期の遺物を出土

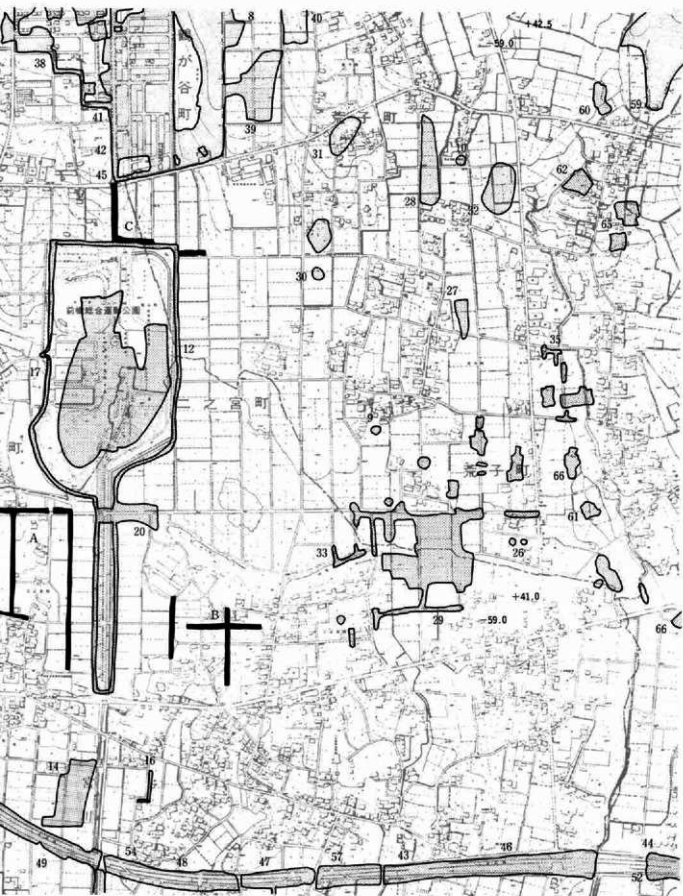
した荒砥北原遺跡が立地する。また、同遺跡南東部今井沼周辺部には旧石器を出土した北三木堂遺跡があり、上武国道関連の今井道上・道下遺跡、二之宮谷地遺跡等でも旧石器が調査されている。

宮川流域の沖積地は開析が進み台地縁部との比高差はC区部分で5m以上を測り、縁部は急斜面となる。遺跡は上流部より古墳及び古墳時代以降の集落を検出した向原遺跡、方形区画内に基壇建物を検出した上西原遺跡などがある。中流域には団地造成により大規模な調査が行われた柳久保遺跡群があり、沖積地両側の台地上より旧石器・縄文時代以降各時代の遺構・遺物が調査されている。その南C区及び運動公園建設による調査が行われた鶴谷遺跡群では弥生時代以降、古墳時代から平安時代まで継続する大規模集落が発見され、A区の集落へと続く。

下流域の国道50号線以南は上武国道関連や園場整備関連の遺跡が多く調査されている。二之宮洗橋遺跡では多量の墨書土器が出土し、その中に勢多郡芳賀郷を示すと考えられる「芳郷」と書かれた墨書土器が発見されている。

B区の位置する台地上流部の荒砥中学校南東部には小谷地が入り込み、谷地内にはAs-B・C、FAが検出された。谷地右岸部台地上には古墳時代中期以降の集落を検出した荒砥下押切I・II遺跡、その対岸には平安時代の鍛冶跡が検出された中屋敷II遺跡が立地する。近接する中屋敷I遺跡では、As-Cが覆土下層に堆積した古墳時代初頭の竪穴住居を検出している。また、更に南には荒砥上ノ坊遺跡が立地する。同遺跡は、二次堆積ロームが乗る舌状台地先端部にあり、両側を沖積地が囲む。遺構は古墳時代初頭の集落、方形周溝墓群、As-C埋没畝、古墳時代以降中近世に至る多量の遺構・遺物が検出されている。また県道伊勢崎・大胡線を挟み古墳時代中期の環壕居館跡が発見された荒砥荒子遺跡が所在する。





2章 道路の立地と環境

路線	名称	区画	延長	事業種別	計画年度	計画内容	備考
1	京越東目黒線(アクトオレイブ)	二宮駅前1333 外	20,000	事業	古・中・平住 日本国 女機		本 市 道 P.254
1	今井五号線(イマイ五号ライン)	今井町白山東19			計画 道庁		市 道 P.255 「今井町の古蹟 と環境」P.56
2	今井五号線(イマイ五号ライン)	今井町白山東35			計画 国機		市 道 P.257 「今井町の古蹟 と環境」P.56
3	寺 園(テラノ)	荒川町寺園		群 大 史 研	古住跡跡		市 道 P.258 「今井町の古蹟 と環境」P.56
4	荒川小川線(アラカチコガシ)	荒川町園部95		群 大 史 研	円盤(平成4年発掘 遺物)		市 道 P.259 「今井町の古蹟 と環境」P.56
5	荒川前線(アラカチマエノ)	荒川町前部			物産自然跡		市 道 P.260 「今井町の古蹟 と環境」P.56
6	田(アサヒ)	荒川町前田130・134		群 大 史 研	古住跡跡		市 道 P.261 「今井町の古蹟 と環境」P.56
7	本郷村10号線(サセムタ10号ライン)	荒川町八日池44-1		群 大 史 研			「国史館142号 遺物」 市 史 P.122
8	中興番号号(ナカノウケヤヒゴ)	荒川町中興番号1206					
9	新 田(アサヒ)	荒川町新田915			古住跡跡		
10	新田宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町108-2	20		古住跡跡		市 史 P.123
11	新田南線(トキエナツ)	荒川町中興・園部・東原・東島崎	12,000	出稼道・調査道	織・赤・平住 古蹟 古蹟		報 告 書
12	新 田(アサヒ)	荒川町下野田145 外	12,000	出稼道・調査道	古・赤・平住		報 告 書
13	新 田(トシノ)	荒川町下野田174-1	10,000	出稼道・調査道	古・赤・平住 古蹟 遺		報 告 書
14	新 田(トシノ)	二宮駅前1436 外	7,400	事業	古・赤・平住 古蹟 遺跡		報 告 書
15	今井町新田線(アサヒイシヤク)	今井町915 外		事業	古蹟 古蹟 古蹟		古 史 跡
16	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	二宮駅前1410・1412 外	800	事業	古・赤・平住 古蹟 遺跡		報 告 書
17	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	二宮駅前1412 園部(荒川宿前線)	23,300	事業	古・赤・平住 古蹟 遺跡		報 告 書
18	新 田(トシノ)	荒川町新田914-2 六反田・新田 外	4,500	出稼道・調査道	古・赤・平住 古蹟 女機		報 告 書
19	今井町新田線(イマイシヤク)	今井町915・916・922	2,000	事業	古蹟		報 告 書
20	新 田(オナホリ)	今井町・荒川町	10,000	事業	古蹟 古蹟		報 告 書
21	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田900 外	20,200	事業	織・赤・平住 古蹟 古蹟		報 告 書
22	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町	3,500	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
23	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	今井町915-2 外	40,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
24	新 田(オナホリ)	荒川町916 外		事業	古蹟 古蹟		報 告 書
25	新 田(オナホリ)	荒川町914 外		事業	古蹟 古蹟		報 告 書
26	荒川上ノ宿(アサヒイシヤク)	二宮駅前・荒川町	42,800	事業	織・赤・平住 古蹟 古蹟		報 告 書
27	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町	6,500	事業	古蹟		報 告 書
28	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町	9,251	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
29	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	二宮駅前915 外		事業	古蹟 古蹟		報 告 書
30	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町		事業	古蹟		報 告 書
31	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町		事業	古蹟		報 告 書
32	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	二宮駅前208-5	400	古 史 跡	古蹟 古蹟		文 化 財 産 保 護 法
33	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町	20,200	事業	織・赤・古・赤・平住 古蹟 古蹟		報 告 書
34	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町	8,800	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
35	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田268-5	100	古 史 跡	古蹟 古蹟		文 化 財 産 保 護 法
36	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田916	9,200	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
37	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町	15,344	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
38	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田	15,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
39	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田	8,300	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
40	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田	18,340	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
41	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町・荒川町・下野田・新田	22,300	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
42	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町・荒川町・新田	10,900	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
43	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	10,900	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
44	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田	5,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
45	荒川宿前線(アサヒイシヤク)	荒川町新田	27,553	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
46	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	20,200	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
47	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	12,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
48	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	10,500	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
49	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	1,700	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
50	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	2,200	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
51	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	6,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
52	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	1,500	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
53	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	11,200	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
54	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外		事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
55	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	10,800	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
56	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	3,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
57	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	11,000	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
58	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外		事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
59	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	20,800	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
60	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	1,100	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
61	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	1,350	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
62	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	1,800	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
63	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	1,400	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
64	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	10,800	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
65	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	4,200	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
66	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	2,100	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
67	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外		事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書
68	二宮宿前線(ノノミヤキヤク)	二宮駅前1333 外	100	事業	古蹟 古蹟 古蹟 古蹟		報 告 書

3章 A区の遺構と遺物

【1】 調査の概要

当遺跡は前橋市東部の二之宮町及び荒町町にかけて所在し、西を荒砥川、東を神沢川に挟まれた赤城山南麓末端の台地上に位置している。

調査範囲は台地と沖積地とにまたがり、便宜上、鶴谷沼南側台地及び東南の水田部分をA地区、沖積地を挟んで東側台地をB地区、荒砥中学校西側及び西南の水田部分をC地区として発掘調査した。

なお、昭和55年7月から翌年1月にかけて、鶴谷沼東側（現・前橋総合運動公園）部分が前橋市教育委員会によって調査され、古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落が検出されている。また今日にいたるまでも県営園地整備事業に伴う荒砥北部地区の遺跡群の調査が継続し実施されている。

A区（大日原地区）

調査は鶴谷沼南の台地上を通る支線道路（以下支・道と略す）32号、支線排水路（以下支・排と略す）2号、幹線道路（以下幹線と略す）3号と台地東側の現水田を通る幹線3号、支・排1号及び女堀を対象として行った。

調査面積は約12,600㎡である。

検出遺構は、竪穴住居跡24軒、竪穴状遺構1基、溝7条、井戸1基、土坑11基、ピット多数である。竪穴住居跡を時期別にみると、古墳時代7軒、奈良時代12軒、平安時代3軒、時期不明2軒である。また、現水田面下に浅間As-Bにより埋没した水田遺構が検出されている。

女堀の調査区域は、運動公園道路の東から宮川の間で全長約130mである。東の区域を宮川により削除されている。平面はやや弧状をなし、底面は平底を呈し西から東にかけてゆるやかに傾斜している。西端には幅約70cm、深さ約20cmの溝が走行している。女堀の寸法は幅約22m、深さ約1mであり、地形に応じ高地においては地山を基盤とし、低地では盛土を高くして土手を築く方法が用いられている。現況で確認された土手は、高さ約1m・幅約9mを測る。

B区（峠下地区）

調査はA区東側台地上を通る支・道38号、支・排16号、耕作道路（以下耕・道と略す）40号及び西側斜面下の現水田部分を通る杭No.T5～No.T7について行った。

調査面積は約4,000㎡である。

検出遺構は、支・道38号と耕・道40号の交差する台地頂上部から東南暖傾斜面を中心に、竪穴住居跡2軒は古墳時代、2軒奈良時代、溝6条（近世）、土坑4基（不明）、井戸2基（近世）、柱穴列、ピット群である。

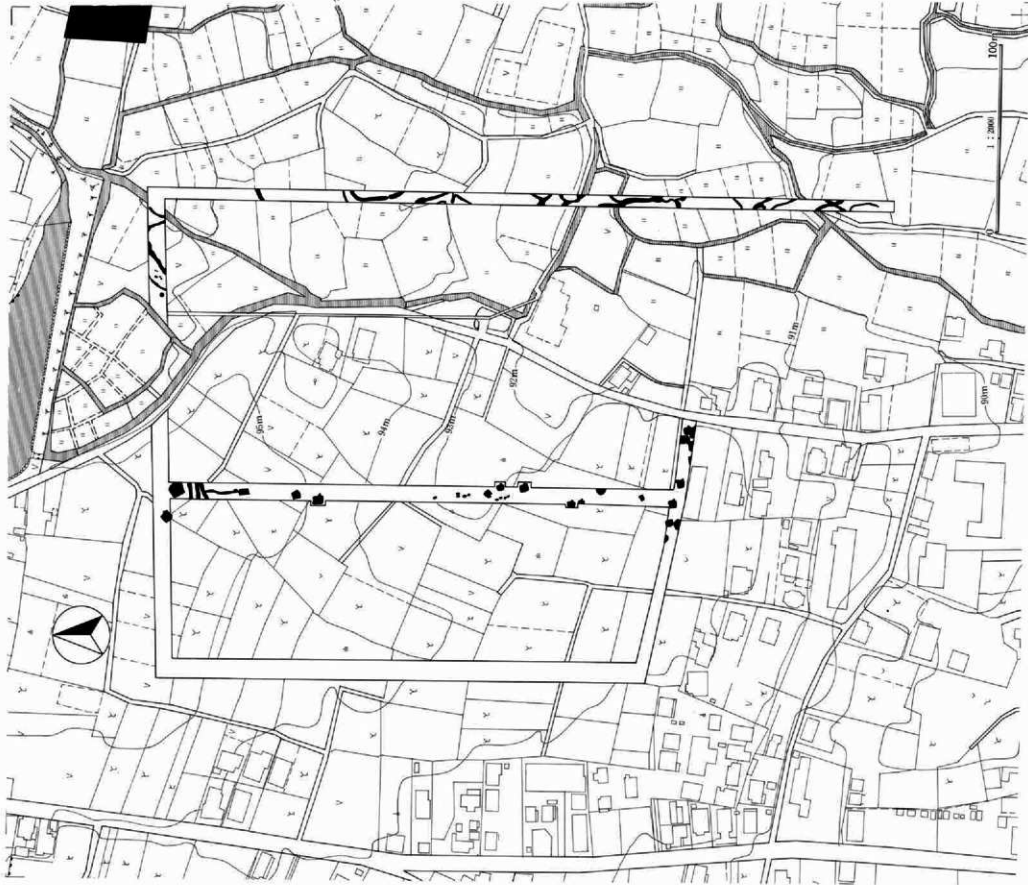
西側斜面下の現水田部分からは、A地区と同様に浅間As-B埋没の水田遺構を検出した。

C区（大道地区）

調査は荒砥中学校西側台地上を通る支・道7号、16号及び台地東南現水田部分で実施した。

調査面積は約3,400㎡である。

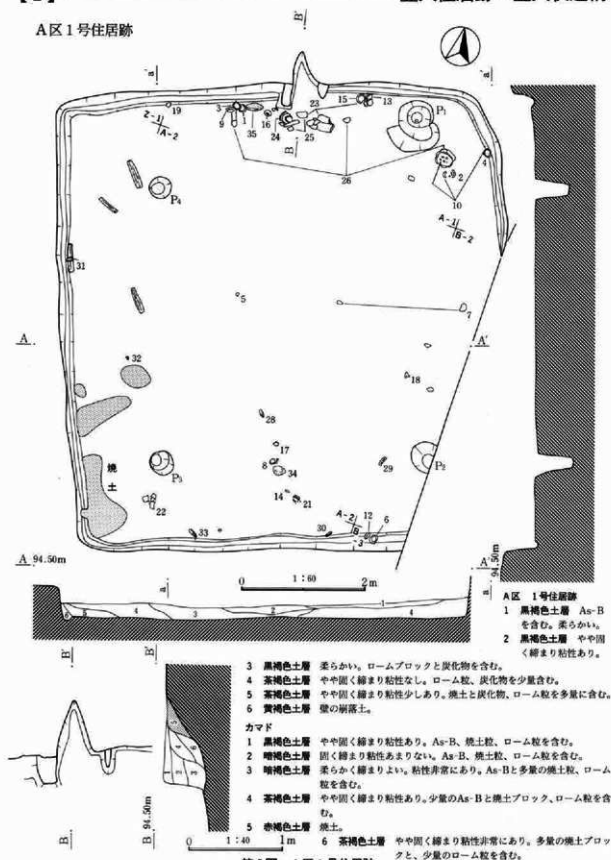
検出された遺構は台地頂上部から東南暖傾斜面にかけて、竪穴住居跡5軒（古墳時代）、時期不明の溝1条である。また東南水田部分より他地区同様に浅間As-B埋没の水田遺構を検出した。



第5図 A区全体図

【2】 竪穴住居跡・竪穴状遺構

A区1号住居跡



第6図 A区1号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区1号住居跡(古墳時代)(第6~9図, PL.4・56・57)

位置 Z・A・B-1・2・3グリッドにかけて検出された。北西約8mに2号住居跡が存在する。

形状 完備していないが、長辺7.4m、短辺7.3mのほぼ正方形を呈する。

面積 現状では約43.3㎡である。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約35~50cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。西壁下の床面に焼土の堆積と炭化材の分布が認められた。

周溝 完備できなかったが全周しているものと考

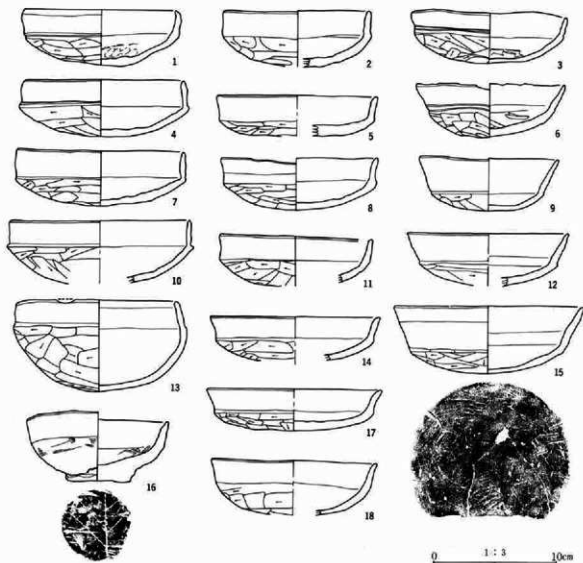
えられる。幅12~18cm、深さ約6cmである。

竈 北壁中央部やや東寄りに位置している。袖部は約40cm残存している。燃焼部の多くは壁面から床面にかけて造られている。規模は煙道方向82cm、両袖方向38cmである。

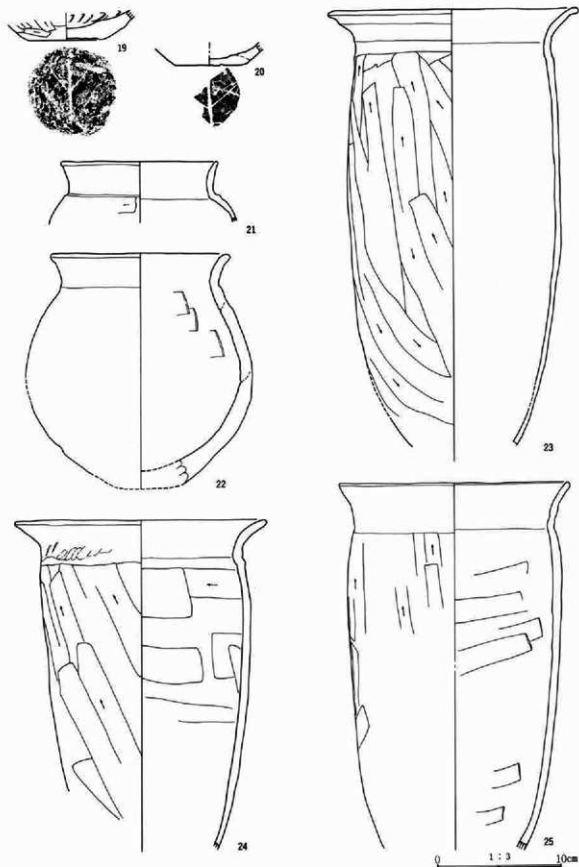
柱穴 4個の柱穴が検出された。P₁は直径53cm、深さ86cm、P₂は直径40cm、深さ38cm、P₃は直径38cm、深さ60cm、P₄は直径35cm、深さ56cmである。

遺物 竈周辺や床面、また覆土から土師器の杯や甕が出土している。こも礫石も7点出土している。

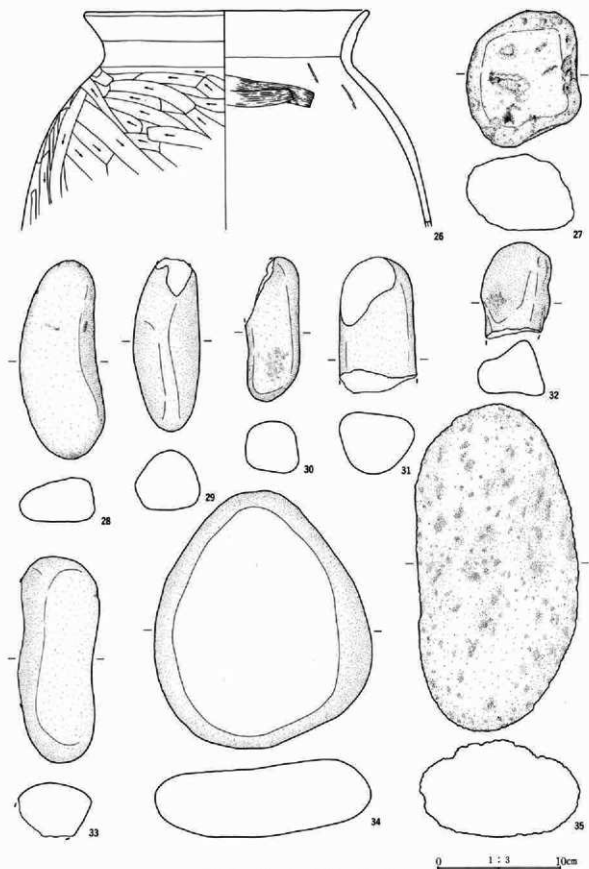
備考 当住居跡は火災住居跡である。



第7図 A区1号住居跡出土遺物(1)



第8図 A区1号住居跡出土遺物(2)



第9図 A区1号住居跡出土遺物(3)

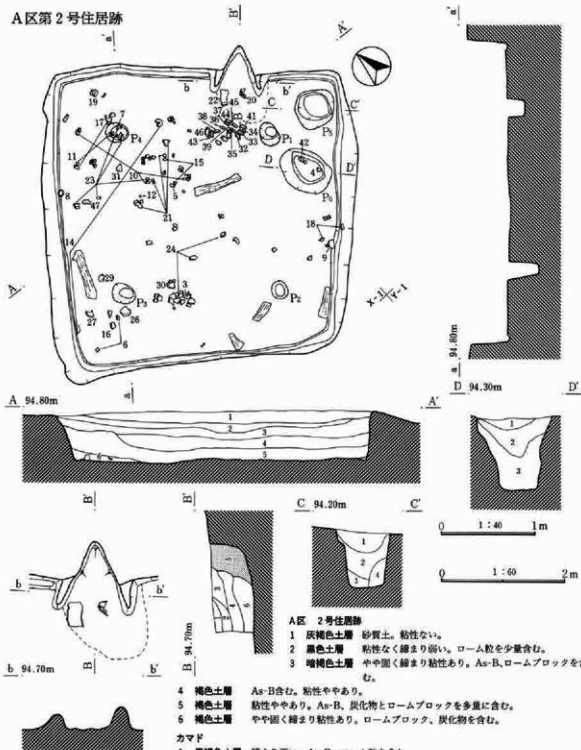
A区1号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器 形	寸法(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
7-1 56	土師器 坏	口径 12.1 器高 4.4	口縁内湾する。歪む。	口 横撫で・下位瓦調整 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で・指頭圧痕・粘土の補充痕	Ⅲ ABCDE 酸化 褐色	床直上 1/2
7-2 56	土師器 坏	口径 11.5 器高 4.5	口縁直立する。稜は明瞭。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	Ⅱ BCDE 酸化 明赤褐色	床直上 内外面保付着 1/2
7-3 56	土師器 坏	口径 12.2 器高 4.2	口縁やや外傾する。	口 横撫で・下位瓦調整 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で・瓦当痕	Ⅱ ABCDE 酸化 黒褐色	床直上 1/2
7-4 56	土師器 坏	口径 12.7 器高 4.5	口縁内傾する。稜は鋭く明瞭。	口 横撫で・下位瓦調整 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 褐色	壁際 ほぼ完形
7-5 56	土師器 坏	口径(12.6) 器高(3.2)	口縁直立する。稜は明瞭。体部扁平で肥厚する。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で・瓦当痕	Ⅲ ABCDE 酸化 褐色	床直上 1/2
7-6 56	土師器 坏	口径 11.7 器高 4.3	口縁外傾する。歪む。	口 横撫で・下位瓦調整 体 横撫で後瓦削り	口 横撫で 体 撫で・指撫で	Ⅱ ABCD 酸化 鈍い黄褐色	壁際 口縁部打ち欠き？ 内面黒斑ほぼ完形
7-7 56	土師器 坏	口径 13.3 器高 4.4	口縁直立する。稜は明瞭。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い黄褐色	覆土 内外面保付着 1/2
7-8 56	土師器 坏	口径 12.5 器高 4.1	口縁外反する。稜は明瞭。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	Ⅲ ABCDE 酸化 鈍い褐色	床直上 外面保付着 1/2
7-9 56	土師器 坏	口径 11.0 器高 4.2	口縁長く外傾する。稜は明瞭。体部やや扁平。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCD 酸化 褐色	床直上 内外面剥落著しい ほぼ完形
7-10 56	土師器 坏	口径(14.2) 器高(5.0)	口縁は直立する。稜は鋭い。体部丸みをもつ。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	Ⅱ ABCDE 酸化 鈍い黄褐色	床直上 外面保付着 1/2
7-11 56	土師器 坏	口径 11.9 器高(3.9)	口縁直立気味。稜は明瞭。	口 横撫で 体 瓦削り	口～体 顕著な剥落	Ⅲ ABCDE 酸化 褐色	覆土 1/2
7-12 56	土師器 坏	口径(12.6) 器高(4.3)	口縁外傾する。稜は明瞭。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCD 酸化 鈍い褐色	壁際 内面黒斑あり 1/2
7-13 56	土師器 坏	口径 12.8 器高 7.2	口縁内湾し、端部肥厚。体部は半球形。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で・顕著な剥落	I BCDE 酸化 褐色	床直上 ほぼ完形
7-14 56	土師器 坏	口径(13.4) 器高(3.5)	口縁外反する。稜は明瞭。体部はやや扁平。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	Ⅱ CDE 酸化 鈍い赤褐色	覆土 1/2
7-15 56	土師器 坏	口径 15.3 器高 5.3	口縁は長く外傾する。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で・顕著な剥落	Ⅱ ABCDE 酸化 褐色	床直上 1/2
7-16 56	土師器 埴	口径 11.2 底径 5.1 器高 5.6	口縁は直立気味。底部は肥厚し、平底。歪みが著しい	口 横撫で 体 撫で	口 横撫で 体 瓦削り後部分的に指撫で・指頭圧痕	Ⅱ BCDE 酸化 褐色	覆土 木葉痕 完形
7-17 56	土師器 坏	口径(13.9) 器高 3.2	口縁は外反する。体部は扁平。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で	Ⅱ ACDE 酸化 鈍い褐色	覆土 1/2
7-18 56	土師器 坏	口径(13.1) 器高(4.3)	口縁外反する。稜は不明瞭。	口 横撫で 体 瓦削り	口 横撫で 体 撫で？剥落が著しく不明瞭	Ⅲ ABCDE 酸化 褐色	覆土 保付着 1/2
8-19 56	土師器 甕	口径 5.8 器高(2.2)	平底。	胴 瓦削り・摩滅が著しく不明瞭	胴 瓦当痕	Ⅲ ABCDE 酸化 褐色	壁際 木葉痕 底部

3章 A区の遺構と遺物

図版番号 Pl.	器 種	流量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
8-20 56	土師器 甕	底径 (5.8) 器高 (1.8)	平底。		胴 擦で	I BCDE 酸化 橙	覆土 木葉痕・外面塚付着 底部
8-21 56	土師器 甕	口径 12.4 器高 (4.8)	口縁弱く外反する。腹は明瞭。	口 横撫で 胴 横方向の磨削り	口 横撫で 胴 磨撫で	I ABCD 酸化 橙	覆土 破片
8-22 56	土師器 甕	口径(13.8) 器高(18.2)	口縁外反する。胴部球形。器内厚い。	口 横撫で 胴 磨削り?	口 横撫で 胴 磨撫で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 内外面刺落著しい % % % % %
8-23 57	土師器 兵割甕	口径 19.4 器高 (34.6)	口縁強く外反し、絞通る。胴部膨らみ弱い。	口 横撫で 胴 磨削り	口 横撫で 胴 磨撫で・顕著な割甕	III ABCDE 酸化 明赤褐色	甕右袖付? % %
8-24 57	土師器 兵割甕	口径 19.8 器高 (26.0)	口縁強く外反する。胴部膨らみ弱い。	口 横撫で・指頭圧痕 胴 磨削り	口 横撫で 胴 横方向の磨撫で	III ABCDE 酸化 橙	甕左袖付 口縁内面塚付着 % %
8-25 57	土師器 兵割甕	口径(18.0) 器高(29.0)	口縁外反する。胴部膨らみ弱い。	口 横撫で 胴 磨削り	口 横撫で 胴 横方向の磨撫で	III ABCDE 酸化 橙	甕右袖付? 外面黒斑あり % %
9-26 57	土師器 甕	口径 22.4 器高 (17.4)	口縁外反する。胴部膨らむ。	口 横撫で後上半部による横撫で? 胴 磨削り	口 横撫で 胴 磨撫で	II ABCDE 酸化 浅黄橙	床直上 外面黒斑あり % %
図版番号 Pl.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴			出土状況・備考
9-27 57		10.8×9.3×8.5 489	軽石	部分的に磨耗痕が認められる。			覆土
9-28 57	こも 編石	15.8×6.7×3.5 590	安山岩	側面と端部に敲打痕が認められる。			覆土
9-29 57	こも 編石	13.6×5.3×4.7 478	安山岩	ほぼ全面に磨耗痕と端部に敲打痕が認められる。			床直上
9-30 57	こも 編石	11.2×4.3×4.0 298	安山岩	僅かに傷の付着が認められる。			壁際
9-31 57	こも 編石	10.5×6.1×4.9 449	安山岩	被熱痕が認められる。			覆土
9-32 57	こも 編石	7.7×5.5×4.3 226	安山岩				床直上
9-33 57	こも 編石	16.2×6.4×4.3 711	安山岩	側面に敲打痕が認められる。			覆土
9-34 57	台 石	20.4×17.2×5.2 2803	花崗閃緑岩	両面に磨耗痕と被熱痕が認められる。			床直上
9-35 57	台 石	25.9×12.9×7.7 2420	軽石	片面に磨耗痕が認められる。			床直上

A区第2号住居跡



A区 2号住居跡

- 1 灰褐色土層 砂質土。粘性ない。
 2 黒色土層 粘性なく締まり弱い。ローム粒を少量含む。
 3 暗褐色土層 中や固く締まり粘性あり。As-B、ロームブロックを含む。

- 4 褐色土層 As-B含む。粘性ややあり。
 5 褐色土層 粘性中ややあり。As-B、炭化物とロームブロックを多量に含む。
 6 褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロック、炭化物を含む。

カマド

- 1 黒褐色土層 締まり悪い。As-B、ローム粒を含む。

- 2 暗褐色土層 やや固く粘性ほとんどない。As-B、ローム粒と少量の炭化物を含む。 3 暗褐色土層 固く締まり粘性ほとんどない。As-B、ローム粒と少量の炭化物、焼土粒を含む。 4 赤褐色土層 やや固く締まり粘性少しあり。ローム粒、焼土粒を多量に、少量の炭化物含む。 5 赤褐色土層 焼土。 6 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む。

貯蔵穴 (C-C')

- 1 暗褐色土層 粘性弱い。ローム粒を含む。 2 暗褐色土層 粘性弱い。ローム粒を含む。 3 暗褐色土層 粘性あり。ローム粒を少量含む。 4 暗褐色土層 粘性弱い。ローム粒を少量含む。

貯蔵穴 (D-D')

- 1 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒を少量含む。粘性あり。 2 暗黄褐色土層 ロームブロックを含む。炭化物を少量含む。 3 暗褐色土層 ローム粒を1層よりやや多く含む。粘性にとむ。

第10図 A区2号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区2号住居跡(古墳時代)(第10~15図, PL. 5・6・57~59)

位置 X・Y-0・1グリッドにかけて検出された。

南東約8mに1号住居跡が存在する。

形状 長辺5m、短辺4.7mの方形を呈する。

面積 約19㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約60~80cmで床面。

床面 やや凹凸が認められる。1号住居跡と同様に壁際の床面に焼土の堆積と炭化材の分布が認められた。

周溝 全周している。幅3~10cm、深さ約5cm。

竈 北壁中央部やや東寄りに位置している。袖

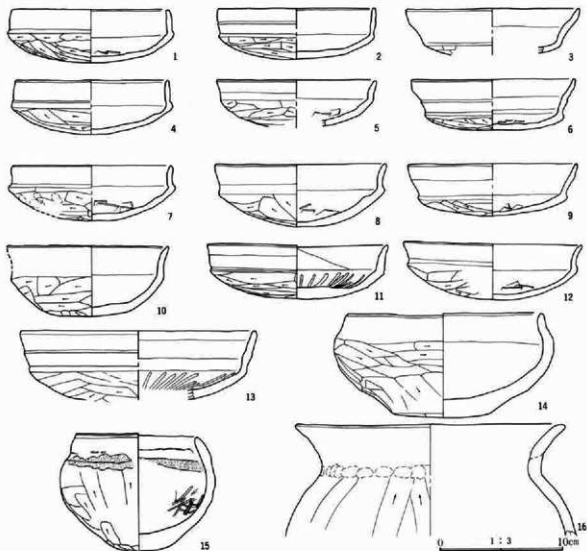
部は約35cm残存している。燃焼部の多くは壁面から床面にかけて造られている。規模は煙道方向92cm、両袖方向45cmである。

柱穴 4個の柱穴が検出された。P₁は直径37cm、深さ53cm、P₂は直径30cm、深さ27cm、P₃は直径36cm、深さ42cm、P₄は直径36cm、深さ27cmである。

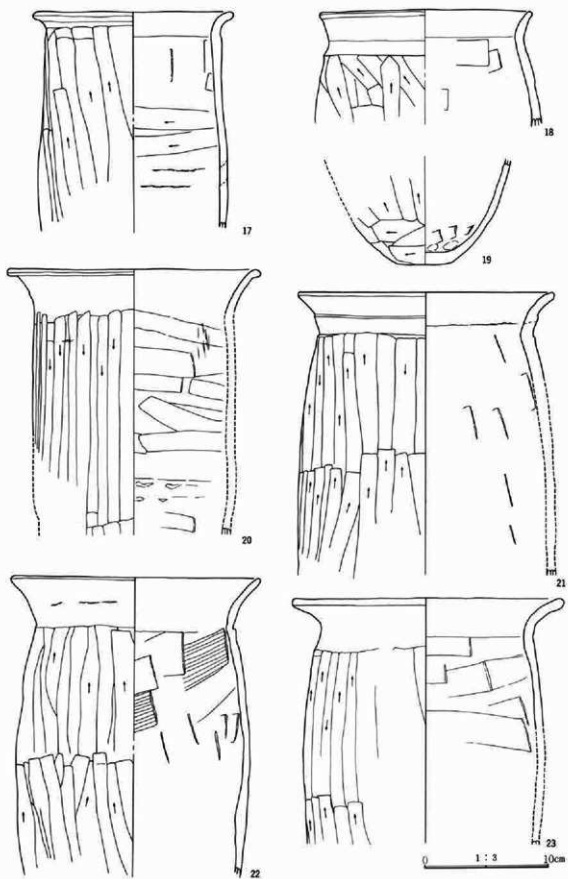
貯蔵穴 2個検出された。P₅は長径62×短径60cmの不整形を呈し、深さ36cm。P₆は長径85×短径65cmの長楕円形を呈し、深さ75cmである。

遺物 竈周辺や床面、また覆土から土師器の杯や甕が出土している。こも編石は竈前からまとまって16点出土している。

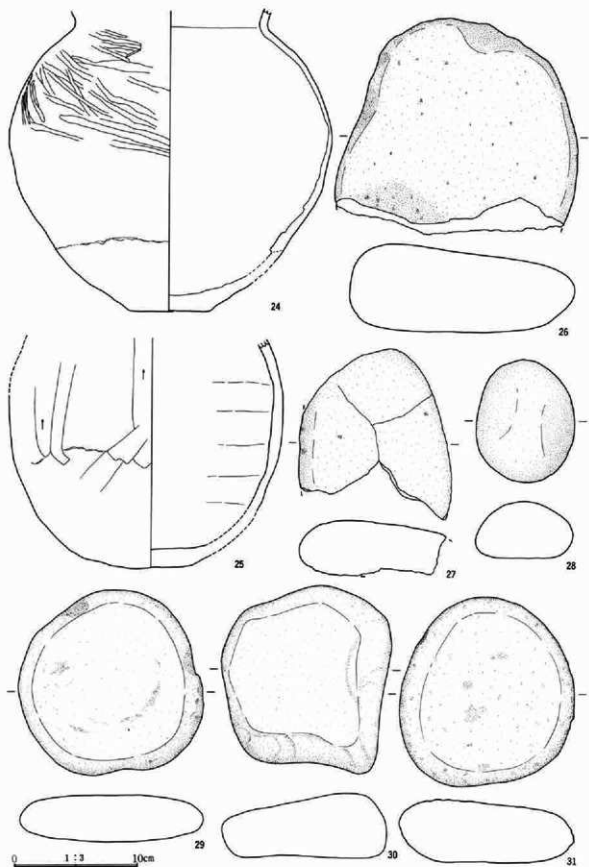
備考 当住居跡は火災住居跡である。



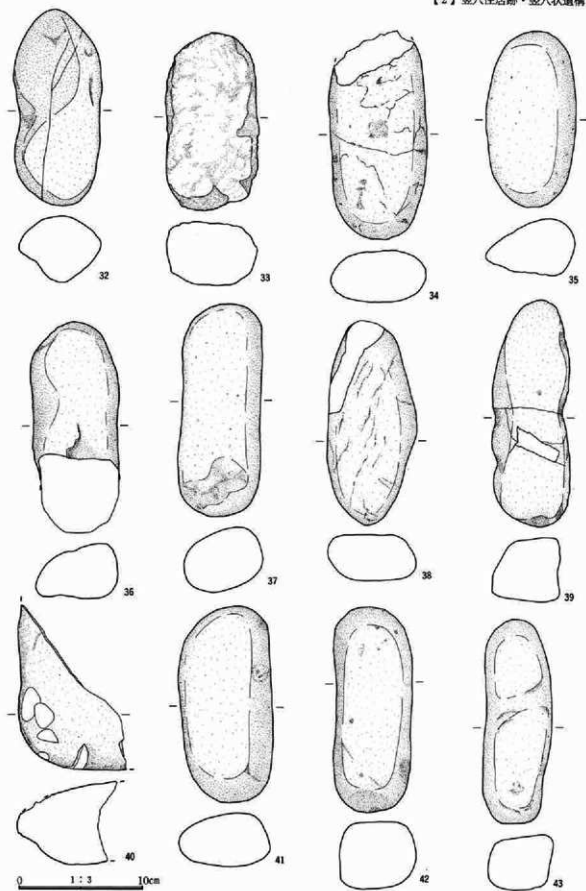
第11図 A区2号住居跡出土遺物(1)



第12図 A区2号住居跡出土遺物(2)

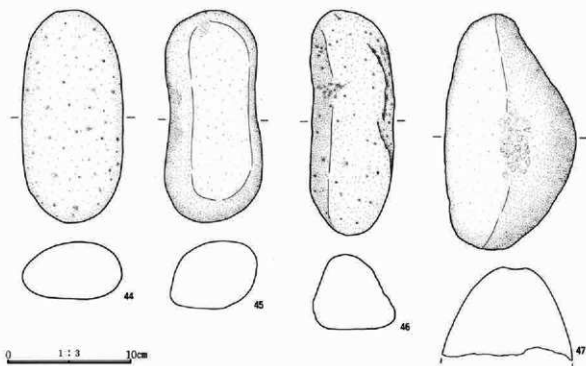


第13図 A区2号住居跡出土遺物(3)



第14図 A区2号住居跡出土遺物(4)

3章 A区の遺構と遺物



第15図 A区2号住居跡出土遺物(5)

A区2号住居跡遺物観察表

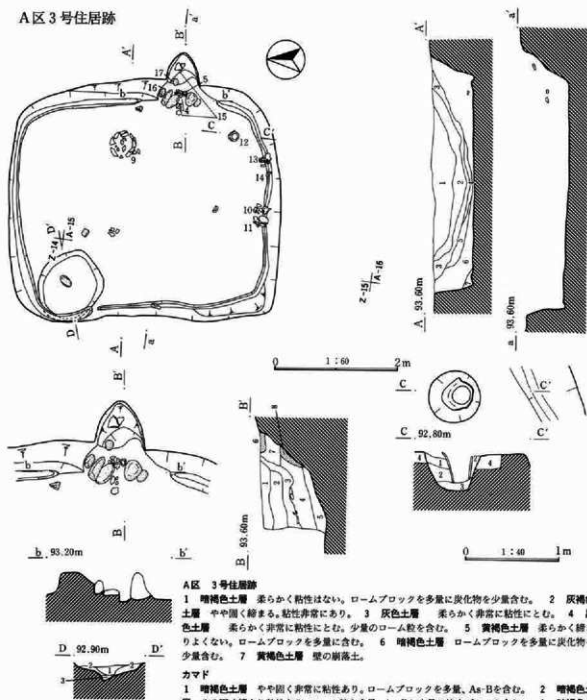
図版番号 Pl.	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
11-1 57	土師器 環	口径 12.4 器高 4.2	口縁内傾する。縁は明瞭。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	II BCDE 酸化 橙	覆土 1/2
11-2 57	土師器 環	口径(12.4) 器高 4.0	口縁直立し、凹縁 返る。縁は明瞭。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	II ABCD 酸化 灰黄	覆土 1/2
11-3 57	土師器 環	口径(13.7) 器高 (3.5)	口縁外反し、端部で内傾する。体部は偏平。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 厚減顯著で不明瞭	I CDE 酸化 橙	床直上 破片
11-4 57	土師器 環	口径(12.0) 器高 4.3	口縁やや内傾し、下位に凹縁返る。縁は明瞭。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	I ABCD 酸化 鈍い黄橙	床下土坑内 外面保付着 1/2
11-5 58	土師器 環	口径(12.5) 器高 (3.6)	口縁短く外反気味。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	II CDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
11-6 58	土師器 環	口径(13.0) 器高 4.0	口縁外反し、端部で内傾。中位凹縁返る。体部偏平。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	I ABCDE 酸化 浅黄橙	覆土 1/2
11-7 58	土師器 環	口径(12.6) 器高 4.4	口縁外反気味。縁は鋭い。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り・寛直真	II ABCD 酸化 橙	覆土 1/2
11-8 58	土師器 環	口径 13.5 器高 5.0	口縁外反する。縁は鋭く明瞭。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	II ABCDE 酸化 橙	壁際 外面保付着 1/2
11-9 58	土師器 環	口径(13.5) 器高 4.2	口縁外傾する。体部は偏平。	口縁側で体 寛削り	口縁側で体 凹削り	II BCDE 酸化 橙	壁際 1/2

図版番号 PL	器 種	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
11-10 58	土師器 坏	口径 12.6 器高 5.7	口縁外反する。体部は深く平底気味。	口 横無で 体 寛削り	口 横無で 体 無で	I ABCD 酸化 靑	覆土 外面煤付着 ㄥ
11-11 58	土師器 坏	口径 14.2 器高 4.4	口縁外反気味。底部は深く平底気味。やや肥厚する。	口 横無で・下位寛調整 体 寛削り	口 横無で 体 煎餅状の磨き・粘土の付け足し痕	I ABCD 酸化 靑	覆土 内面付着物あり 器面の汚れ ㄥ
11-12 58	土師器 坏	口径 14.1 器高 4.6	口縁外反する。	口 横無で 体 寛削り	口 横無で 体 寛当痕・摩滅顯著	I ABCD 酸化 靑	床直上 外面煤付着 ㄥ
11-13 58	土師器 坏	口径(18.6) 器高(5.5)	口縁外傾し、中位に凹縁返る。	口 横無無で 体 寛削り・摩滅顯著	口 横無で 体 推で・放射状の磨き 顯著な剥落	III ABCD 酸化 鈍い靑	覆土 酸化 ㄥ
11-14 58	土師器 鉢	口径(15.4) 底径 7.8 器高 8.2	口縁短く内傾気味。体部膨脹する。平底。	口 横無で 体～底 寛削り	口 横無で 体 推で・顯著な剥落	III ABCDE 酸化 鈍い靑	壁際 酸化 鈍い靑 ㄥ
11-15 58	土師器 短頸壺	口径 9.5 底径 4.5 器高 9.4	口縁内寄し、胴部は球形。平底。	口 横無で・輪横痕 胴 寛削り・推で 底 寛削り	口 横無で・輪横痕 胴 推で・磨き	III ABCDE 酸化 鈍い赤靑	覆土 内外面煤付着 鈍い赤靑 ㄥ
11-16 58	土師器 壺	口径(21.2) 器高(8.8)	口縁外反する。胴部は膨らむ。	口 横無で・指頭圧痕 胴 寛削り	口 横無で 胴 寛無で? 剥落が著しく て不明瞭	III ABCDE 酸化 鈍い靑	覆土 酸化 鈍い靑 破片 ㄥ
12-17 58	土師器 長胴壺	口径(15.6) 器高(17.1)	口縁は短く、強く外反。胴部の膨らみ弱い。	口 横無で 胴 寛削り	口 横無で 胴 寛無で・輪横痕	III ABCDE 酸化 靑	覆土 内外面煤付着 靑 ㄥ
12-18 58	土師器 壺	口径(16.6) 器高(8.8)	口縁短く外反。推を有し、胴部の膨らみ弱い。	口 横無で 胴 寛削り	口 横無で 胴 寛無で	II ABCDE 酸化 鈍い靑	壁際 外面煤付着 鈍い靑 破片 ㄥ
12-19 58	土師器 壺	口径 4.3 器高(8.4)	平底。	胴 寛削り・顯著な剥落 底 寛削り	胴 寛無で 底 指頭圧痕	I ABCDE 酸化 靑	覆土 酸化 破片 ㄥ
12-20 58	土師器 長胴壺	口径 19.6 器高(21.0)	口縁外反し、端部で強く外屈。胴部直線的。	口 横無で 胴 寛削り	口 横無で 胴 寛無で・輪横痕	II ABCDE 酸化 靑	窠 内外面煤付着 接合痕顯著 ㄥ
12-21 58	土師器 長胴壺	口径 20.1 器高(22.4)	口縁外反し中位で快返る。胴部やや膨らむ。	口 横無で 胴 寛削り	口 横無で・輪横痕 胴 寛無で・顯著な剥落	II ABCDE 酸化 靑	覆土 外面煤付着 ㄥ
12-22 58	土師器 長胴壺	口径(19.3) 器高(23.6)	口縁外反する。胴部の膨らみ弱い。	口 横無で・輪横痕 胴 寛削り	口 横無で 胴 寛無で	II ABCDE 酸化 鈍い靑	窠 胴部に煤付着 接合痕顯著 ㄥ
12-23 58	土師器 長胴壺	口径 21.1 器高(19.0)	口縁強く外反し、やや肥厚。胴部の膨らみ強い。	口 横無で 胴 寛削り	口 横無で 胴 寛無で	II ABCDE 酸化 靑	覆土 酸化 靑 ㄥ
13-24 59	土師器 壺	口径 6.3 器高(24.1)	胴部中位に最大径。底部は肥厚する。平底。	口 横無で 胴 寛削り後磨き・輪横痕	口 横無で 胴 剥落著しく不明瞭	II BCDE 酸化 明赤靑	床直上 外面黒斑あり 接合痕顯著 ㄥ
13-25 59	土師器 壺	口径 7.0 器高(18.0)	胴部球形。平底。	胴 寛削り	胴 寛無で? 剥落著しく 不明瞭・輪横痕	II ABCDE 酸化 鈍い靑	覆土 胴部外面黒斑 ㄥ
図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 器高	石 材	特 徴			出土状況・備考
13-26 59	台	石 17.2×19.3×7.0 3261	安山岩	両面に磨純痕が認められる。			覆土
13-27 59	台	石 13.5×12.2×4.3 689	安山岩	全面に煤の付着が認められる。			覆土
13-28 59	台	石 9.7×7.9×4.5 520	安山岩	全面に磨純痕が認められる。			覆土
13-29 59	台	石 14.7×14.4×3.8 1186	安山岩	両面に磨純痕が認められる。			覆土

3章 A区の遺構と遺物

図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴	出土状況・備考
13-30 59	台 石	14.6×13.5×5.2 1785	安山岩	両面に磨耗痕と片面に煤の付着が認められる。	覆土
13-31 59	台 石	14.9×14.1×4.9 1091	滑岩	側面と片面に敲打痕が認められる。	覆土
14-32 59	こも 編石	15.1×7.0×5.2 708	安山岩		床直上
14-33 59	こも 編石	14.1×7.3×5.0 801	溶結凝灰岩	側面に敲打痕が認められる。	床直上
14-34 59	こも 編石	16.2×7.5×4.2 822	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。	床直上
14-35 59	こも 編石	14.9×7.2×4.5 629	安山岩	部分的に磨耗痕が認められる。	床直上
14-36 59	こも 編石	16.7×7.0×4.3 699	安山岩		床直上
14-37 59	こも 編石	16.9×6.6×5.1 869	安山岩	ほぼ全面に磨耗痕が認められる。	床直上
14-38 59	こも 編石	16.1×7.1×3.6 675	頁岩		床直上
14-39 59	こも 編石	17.9×6.2×5.1 865	頁岩		床直上
14-40 59		13.0×8.7×6.5 660	安山岩	被熱痕が認められる。	覆土
14-41 59	こも 編石	14.6×7.3×4.3 860	花崗閃緑岩	被熱痕が認められる。	床直上
14-42 59	こも 編石	16.1×6.3×5.3 1072	安山岩	端部に敲打痕が認められる。	床下土坑内
14-43 59	こも 編石	16.2×5.2×5.2 781	安山岩		床直上
15-44 59	こも 編石	17.0×8.0×4.9 1020	安山岩	端部に敲打痕が認められる。	床直上
15-45 59	こも 編石	16.7×7.8×5.4 1238	安山岩	側縁に敲打痕が認められる。	床直上
15-46 59	こも 編石	17.8×6.8×6.1 1108	花崗閃緑岩		床直上
15-47 59		18.7×10.4×7.3 1518	安山岩	端部に顕著な敲打痕が認められる。	覆土

A区3号住居跡



A区3号住居跡

1 暗褐色土層 柔らかく粘性はない。ロームブロックを多量に炭化物を少量含む。 2 灰褐色土層 やや固く締まる。粘性非常にあり。 3 灰色土層 柔らかく非常に粘性にとむ。 4 黒色土層 柔らかく非常に粘性にとむ。少量のローム粒を含む。 5 黄褐色土層 柔らかく締まりよくない。ロームブロックを多量に含む。 6 暗褐色土層 ロームブロックを多量に炭化物を少量含む。 7 黄褐色土層 壁の崩落土。

床下土坑

1 暗褐色土層 やや固く非常に粘性あり。ロームブロックを多量、As-Bを含む。 2 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒を多量、As-Bと少量の焼土ブロック含む。 3 暗褐色土層 柔らかく締まり悪い。ローム粒、焼土粒を含む。 4 茶褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性少しあり。ローム粒を少量、焼土粒を多量に含む。 5 黄褐色土層 柔らかく非常に粘性あり、ローム粒を多量、焼土粒を含む。 6 赤褐色土層 焼土。 7 黄褐色土層 やや固く粘性少しあり。焼土を含む。 8 赤褐色土層 焼土。

床下土坑

1 暗褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロックを含む。 2 黄褐色土層 非常に固く締まり粘性あり。ロームブロックを含む。 3 黄褐色土層 非常に固く締まり、ロームブロックの層。

床面下埋設土層

1 茶褐色土層 非常に締まりよく粘性あり。焼土を少量含む。 2 暗褐色土層 締まりよく粘性非常にあり。ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。 3 茶褐色土層 締まりよく粘性非常にあり。ローム粒、焼土粒を含む。 4 黒色土層 締まりよく粘性非常にあり。ローム粒、焼土粒を含む。

第16図 A区3号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区3号住居跡(奈良時代)(第16~18図、PL.6・60)

位置 Z・A-14・15グリッドにかけて検出された。

南南西約7mに4号住居跡が存在する。

形状 長辺4.3m、短辺3.7mの方形を呈する。

面積 約13.8㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約60~70cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 北西隅で途切れている。幅6~14cm、深さ

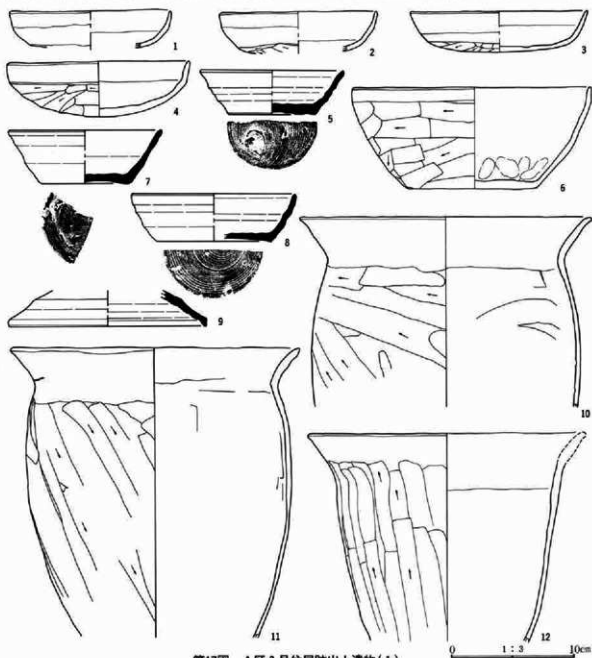
約4cmである。

竈 東壁中央部やや南寄りの壁面を掘り込んで造られており、燃烧部の大部分は壁面部から外側に位置している。燃烧部には6個の石が配されている。規模は煙道方向77cm、両袖方向46cmである。

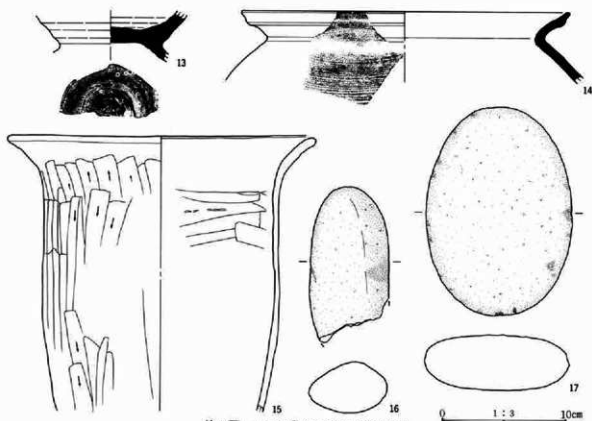
柱穴 検出されていない。

遺物 床面東隅に埋設土器が検出された。竈周辺や床面、また覆土から土師器の杯や壺が出土。

床下土坑 床面北西隅から検出。長径110cm、短径100cmの楕円形を呈する。床面からの深さ28cmである。



第17図 A区3号住居跡出土遺物(1)



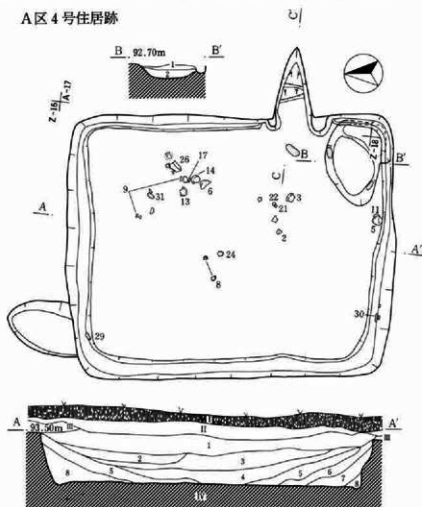
第18図 A区3号住居跡出土遺物(2)

A区3号住居跡遺物観察表

図版番号 頁上	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
17-1 60	土師器 環	口径(12.8) 器高(3.0)	口縁内湾気味。扁平な丸底。	口横撫で 体 上半不明瞭な撫で	口横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
17-2 60	土師器 環	口径(12.5) 器高(3.3)	口縁内湾気味。	口横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片
17-3 60	土師器 環	口径(14.0) 器高 3.3	口縁外傾する。扁平な丸底。	口横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口横撫で 体 撫で	I ABCD 酸化 橙	覆土 片
17-4 60	土師器 環	口径 14.6 器高 4.4	口縁やや外傾する。体部丸みをもつ。	口横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 実影
17-5 60	須恵器 環	口径(11.3) 底径(7.1) 器高 3.4	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縁整形 底 右回転糸切り	口~体 輪縁整形	I BCDE 還元 灰白	覆土 片
17-6 60	土師器 環	口径 18.8 底径 10.1 器高 8.0	口縁短く直立。体部深く内湾気味。平底。	口横撫で 体~底 磨削り	口横撫で 体 撫で・指頭圧痕	I ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 片
17-7 60	須恵器 環	口径(12.1) 底径(7.1) 器高(4.2)	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縁整形 底 右回転糸切り	口~体 輪縁整形	I ABCD 還元 灰	床下土坑内 破片
17-8 60	須恵器 環	口径(13.0) 底径(9.3) 器高 3.8	体部僅かに内湾する。	口~体 輪縁整形 底 回転糸切り	口~体 輪縁整形	I ABCD 還元 灰	覆土 片
17-9 60	須恵器 蓋	口径(15.6) 器高(3.0)	体部直線的に開き、口縁端部直に折れる。	口~体 輪縁整形 天井部 回転磨削り	口~体 輪縁整形	II BCD 還元 灰	覆土 火葬の痕跡 破片
17-10 60	土師器 壺	口径(23.0) 器高(15.0)	口縁くの字状を呈し、胴部やや膨らむ。	口横撫で 肩 横撫で伏尻削り	口横撫で 肩 磨削り	I ABCD 酸化 明赤褐	壁面 口縁内面保付着 片

図版番号 PL	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
17-11 60	土師器 甕	口径 22.7 器高 23.0	口縁くの字状を呈し、やや肥厚。胴部やや膨らむ。	口 横線で・輪襷痕 胴 横線で後置削り	口 横線で・輪襷痕 胴 肥厚で・寛当痕	I ABCD 酸化 明赤褐色	壁際 内外面保付着 1/5
17-12 60	土師器 甕	口径(22.0) 器高(16.5)	口縁外傾し、肥厚する。胴部やや膨らんで窄る。	口 横線で 胴 肥削り	口 横線で 胴 削で	II ABCDE 酸化 黄褐色	床下埋設 外面保付着 1/5
18-13 60	須恵器 甕?	器高 (4.0)	付け高台はハの字状に開く。底部肥厚する。	胴 横線整形 底 回転調整	胴 横線整形	I ACDE 還元 灰	壁際 破片
18-14 60	須恵器 甕	口径(25.8) 器高 (5.6)	口縁短く、強く外反する。	口 横線で 胴 様目	口 横線で 胴 横線で	I ABCD 還元 灰	壁際 破片
18-15 60	土師器 長胴甕	口径(24.1) 器高(21.8)	口縁外反し、やや肥厚。胴部の膨らみ弱い。	口 横線で 胴 削削り	口 横線で 胴 横線で・輪襷痕	II ABCDE 酸化 鈍い橙	甕覆土 1/5
図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
18-16 60	こも 編石	12.2×6.3×4.0 438	安山岩	四面に磨耗痕が認められる。		甕	
18-17 60	こも 編石	16.4×11.7×4.4 1029	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。		甕	

A区4号住居跡

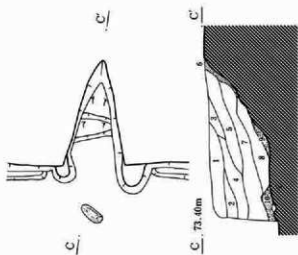


A区4号住居跡

- I 表土層 耕作土。
 II 茶褐色土層 柔らかくサラサラしている。As-Bを含む。
 III 暗褐色土層 柔らかく粘性あまりなし。As-B、ローム粒を含む。
 IV ローム層
 1 暗褐色土層 柔らかい、粘性なし。As-B、ローム粒を含む。
 2 暗褐色土層 やや固く締まり粘性少しあり。As-B、ローム粒を含む。
 3 黒褐色土層 やや固いが締まり悪い。粘性はほとんどなし、ロームブロックを少量含む。
 4 茶褐色土層 固く締まり、粘性非常にあり。少量のロームブロック、焼土粒を含む。
 5 暗褐色土層 やや固いが締まり悪い。ロームブロックを多量に、少量の焼土粒を含む。
 6 黄褐色土層 やや固く、締まり悪い。粘性も非常にあり、ロームブロックを多量に含む。
 7 黒色土層 非常に柔らかく締まりよい。粘性も非常にあり、ロームブロック粒を多量に含む。
 8 黄褐色土層 非常に柔らかく粘性あり。

0 1:60 2m

第19図 A区4号住居跡



第20図 A区4号住居跡カマド

A区4号住居跡(奈良時代)(第19~22図、PL.7・60・61)

位置 Z・A-17・18グリッドにかけて検出された。北北東約7mに3号住居跡が存在する。

形状 長辺5.2m、短辺4.2mの長方形を呈する。

面積 約18.9㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は8層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約70~80cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 全周している。幅10~23cm、深さ約6~10

カマド

- 1 暗褐色土層 やや固く締まり悪い。粘性ややあり。ロームブロックを多量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 黒褐色土層 やや固く締まり悪い。ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 固く粘性少しあり。ローム粒多量、焼土粒若干含む。
- 4 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロックを多量、少量の炭化物、焼土粒を含む。
- 5 赤褐色土層 非常に固く締まり粘性はない。焼土ブロックを多量、少量の炭化物、ローム粒を含む。
- 6 赤褐色土層 焼土。
- 7 灰褐色土層 柔らかく粘性ややあり。ロームブロック、焼土ブロック、炭化物を多量に含む。
- 8 黄褐色土層 柔らかく締まり粘性非常にあり、ロームブロック、炭化物、焼土粒を含む。
- 9 黒褐色土層 やや固く締まりよくない。ロームブロック、焼土粒を少量含む。灰を含む。
- 10 黒灰色土層 やや固く緻密。非常に粘性あり。灰を含む。

貯蔵穴

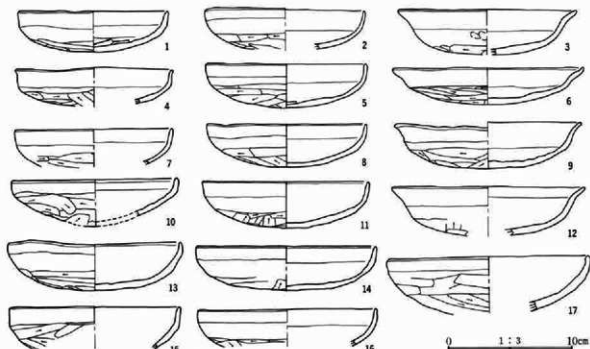
- 1 暗褐色土層 固く締まる。焼土粒、炭化物、ローム粒を含む。
 - 2 黄褐色土層 柔らかく締まり悪い。ロームブロックを多量に含む。
- cmである。

竪 東壁中央部やや南寄りの壁面を掘り込んで造られている。袖部は約30cm残存。燃焼部の多くと煙道部が壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向135cm、両袖方向45cmである。

柱穴 検出されていない。

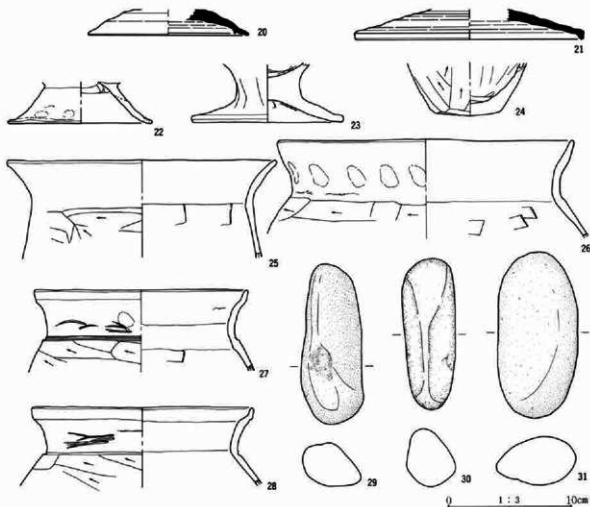
貯蔵穴 床面東南隅に位置している。長径138cm、短径85cm、深さ40cmである。

遺物 床面や覆土から土師器の杯や甕が出土している。こも磁石も3点出土している。



第21図 A区4号住居跡出土遺物(1)

3章 A区の遺構と遺物



第22図 A区4号住居跡出土遺物(2)

A区4号住居跡遺物観察表

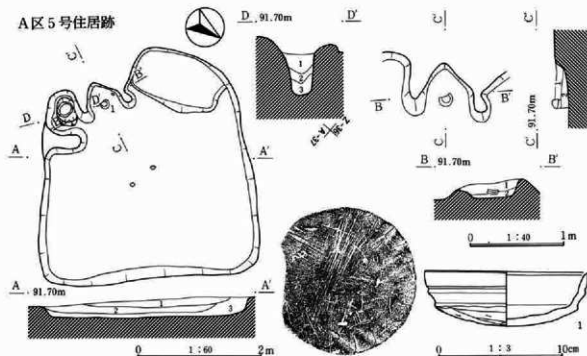
図版番号 Pl.	器 器形	注量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
21-1 60	土師器 坏	口径(11.8) 器高 3.3	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 横撫で	II BCDE 酸化 橙	覆土 1/3
21-2 60	土師器 坏	口径(12.7) 器高 (3.3)	口縁やや内寄気味 に立ち上がる。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
21-3 60	土師器 坏	口径(14.0) 器高 (3.6)	口縁外反する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	覆土 1/3
21-4 60	土師器 坏	口径(12.4) 器高 (3.0)	口縁やや外反す る。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い橙	床下土坑内 1/3
21-5 60	土師器 坏	口径 12.7 器高 3.5	口縁やや内寄気味 に立ち上がる。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	埋蔵 1/3
21-6 60	土師器 坏	口径 15.1 器高 3.0	口縁やや内寄気味 に立ち上がる。個 平な丸底。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 1/3

図版番号 PL	器 形 類	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
21-7 61	土師器 坏	口径(12.4) 器高(2.9)	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 破片
21-8 61	土師器 坏	口径 12.6 器高 3.4	口縁やや内弯気味 に立ち上がる。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	床直上 外面厚状に煤付 着 1/2
21-9 61	土師器 坏	口径(14.7) 器高 3.7	口縁外反する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCD 酸化 橙	覆土 1/2
21-10 61	土師器 坏	口径(13.0) 器高 3.5	口縁短く直立す る。体部深い。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 1/2
21-11 61	土師器 坏	口径 13.2 器高 3.7	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	梁際 1/2
21-12 61	土師器 坏	口径(15.2) 器高(3.8)	口縁外反する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCD 酸化 橙	覆土 1/2
21-13 61	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.0	口縁短く直立す る。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCD 酸化 橙	覆土 破片
21-14 61	土師器 坏	口径(14.3) 器高 3.5	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 1/2
21-15 61	土師器 坏	口径(13.4) 器高(3.5)	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片 1/2
21-16 61	土師器 坏	口径(14.1) 器高(2.9)	口縁直立気味。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
21-17 61	土師器 坏	口径(15.8) 器高(4.4)	口縁内弯気味。体 部深く丸みをも つ。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半寛削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
22-20 61	須恵器 蓋	口径(12.6) 器高(2.0)	体部ならみ、口縁 弱く外反。カエリ は短く三角形。	口～体 縦縞變形 天井部 回転削り	口～体 縦縞變形	I ACD 還元 灰白	覆土 破片
22-21 61	須恵器 蓋	口径(18.0) 器高(2.4)	体部直線的。口縁 端部は直に折れ る。	口～体 縦縞變形 天井部 回転削り	口～体 縦縞變形	II BCD 還元 灰白	覆土 1/2
22-22 61	土師器 台付壺	底径(11.3) 器高(3.2)	脚部は外反気味に 開く。	脚 横撫で・指頭圧痕・ 粘土の折返し痕	脚 横撫で・上位寛撫で	II BCD 酸化 橙	覆土 接合部で剥離 脚部
22-23 61	土師器 台付壺	底径(11.8) 器高(4.8)	脚部は低く、ハの 字状に強く開く。	脚 寛削り後横撫で	脚 寛撫で 脚 横撫で・足撫で	III ABCDE 酸化 鈍い赤橙	覆土 脚部
22-24 61	土師器 壺	底径(5.2) 器高(4.3)	平底。	胴 寛削り 底 足削り	胴 指撫で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	床直上 破片
22-25 61	土師器 壺	口径(21.2) 器高(7.8)	口縁外反する。胴 部膨らみ弱い。	口 横撫で 胴 寛削り	口 横撫で 胴 寛撫で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
22-26 61	土師器 壺	口径(23.4) 器高(8.3)	口縁直線的に立ち 上がり。胴部外傾 する。	口 横撫で・指頭圧痕 胴 寛削り	口 横撫で 胴 寛撫で	II ABCD 酸化 橙	覆土 破片
22-27 61	土師器 壺	口径(16.8) 器高(6.4)	口縁外反し、端部 で直立。体部の接 縁は明瞭。	口 横撫で・指頭圧痕・指頭 痕・棒状工具の凹線 削 削り	口 横撫で 胴 寛撫で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
22-28 61	土師器 壺	口径(17.4) 器高(6.4)	口縁外反し、端部 で直立。体部の接 縁は明瞭。	口 横撫で・指頭圧痕・輪 痕・凹線 削 削り	口 横撫で 胴 寛撫で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片

18・19はPL.61にあり。

3章 A区の遺構と遺物

図版番号 PL.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴	出土状況・備考
22-29 61	こも 編 石	13.7×5.0×3.4 328	頁岩	端部に敲打痕が認められる。	壁際
22-30 61	こも 編 石	11.9×4.3×4.7 355	頁岩	端部に敲打痕が認められる。	壁際
22-31 61	こも 編 石	13.1×6.3×3.8 474	閃緑岩		覆土



A区 5号住居跡

- 1 黒褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒を少量含む。 2 黒色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒を少量含む。
3 暗褐色土層 ロームブロックを含む。締まり、粘性非常にあり。

カマド

- 1 暗赤褐色土層 焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。粘性のみ土の締まりややある。 2 暗褐色土層 焼土粒を含む。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土層 柔らかく非常に粘性あり。ロームブロックを多量に含む。 2 暗褐色土層 柔らかく1層より粘性は強い。ローム粒を少量含む。 3 黄褐色土層 固く、締まりは悪いが粘性は非常にある。ロームブロックを多量含む。

第23図 A区5号住居跡と出土遺物

A区5号住居跡(古墳時代)(第23図、PL.8・61)

位 置 A-36・37グリッドにかけて検出された。南約4mに6号住居跡が存在する。

形 状 長辺3.5m、短辺3.1mの方形を呈する。

面 積 約12.2㎡。

覆 土 ローム層を掘り込んで整穴住居跡は構築さ

れ、そこに堆積した覆土は3層に分層された。

壁 高 住居跡確認面より約15～30cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。

周 溝 検出されていない。

竈 南壁中央部やや南寄りの壁面を掘り込んで造られている。袖部は約50cm残存。燃焼部の多くが

床面上に造られている。規模は輝道方向60cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出されていない。

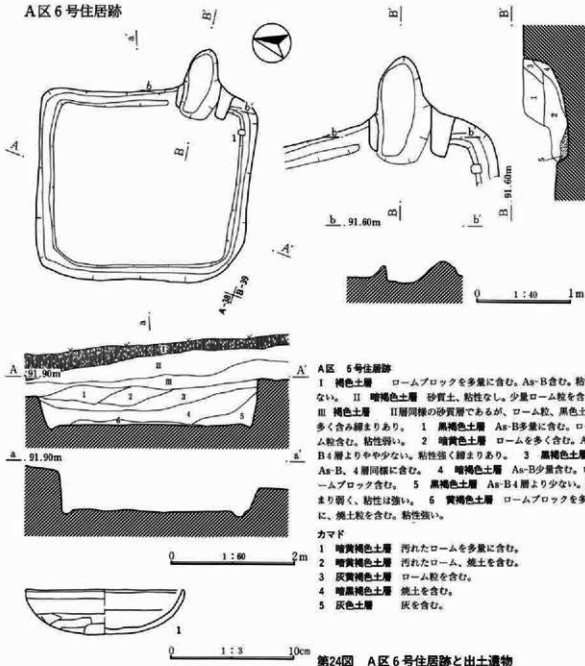
貯蔵穴 床面南側に位置している。長径48cm、短径

28cm、深さ60cmである。西側の土坑は貯蔵穴とは理解しがたい。長径145cm、短径90cm、深さ24cmを測る。遺物 竈内と床面から僅かに出土しただけである。

A区5号住居跡遺物観表

図版番号 Pl.	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
23-1 61	土師器 環	口径 12.8 器高 4.5	口縁外傾し、中位で四線巡る。口唇部縮る。	□ 横無で・下位段調整 体 段削り・透光?による筋が密。	□ 横無で 体 無で	I ABCDE 酸化 橙	竈覆土 1/4

A区6号住居跡



第24図 A区6号住居跡と出土遺物

3章 A区の遺構と遺物

A区6号住居跡(奈良時代)(第24図、PL.8・9・61)

位置 A・B-38グリッドにかけて検出された。北約4mに5号住居跡が存在する。

形状 長辺3.4m、短辺3mの方形を呈する。

面積 約9.4㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約40~70cmで床面に達する。

床面 ほゞ平坦である。

周溝 全周している。幅12~19cm、深さ3~8cmである。

竈 ほゞ東壁隅に位置している。燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。袖部は約45cm残存。規模は煙道方向113cm、両袖方向35cmである。

柱穴 検出されていない。

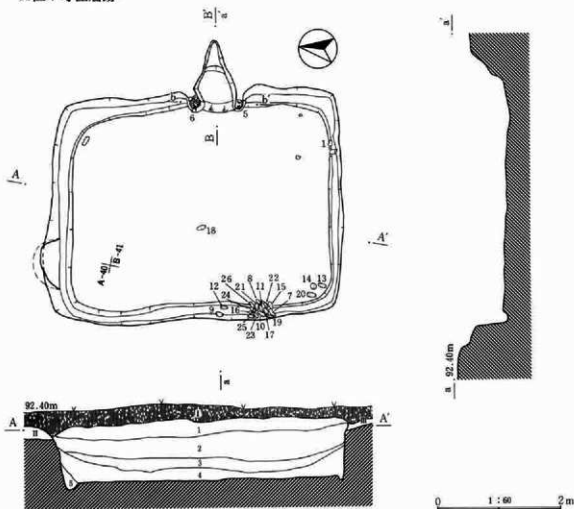
貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面から僅かに出土しただけである。

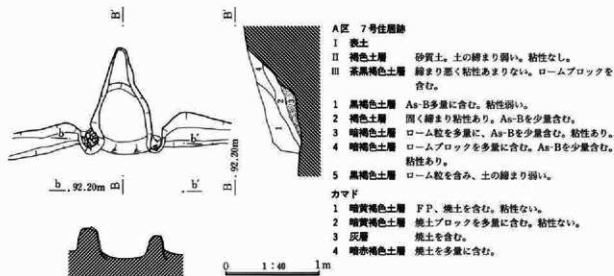
A区6号住居跡遺物観察表

図版番号 PL.	遺物 種類	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	焼土・焼成・色調	出土状況・備考
24-1 61	土製 罎	口径(12.5) 器高 3.5	口径内穹窿状に立ち上がる。	口横断で 体 上下不明瞭な旗で 下平直削り	口横断で 体 旗で・顕著な剥落	III BCDE 酸化 鈍い橙	壁際 煤付着 少

A区7号住居跡



第25図 A区7号住居跡



第26図 A区7号住居跡カマド

A区7号住居跡(古墳時代)(第25~29回、PL.9・10・61・62)

位置 A・B-40・41グリッドにかけて検出された。6号住居跡の南約9mの所に位置している。

形状 長辺4.6m、短辺3.5mの長方形を呈する。

面積 約15㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分層された。

壁高 住居跡確認より約90cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

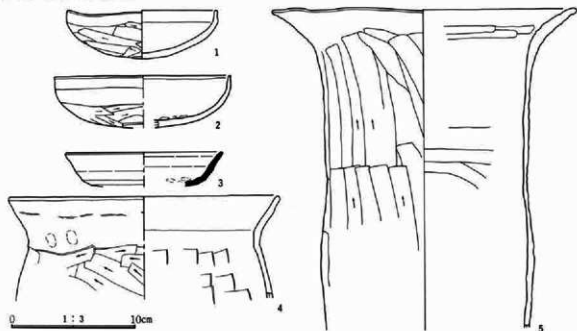
周溝 全周している。幅16~24cm、深さ4~10cmである。

竪穴 東壁ほぼ中央部に位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。袖部は約22cm残存。規模は煙道方向110cm、両袖方向50cmである。

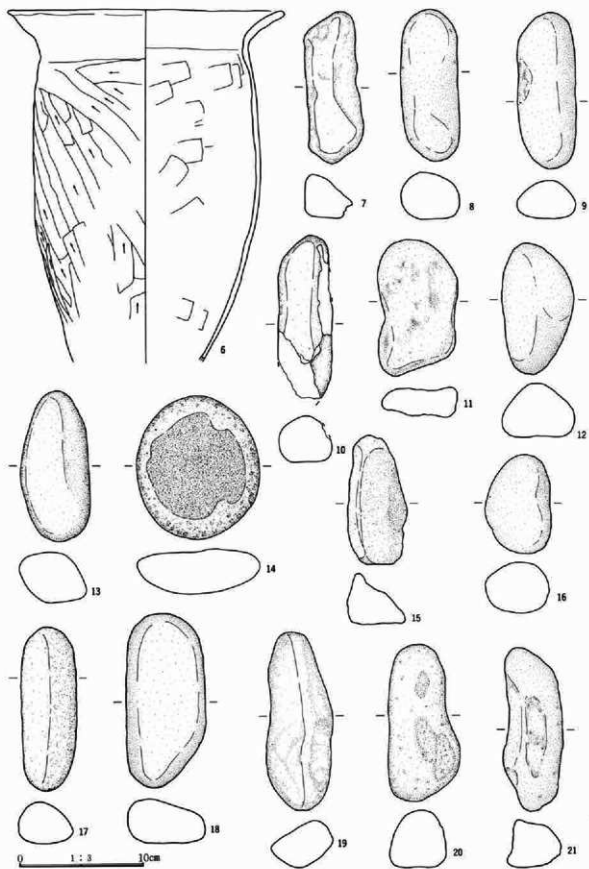
柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

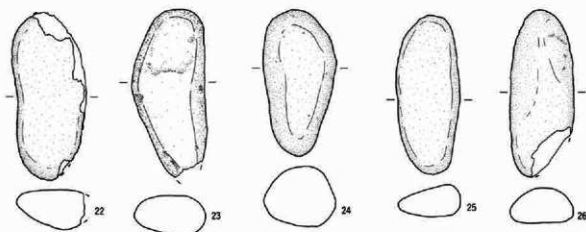
遺物 床面から僅かに出土しただけである。またこも編石20点が西壁下に集中して出土している。



第27図 A区7号住居跡出土遺物(1)



第28図 A区7号住居跡出土遺物(2)



第29図 A区7号住居跡出土遺物(3)

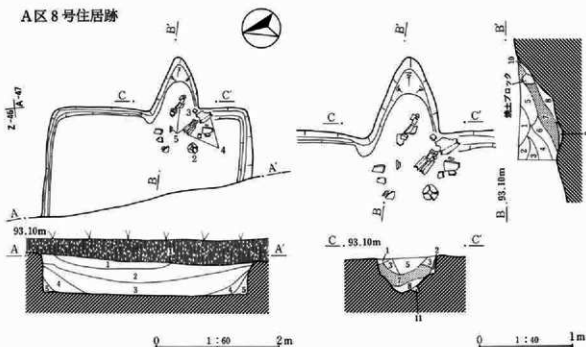
0 1:3 10cm

A区7号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器 形	法量(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
27-1 61	土師器 坏	口径 11.9 器高 3.8	口縁短く直立する。	□ 横線で 体 磨削り	□ 横線で 体 撫で	I BCDE 酸化 焼	埋跡 ほぼ球形
27-2 61	土師器 坏	口径(13.8) 器高(4.1)	口縁直立する。	□ 横線で 上半不明瞭な撫で 体 下半直削り	□ 横線で 体 磨削で	II ABCDE 酸化 鈍い黄緑	覆土 破片
27-3 61	須恵器 坏	口径(12.3) 器高(2.7)	体部やや張りもち、口縁外反する。	□ 横線で・ 胴 回転磨削り	□ 横線で・ 底 指撫で	I ABCD 還元 灰白	電覆土 破片
27-4 61	土師器 壺	口径(21.3) 器高(8.0)	口縁直立気味に立ち上がり外傾。胴部膨らみ弱い。	□ 横線で・ 指頭圧痕・ 輪模痕 胴 直削り	□ 横線で 胴 磨削で	I ABCDE 酸化 焼	電覆土 破片
27-5 62	土師器 長胴壺	口径 23.9 器高(25.5)	口縁外反し、肥厚する。胴部は直線的。	□ 横線で 胴 磨削で後直削り	□ 横線で・ 指撫で	III ABCDE 酸化 焼	電右袖材 外周係付着 片
28-6 62	土師器 壺	口径 21.5 器高(28.0)	口縁外反し、胴部 中位弱く膨らむ。	□ 横線で 胴 直削り	□ 横線で 胴 磨削で	I ABCDE 酸化 明赤褐色	電左袖材 片
図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
28-7 62	こも 礫石	14.0×5.0×3.5 317	安山岩			埋跡	
28-8 62	こも 礫石	12.3×4.7×3.0 296	安山岩	全面に磨耗痕が認められる。		埋跡	
28-9 62	こも 礫石	13.0×4.7×3.8 350	安山岩	端部に敲打痕が認められる。		埋跡	
28-10 62	こも 礫石	12.9×4.4×3.6 315	安山岩			埋跡	
28-11 62	こも 礫石	10.5×6.3×2.4 294	安山岩			埋跡	
28-12 62	こも 礫石	10.3×5.8×4.3 298	軽石			埋跡	
28-13 62	こも 礫石	11.9×5.5×4.0 404	安山岩	端部僅かに敲打痕が認められる。		覆土	
28-14 62	こも 礫石	11.3×9.8×3.5 446	安山岩	全面に磨耗痕、片面に敲打痕と傷の付着が認められる。		覆土	
28-15 62	こも 礫石	10.1×4.7×4.0 239	安山岩	端部に敲打痕が認められる。		埋跡	
28-16 62	こも 礫石	7.8×5.3×4.0 192	軽石			埋跡	
28-17 62	こも 礫石	12.9×4.3×3.3 303	安山岩	全面に磨耗痕が認められる。		埋跡	

図版番号 Pl.	種類	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴	出土状況・備考
28-18 62	こも編石	13.8×6.5×3.5 521	閃緑岩	部分的に磨耗痕が認められる。	床直上
28-19 62	こも編石	14.1×5.2×3.6 355	安山岩	端部に敲打痕が認められる。	壁際
28-20 62	こも編石	12.3×5.8×4.6 418	軽石		覆土
28-21 62	こも編石	12.9×4.8×3.8 368	安山岩	一部に磨耗痕が認められる。	壁際
29-22 62	こも編石	13.2×6.0×3.1 396	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。	壁際
29-23 62	こも編石	13.2×6.0×3.1 385	安山岩	部分的に磨耗痕が認められる。	壁際
29-24 62	こも編石	11.6×5.9×4.7 322	安山岩	端部に敲打痕が認められる。	壁際
29-25 62	こも編石	12.6×5.2×2.5 254	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。	壁際
29-26 62	こも編石	13.1×5.1×2.8 276	安山岩	磨耗痕と煤の付着が部分的に認められる。	壁際

A区8号住居跡



A区8号住居跡

1 暗黒褐色土層 耕作土。固く締まり粘性あまりない。As-Bを多量に含む。2 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あまりない。As-Bを少量含む。3 暗褐色土層 As-B、ロームブロックを少量含む。4 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ロームブロックを含む。As-B、焼土粒を少量含む。5 黒褐色土層 粘性ややあり。ローム粒、焼土粒を少量含む。6 黄褐色土層 壁の崩落土。

カマド

1 褐色土層 As-B、ローム粒、焼土粒少量含む。粘性弱く締まりあり。2 暗褐色土層 As-Bを多量に含む。粘性弱く締まりあり。3 暗褐色土層 焼土粒多量に、ローム粒、As-Bを少量含む。4 黒褐色土層 As-B、ローム粒、焼土粒を含む。締まりなく粘性あり。5 黒褐色土層 As-B、ローム粒を含む。粘性あり、締まりあまりない。6 暗褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性にとみ締まりよい。7 暗赤茶褐色土層 焼土主体。少量のローム粒を含む。8 黒赤褐色土層 焼土、灰、ローム粒混じり。粘性弱く締まり弱い。9 暗青灰色土層 灰層。10 暗褐色土層 焼土粒を少量含む。11 黒褐色土層 焼土粒、ローム粒少量含む。粘性ややあり、締まり弱い。

第30図 A区8号住居跡

A区8号住居跡(古墳時代)(第30・31回、PL.62)

位置 Z・A-47グリッドにかけて検出された。北約1mに24号住居跡が存在する。

形状 長辺3.3m、短辺は完掘できなかったために不明であるが現状で1.7mを測る。

面積 約4.4㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約50~60cmで床面。

床面 ほほ平坦である。

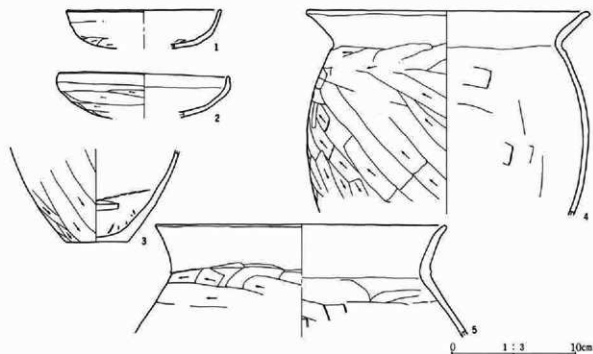
周溝 全周していると考えられる。幅7~10cm、深さ3~5cmである。

竈 東壁の中央部やや南寄りに位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。袖部は約20cm残存。規模は煙道方向110cm、両袖方向50cmである。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

遺物 竈周辺と覆土上層から遺物の出土が多かった。床面からは僅かに出土しただけである。



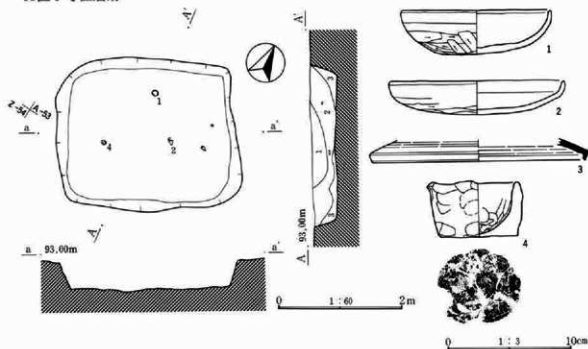
第31回 A区8号住居跡出土遺物

A区8号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
31-1 62	土師器 碗	口径(12.1) 器高(3.0)	口縁やや外傾する。扁平な丸底。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 覓撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
31-2 62	土師器 碗	口径 13.4 器高(3.7)	口縁短く直立する。体部丸みをもつ。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 外面塚付着 破片
31-3 62	土師器 壺	底径 4.8 器高(7.2)	平底。体部やや膨らみをもって立ち上がる。	胴~底 覓削り	胴 覓撫で・寛当痕・輪 横痕	I~II ABCDE 酸化 明赤褐色	覆土 外面塚付着・接 合痕顯著 破片

図版番号 PL.	器 形	流量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
31-4 62	土師器 壺	口径(22.1) 器高(16.5)	口縁外反し、胴部 膨らむ。	口 横撫で 胴 横撫で伏尻削り	口 横撫で 胴 横撫で	II ABCD 酸化 鈍い赤橙	覆土 瓦
31-5 62	土師器 壺	口径(22.8) 器高(8.6)	口縁外反する。	口 横撫で 胴 尻削り	口 横撫で 胴 尻削り	II ABCDE 酸化 橙	覆土 内面腐付着 破片

A区9号住居跡



第32図 A区9号住居跡と出土遺物

A区9号住居跡(奈良時代)(第32図、PL.11・62)

位置 A-54グリッドにかけて検出された。南
南西約13mに10号住居跡が存在する。

形状 長辺2.9m、短辺2.45mの長方形を呈してい
る。

面積 約5.7㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴は構築され、そ
こに堆積した覆土は3層に分層された。

壁高 遺構確認面より約34~44cmで床面に達す

る。

床面 やや凹凸が認められる。

周溝 検出されていない。

竈 検出されていない。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面・覆土から少量の遺物が出土している。

備考 竈が存在しないことから考えると住居跡と
して把握することは困難と思われる。

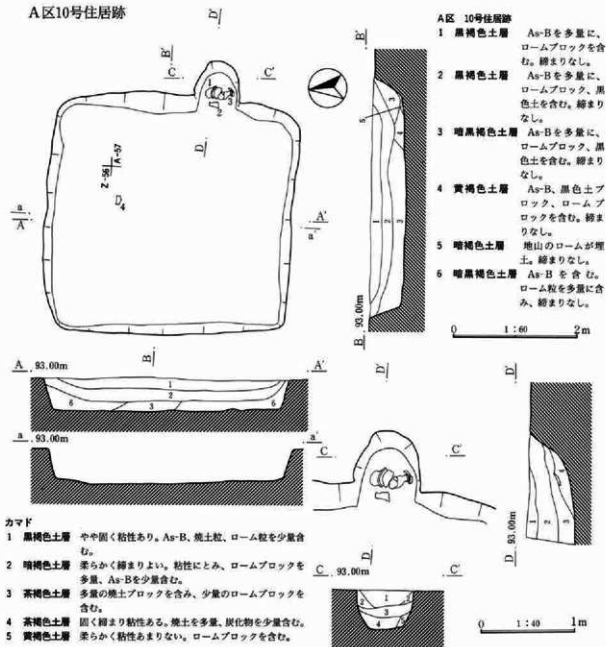
A区9号住居跡

- 1 黒褐色土層 やや固く締まっているが粘性はない。As-B、ローム粒、炭化物を含む。
- 2 茶褐色土層 柔らかく締まりよくない。粘性あり。ロームブロック、As-Bを少量含む。
- 3 黄褐色土層 やや固く締まり粘性に乏しい。ロームブロックを多量に含む。

A区9号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器 形 類	量 目 寸 法 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
32-1 62	土師器 杯	口径 11.8 器高 3.5	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 焼	覆土 外面保付着 ほぼ完成形
32-2 62	土師器 杯	口径(13.8) 器高 2.7	口縁短く直立する。扁平な丸底。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 焼	覆土 1/2
32-3 62	須恵器 蓋	口径(17.0) 器高(1.7)	体部直線的。口縁 端部短く内屈。	口~体 縦縞整形	口~体 縦縞整形	I CDE 還元 灰	覆土 破片
32-4 62	土師器 手捏ね	口径 7.2 底径 6.2 器高 4.4	体部直立気味に立ち上がる。底部薄く、平底。	口~体 指撫で後部分的 に寛撫で(横方 向)	口~体 指撫で	III ABCDE 酸化 鈍い焼	覆土 外面保付着 1/2

A区10号住居跡



第33図 A区10号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区10号住居跡(古墳時代)(第33・34図、PL.11・63)

位置 Z・A-56・57グリッドにかけて検出された。

東南約7mに11号住居跡が存在する。

形状 長辺4m、短辺3.8mの方形を呈している。

面積 約11.3㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約44～50cmで床面に達する。

床面 やや凹凸が認められる。

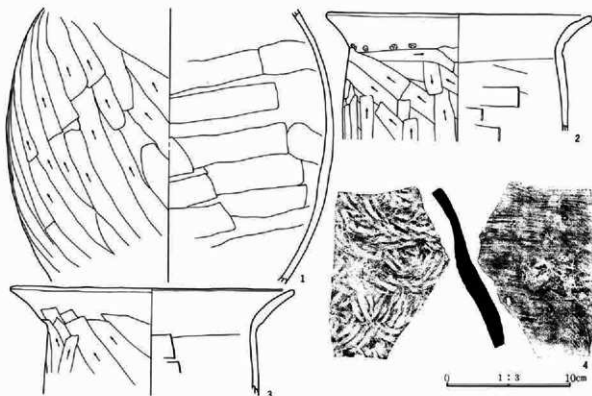
周溝 検出されていない。

竈 東壁の中央部やや南寄りに位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向85cm、両袖方向60cmである。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

遺物 竈内から土師器壺と床面から少量の遺物が出土している。

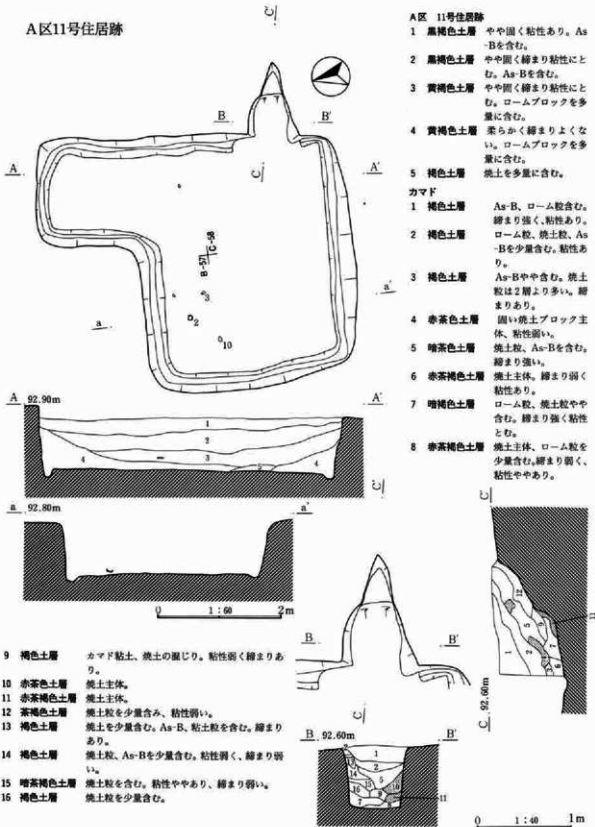


第34図 A区10号住居跡出土遺物

A区10号住居跡遺物観察表

記録番号 PL	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
34-1 63	土師器 壺	胴部最大径 (26.0) 器高(21.8)	胴部中位で膨らむ。	刷 荒削り	刷 荒削り	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 1/3
34-2 63	土師器 長胴壺	口径 20.9 器高(10.1)	口縁外反する。胴部膨らみ弱い。	刷 荒削り	口 横撫で・輪横直・棒状の先端による圧痕 刷 荒削り	I ABCDE 酸化 橙	覆土 1/3
34-3 63	土師器 長胴壺	口径 22.4 器高 (8.5)	口縁外反する。胴部膨らみ弱い。	刷 荒削り	口 横撫で 刷 荒削り	I ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
34-4 63	須恵器 壺	厚 1.2	生みが著しい。	刷 平行叩き	刷 青黒波文	I BCD 還元 灰	覆土 破片

A区11号住居跡



第35図 A区11号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区11号住居跡(奈良時代)(第35・36図, PL.12・63)

位置 B・C-57・58グリッドにかけて検出された。東南約10mに12号住居跡、西北約7mに10号住居跡が存在する。

形状 張り出し部をもつ。主体部は長辺4.1m、短辺3.4mの長方形を呈し、張り出し部は長辺1.7m、短辺1.6mのほぼ正方形を呈する。

面積 約12.9㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約80~100cmで床面に達する。掘り込みは深い。

床面 ほぼ平坦である。

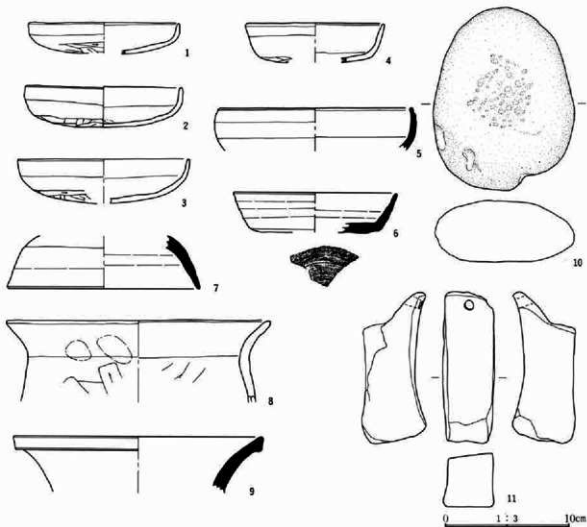
周溝 張り出し部を含め全周している。幅10~18cm、深さ3~8cmを測る。

竈 ほぼ東壁隅に位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向120cm、両袖方向70cmである。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面から少量の遺物が出土し、また砥石も出土している。鉄製品も出土したのであるが、所在不明となっている。

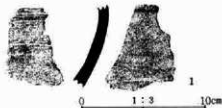
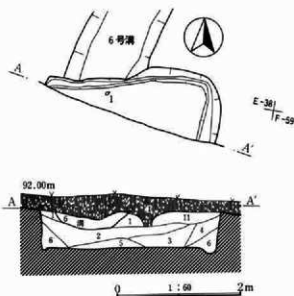


第36図 A区11号住居跡出土遺物

A区11号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器種	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
36-1 63	土師器 罎	口径(11.9) 器高(2.4)	口径短く直立する。扁平な丸底。	口横線で 体 上半不明瞭な無で 下半底削り	口横線で 体 無で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
36-2 63	土師器 罎	口径 12.4 器高 3.2	口径直立する。扁平な丸底。	口横線で 体 上半不明瞭な無で 下半底削り	口横線で 体 無で	I BCDE 酸化 橙	床直上 3/5
36-3 63	土師器 罎	口径(13.6) 器高(3.5)	口径直立気味。	口横線で 体 上半不明瞭な無で 下半底削り	口横線で 体 寛線で	I BCDE 酸化 鈍い橙	床直上 破片
36-4 63	土師器 罎	口径(10.8) 底径(9.0) 器高(3.1)	口径外傾する。平底。	口横線で 体 不明瞭な無で 底 削り	口横線で 体 無で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
36-5 63	須恵器 鉢?	口径(15.4) 器高(3.3)	口径内湾する。体部丸みをもつ。	口~体 輪縁整形	口~体 輪縁整形	I CD 還元 緑灰	覆土 破片
36-6 63	須恵器 罎	口径(12.8) 底径(10.3) 器高 3.2	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縁整形 底 切離し後回転削り	口~体 輪縁整形	I BCDE 還元 灰白	覆土 破片
36-7 63	須恵器 蓋	口径(15.2) 器高(4.2)	体部丸みをもち、深め。口径直線的に開く。	口~体 輪縁整形 体 上半削り	口~体 輪縁整形	II ACDE 還元 灰	覆土 破片
36-8 63	土師器 甕	口径(20.7) 器高(6.5)	口径外反し、胴部膨らみ弱い。	口横線で・指頭圧痕削り	口横線で 胴 削り	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
36-9 63	須恵器 甕	口径(19.7) 器高(4.6)	口径外反する。	口 輪縁整形	口 輪縁整形	II ABCD 還元 橙	覆土 破片
図版番号 Pl.	器種	長×幅×厚 cm 重量g	石 材	特 徴			出土状況・備考
36-10 63	台	石 14.4×11.3×4.8 952	安山岩	片面に磨耗痕・被熱痕が認められる。			床直上
36-11 63	砥	石 12.0×5.1×4.3 316	石英粗面岩	4面使用。穿孔あり。			覆土 手持ち砥石

A区12号住居跡



A区 12号住居跡

I 耕作土

- 1 黒褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性ほとんどない。As-B、ローム粒、焼土粒を含む。
- 2 茶褐色土層 柔らかく粘性少しあり、ロームブロックを少量、焼土粒を極少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あり。ローム粒と極少量の炭化物、焼土を含む。
- 4 暗褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性ややあり。ローム粒を少量含む。
- 5 褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを多量に含む。
- 6 黄褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを多量に含む。

第37図 A区12号住居跡と出土遺物

3章 A区の遺構と遺物

A区12号住居跡(奈良時代)(第37回, PL.13・63)

位置 E-58+59グリッドにかけて検出された。東約3mに16号住居跡が存在する。

形状 完掘できなかったために不明であるが、現状では長辺2.8m、短辺1mを測る。

面積 現状では約1.4㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約60cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。

周溝 現状では検出されている。幅6~20cm、深さ4~7cmを測る。

竪 発掘区からは検出されていない。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

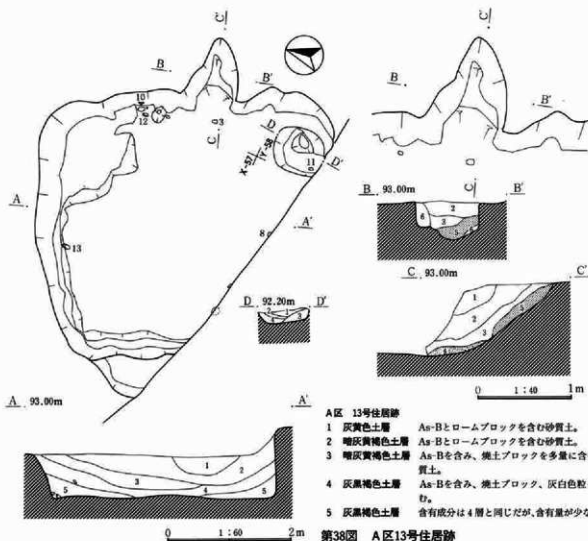
遺物 床面から少量の遺物が出土している。

備考 6号溝と重複している。6号溝が新しい。

A区12号住居跡遺物観察表

図版番号 PL.	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
37-1 63	須恵器 瓶	厚 0.8		別 轆轤整形	別 轆轤整形	I ACD 還元 灰	覆土 外面自然粘 破片

A区13号住居跡



第38図 A区13号住居跡

【2】 竪穴住居跡・竪穴状溝構

カマド

- 1 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒、As-B含む。粘性弱く締まり強い。
- 2 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒、1層よりやや少ない。As-Bを少し含む。粘性弱く締まり強い。
- 3 暗赤褐色土層 焼土ブロック主体。
- 4 黒褐色土層 灰層、焼土粒を少量含む。粘性ややあり。
- 5 暗赤褐色土層 焼土主体。粘性強めあり。
- 6 暗黄褐色土層 僅かに焼土を含む。粘性強めあり。

A区13号住居跡(奈良時代)(第38・39図、PL13・14・63)

位置 X・Y-57・58グリッドにかけて検出された。

北に接して15号住居跡が存在する。

形状 完掘することはできなかったが、規模は長辺4.7m、短辺4.3mの方形を呈している。

面積 現状では約13.6㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約70～90cmで床面に達する。

貯蔵穴

- 1 赤褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロック・粒子を多量に含む。
- 2 黒褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土層 固く締まり粘性あり。ロームブロックを多量に含む。

床面 やや凹凸が認められる。

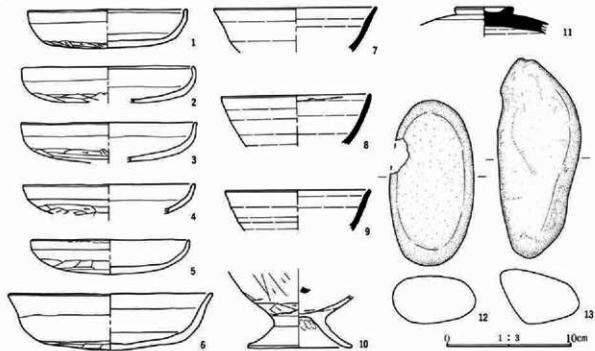
周溝 北壁と西壁下から検出された。幅7～25cm、深さ3cmを測る。

竪 東壁のほぼ中央部に位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向115cm、両袖方向55cmである。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 床面の東隅に位置している。長径80cm、短径72cm、深さ35cmである。

遺物 床面から少量の遺物が出土している。

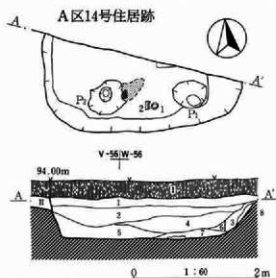


第39図 A区13号住居跡出土遺物

A区13号住居跡遺物分類表

図録番号 PL	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
39-1 63	土師器 杯	口径(12.4) 器高 3.5	口径短く直立する。個平な丸底。	口横無で 体 上半不明瞭な無で 下半磨削り	口 横無で 体 無で	I ABCDE 酸化 鈍い橙	灰面上 1/3
39-2 63	土師器 杯	口径(13.5) 器高 (2.8)	口径内湾する。個平な丸底。	口 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半磨削り	口 横無で 体 無で	I BCDE 酸化 橙	覆土 1/3
39-3 63	土師器 杯	口径(13.8) 器高 (3.1)	口径直立する。	口 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半磨削り	口 横無で 体 無で	I BCDE 酸化 鈍い橙	覆覆土 1/3

図版番号 PL	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
39-4 63	土師器 環	口径(13.5) 器高(2.3)	口縁やや外傾する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 1/2
39-5 63	土師器 環	口径(12.6) 器高 2.7	口縁短く直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 磨撫で	II ACDE 酸化 明赤褐色	覆土 1/2
39-6 63	土師器 環	口径(16.0) 器高 4.5	口縁外反する。扁平な丸底。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	I ACDE 酸化 鈍い橙	覆覆土 1/2
39-7 63	須恵器 環	口径(12.9) 器高(3.5)	体部にやや張りをもつ。	口~体 輪縁整形	口~体 輪縁整形	I CDE 還元 灰	覆土 破片
39-8 63	須恵器 環	口径(11.8) 器高(4.0)	体部内湾気味に立ち上がり、外傾する。	口 輪縁整形・粘土折り 返し痕 体 輪縁整形	口~体 輪縁整形	I CDE 還元 灰	覆土 破片
39-9 63	須恵器 環	口径(11.6) 器高(3.2)	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縁整形	口~体 輪縁整形	I CDE 還元 灰	覆土 1/2
39-10 63	土師器 台付甕	底径 8.0 器高(6.1)	胴部膨らむ。胴部外反気味に開く。	胴 寛削り・接合痕 脚 横撫で	胴 撫で・細かい刷毛目 脚 横撫で・指頭汪直	I ABCDE 酸化 橙	壁際 1/2
39-11 63	須恵器 蓋	口径 4.4 器高(2.1)	扁平な碗状積み。器内厚い。	天井部 回転寛削り	体 輪縁整形	II CDE 還元 灰	貯蔵穴内 破片
図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴			出土状況・備考
39-12 63	こも編石	13.0×6.6×3.8 503	安山岩	片面に磨耗痕・被熱痕が認められる。			壁際
39-13 63	こも編石	15.7×6.6×4.2 631	安山岩				壁際



A区 14号住居跡

I 耕作土 II 茶褐色土層 III 黒色土層 締まり悪く粘性あまりない。As-Bを含む。 2 茶褐色土層 柔らかく粘性あり。As-Bを少量とロームブロックを少量含む。 3 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックと炭土粒、炭化物を含む。 4 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。柔らかい。炭化物、焼土を少量含む。 5 暗褐色土層 締まりよくないが粘性あり。ロームブロックを含む。 6 暗褐色土層 As-B少量含む。固く締まり粘性非常にあり。 7 黒褐色土層 柔らかく締まり悪い。炭化物、焼土、ローム粒を含む。 8 黄褐色土層 壁の崩落土。

A区14号住居跡(平安時代)(第40・41区、PL.14・64)

位置 V・W-56グリッドにかけて検出された。東約6mに15号住居跡が存在する。

形状 完掘することはできなかったが、現状では長辺3.15m、短辺1.5mである。

面積 現状では約2.3㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は8層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約65cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。周溝 現状では検出されていない。竈 現状では検出されていない。

柱穴 ビット2個検出されている。P₁は長径55cm、短径45cm、深さ36cm。P₂は長径60cm、短径55cm、深さ40cmである。貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面から墨書土器が出土している。

備考 床面南壁寄りに焼土・炭化物の堆積が認められた。

第40図 A区14号住居跡

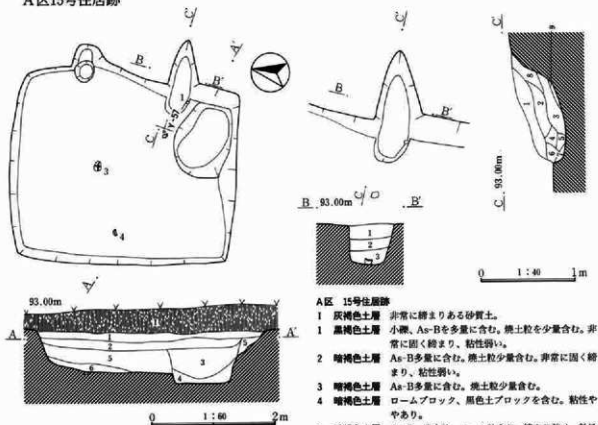


第41図 A区14号住居跡出土遺物

A区14号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
41-1 64	須恵器 碗	口径(15.4) 底径 7.2 器高 5.5	体部張りがなく、 口縁外反。付け高 台低く断面矩形。	口~体 輪縁整形 底 右回転糸切り	口~体 輪縁整形	I BCDE 還元 淡黄	覆土 内面黒書 5%
41-2 64	土師器 盃	口径(16.2) 器高 (8.0)	口縁コの字状を呈 し、端部凹縁廻る。	口 横溝で 割 荒削り	口 横溝で 割 荒削り	II ABCDE 酸化 暗赤褐	覆土 破片

A区15号住居跡



A区 15号住居跡

- 1 灰褐色土層 非常に締まりある砂質土。
- 1 黒褐色土層 小礫、As-Bを多量に含む。焼土粒を少量含む。非常に固く締まり、粘性弱い。
- 2 暗褐色土層 As-B多量に含む。焼土粒少量含む。非常に固く締まり、粘性弱い。
- 3 暗褐色土層 As-B多量に含む。焼土粒少量含む。
- 4 暗褐色土層 ロームブロック、黒色土ブロックを含む。粘性ややあり。
- 5 暗褐色土層 As-B、焼土粒、ローム粒含む。締まり強く、粘性あり。
- 6 褐色土層 As-Bを少量含む。粘性強い。

カマド

- 1 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒を少量含む。粘性弱い。
- 2 灰褐色土層 焼土粒を少量含む。粘性にとむ。
- 3 暗褐色土層 焼土粒、ローム粒を含む。粘性弱い。
- 4 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 5 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 6 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性にとみ。締まりやや弱い。
- 7 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性にとみ。締まりやや弱い。
- 8 赤褐色土層 焼土ブロックを多量に含む。柔らかく粘性非常にあり。
- 9 赤褐色土層 焼土ブロックを多量に含む。柔らかく粘性非常にあり。

第42図 A区15号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区15号住居跡(平安時代)(第42・43図、PL.15・64)

位置 X・Y-56・57グリッドにかけて検出された。

南に接して13号住居跡が存在する。

形状 長辺3.6m、短辺3.15mの方形を呈する。

面積 約9.9㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約60cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出されていない。

竈 東壁の中央から南寄りに位置し、燃焼部の

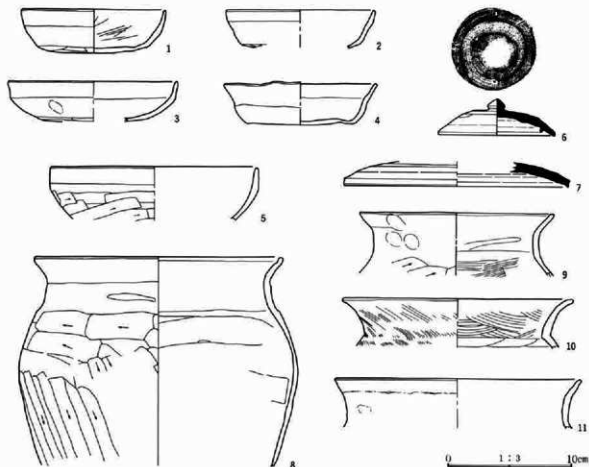
多くは壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向120cm、両袖方向27cmである。

柱穴 ビット1個が東壁下から検出されている。長径35cm、短径30cm、深さ22cmである。

貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面から少量の遺物が出土している。古墳時代の遺物(10)や平安時代の遺物(8)が含まれているが、これは覆土中から掘り込まれた土坑による結果であろう。

備考 東壁隅の土坑は住居跡覆土から掘り込まれている。



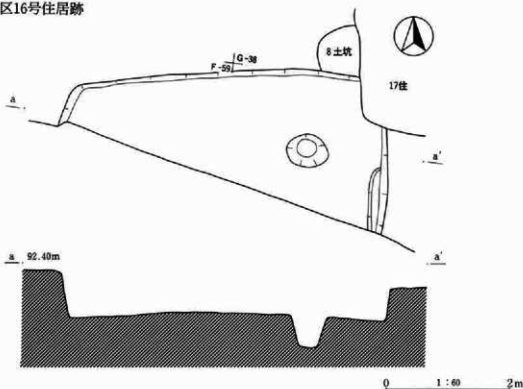
第43図 A区15号住居跡出土遺物

A区15号住居跡遺物観察表

図版番号 PL.	器種 器形	法量 (cm)	形態の特徴	外周調整の特徴	内周調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
43-1 64	土器器 杯	口径 11.3 高径 8.8 器高 3.4	口縁内湾気味に立ち上がり、体部張りをもつ。平底。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 底 意削り	口 横撫で 体 意撫で	I A B C D 酸化 橙	竈 ほぼ完形
43-2 64	土器器 杯	口径(11.8) 器高(3.0)	口縁外傾する。平底?	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半意削り	口 横撫で 体 撫で	I B C D 酸化 橙	覆土 破片

図版番号 PL.	器物 種類	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
43-3 64	土師器 坏	口径(13.2) 器高(3.2)	口縁短く直立する。	口横線で 体 上半不明瞭な線で・ 指頭痕・下半寛削り	口横線で 体 寛削で	II BCD 酸化 橙	覆土 外面煤付着 破片
43-4 64	土師器 坏	口径(12.0) 底径(8.5) 器高 3.3	口縁外反する。平底。	口横線で 体 不明瞭な線で 底 寛削り	口横線で 体 寛で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 1/5
43-5 64	土師器 坏	口径(16.4) 器高(4.3)	口縁直立する。体部丸みをもち、深い。	口横線で 体 上半不明瞭な線で 下半寛削り	口横線で 体 寛で	I CDE 酸化 橙	覆土 破片
43-6 64	須志器 蓋	口径 9.2 胴径 1.4 器高 2.9	宝珠胴み。体部膨らみ、口縁は直線的。小さいカエリ	口～体 輪縁整形 天井部 右回転削り	口～体 輪縁整形	I BCD 還元 灰	覆土 ほぼ充形 7C後半
43-7 64	須志器 蓋	口径(17.8) 器高 1.9	体部僅か膨らみ浅い。口縁短く直立する。	口～体 輪縁整形 天井部 右回転削り	口～体 輪縁整形	I CD 還元 灰	覆土 破片 7C後半
43-8 64	土師器 壺	口径(19.6) 器高(17.0)	口縁緩やかなコの字。端部直立。胴部上位膨らむ。	口横線で 胴 横線で後深削り	口横線で 胴 寛削で	I ACDE 酸化 橙	覆土 1/5
43-9 64	土師器 壺	口径(15.3) 器高(4.8)	口縁緩やかなコの字を呈す。	口横線で・指頭圧痕・ 輪縁痕 胴 寛削り	口横線で 胴 寛削で	III BCDE 酸化 橙	覆土 内面煤付着 破片
43-10 64	土師器 壺	口径(18.2) 器高(4.0)	口縁鋭く立ち上がり、外反する。	口 刷毛目後横線で 胴 刷毛目	口 刷毛目後横線で 胴 寛で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 内面黒塵あり 口縁部
43-11 64	土師器 壺	口径(19.4) 器高(3.9)	口縁外反する。	口横線で・輪縁痕	口横線で	I ABCDE 酸化 明赤褐	覆土 口縁部

A区16号住居跡



第44図 A区16号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

A区16号住居跡 (第44・46図、PL.16・17)

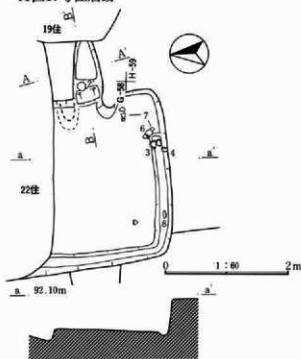
位置 F・G-59グリッドにかけて検出された。17号住居跡・8号土坑と重複している。

形状 完掘できなかった。現状での長辺は5.2m、短辺2.5mの長方形を呈すると考えられる。

面積 現状では約7.7㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

A区17号住居跡



A区17号住居跡(奈良時代) (第45~47図、PL.17・18・64)

位置 G・H-58・59グリッドにかけて検出された。

16号住居跡・22号住居跡・8号土坑と重複している。

形状 22号住居跡によって壊されているために、現状で長辺2.15m、短辺2mである。

面積 現状では約4.5㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

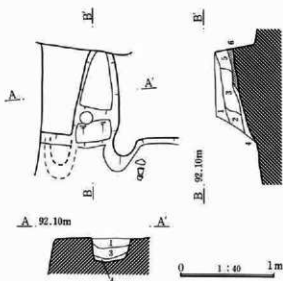
壁高 住居跡確認面より約45cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

壁高 住居跡確認面より約35cmで床面に達する。

床面 やや凹凸が認められる。周溝 東壁の一部から検出された。幅16cm、深さ5cmを測る。

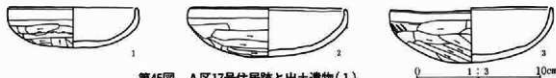
竈 検出されていない。柱穴 ビット1個が検出されている。長径65cm、短径52cm、深さ54cmである。貯蔵穴 検出されていない。遺物 遺物は出土していない。備考 遺構の新旧関係は8号土坑→17号住居跡→16号住居跡と新しくなる。



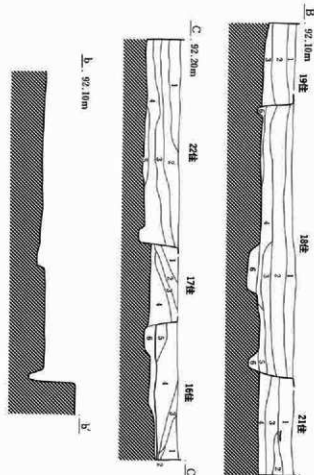
周溝 西壁から南壁にかけて検出された。幅約18cm、深さ約4cmを測る。

竈 東壁の中央やや南寄りに位置していると考えられる。燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向130cm、両袖方向35cmである。袖部の残存約35cmを測る。

柱穴 検出されていない。貯蔵穴 検出されていない。遺物 土師器の杯が南壁下から出土している。備考 当住居跡は16号住居跡・22号住居跡によって壊されている。



第45図 A区17号住居跡と出土遺物(1)



A区 16号住居跡

- 1 茶褐色土層 や中固く締まり粘性あり。ローム殻を多量に含む。
- 2 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。固く締まり粘性非常にあり。
- 3 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土層 固いが締まり悪い。ロームブロックと少量の焼土殻を含む。柔らかく締まりよくない。ローム殻を少量含む。
- 5 暗褐色土層 ロームブロックを多量に含む。固く締まっている。
- 6 粘土

A区 17号住居跡

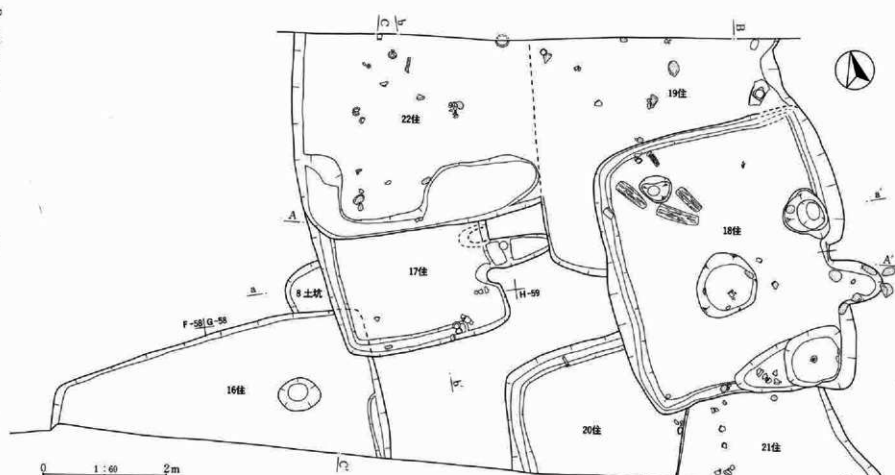
- 1 暗褐色土層 柔らかく締まりよくない。粘性あまりない。As-B、ローム殻を含む。
- 2 黄褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを多量、As-B少量含む。
- 3 暗褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性あまりない。ロームブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 柔らかく非常に粘性あり。ロームブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土層 や中固いが締まりよくない。粘性あまりない。ローム殻、As-Bを含む。
- 6 暗褐色土層 や中固く締まり粘性あり。ローム殻を多量に、焼土殻を少量含む。

カマド

- 1 暗褐色土層 や中固く締まり粘性あまりない。焼土殻、ローム殻を少量含む。
- 2 暗褐色土層 や中固く締まり粘性あり。焼土殻、ローム殻を少量含む。
- 3 黒褐色土層 固く締まり粘性少しあり。ローム殻、焼土殻、炭化物を含む。
- 4 赤褐色土層 や中固く締まり粘性あり。焼土ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土層 や中固く締まり粘性あまりない。焼土殻を含む。
- 6 焼土層

A区 21号住居跡

- 1 茶褐色土層 固く締まり粘性あり。焼土殻を多量に、ロームブロック、As-Bを少量含む。
- 2 黒褐色土層 柔らかく締まりよい。粘性非常にあり。焼土殻、ローム殻を含む。
- 3 暗褐色土層 固い。粘性少しあり。少量の焼土殻、ローム殻を含む。
- 4 暗褐色土層 固く締まりよい。粘性もあり。焼土、ローム殻を少量含む。

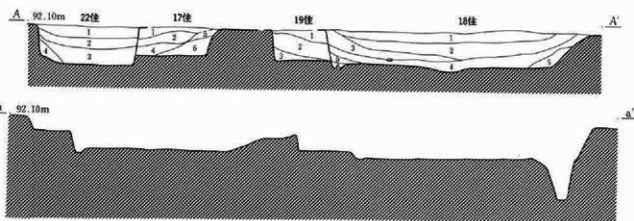


A区 18号住居跡

- 1 暗褐色土層 固いが締まりよい。粘性あまりない。焼土殻、ローム殻、As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 や中固く締まり粘性少しあり。少量の焼土殻、ローム殻、少量の炭化物、As-Bも含む。
- 3 黒褐色土層 や中固いが締まり悪い。粘性ほとんどない。焼土殻、ローム殻を含む。
- 4 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロック、焼土殻を含む。
- 5 茶褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを多量に、焼土殻を含む。
- 6 黄褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ロームブロックを多量に含む。

A区 19号住居跡

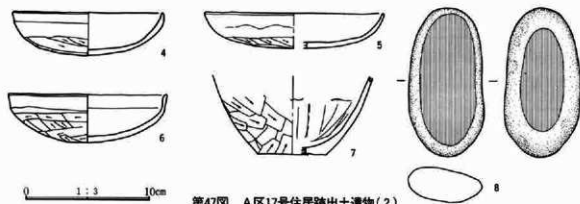
- 1 暗褐色土層 固いが締まり悪く、粘性も少ない。焼土殻を含む。
- 2 暗褐色土層 や中固いが粘性はあまりない。焼土殻を含む。
- 3 暗褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。ローム殻、焼土殻を少量含む。



A区 22号住居跡

- 1 黒褐色土層 固いが締まり悪い。粘性あまりない。As-B、ローム殻を含む。
- 2 暗褐色土層 固いが締まり悪い。粘性はない。As-B、焼土殻、ローム殻、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土層 や中固く締まりよい。粘性あり。As-B、ローム殻、焼土殻を含む。
- 4 茶褐色土層 や中固いが粘性あまりない。ロームブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 5 黒褐色土層 や中固く締まり、粘性非常にあり。多量のロームブロックを含む。

第46図 A区16号住居跡～22号住居跡



第47図 A区17号住居跡出土遺物(2)

A区17号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
45-1 64	土師器 環	口径 10.2 器高 3.3	口縁直立気味。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 1/2
45-2 64	土師器 環	口径 12.3 器高 3.9	口縁内弯気味。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 橙	壺 完形
45-3 64	土師器 環	口径 12.8 器高 4.4	口縁直立する。体 部深く、丸みをも つ。	口 横撫で 体 磨削り	口 横撫で 体 磨削り	I BCDE 酸化 橙	壺 1/2
47-4 64	土師器 環	口径 11.8 器高 3.4	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	壺 外面磨滅顯著 ほぼ完形
47-5 64	土師器 環	口径(14.2) 器高(2.8)	口縁外傾する。偏 平な丸底。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	覆土 1/2
47-6 64	土師器 環	口径 12.6 器高 3.8	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い橙	壺 1/2
47-7 64	土師器 甕	底径(5.6) 器高(6.1)	平底。	胴 磨削り 底 磨削り	胴 磨削り・輪横撫 底 磨削り	II ABCDE 酸化 橙	壺 外面保存着 破片
図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 数量	石 材	特 徴		出土状況・備考	
47-8 64	こも 燧石	11.7×6.0×2.8 282	安山岩	両面に磨耗痕・被熱痕・煤の付着が認められる。		壺	

A区18号住居跡(平安時代)(第46・48・49図・PL.18・19・64)

位置 H・I-58・59グリッドにかけて検出された。

19・20・21号住居跡と重複している。

形状 長辺4.25m、短辺3.85mの方形を呈する。

面積 約14.9㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約55～65cmで床面に達する。

床面 やや凹凸が認められる。北西隅に炭化材の分布が認められる。

周溝 全周している。

竪穴 東壁の中央やや南寄りに位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。焚口部に袖石が据え付けられた状態で出土している。規模は煙道方向75cm、阿袖方向50cmである。

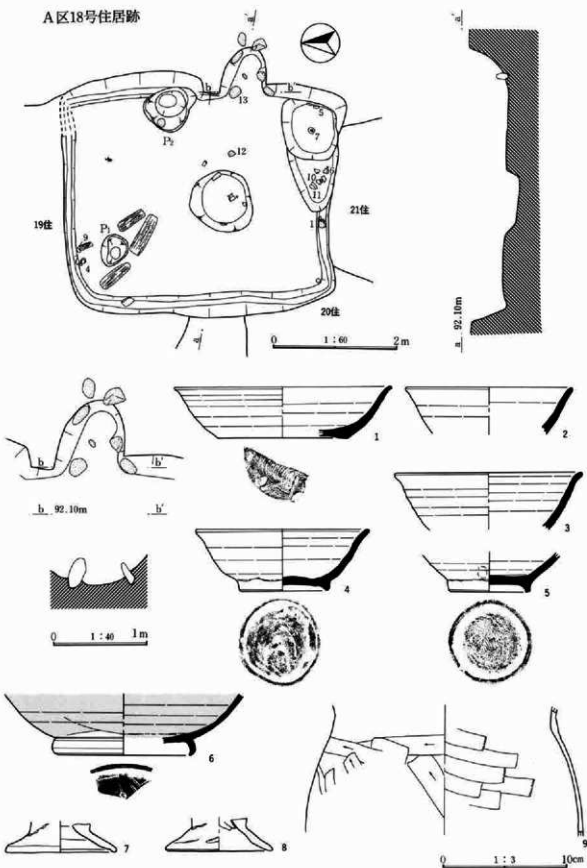
柱穴 ビット2個が検出されている。P₁は長径50cm、短径40cm、深さ23cm。P₂は長径85cm、短径70cm、深さ64cmである。

貯蔵穴 東壁隅から検出されている。長径92cm、短径80cm、深さ27cmである。

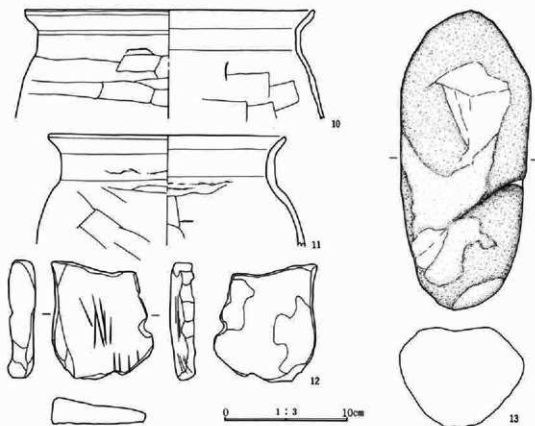
遺物 床面や南壁下から少量出土している。

床下 土坑1基が検出されている。長径・短径とも100cm、深さ22cmである。

A区18号住居跡



第48図 A区18号住居跡と出土遺物(1)



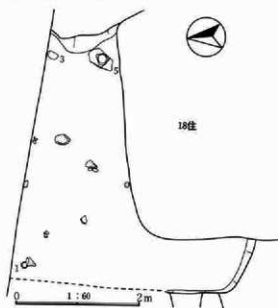
第49図 A区18号住居跡出土遺物(2)

A区18号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器種 形状	流量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
48-1 64	須恵器 環	口径(16.4) 底径(9.5) 器高 4.0	体部丸みをもち、 口縁外反する。	口~体 轆轤整形 底 右回転糸切り	口~体 轆轤整形	I ACD 還元 灰白	壁際 1/4
48-2 64	須恵器 環?	口径(13.1) 器高(3.7)	体部直線的に立ち 上がる。口縁僅か に外反する。	口~体 轆轤整形	口~体 轆轤整形	II BCDE 還元 灰白	覆土 黒底あり 破片
48-3 64	須恵器 塊?	口径(14.8) 器高(4.6)	体部丸みをもち、 口縁端部外反す る。	口~体 轆轤整形	口~体 轆轤整形	I BCDE 還元 灰	覆土 破片
48-4 64	須恵器 塊	口径 13.7 底径 6.8 器高 4.9	体部丸みをもち、 口縁外反する。付 け高台低い。	口~体 轆轤整形 底 右回転糸切り	口~体 轆轤整形	I BCDE 還元 鈍い黄緑	壁際 内外面埋付着 1/4
48-5 64	須恵器 塊	底径 6.4 器高(2.9)	付け高台断面矩形	体 轆轤整形・指頭汪直 底 回転糸切り	体 轆轤整形	I ABCD 還元 鈍い橙	貯蔵穴内 1/4
48-6 64	灰釉陶 器 塊	底径(10.6) 器高(4.9)	三ヶ月高台。体部 下半直りをもつ。 付け掛施釉。	体 轆轤整形	体 轆轤整形	I CD 還元 灰白	覆土 大塚2号密式 重ねぬき痕 破片
48-7 64	土師器 台付甕	底径 8.7 器高(2.4)	脚低く、ハの字状 に開く。	脚 横撫で・輪横直	脚 横撫で	I ABCDE 酸化 明赤褐	貯蔵穴内 脚部
48-8 64	土師器 台付甕	底径(8.4) 器高(2.6)	脚低く、ハの字状 に開く。	脚 横撫で・輪横直	脚 横撫で・指撫で	II BCDE 酸化 赤褐	覆土 外面埋付着 脚部
48-9 64	土師器 甕	胴部最大径 (22.0) 器高(18.0)	胴部弱く膨らむ。	口 横撫で 胴 莖削り	口 横撫で 胴 莖撫で	II ABCDE 酸化 明赤褐	覆土 破片

図版番号 PL	器種 器形	法量(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
49-10 64	土師器 壺	口径(22.8) 器高(8.2)	口縁コの字を呈する。	口 横溝で 割 瓦削り	口 横溝で 割 瓦削り	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
49-11 64	土師器 壺	口径(18.7) 器高(8.8)	口縁コの字を呈する。肩部に張りをもつ。	口 横溝で・輪積痕 割 瓦削り	口 横溝で・輪積痕 割 瓦削り	I ABCE 酸化 橙	覆土 破片
図版番号 PL	器種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴			出土状況・備考
49-12 64	砥 石	9.2×8.2×2.1 168	石英粗面岩	4面使用。刃ならし痕あり。			覆土
49-13 64	竈構築材	23.6×10.3×7.4 2835	花崗閃緑岩	全体的に加熱を受け軟くなっている。			竈

A区19号住居跡



A区19号住居跡(古墳時代)(第46・50・51図、PL20・21・65)

位置 H-58グリッドにかけて検出された。17・

18・22号住居跡と重複している。

形状 現状では長辺4m、短辺3.75m。

面積 現状では約8.8㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分層された。

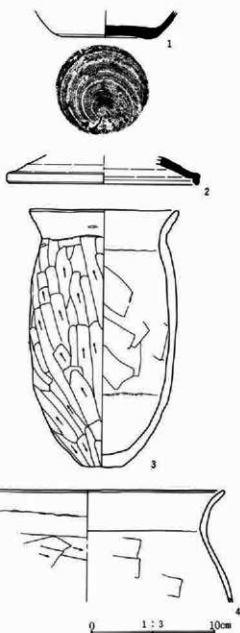
壁高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。

床面 やや凹凸が認められる。

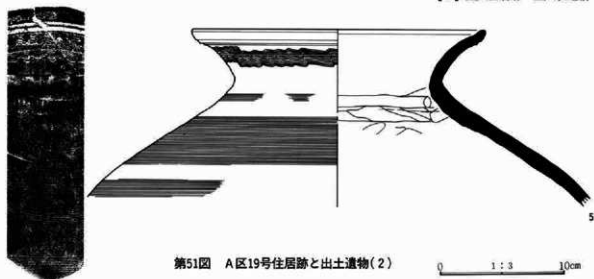
周溝 検出されていない。竈 北壁際にわずかに検出された。柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面から少量出土している。須恵器の大甕が東壁下から出土している。



第50図 A区19号住居跡と出土遺物(1)

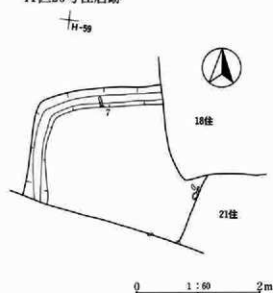


第51図 A区19号住居跡と出土遺物(2)

A区19号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
50-1 65	須恵器 環	底径 7.0 器高 (2.0)	底部やや肥厚する。	体 轡織整形 底 右回転糸切り	体 轡織整形	I BCDE 還元 灰	覆土 1/3 8 C後半
50-2 65	須恵器 蓋	口径 (15.0) 器高 (2.2)	体部直線的。口縁 端部直に折れる。	口~体 轡織整形	口~体 轡織整形	I BCDE 還元 灰	覆土 破片 8 C後半
50-3 65	土師器 兵割罌	口径 (11.7) 底径 3.2 器高 20.5	口縁外反し、胴部 の膨らみは弱い。	口 横撫で 胴 横撫で後尻削り 底 笠削り	口 横撫で 胴 尻撫で・輪横直	II BCDE 酸化 灰	覆 内外面塚付着 1/3
50-4 65	土師器 罌	口径 (21.4) 器高 (8.8)	口縁外反する。胴 部膨らむ。	口 横撫で・輪横直 胴 横撫で後尻削り	口 横撫で 胴 尻撫で	I ABCDE 酸化 橙	
51-5 65	須恵器 罌	口径 (22.9) 器高 (13.3)	口縁外反し、口縁 部歪る。胴部は膨ら む。	口 波状文 胴 平行叩き後振目	頸 指削で 胴 背舟波文	I BCD 還元 灰	床面上 破片

A区20号住居跡



第52図 A区20号住居跡

A区20号住居跡(奈良時代)(第46・52・53図、PL.21・65)

位置 G・H-59グリッドにかけて検出された。

18・21号住居跡と重複している。

形状 現状では長辺3m、短辺2.5m。

面積 現状では約4.8㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築されている。

壁高 住居跡確認面より約60cmで床面に達する。

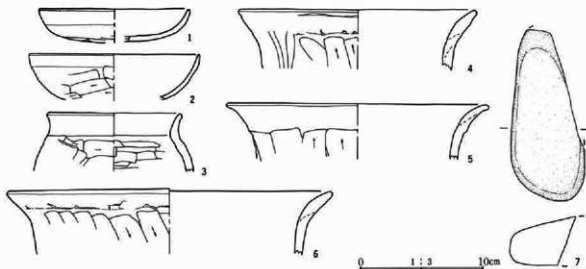
床面 ほぼ平坦である。

周溝 現状では幅約20cmの周溝が検出されている。

竈 検出されていない。柱穴 検出されていない。貯蔵穴 検出されていない。

遺物 床面から少量出土している。備考 住居跡の新旧関係は20(旧)→21→18(新)である。

3章 A区の遺構と遺物



第53図 A区20号住居跡出土遺物

A区20号住居跡遺物観察表

図版番号 PL.	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
53-1 65	土師器 環	口径(11.8) 器高 2.5	口縁外傾気味。偏 平な丸底。	口 横割で 体 上半不明瞭な無で 下半鋭削り	口 横割で 体 無で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
53-2 65	土師器 環	口径(13.4) 器高 (3.6)	口縁直立気味。	口 横割で 体 上半不明瞭な無で 下半鋭削り	口 横割で 体 無で	I BDE 酸化 橙	覆土 破片
53-3 65	土師器 壺	口径(10.6) 器高 (4.6)	口縁短く外反す。 胴部膨らむ。	口 横割で 胴 鋭削り	口 横割で 胴 鋭削り	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
53-4 65	土師器 壺	口径(18.7) 器高 (4.7)	口縁外反する。	口 横割で・輪切痕 胴 横割で後部削り	口 横割で 胴 無で	III ABCDE 酸化 明赤褐	覆土 破片
53-5 65	土師器 壺	口径(20.8) 器高 (4.3)	口縁外反する。	口 横割で 胴 横割で後部削り	口 横割で 胴 鋭削り	III BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 破片
53-6 65	土師器 壺	口径(25.6) 器高 (5.2)	口縁外反する。	口 横割で・輪切痕 胴 横割で後部削り	口 横割で 胴 鋭削り	III ABCDE 酸化 明赤褐	覆土 破片
図版番号 PL.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
53-7 65	こも 扁石	13.2×5.8×4.0 414	安山岩	板敷板が認められる。		壁際	

A区21号住居跡(奈良時代)(第46・54図、PL.21・65)

位 置 H・I-59グリッドにかけて検出された。

18・20号住居跡と重複している。

形 状 現状では長辺2.7m、短辺2.3mである。

面 積 現状では約3.9m²。

覆 土 ローム層を掘り込んで窪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分層された。

壁 高 住居跡確認面より約55cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。

周 溝 検出されていない。

竈 検出されていない。

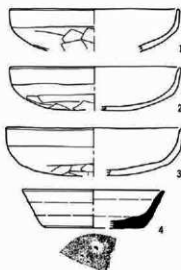
柱 穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

遺 物 床面と覆土から出土している。

備 考 住居跡の新旧関係は(20(旧)→21→18(新)で
ある。

A区21号住居跡



第54図 A区21号住居跡と出土遺物

A区21号住居跡遺物表

図版番号 PL	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
54-1 65	土師器 坏	口径(13.3) 器高(3.4)	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半直削り	口 横撫で 体 撫で	II BCD 酸化 橙	覆土 破片
54-2 65	土師器 坏	口径(13.4) 器高(3.4)	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半直削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
54-3 65	土師器 坏	口径(13.8) 器高(3.8)	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半直削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 破片
54-4 65	須恵器 坏	口径(11.0) 底径(7.9) 器高(3.6)	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縁整形 底 直切り	口~体 輪縁整形	I CD 還元 灰	覆土 外面自然釉 破片
54-5 65	土師器 壺	口径(20.7) 器高(5.0)	口縁外反する。	口 横撫で 胴 横撫で後直削り	口 横撫で・指頭直削り 胴 直削り	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片
54-6 65	土師器 壺	口径(17.8) 器高(5.0)	口縁弱く外反する。	口 横撫で 胴 横撫で後直削り	口 横撫で・輪縁直削り 胴 直削り	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片

A区22号住居跡(奈良時代)(第46・55・56図, PL.22・23・65・66)

位置 G・H-58グリッドにかけて検出された。

17・19号住居跡と重複している。

形状 現状では長辺3.9m、短辺3.3mである。

面積 現状では約13.9㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約55cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 南壁下で検出されている。

竈 検出されていない。

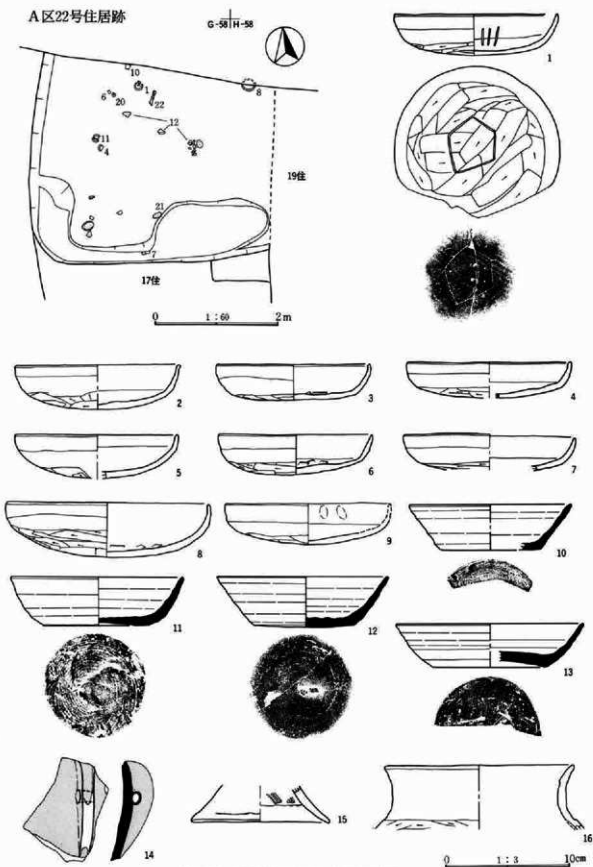
柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 検出されていない。

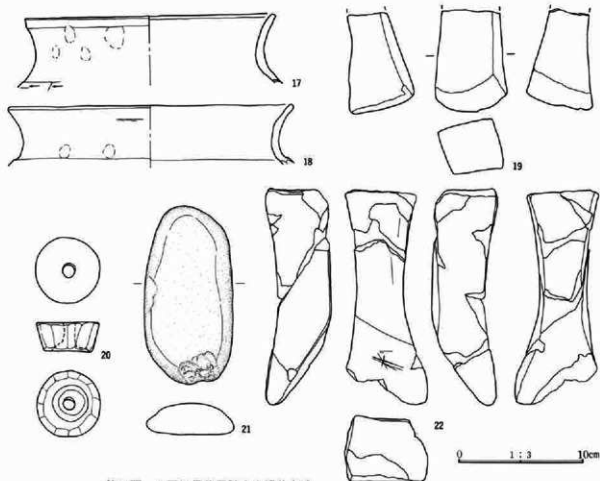
遺物 床面と覆土から出土している。また砥石も出土している。

備考 住居跡の新旧関係は17(旧)→22→18(新)である。

3章 A区の遺構と遺物



第55図 A区22号住居跡と出土遺物(1)



第56図 A区22号住居跡出土遺物(2)

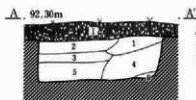
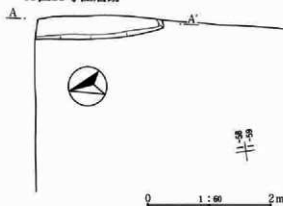
A区22号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器種 器形	法量(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
55-1 65	土師器 坏	口径 12.8 器高 3.3	口縁内湾する。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 無で	I BCDE 酸化 橙	覆土 焼成後内・外面 黒書き ㄥ
55-2 65	土師器 坏	口径(13.0) 器高 3.5	口縁外傾する。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 無で	I BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 ㄥ
55-3 65	土師器 坏	口径 12.1 底径 9.8 器高 2.9	口縁内湾する。平底。	□ 横無で 体 不明瞭な無で 底 瓦削り	□ ~体 横無で 底 瓦無で	II BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 ㄥ
55-4 65	土師器 坏	口径(12.8) 器高 2.8	口縁内湾する。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 無で	II BCD 酸化 橙	覆土 ㄥ
55-5 65	土師器 坏	口径(12.7) 器高 3.5	口縁短く直立する。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 無で	I ABCD 酸化 鈍い橙	覆土 内外面黒附着 ㄥ
55-6 65	土師器 坏	口径 12.1 器高 3.2	口縁外傾する。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 瓦無で	II BCDE 酸化 橙	覆土 外面黒附着 ㄥ
55-7 65	土師器 坏	口径(13.5) 器高(2.9)	口縁内湾気味に立ち上がる。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 無で	I BCDE 酸化 橙	埋蔵 ㄥ
55-8 65	土師器 坏	口径 16.0 器高 4.3	口内湾気味に立ち上がる。	□ 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半瓦削り	□ 横無で 体 瓦無で	II BCDE 酸化 橙	覆土 ㄥ

3章 A区の遺構と遺物

図版番号 Pl.	器 種 形	量 量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
56-9 65	土師器 杯	口径(13.0) 器高 3.4	口縁直立する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半旋削り	口 横撫で・指頭痕 体 撫で	I BCD 酸化 橙	覆土 灰
56-10 65	須恵器 杯	口径(12.7) 底径(7.7) 器高 3.6	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縷整形 底 回転削切り	口~体 輪縷整形	I BCD 還元 灰	覆土 内外面自然釉 灰
56-11 65	須恵器 杯	口径 13.5 底径 8.4 器高 3.8	体部やや丸みをもって外傾する。	口~体 輪縷整形 底 右回転未切り	口~体 輪縷整形	I BCD 還元 灰	覆土 灰
56-12 65	須恵器 杯	口径(13.5) 底径 7.9 器高 4.0	体部直線的に外傾する。	口~体 輪縷整形 底 右回転削切り	口~体 輪縷整形	I BCD 還元 灰白	覆土 灰
56-13 65	須恵器 杯	口径(14.8) 底径(8.9) 器高 3.5	体部やや丸みをもって外傾する。	口~体 輪縷整形 底 左回転削切り	口~体 輪縷整形	I BCD 還元 灰	覆土 灰
56-14 65	灰輪陶 器 双耳瓶	厚 0.8 孔径 1.0		体 輪縷整形・透明感のある濃緑色の釉を施す	体 輪縷整形	I CD 還元 灰	覆土 美濃産? 破片
56-15 65	土師器 台付壺	底径(10.8) 器高(2.9)	脚部ハの字状に開く。	脚 横撫で・輪縷痕	脚 横撫で・輪縷痕	II BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
56-16 65	土師器 壺	口径(14.9) 器高(5.1)	口縁外反する。	口 横撫で 胴 旋削り	口 横撫で 胴 撫で	II BCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 内面剝離顯著 破片
56-17 65	土師器 壺	口径(19.5) 器高(5.5)	口縁外反する。	口 横撫で・指頭圧痕 胴 旋削り	口 横撫で 胴 撫で	II ABCD 酸化 橙	覆土 破片
56-18 65	土師器 壺	口径(22.3) 器高(4.3)	口縁外反する。	口 横撫で・指頭圧痕・ 輪縷痕 胴 旋削り	口 横撫で 胴 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 破片
図版番号 Pl.	器 種	長×幅×厚cm 数量	石 材	特 徴			出土状況・備考
56-19 66	磁 石	8.0×5.5×5.0 206	滑岩	4面使用。			覆土
56-20 65	紡 錘 車	5.1×孔径1.0×2.3 30	軽石	下部は孔に沿って凹む。側面は面取りの痕跡を残す。			覆土
56-21 66	磁 石	14.0×7.0×2.5 431	安山岩	端部に敲打痕が認められる。			床直上
56-22 66	磁 石	16.9×6.6×5.2 524	石英粗面岩	5面使用。刃ならし痕あり。			覆土

A区23号住居跡



A区 23号住居跡

I 耕作土
1 茶褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性少しあり。As-B、ローム粒、焼土粒を含む。

- 2 黒褐色土層 柔らかく粘性あり。As-B、ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。少量のAs-B、ローム粒を含む。
- 4 黒色土層 柔らかく粘性非常にあり。少量のロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土層 柔らかく締まりはよくないが粘性非常にあり。ローム粒を少量含む。
- 6 黄褐色土層 柔らかく締まりはよくないが粘性非常にあり。ロームブロックを多量に含む。

第57図 A区23号住居跡

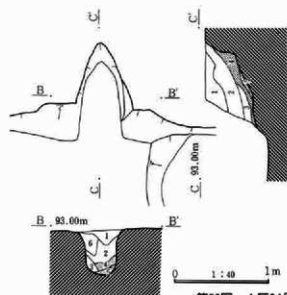
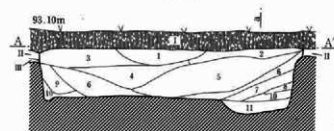
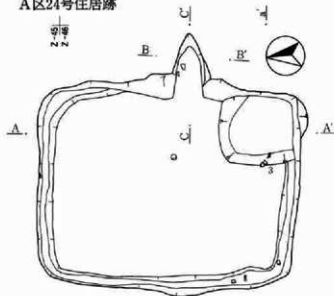
A区23号住居跡(第57図, PL.23)

位置 I-58グリッドにかけて検出された。西1.2mに18号住居跡が存在している。

形状 現状では長辺2m、短辺35cm。住居跡西壁の一部分を調査しただけである。面積 現状では

約0.6m²。覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。壁高 住居跡確認面より約65cmで床面に達する。床面 ほぼ平坦である。周溝 検出されていない。遺物 遺物の出土はない。

A区24号住居跡



A区 24号住居跡

- I 耕作土
- II 暗褐色土
- III ローム漸移層
- 1 茶褐色土層 やや固く締まっているが粘性はあまりない。ローム粒、焼土粒を少量含む。As-Bを含む。
- 2 黄褐色土層 固く締まり粘性ややあり。ロームブロックを多量、少量のAs-Bを含む。
- 3 黒褐色土層 やや固いが締まりよくない。As-B、ローム粒、焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土層 柔らかい。As-Bを少量、ロームブロック、焼土粒を含む。
- 5 暗褐色土層 やや固く締まり粘性あまりない。ロームブロックを多量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 暗褐色土層 柔らかい。粘性もない。ロームブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 7 暗褐色土層 柔らかく締まりよい。粘性非常にとみ、ロームブロックを多量に、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 8 黒色土層 柔らかく非常に粘性がある。
- 9 暗褐色土層 やや固く粘性少しあり。ロームブロックを多量、焼土を少量含む。
- 10 黄褐色土層 柔らかくて粘性少しあり。ロームブロック主体の層。
- 11 褐色土層 非常に固く締まり粘性にとむ。ロームブロックを含み、焼土ブロック、炭化物を多量を含む。

第58図 A区24号住居跡

3章 A区の遺構と遺物

カマド

1 暗褐色土層 やや固く粘性少しあり。焼土粒、ローム粒を少量、As-Bを含む。 2 暗褐色土層 やや固く締まり粘性少しあり。焼土粒、ローム粒、炭化物を含む。 3 黄褐色土層 濡らかく粘性非常にあり。ロームブロックを多量、焼土粒、炭化物を含む。 4 焼土層 5 灰層 6 暗褐色土層 やや固く粘性少しあり。ローム粒、焼土粒を少量含む。As-B含む。

A区24号住居跡(奈良時代)(第58・59図、PL.24・66)

位置 Z-45・46グリッドにかけて検出された。南1.4mに8号住居跡が存在している。

形状 長辺4.15m、短辺3.5mの方形を呈する。

面積 約11.6㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで窪穴住居跡は構築され、そこに堆積した覆土は11層に分層された。

壁高 住居跡確認面より約80cmで床面に達する。

床面 やや凹凸が認められる。

周溝 全周している。幅15～25cm、深さ約5cmである。

竈 東壁の中央やや南寄りに位置し、燃焼部の多くは壁面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向100cm、両袖方向47cmである。

柱穴 検出されていない。

貯蔵穴 東壁隅から検出されている。長径130cm、短径115cm、深さ20cmである。

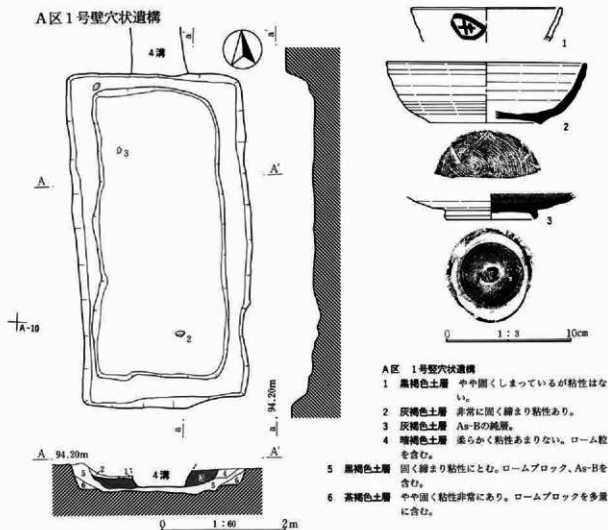
遺物 床面や西壁下から少量出土している。



第59図 A区24号住居跡出土遺物

A区24号住居跡遺物観察表

図版番号 PL.	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
59-1 66	土師器 杯	口径(14.0) 器高(2.8)	口縁直立する。	口 横線で 体 上半不明瞭な線で 下半磨削り	口 横線で 体 無で	I BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
59-2 66	土師器 杯	口径(14.8) 器高(2.9)	口縁直立気味。	口 横線で 体 上半不明瞭な線で 下半磨削り	口 横線で 体 無で	II BCDE 酸化 鈍い橙	壁際 破片
59-3 66	土師器 壺	口径(17.4) 器高(6.6)	口縁弱く外反する。	口 横線で 胴 横線で後部削り	口 横線で 胴 磨削で	III BCDE 酸化 橙	貯蔵穴内 破片



第60図 A区1号壁穴状遺構と出土遺物

A区1号壁穴状遺構(平安時代)(第60図、PL.25・66)

位置 A-9・10グリッドにかけて検出された。南南西23mに3号住居跡が存在している。4号溝と重複している。

形状 長辺5.28m、短辺2.8mの長方形を呈する。面積 約13.1㎡。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分層された。

壁高 確認面より25~40cmで床面に達する。

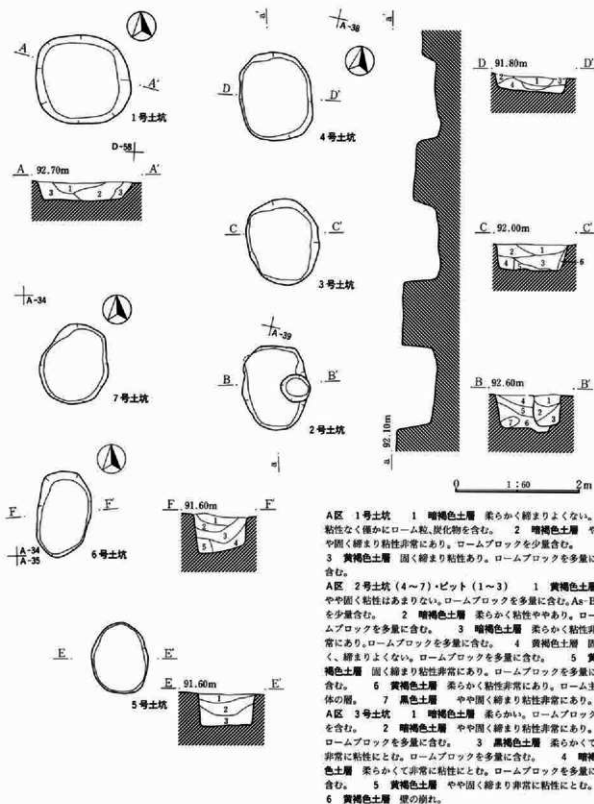
床面 2段に構築されている。周溝 検出されていない。柱穴 検出されていない。

遺物 床面から少量の遺物が出土している。

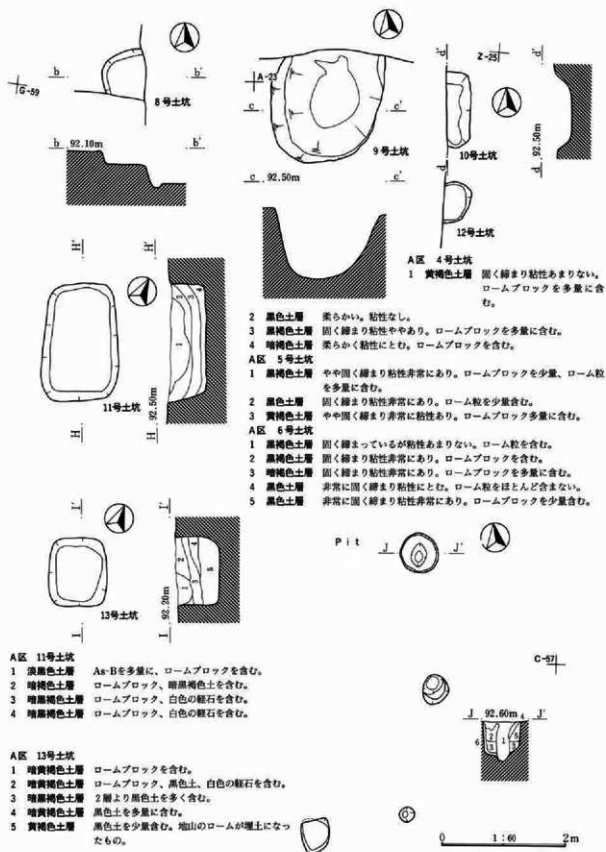
A区壁穴状遺構遺物観察表

図版番号 PL.	器種 器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
60-1 66	土師器 環	口径(11.8) 器高(2.6)	口縁直線的に外傾する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半旋削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 層書 破片
60-2 66	須恵器 環	口径(15.6) 底径(8.8) 器高 4.8	輪縁整形。右回転糸切り。内外面旋削。トチン痕あり。大形坏で、灰胎陶器の初瀬である黒征14号窯式を辨る。灰胎陶器生産地域からの搬入の個体か？			外面 褐 内面 灰オリブ	覆土 層
60-3 66	内黒土 器 皿?	底径 7.0 器高(2.1)	付け高台低い。	体 輪縁整形 裏 回転旋削り・撫調整 底 回転旋削り	体 輪縁整形・裏磨き後 黒色処理	I CDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片

【3】 土 坑

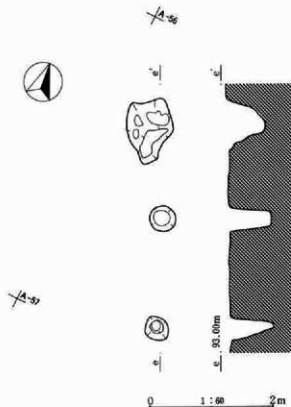


第61図 A区1~7号土坑



第62図 A区8～13号土坑・ピット

3章 A区の遺構と遺物



第63図 ビット群

A区1号土坑(第61図、PL.25)

D-58グリッドにおいて検出された。上面は150×140cm、底面は115×115cm、深さ28cmの方形を呈する。底面は平坦である。覆土から遺物の出土はなかった。

A区2号土坑(第61図、PL.25)

Z・A-39グリッドにかけて検出された。上面は135×110cm、底面は120×80cm、深さ50cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦。ビットと重複。遺物の出土はない。

A区3号土坑(第61図、PL.25)

Z・A-38グリッドにかけて検出された。上面は140×115cm、底面は115×85cm、深さ35～50cmの長方形を呈する。底面はやや凹凸がある。遺物の出土はない。

A区4号土坑(第61図、PL.25)

Z-38グリッドにおいて検出された。上面は140×115cm、底面は120×105cm、深さ20～35cmの長方形を呈

する。底面は凹凸がある。遺物の出土はない。

A区5号土坑(第61図、PL.26)

A-35グリッドにおいて検出された。上面は110×90cm、底面は105×90cm、深さ50cmの楕円形を呈する。底面は平坦である。遺物の出土はない。

A区6号土坑(第61図、PL.26)

A-34グリッドにおいて検出された。上面は140×85cm、底面は120×72cm、深さ40～60cmの長楕円形を呈する。底面は平坦である。遺物の出土はない。

A区7号土坑(第61図、PL.26)

A-34グリッドにおいて検出された。上面は130×110cm、底面は115×95cm、深さ15cmの楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物の出土はない。

A区8号土坑(第62図、PL.16)

G-58グリッドにおいて16・17号住居跡と重複して検出された。現状での規模は上面80×70cm、深さ20cmである。遺物の出土はない。新旧関係は8号土坑(旧)→17住→16住(新)である。

A区9号土坑(第62図、PL.26)

A-23・24グリッドにかけて検出された。現状では上面180×175cm、底面は105×75cm、深さ105cmの楕円形を呈するものと考えられる。遺物の出土はない。

A区10号土坑(第62図)

Z-25グリッドにおいて検出された。現状では上面120×40cm、底面は90×120cm、深さ25cmの長方形を呈するものと考えられる。遺物の出土はない。

A区11号土坑(第62図)

Z・A-31グリッドにかけて検出された。上面は186×120cm、底面は163×95cm、深さ55cmの長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物の出土はない。

A区12号土坑(第62図)

Z-25グリッドにおいて検出された。現状では上面60×45cm、底面は55×35cm、深さ40cmを測る。遺物の出土はない。

A区13号土坑(第62図)

A-39グリッドにおいて検出された。上面は110×90cm、底面は85×70cm、深さ70cmの長方形を呈する。底面は平坦。遺物の出土はない。

このほかにC-57・58グリッドとA-57グリッドにおいてピット群(第62・63図)が検出されている。いずれのピットからも遺物の出土はなく、また配置等に規則性は余り認められない。

A区 ピット

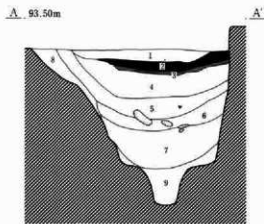
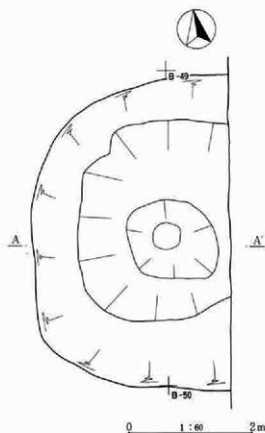
- 1 褐色土層 As-Bを含む。粘性弱く締まり弱い。
- 2 黒褐色土層 ローム粒、As-Bを含む。締まりやや強い。
- 3 暗褐色土層 ローム粒僅かに含む。粘性弱い。
- 4 褐色土層 ローム粒僅かに、As-Bを含む。締まりあり。
- 5 黒褐色土層 ローム粒含む。粘性弱く、締まり弱い。
- 6 黄褐色土層 ロームブロック主体。粘性にとみ、締まりあり。

【4】 ————— 井 戸

A区1号井戸(第64・65図、PL.27・66)

A・B-49グリッドにかけて検出された。現状では上面5×3.2m、深さ2.8mを測る。覆土上層にAs-Bの

純層が堆積している。また中層にはFPを含んだ層が認められた。

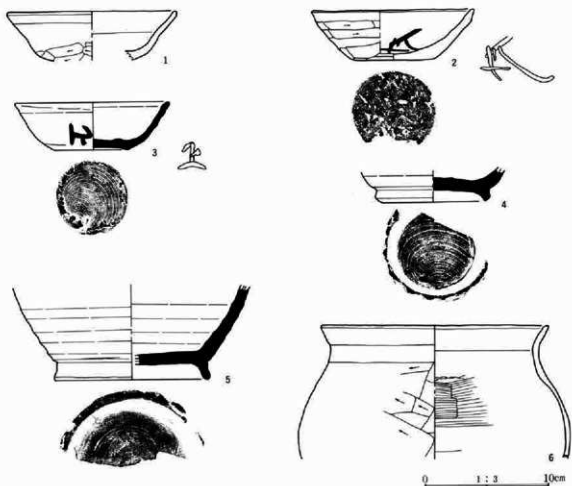


A区 1号井戸

- 1 黒色土層 As-Bを多量に含み、暗褐色土ブロックを含む砂質土。
- 2 暗褐色土層 As-Bに伴う灰層。
- 3 As-B層 純層。
- 4 黒色土層 暗褐色土ブロック、FPを含む。
- 5 暗黒褐色土層 暗黒褐色土を含み、FPを含む。
- 6 暗褐色土層 FPを多量に含む。
- 7 6層の類似層。6層よりFPの含有量が少ない。
- 8 黄褐色土層 5層を含むバサバサした土層。
- 9 暗褐色土層 7層より暗い色調。柔らかく非常に粘性にとむ。ロームブロックを含む。

第64図 A区1号井戸

3章 A区の遺構と遺物



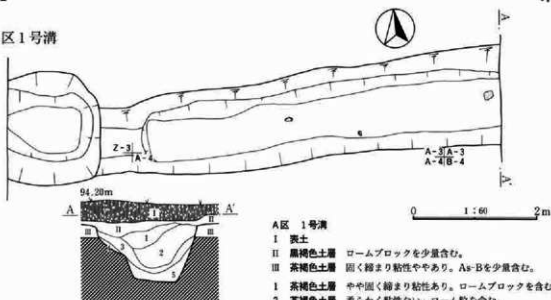
第65図 A区1号井戸出土遺物

A区1号井戸遺物調査表

図版番号 PL.	器 形	寸法(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
65-1 66	土師器 杯	口径(13.3) 器高(3.9)	体部弱く屈曲する。	□横線で 体 上半不明瞭な無で 下半弱い寛帯り	□横線で 体 無で	Ⅲ BCDE 酸化 橙	覆土 破片
65-2 66	土師器 杯	口径(12.8) 底径(6.0) 器高 4.0	体部やや膨らみをも って、外傾する。	□横線で 体～底 莖削り	□横線で 体 無で	Ⅱ ABCD 酸化? 淡黄	覆土 墨書 1/2
65-3 66	須恵器 杯	口径 12.1 底径 5.8 器高 3.7	体部丸みをもち、 口縁端部僅か外反 する。	□～体 輪襷整形 底 右回転糸切り	□～体 輪襷整形	I BCD 還元 鈍い黄	覆土 墨書 完形
65-4 66	須恵器 埴	底径(8.3) 器高(2.7)	付け高台低く内弯 欠味。	体 輪襷整形 底 右回転糸切り	体 輪襷整形	Ⅱ CD 還元 灰白	覆土 1/2
65-5 66	須恵器 壺	底径(12.2) 器高(7.3)	付け高台やや高 く、ハの字状に開 く。	胴 輪襷整形 蓋 回転莖調整	胴 輪襷整形	I ACD 還元 暗緑灰	覆土 1/2
65-6 66	土師器 壺	口径(17.8) 器高(10.6)	口縁外反する。胴 部膨らむ。	□横線で 胴 莖削り	□横線で 胴 莖無で・輪襷痕	Ⅱ ABCD 酸化 鈍い赤褐	覆土 外面床付着 破片

【5】溝

A区1号溝

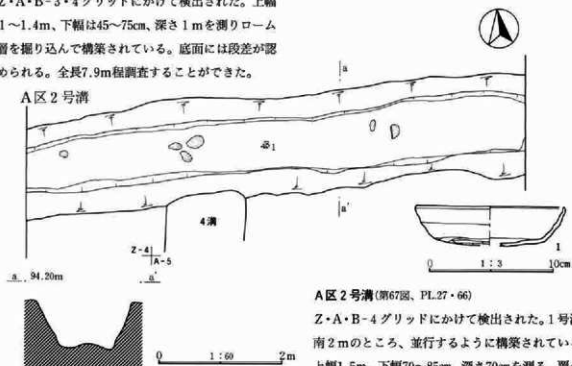


第66図 A区1号溝

A区1号溝(第66図、PL.27)

Z・A・B-3・4グリッドにかけて検出された。上幅1~1.4m、下幅は45~75cm、深さ1mを測りローム層を掘り込んで構築されている。底面には段差が認められる。全長7.9m程調査することができた。

A区2号溝

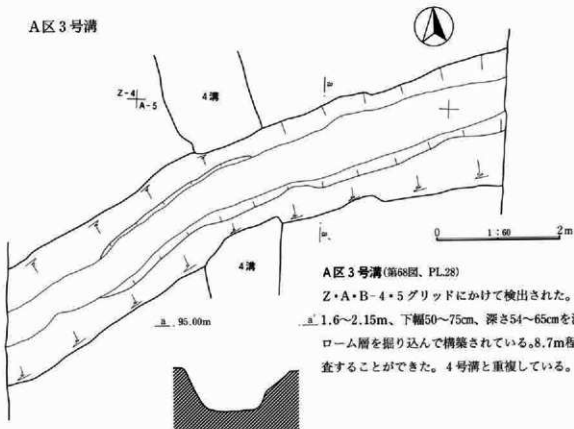


第67図 A区2号溝と出土遺物

A区2号溝遺物観表

図版番号 PL.	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
67-1 66	土師器 罎	口径(11.7) 底径(8.8) 器高(3.1)	口縁部内屈する。平底。	口縁部で 体 上半不明な撫で 下半篋削り	口縁部で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 3/4

A区3号溝

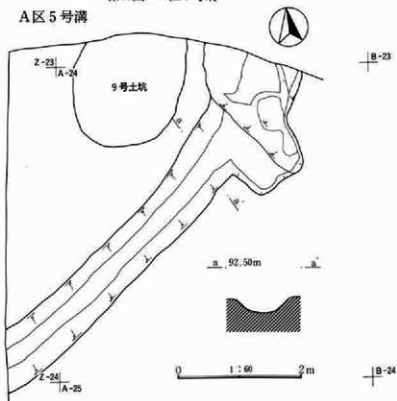


A区3号溝(第68図、PL.28)

Z・A・B-4・5グリッドにかけて検出された。上幅 1.6~2.15m、下幅50~75cm、深さ54~65cmを測り、ローム層を掘り込んで構築されている。8.7m程を調査することができた。4号溝と重複している。

第68図 A区3号溝

A区5号溝



A区4号溝(第70・71図、PL.28・66)

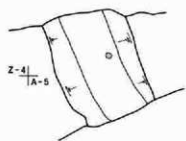
A-4~9グリッドにかけて検出された。2号溝・3号溝・1号堅穴状遺構と重複している。いずれの遺構よりも時期は新しい。上幅85cm~1.35m、下幅45~70cm、深さ12~20cmを測る。底面は皿状を呈し、浅い。遺物が少量出土している。

A区5号溝(第69図、PL.28)

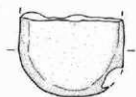
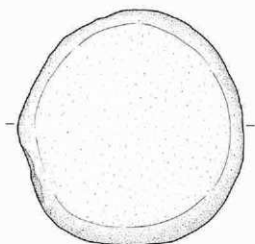
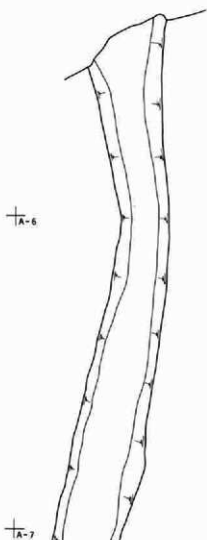
Z・A-24・25グリッドにかけて検出された。9号土坑とほぼ接している。上幅80cm、下幅30cm、深さ20cmを測る。遺物の出土はなかった。

第69図 A区5号溝

A区4号溝



3溝

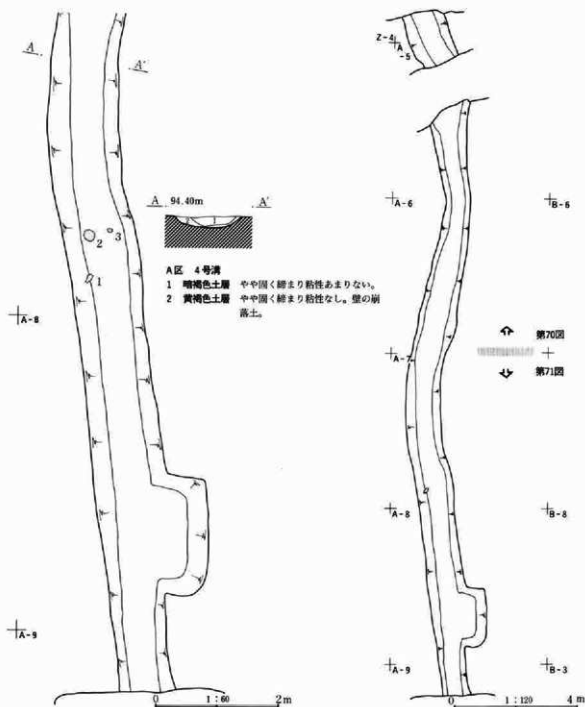


0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第70图 A区4号溝と出土遺物

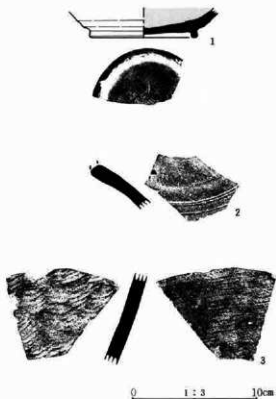
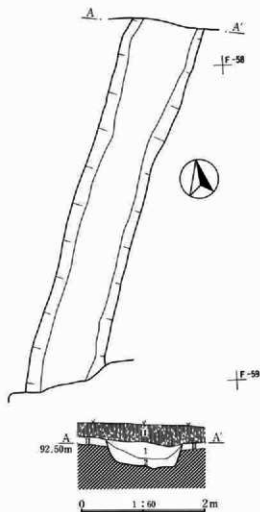
3章 A区の遺構と遺物



A区4号溝遺物調査表

図版番号 Pl.	器種	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
70-1 66	酒志筒 壺	厚 0.9		刷毛目	刷無で	I C D 還元 緑灰	覆土 破片
図版番号 Pl.	器種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
70-2 66	台	18.7×17.9×6.1 2921	安山岩	両面に磨耗痕と側面に敲打痕が認められる。		覆土	
70-3 66		6.6×8.5×3.3 262	安山岩	両面に磨耗痕と敲打痕が認められる。		覆土	

A区6号溝



A区6号溝

- 1 表土
II 黒褐色土層 ロームブロックを少量を含む
1 黒褐色土層 As-Bを多量に含む。ロームブロックを密に含む。柔らかくサラサラしていて粘性ない。
2 黄褐色土層 やわらかく粘性はあまりない。ロームブロック・粒子を多量に混入。

第72図 A区6号溝と出土遺物

A区6号溝(第72図、PL.28・66)

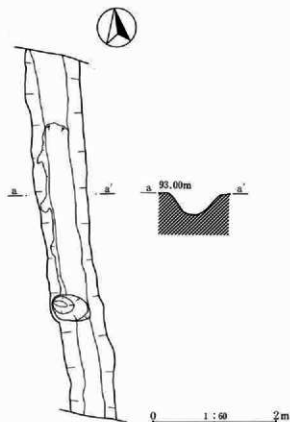
E-57・58グリッドにかけて検出された。12号住居跡と重複している。上幅1.05~1.15m、下幅70~80cm、

深さ30cmを測る。ローム層を掘り込んで構築されており、底面はほぼ平坦である。遺物が少量出土している。12号住居跡よりも新しい。

A区6号溝遺物観察表

図版番号 PL.	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
72-1 66	灰輪陶器 埴	口径 (8.4) 器高 (2.0)	低い角高台。胎物は内面に厚く刷毛塗り。	体 輪轆整形 底 回転瓦調整	体 輪轆整形	I CD 還元 灰白	覆土 K14号室式 破片
72-2 66	須恵系 長頸瓶	厚 1.1		肩部 回転瓦調整	肩部 輪轆整形	I CD 還元 灰白	覆土 破片
72-3 66	須恵系 壺	厚 1.0		胴 平行叩き	胴 背向改文	I BCD 還元 灰	覆土 破片

A区7号溝



第73図 A区7号溝

A区7号溝(第73図)

V-56・57グリッドにかけて検出された。上幅75～85cm、下幅30～40cm、深さ30cmを測る。ローム層を掘り込んで構築されており、断面は皿状を呈している。南北に直線的に走行し、5.7m程を調査することができた。遺物の出土はない。

【6】

水田跡

A区 水田遺構(平安時代)(第74～78図、PL.29～34)

本遺構はA区台地東側の沖積地において検出されたAs-Bにより埋没した水田遺構である。

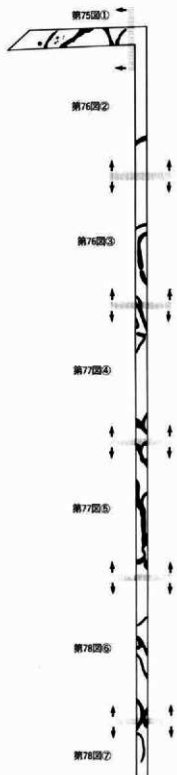
本沖積地は富川により形成され、B区(峠下)台地との間にあり、谷幅約300mを測る。上流部は枝分かれした幾つかの小谷を含みながら鶴ヶ谷遺跡の立地する台地東側を抜け、C区(大道)へ続き、更に柳窪遺跡のある荒川口地区へと続く。

本調査区は幹線3号(幅約9m、長さ約64m)と支線排水路1号(幅約5m、長さ約390m)にかけて実施された。

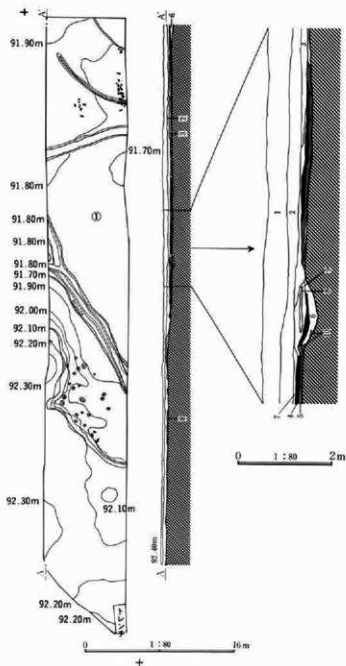
幹線3号は台地調査区東側の沖積地にかけて東西に延びるトレンチ状の調査区である。調査区北西から東南にかけて緩やかに傾斜しており、水田面の西端部標高は92.30m、東端部標高は91.70mを測る。

調査区ほぼ中央には幅120～170cm、深さ35cm、北東から南西にかけて走行する水路1基が検出されている。さらにこの水路の東から南北に走行する畦畔が確認された。畦畔の規模は上幅80～90cm、下幅100～120cm、高さ10cm前後を測る。また水田面からは無数の足跡が検出されている。

支線排水路1号は沖積地を南北に縦断する幅約5m、長さ約390mに延びるトレンチ状の調査区である。水田面北端部の標高は89.70m、南端部は87.70mを測り、約2m程の高低差で南側に向かって傾斜している。幅狭な調査区のために畦畔を明確に検出することはできなかったが、検出された畦畔から判断すれば全体的に北西から南東方向に走行する様である。比較的良好な畦畔では上幅30cm、下幅110cm、高さ3cm前後を測る。



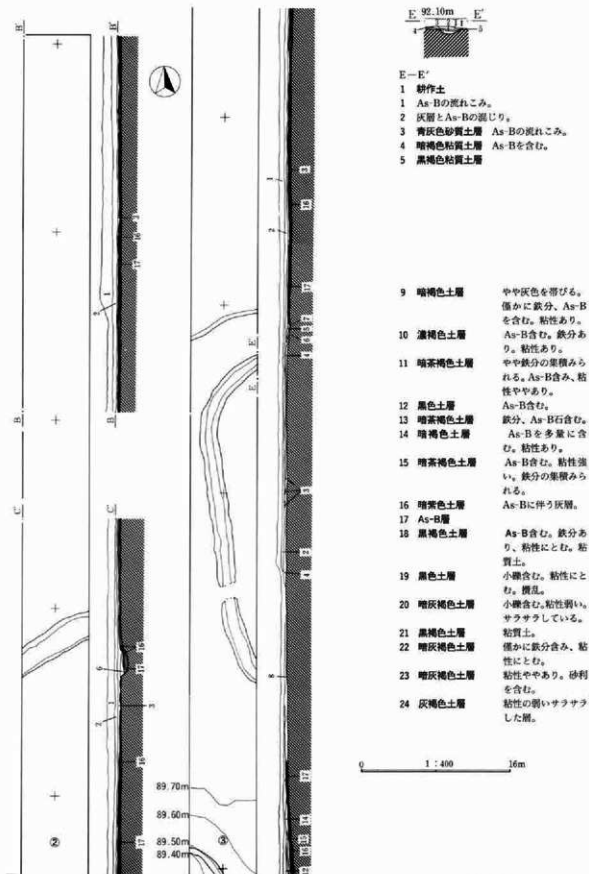
第74図 A区水田横式図



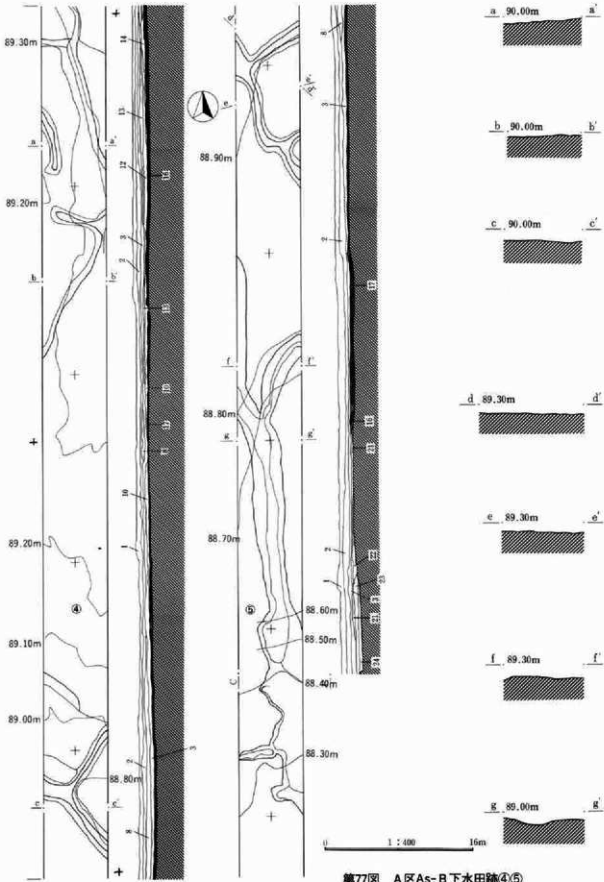
A区 水田跡

- | | |
|------------|-------------------------|
| 1 現水田面 | |
| 2 灰褐色土層 | 粘性あり。As-Bを含む。 |
| 3 暗灰褐色粘質土層 | As-Bを含む。 |
| 4 黒褐色粘質土層 | 3層の下。 |
| 5 黄褐色砂質土層 | As-Bの混れこみ。 |
| 6 青灰色砂質土層 | As-B石の混れこみ。 |
| 7 暗紫色土層 | As-Bと灰層の混じり。 |
| 8 黒褐色土層 | 粘性はあまりない。上層に僅かに鉄分の沈着あり。 |

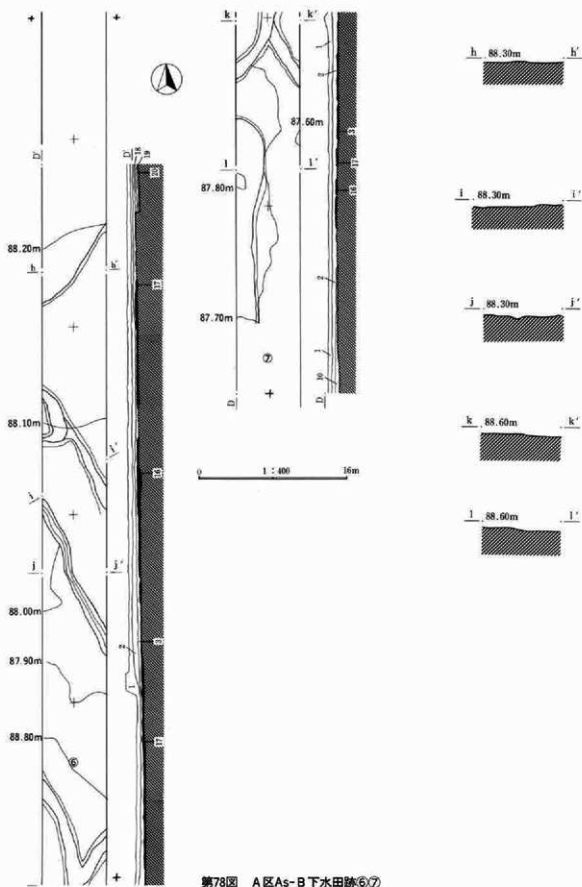
第75図 A区As-B下水田跡①



第76図 A区As-B下水田跡②③



第77図 A区As-B下水田跡④⑤



第78図 A区As-B下水田跡⑥⑦

【7】 _____ グリッド

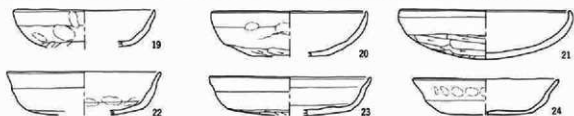
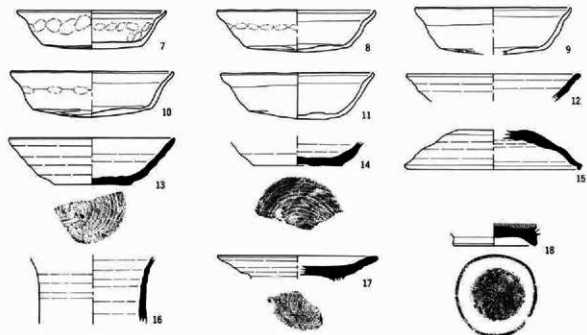
+A-13

+B-13



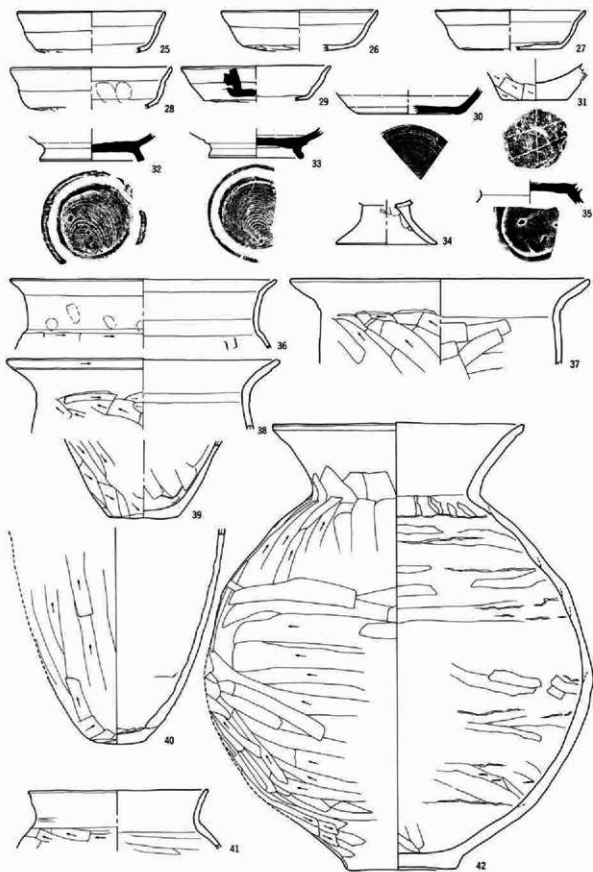
0 1 : 60 2m

第79図 A区13グリッド出土遺物

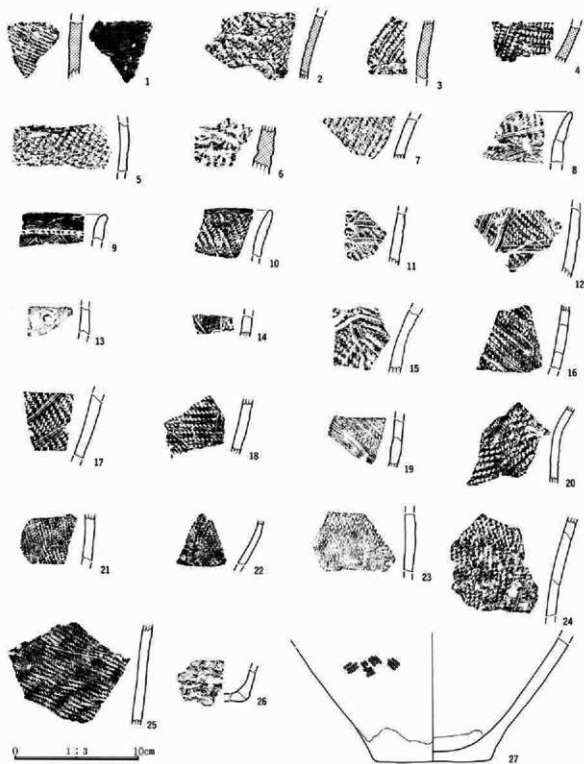


第80図 A区グリッド出土遺物(1)

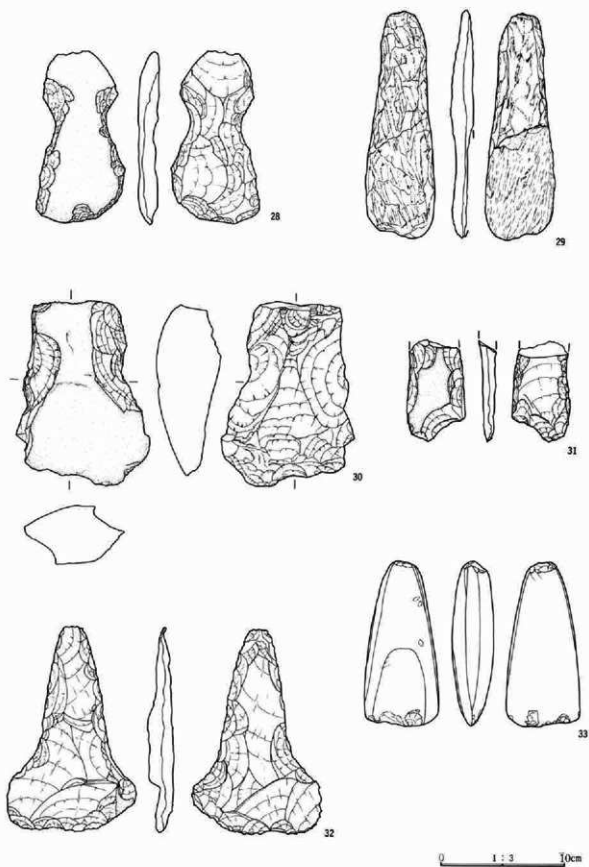
0 1 : 3 10cm



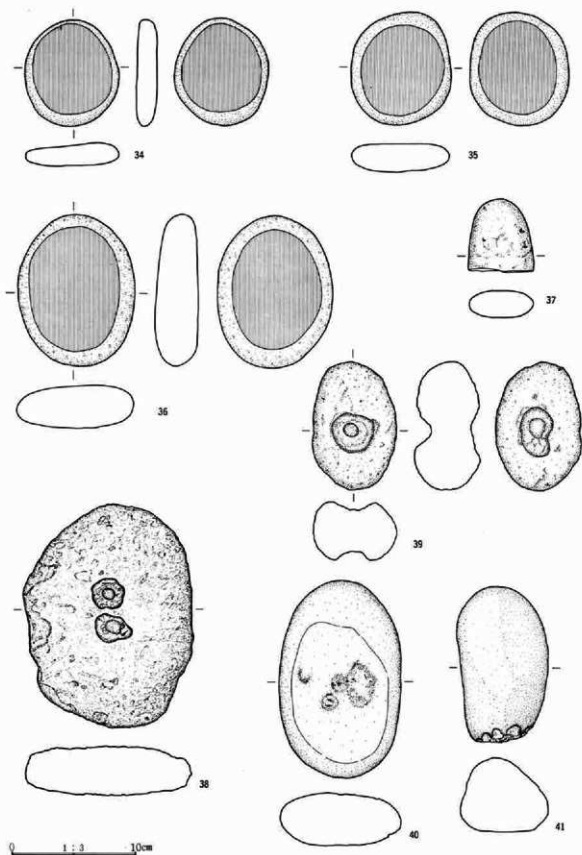
第81図 A区グリッド出土遺物(2)



第82図 A区グリッド出土縄文土器



第83図 A区グリッド出土縄文石器(1)



第84図 A区グリッド出土縄文石器(2)

3章 A区の遺構と遺物

A区グリッド出土遺物観察表

図表番号 PL	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
80-1 66	土師器 環	口径(10.7) 底径(8.6) 器高(3.4)	体部弱く屈曲し、 口縁部内屈する。 平底。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で・指頭圧痕	II BCDE 酸化 褐色	A-13グリッド 破片
80-2 66	土師器 環	口径 12.2 底径 8.0 器高 3.2	口縁外傾する。平底。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い赤褐色	A-13グリッド 1/2
80-3 66	土師器 環	口径 12.0 底径 7.8 器高 3.0	口縁外傾する。平底。	口 横無で 体 不明瞭な撫で 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い褐色	A-13グリッド 内外面保付着 1/2
80-4 66	土師器 環	口径(11.4) 底径(8.5) 器高(3.2)	体部弱く屈曲し、 口縁端部直立する。 平底。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	I BCD 酸化 鈍い褐色	A-13グリッド 内外面保付着 破片
80-5 66	土師器 環	口径(12.5) 器高(2.9)	口縁外反気味で、 端部直立する。	口 横無で 体 不明瞭な撫で	口 横無で 体 撫で	I BCDE 酸化 褐色	A-13グリッド 破片
80-6 66	土師器 環	口径(13.7) 底径(8.8) 器高(3.2)	体部弱く屈曲し、 口縁端部僅か直 立。平底。	口 横無で 体 不明瞭な撫で 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	II BCDE 酸化 褐色	A-13グリッド 破片
80-7 66	土師器 環	口径 11.8 底径 8.0 器高 3.0	体部屈曲し、口縁 端部僅か直立。平 底。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 指頭圧痕	II BCDE 酸化 鈍い褐色	A-13グリッド ほぼ完形
80-8 66	土師器 環	口径(12.5) 底径(7.9) 器高 3.3	体部屈曲し、口縁 端部僅か直立。平 底。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い褐色	A-13グリッド 内外面保付着 1/2
80-9 66	土師器 環	口径(12.2) 底径(8.4) 器高(3.7)	体部屈曲し、口縁 端部僅か直立。平 底。	口 横無で 体 不明瞭な撫で 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	II BCDE 酸化 褐色	A-13グリッド 内外面保付着 1/2
80-10 66	土師器 環	口径(12.9) 底径(9.4) 器高 3.6	体部屈曲し、口縁 端部直立気味。平 底。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	I BCDE 酸化 褐色	A-13グリッド 内外面保付着 破片
80-11 66	土師器 環	口径 12.1 底径 7.8 器高 3.7	体部弱く屈曲し、 口縁端部直立。底 部歪む。	口 横無で 体 不明瞭な撫で 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	I BCDE 酸化 褐色	A-13グリッド 1/2
80-12 66	須志器 環	口径(13.6) 器高(2.2)	口縁外反する。	口~体 輪縁整形	口~体 輪縁整形	I BCD 還元 灰	A-13グリッド 破片
80-13 66	須志器 環	口径(13.0) 底径(6.0) 器高 3.8	体部下平やや張り、 口縁外傾する。	口~体 輪縁整形 底 回転糸切り	口~体 輪縁整形	III ABCDE 還元 灰褐色	A-13グリッド 破片
80-14 66	須志器 環	底径(7.0) 器高(2.0)	体部下平やや張 る。	体 輪縁整形 底 回転糸切り	体 輪縁整形	I ACD 還元 鈍い褐色	A-13グリッド 破片
80-15 66	須志器 蓋	口径(13.5) 器高(3.2)	天井部は扁平。口 ~体内湾気味。口 縁端部近く内屈。	口~体 輪縁整形 天井部 回転蔑削り	口~体 輪縁整形	I BCD 還元 灰	A-13グリッド 中心焼き痕 破片
80-16 66	灰釉陶 器	頸部最大径 (9.8) 器高(5.2)	頸部縦やかに外反 する。	頸 輪縁整形	頸 輪縁整形	I ACD 還元 灰白	A-13グリッド 破片
80-17 66	須志器 皿	口径(12.5) 器高(1.9)	口縁外反する。付 け高台部欠損。	口~体 輪縁整形 底 回転糸切り	口~体 輪縁整形	II BCD 還元 灰	A-13グリッド 内外面傾し 1/2
80-18 66	内黒土 器	底径 6.5 器高(1.6)	付け高台低く、直 立気味。断面三角 形。	体 輪縁整形 底 回転糸切り	体 輪縁整形・蔑削り後 出色処理	I ABCD 還元 鈍い褐色	A-13グリッド 破片
80-19 66	土師器 環	口径(11.2) 器高(3.0)	口縁やや外傾す る。	口 横無で 体 指面痕・不明瞭な撫 底 蔑削り	口 横無で 体 撫で	II ABCD 酸化 褐色	表録 破片
80-20 67	土師器 環	口径(12.3) 器高(3.6)	口縁内湾気味。	口 横無で 体 指面痕 不明瞭な撫 輪縁気 下半蔑削り	口 横無で 体 撫で	I BCDE 酸化 鈍い黄褐色	表録 破片

図説番号 凡	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
80-21 67	土師器 環	口径(13.4) 器高 4.0	口縁内高する。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半莖削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 橙	表採 1/5
80-22 67	土師器 環	口径(12.1) 底径 (9.0) 器高 (3.4)	体部弱く外反する。平底。	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で・指頭圧痕	A-15グリッド 酸化 鈍い橙	1/5
80-23 67	土師器 環	口径(12.8) 底径 (9.8) 器高 (3.1)	体部回曲し、口縁 端部僅か直立。平底。	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 橙	B-41グリッド 1/5
80-24 67	土師器 環	口径(11.4) 底径 (7.5) 器高 2.9	体部回曲する。平底。	口 横撫で・指頭圧痕 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	表採 破片
81-25 67	土師器 環	口径(11.6) 器高 (3.3)	体部回曲する。平 底?	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	A-13グリッド 破片
81-26 67	土師器 環	口径(12.3) 底径 (9.0) 器高 (3.2)	体部回曲し、口縁 端部僅か直立。平底。	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い橙	A-15グリッド 破片
81-27 67	土師器 環	口径(11.8) 底径 (8.0) 器高 3.1	体部回曲する。平 底。	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	A-15グリッド 破片
81-28 67	土師器 環	口径(12.8) 器高 (3.3)	体部回曲する。	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 指頭圧痕	I BCD 酸化 鈍い橙	A-13グリッド 破片
81-29 67	土師器 環	口径(11.8) 底径 (8.4) 器高 (2.8)	体部弱く回曲する。 平底。	口 横撫で 体 不明瞭な撫で 底 莖削り	口 横撫で 体 撫で	酸化 明赤褐	表採 墨書 破片
81-30 67	須恵器 環	口径(8.0) 器高 (2.1)	体部直線的に外傾 する。	体 縦縞整形 底 回転調整	体 縦縞整形	I BCD 還元 灰	表採 破片
81-31 67	土師器 壺	口径 5.1 器高 (2.8)	平底。肥厚する。	胴 莖削り	胴 莖撫で	III BCDE 酸化 灰	表採 木葉痕 破片
81-32 67	須恵器 埴	口径 8.4 器高 (2.2)	付け高台はハの字 状。角高台。接地面 に凹線走る。	体 縦縞整形 底 右回転糸切り	体 縦縞整形	I BCDE 還元 灰	A-15グリッド 破片
81-33 67	須恵器 埴	口径 7.3 器高 (2.4)	付け高台外反する。 。	体 縦縞整形 底 右回転糸切り	体 縦縞整形	I BCD 還元 灰	A-15グリッド 破片
81-34 67	土師器 台付壺	口径 (7.8) 器高 (3.5)	脚部外反して開 く。	脚 横撫で・莖直肌	脚 横撫で・指頭圧痕	II BCD 酸化 鈍い橙	表採 破片
81-35 67	須恵器 埴	器高 (1.6)	付け高台ハの字状 に開く。端部欠損。	体 縦縞整形 底 右回転糸切り	体 縦縞整形	I BCD 還元 灰	A-15グリッド 破片
81-36 67	土師器 壺	口径(21.3) 器高 (5.5)	口縁コの字を呈 す。	口 横撫で・指頭圧痕 胴 莖削り	口 横撫で 胴 莖撫で	II ABCDE 酸化 橙	A-15グリッド 破片
81-37 67	土師器 長胴壺	口径(23.7) 器高 (6.8)	口縁外反する。胴 部の膨らみは弱 い。	口 横撫で 胴 横撫で後莖削り	口 横撫で 胴 莖撫で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	表採 破片
81-38 67	土師器 長胴壺	口径(21.4) 器高 (5.7)	口縁外反する。胴 部の膨らみは弱 い。	口 横撫で 胴 横撫で後莖削り	口 横撫で 胴 撫で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	表採 破片
81-39 67	土師器 長胴壺	口径 (3.6) 器高 (6.2)	平底。	胴～底 莖削り	胴 莖撫で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	表採 破片
81-40 67	土師器 長胴壺	口径 4.5 器高(17.0)	胴部膨らみは弱 い。小さめな平底	胴～底 莖削り	胴 撫で・輪痕痕	III ABCDE 酸化 鈍い黄褐	A-15グリッド 破片

3章 A区の遺構と遺物

図録番号 Pl.	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外周調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
81-41 67	土師器 壺	口径(14.1) 器高(4.6)	口縁弱く外反する。	口横線で 削 荒削り	口横線で 削 荒削り	II A B C D E 酸化 橙	A-15グリッド 3/4
81-42 67	土師器 壺	口径(19.7) 底径 8.7 器高 35.5	口縁外反し、端部 凹部深。胴部球 形、中位に最大径	口横線で 削 荒削り 底 荒削り	口横線で 削 指頭圧痕 削 荒削り・輪積痕	II A B C D E 酸化 鈍い黄橙	表採 外面に黒斑あり ほぼ完成

A区グリッド出土縄文土器観察表

図録番号 Pl.	部位	文 様 (そ の 他)	成形・器面調整の特徴と色調	①胎土 の焼成 (遺存状況)	出土状況
82-1 67	胴部片	内外面に斜位の条痕が施されている。	深鉢形土器の胴部片。器厚1cm。内面に縦積痕が認められる。 外面色調は鈍い赤褐色。内面は褐色。	①縦線を含む。細粒の砂を混入。 ①良	表土
82-2 67	胴部片	縄文施文。原形はR { 上 }。(端付未端)を多段に施文。関山式。	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面に縦積痕顯著に認められる。 内外面の色調は鈍い褐色。	①縦線を含む。細粒の砂を混入。 ②やや良	表土
82-3 67	胴部片	縄文施文。原形は附加条第1種L { 上 }+L。黒沢式。	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面に縦積痕が認められる。 内外面の色調は鈍い褐色。	①縦線を含む。細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-4 67	胴部片	縄文施文。原形は附加条第1種R { 上 }+LとL { 上 }+R。黒沢式。	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内外面に縦積痕が認められる。 内外面の色調は鈍い黄褐色。	①縦線を含む。細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-5 67	胴部片	縄文施文。原形はR { 上 }+L { 上 }で羽状。黒沢式。	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面は丁寧なミガキが行われている。 内外面の色調は鈍い赤褐色。	①縦線を含む。細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-6 67	胴部片	磨り取られていない状態であるが、原形はL { 上 }と思われる。黒沢式。	深鉢形土器の胴部片。器厚1.2cm。内外面とも縦積痕顯著に認められる。 外面の色調は鈍い褐色。内面は鈍い黄褐色。	①縦線を含む。細粒の砂を混入。 ②不良	A区16号住居跡覆土
82-7 67	胴部片	縄文施文。原形は前々段段状L { 上 } R { 上 } R { 上 } R { 上 } 黒沢式。	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は鈍い褐色。	①縦線を少量含む。細粒の砂を混入。 ②良	A区4号住居跡覆土
82-8 67	口縁部片	縄文 { 上 } 施文後、半截竹管による斜位の平行沈線。	深鉢形土器の口縁部片。器厚5~8mm。口唇部は先細り。内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区15号住居跡覆土
82-9 67	口縁部片	口唇部下に一条の半截竹管による平行沈線。C字形断面。以下同工具による山形文様。逆織式。	口唇部はやや丸みをもつ深鉢形土器の口縁部片。内面は縦方向の丁寧なミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-10 67	口縁部片	縄文施文。原形はR { 上 }。	深鉢形土器の口縁部片。器厚4mm~7mm。口唇部はやや平坦。内面は縦方向の丁寧なミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-11 67	胴部片	R { 上 } 施文後、半截竹管による平行・斜位。円形竹管文。	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は鈍い赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区8号住居跡覆土
82-12 67	胴部片	R { 上 } 施文後、半截竹管による平行・斜位沈線。円形竹管文。	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は鈍い赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区24号住居跡覆土
82-13 67	胴部片	R { 上 } 施文後、円形竹管文。	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区24号住居跡覆土 14と同一個体
82-14 67	胴部片	同上	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面は縦方向のミガキが行われている。 内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	同上
82-15 67	胴部片	R { 上 } 施文後、半截竹管による文様。	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は縦方向のミガキが行われている。 外面の色調は明赤褐色。内面は鈍い褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-16 67	胴部片	R { 上 } 施文後、半截竹管による斜位の平行沈線。	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は縦方向のミガキ。一部輪積痕が残る。 内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土

A区グリッド出土縄文土器観察表

図録番号 PL	部位	文様(その他)	成形・器面調整の特徴と色調	①細粒の砂を混入。 ②焼成(遺存状況)	出土状況
82-17 67	胴部片	R { $\frac{1}{2}$ 施文後、半截竹管による文様。	深鉢形土器の胴部片。器厚 8 mm。内面は縦方向のミガキが行われている。内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-18 67	胴部片	R { $\frac{1}{2}$ 施文後、半截竹管による文様。	深鉢形土器の胴部片。器厚 6 mm。内面は横方向のミガキが行われている。外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-19 67	胴部片	R { $\frac{1}{2}$ 施文後、半截竹管による文様。	深鉢形土器の胴部片。器厚 7 mm。内面は横・縦方向のミガキ。内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区24号住居跡覆土
82-20 67	胴部片	縄文施文。原体はL { $\frac{R}{R}$ (0段多象)	深鉢形土器の胴部片。器厚 6 mm。内面は丁寧な調整が行われている。内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-21 67	胴部片	縄文施文。原体はR { $\frac{1}{2}$ 。	深鉢形土器の胴部片。器厚 7 mm。内面は丁寧な調整が行われている。外面の色調は明赤褐色。外面は鈍い黄褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-22 67	胴部片	縄文施文。原体はR { $\frac{1}{2}$ と L { $\frac{R}{R}$ 。	深鉢形土器の胴部片。器厚 5 mm ~ 7 mm。内面は丁寧な調整が行われている。外面の色調は褐色。内面は鈍い褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-23 67	胴部片	縄文施文。原体はR { $\frac{1}{2}$ 。	深鉢形土器の胴部片。器厚 7 mm。内面は縦方向のミガキ。輪縁痕かすかに混入。内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区15号住居跡覆土
82-24 67	胴部片	縄文施文。原体はR { $\frac{1}{2}$ 。	深鉢形土器の胴部片。器厚 7 mm。内外面やや荒れている。外面の色調は褐色。内面の色調は鈍い黄褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土
82-25 67	胴部片	縄文施文。原体はR { $\frac{1}{2}$ 。	深鉢形土器の胴部片。器厚 8 mm。内面はやや丁寧な調整が行われている。内外面の色調は褐色。	①中粒の砂を混入。 ②良	表土
82-26 67	底部片	底面に近く横ナゲが行われている。	深鉢形土器の底部片。器厚は 5 mm ~ 1 cm。内面は横方向のミガキが行われている。内外面の色調は明赤褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	A区15号住居跡覆土
82-27 67	底部片	縄文施文。原体はR { $\frac{1}{2}$ と L { $\frac{R}{R}$ 。	深鉢形土器の底部片。器厚 8 mm ~ 2 cm。内面は丁寧な調整が行われている。内外面の色調は鈍い黄褐色。	①細粒の砂を混入。 ②良	表土

A区グリッド出土縄文石器観察表

図録番号 PL	器種	遺存状況	計測値 全長 巾 厚 cm 重 g	石材	備考	出土状況
83-28 68	打製石斧	完形	13.6 7.0 1.6 176	頁岩	分剝型。	表土
83-29 68	打製石斧	完形	18.0 5.6 1.9 187	角閃岩	盤型。両側縁が内側彎曲している。	A区17号住居跡覆土
83-30 68	打製石斧	完形	14.6 10.7 4.8 724	安山岩	盤型。両側縁が内側彎曲している。	表土
83-31 68	打製石斧	基部・刃部欠損	(8.0) (4.6) 1.4 (60)	頁岩	盤型。両側縁がほぼ直線的である。	A区9号住居跡覆土
83-32 68	打製石斧	完形	15.2 10.3 2.2 247	安山岩	盤型。	A区15号住居跡覆土
83-33 68	磨製石斧	完形	13.1 5.9 3.4 345	栗岩		A区18号住居跡覆土
84-34 68	磨石	完形	8.5 7.6 1.8 191	安山岩	両面に磨耗痕が認められる。	A区21号住居跡覆土
84-35 68	磨石	完形	9.0 7.9 2.3 277	安山岩	両面に磨耗痕が認められる。	A区1号井戸覆土
84-36 68	磨石	完形	12.0 9.3 3.5 572	安山岩	両面に磨耗痕と煤の付着が認められる。	A区21号住居跡覆土
84-37 68	磨石	1/2	(5.8) (5.1) 2.1 (104)	安山岩	両面に磨耗痕が認められる。	A区15号住居跡覆土
84-38 68	凹石	完形	17.8 13.4 4.1 903	滑岩	片面に2個の凹み。凹みの径は長さ2.5cm・短径2cm、深さ5mm。	A区22号住居跡覆土

3章 A区の遺構と遺物

A区クリッド出土縄文石器類検索表

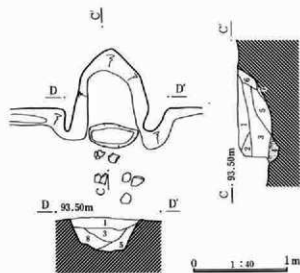
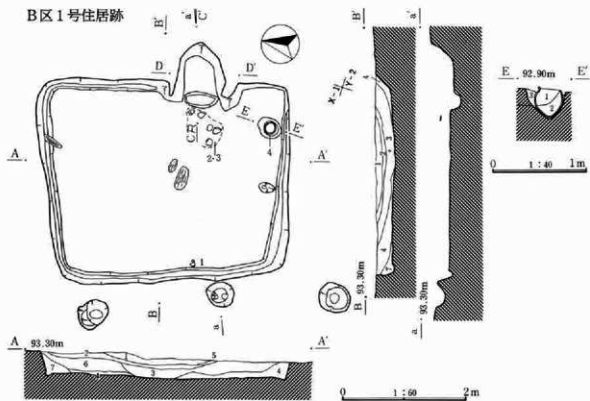
図版番号 Pl.	器 種	遺存状況	計 測 値 全長 巾 厚 cm cm g	石材	備 考	出土状況
84-39 68	凹 石	完形	10.1 6.8 5.2 194	軽石	両面に3個の凹み。最大の凹みは長36mm・短28mm、深さ9mm。	A区17号住居跡 覆土
84-40 68	磨 石	完形	15.6 9.7 4.2 1,094	安山岩	両面に磨耗痕と片面に敲打痕が認められる。	A区24号住居跡 覆土
84-41 68	敲 石	完形	12.3 7.3 5.9 630	安山岩	端部に著しい敲打痕が認められる。	表土

4章 B区の遺構と遺物



【1】 竪穴住居跡

B区1号住居跡



B区 1号住居跡

- | | |
|----------|---------------------|
| 1 黒褐色土層 | ローム粒、FP、焼土を含む。 |
| 2 黒色土層 | ローム粒、FP、焼土を含む。 |
| 3 暗黄褐色土層 | ローム粒、FP、焼土を含む。 |
| 4 黒褐色土層 | ローム粒、FP、ロームブロックを含む。 |
| 5 黄褐色土層 | FPを含む。 |
| 6 暗黄褐色土層 | ローム粒、FP、ロームブロックを含む。 |
| 7 黒色土層 | ローム粒、FP、ロームブロックを含む。 |

カマド

- | | |
|----------|---|
| 1 暗褐色土層 | ローム粒、焼土粒、黒色ブロック、As-Bを少量含む。粘性弱い。 |
| 2 暗黄褐色土層 | ロームブロック主体。やや粘性あり。焼土粒を少量含む。 |
| 3 暗褐色土層 | ロームブロック、焼土粒を多量に含む。 |
| 4 黒褐色土層 | 灰層。焼土粒を少量含む。粘性ややあり。 |
| 5 暗褐色土層 | 焼土粒、ローム粒を3層より多く含む。粘性弱い。 |
| 6 暗褐色土層 | 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロック、焼土粒、少量の炭化物を含む。 |
| 7 黄褐色土層 | 柔らかく非常に粘性あり。ローム、焼土粒を多量に含む。 |
| 8 暗褐色土層 | 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロック、焼土ブロックを多量に、少量の炭化物を含む。 |

床面埋設土層内

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 柔らかく粘性あり。ロームブロックを含む。 |
| 2 黒褐色土層 | やや固くて粘性あり。ローム粒を含む。 |
| 3 黄褐色土層 | やや固くて粘性非常にあり。ロームブロックを多量、また黒色土を含む。 |

第86図 B区1号住居跡

4章 B区の遺構と遺物

B区1号住居跡(古墳時代末)(第86・87図、PL.39・68)

位置 X-1グリッド内に位置し、重複は無い。

形状 長辺4m、短辺3.3mの南北にやや長い横長
長方形を呈する。面積 約10.9㎡。

覆土 レンズ状の堆積が見られた。

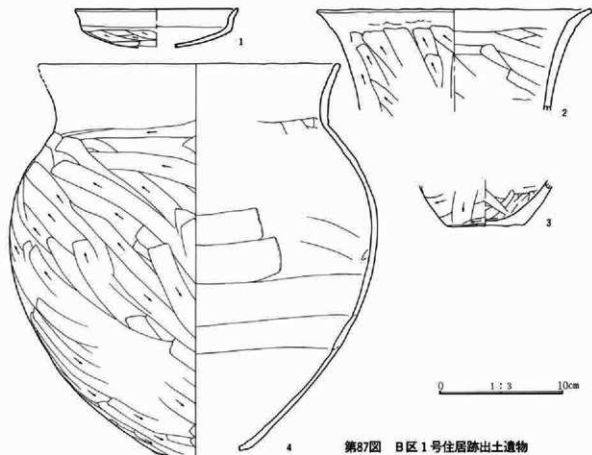
壁高 住居跡確認面より約25~35cmを測る。

床面 掘り方面とほぼ同一面であり、多少の凹凸

がある。竈前及び右袖前に灰の広がりが見られる。

周溝 南東隅を除き全周する。幅7~15cm、深さ

8cmを測る。竈 東壁中央やや南寄りの壁を掘り
込み燃焼部が構築されている。燃焼部規模は奥行き
1m、幅0.5mを測る。柱穴 南壁中央際に小
ピットを検出。入口部に伴うものと考えられる。また、
西壁外で3個のピットが検出されたが欄列とし
て別遺構と判断した。貯蔵穴 南東隅部にNo.4の
礎が埋設されていた。遺物 竈前に土師器杯・
礎破片が出土している。備考 炭化材が2カ所で
見られ、焼失家屋の可能性が考えられる。

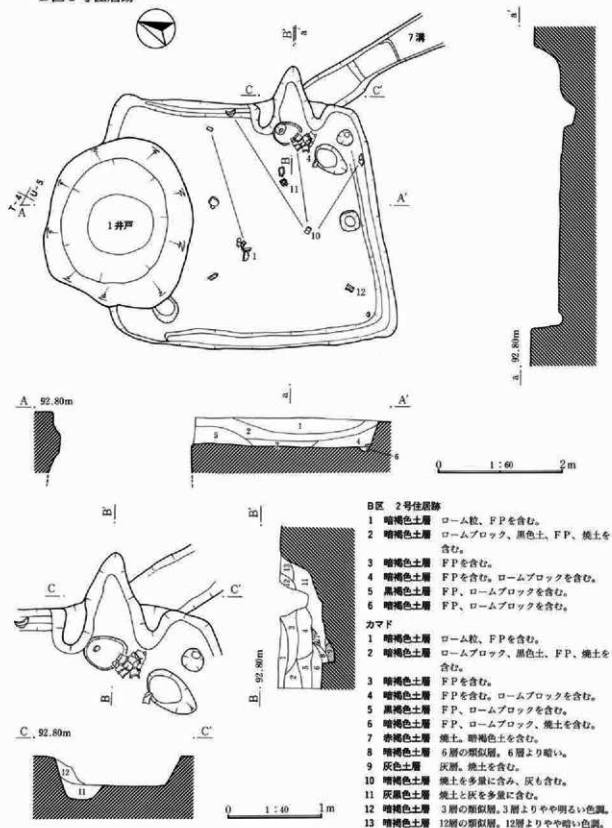


第87図 B区1号住居跡出土遺物

B区1号住居跡遺物観察表

図録番号 PL.	器形	寸法(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
87-1 68	土師器 杯	口径(12.8) 器高(3.0)	口縁短く外反す る。体部はやや扁平。 下半段削り	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半段削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 橙	覆土 1/3
87-2 68	土師器 長胴壺	口径(21.5) 器高(8.0)	口縁緩やかに外反 する。	口 横撫で・輪横直 削 横撫で後段削り	口 横撫で 削 段撫で	III BCDE 酸化 橙	覆土 破片
87-3 68	土師器 壺	底径(6.0) 器高(3.7)	平底。	胴~底 段削り	胴 撫で	III ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
87-4 68	土師器 壺	口径 23.6 底径 7.5 器高 31.0	口縁外反する。胴 部中位上半に最大 径。平底。	口 横撫で 胴 段削り	口 横撫で 胴 段撫で・輪横直	I ABCDE 酸化 橙	床下埋設。 基部穿孔・黒斑 ほぼ完形

B区 2号住居跡



第88図 B区 2号住居跡

4章 B区の遺構と遺物

B区2号住居跡(奈良時代)(第88~90図、PL.40・68・69)

位置 U-5・6グリッド内に位置し、7号溝・1号井戸に壊されている。

形状 西壁の長い台形を呈する。規模は西壁4.6m、東壁3.9m、東西3.9mを測る。面積約13.6㎡。

覆土 全体にローム塊・粒子を含み、人為的な埋土の可能性が考えられる。

壁高 確認面より約40cm前後を測る。

床面 掘り方面とほぼ同一面であり、竈前から中央部にかけて堅く踏み締められている。

周溝 南東隅を除き全周すると考えられる。幅

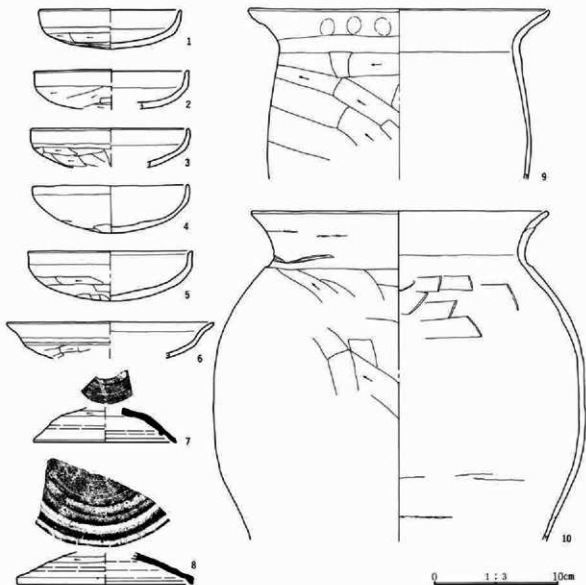
10~20cm、深さ5cmを測る。

竈 東壁南東隅の壁を掘り込み燃焼部が構築され、袖を有するが上部を7号溝により壊される。燃焼部形状はV字状を呈し、奥壁は焼土化する。規模は、奥行き1m、幅0.36mを測る。

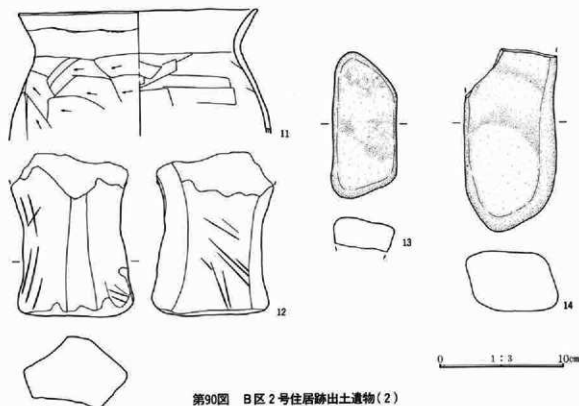
柱穴 南壁中央壁際に1本見られ、入口に伴う柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東隅に長径58cm、短径35cm、深さ20cmの規模を持つ楕円形のピットを検出した。

遺物 竈前に土師器壺が潰れた状態で出土している。また、他の土器は破片で散在する。



第89図 B区2号住居跡出土遺物(1)



第90図 B区2号住居跡出土遺物(2)

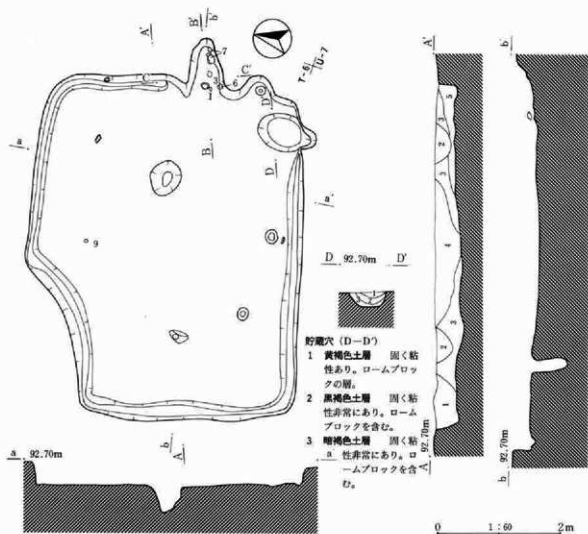
B区2号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
89-1 69	土師器 杯	口径(11.1) 器高 3.2	口縁直立する。	口 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半笠削り	口 横無で 体 無で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 片
89-2 69	土師器 杯	口径(12.1) 器高 (3.1)	口縁直立する。	口 横無で 体 笠削り	口 横無で 体 無で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
89-3 68	土師器 杯	口径(12.5) 器高 (3.1)	口縁直立する。	口 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半鋭い笠削り	口 横無で 体 無で	I ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 片
89-4 69	土師器 杯	口径 12.3 器高 3.8	口縁直立する。	口 横無で 体 笠削り	口 横無で 体 無で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 内外面顕著な剥 落 片
89-5 69	土師器 杯	口径(12.9) 器高 4.0	口縁短く直立す る。	口 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半笠削り	口 横無で 体 無で	II BCDE 酸化 橙	覆土 外面煤付着 片
89-6 68	土師器 杯	口径(16.3) 器高 (3.9)	口縁外反する。	口 横無で 体 上半不明瞭な無で 下半笠削り	口 横無で 体 無で	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片
89-7 68	須恵 壺	口径(11.2) 器高 (2.7)	体部張りをもち、 口縁直線的。カエ リは短く、内縁。	口~体 縦縞彫形 天井部 回転削り	口~体 縦縞彫形	I CDE 還元 灰	覆土 片
89-8 68	須恵 壺	口径(14.0) 器高 (2.5)	体部弱く膨らみ、 口縁端部直に割れ る。	口~体 縦縞彫形 天井部 左回転削り	口~体 縦縞彫形	I ACDE 還元 灰	覆土 片
89-9 68	土師器 壺	口径(24.8) 器高(13.5)	口縁強く外反し、 胴部の膨らみ弱 い。	口 横無で・指頭圧痕・ 輪横痕 胴 笠削り	口 横無で 胴 無で	II ABCD 酸化 橙	覆土 破片
89-10 69	土師器 壺	口径(23.4) 器高(26.0)	口縁外反する。胴 部は球形に近い。	口 横無で・輪横痕・寛 当痕 胴 笠削り	口 横無で 胴 笠削り・輪横痕	I ABCDE 酸化 橙	覆土 片

4章 B区の遺構と遺物

図版番号 PL	器種 器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
90-11 69	土師器 壺	口径(18.8) 器高(9.9)	口縁外反する。胴部膨らむ。	口縁部で・輪状皮割 欠削り	口縁部で 削 ぎ削り	I ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 外面煤付着 破片
図版番号 PL	器種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
90-12 69	紙 石	13.0×9.7×3.6 539	溶岩	6面使用。刃ならし痕あり。		覆土	
90-13 69	こも 編石	11.5×5.0×3.0 290	安山岩	被熱痕の確認される。		覆土	
90-14 69	こも 編石	14.3×7.2×5.0 871	安山岩			覆土	

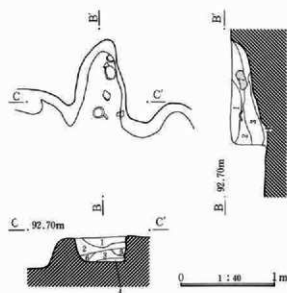
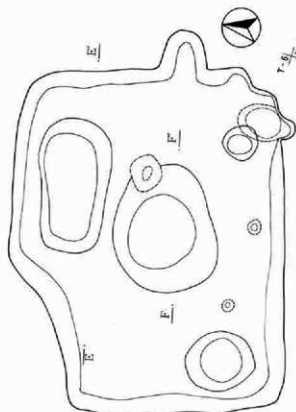
B区3号住居跡



B区3号住居跡

- 1 灰黄褐色土層 ロームブロック、焼土、炭化物、FPを含む。 2 暗褐色土層 ロームブロック、FPを含む。 3 黒褐色土層 ロームブロック、炭化物、FPを含む。 4 暗褐色土層 ロームブロック、焼土、FPを含む。 5 黒色土層 ロームブロック、FPを含む。

第91図 B区3号住居跡



カマド

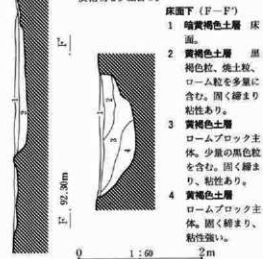
- 1 黄褐色土層 ローム粒、焼土粒を少量含む。固く締まり粘性にとむ。
- 2 暗褐色土層 ローム粒、焼土粒を少量含む。締まり固く粘性あり。
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック、ローム粒、炭化物を多く含む。粘性、締まりあり。
- 4 暗褐色土層 少量の焼土を含む。締まり、粘性弱い。
- 5 灰色土層 灰と焼土を多量に含む。
- 6 黄褐色土層 焼土を多量に含む。
- 7 赤褐色土層 焼土。

第92図 B区3号住居跡掘り方・カマド

床面下 (E-E')

1 暗黄褐色土層 床面。ロームブロックを多量に、焼土、炭化物を稀かに含む。固く締まり、粘性ややあり。

2 暗黄褐色土層 床面。ロームブロックを多量に、黒色ブロックを含む。焼土粒、灰、炭化物を少量含む。



床面下 (F-F')

1 暗黄褐色土層 床面。

2 黄褐色土層 黒褐色粒、焼土粒、ローム粒を多量に含む。固く締まり粘性あり。

3 黄褐色土層 ロームブロック主体。少量の黒色粒を含む。固く締まり、粘性あり。

4 黄褐色土層 ロームブロック主体。固く締まり、粘性強い。

B区3号住居跡(奈良時代)(第91~93図、PL.41・69)

位置 S・T-6・7グリッド内に位置し、重複無し。

形状 北壁中央部東側が約1m程張り出す。規模は、長辺5.4m、短辺4.4mを測り、東西に長い長方形を呈する。面積 約22.5m²。

覆土 全体的にローム塊、軽石を含み均質。

壁高 確認面から約40cmを測る。

床面 中央部で踏み締められた粘床面を確認した。

周溝 南東隅を除き全周する。幅10~25cm、深さ2cmを測る。

竈 東壁やや中央部を掘り込み燃焼部を構築する。規模は奥行き95cm、幅35cmを測る。

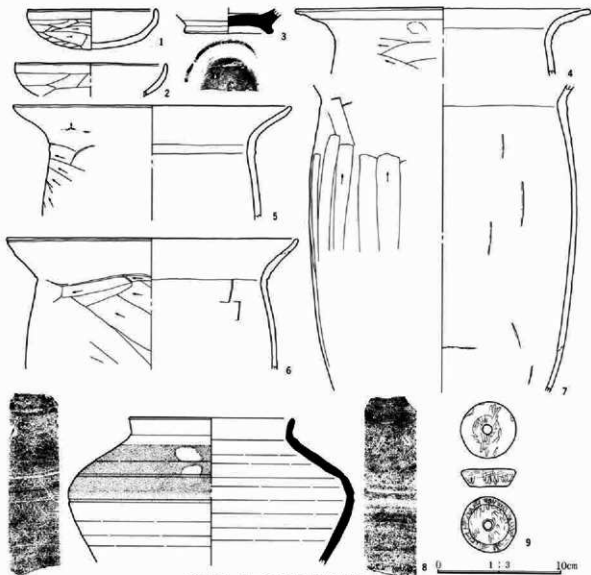
柱穴 南壁中央部壁際に入りに伴うと考えられる小ピットと中央部やや竈寄りにピットを検出した。

貯蔵穴 南東隅部に位置し、長径95cm、短径60cm、深さ25cmの規模を持つ。

遺物 竈内より完形品の土師器杯と土師器壺破片が出土し、張り出し部より紡錘車が出土している。

備考 掘り方調査時に住居跡中央部、張り出し部、南西隅部にそれぞれ床下土坑を検出した。特に住居跡中央部の床下土坑は長径2m、短径1.6m、深さ55cmの規模を持つ。

4章 B区の遺構と遺物



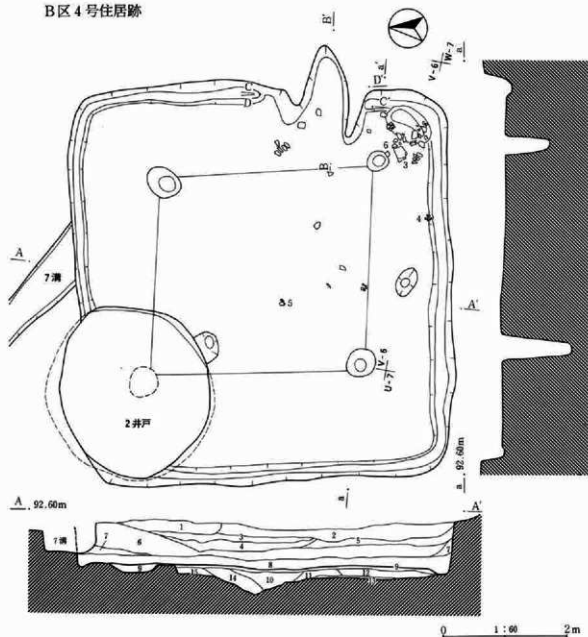
第93図 B区3号住居跡出土遺物

B区3号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
93-1 69	土師器 環	口径 10.2 器高 3.2	口縁内弯気味。	□ 横無で 体 荒削り	□ 横無で 体 荒削り	II ABCDE 酸化 橙	覆層土 完形
93-2 69	土師器 環	口径(12.0) 器高(2.6)	口縁内弯気味。	□ 横無で 体 荒削り	□ 横無で 体 荒削り	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片
93-3 69	須恵器 埴	底径(6.5) 器高(2.0)	付け高台低く、ハ の字状に開く。底 部肥厚する。	体 輪縁整形 底 回転糸切り	体 輪縁整形	II BCD 還元 明褐色	覆層土 底部
93-4 69	土師器 長割壺	口径(23.3) 器高(5.4)	口縁強く外反する。	□ 横無で・指頭圧痕 割 荒削り	□ 横無で 割 無で	I ABCDE 酸化 明赤褐色	覆土 口縁部
93-5 69	土師器 長割壺	口径(21.8) 器高(9.1)	口縁外反する。割 部の膨らみ弱い。	□ 横無で・輪状痕 割 荒削り	□ 横無で 割 無で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 破片
93-6 69	土師器 長割壺	口径(22.9) 器高(10.2)	口縁外反する。割 部の膨らみ弱い。	□ 横無で 割 横無で後削り	□ 横無で 割 荒削り	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆層土 破片

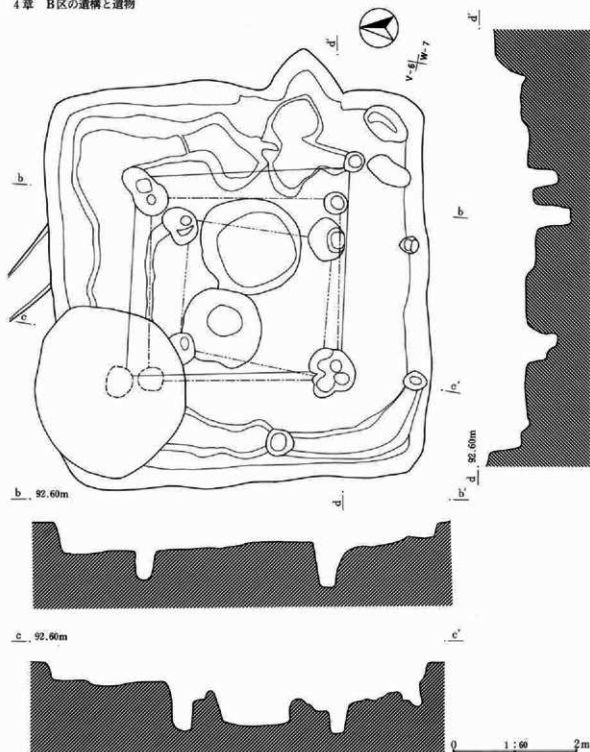
図版番号 PL	器 形	注量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
93-7 69	土師器 長胴壺	胴部最大径 (21.2) 器高(24.2)	胴部の膨らみは弱 い。	刷 瓦削り	刷 瓦当灰・輪模痕	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片
93-8 69	須恵器 短頸壺	口径(12.8) 器高(11.8)	胴部張る。胴部及 び胴部上位に凹線 走る。	刷 輪模整形	刷 輪模整形	I BCD 還元 灰	覆土 胴部刺摩痕・自然 釉 1/2
図版番号 PL	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴			出土状況・備考
93-9 69	紡 錘 車	4.4×孔径0.8×1.5 45	滑石	側面丸底削り美、工具により放射状に刻みを入れている。 表面全体が磨かれている。			覆土

B区4号住居跡



第94図 B区4号住居跡

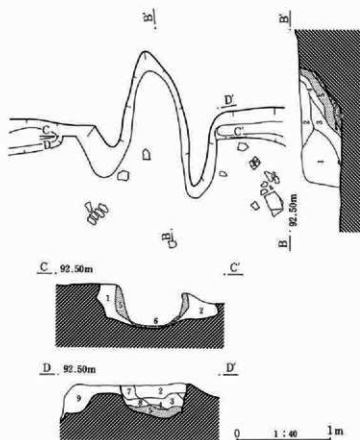
4章 B区の遺構と遺物



B区 4号住居跡

1 黄褐色土層 柔らかく粘性あり。ロームブロックを多量に含む。 2 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。ロームブロック、FPを含む。 3 暗褐色土層 やや固く粘性少しあり。ローム粒、炭化物を少量、焼土粒を多量に含む。 4 黒褐色土層 柔らかく粘性少しあり。ロームブロック、FPを含む。焼土粒を少量含む。 5 茶褐色土層 固く、粘性あり。ローム粒、FPを含む。 6 暗褐色土層 非常に固く締まり粘性あり。ロームブロック、焼土粒を含む。 7 黒褐色土層 柔らかく粘性少しあり。多量のローム粒を含む。 8 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。柔らかく粘性あり。 9 暗褐色土層 床面。ロームブロックを含む。締まり非常に固い。 10 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。黒色ブロックを含む。 11 黒褐色土層 ロームブロック、炭化物を少量含む。粘性ややあり。締まり弱い。 12 暗褐色土層 ローム粒を含む。粘性、締まりややあり。 13 暗褐色土層 粘性、締まりあり。 14 暗褐色土層 ロームブロック、黒色ブロックを含む。粘性、締まりややあり。 15 暗褐色土層 14層より暗い色調。ロームブロックを含む。粘性、締まりあり。

第95図 B区4号住居跡掘り方



第96図 B区4号住居跡カマド

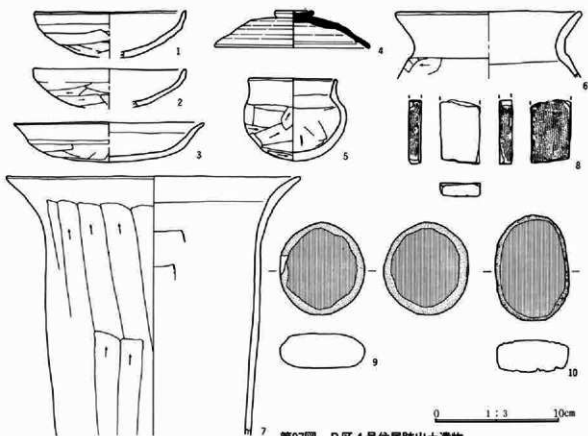
B区4号住居跡(奈良時代)(第94~97図, PL.42・43・69)
位置 U・V・6・7グリッド内に位置し、2号井戸及び7号溝によって壊されている。
形状 一辺6.4mの方形を呈す。
面積 約39.6m²
覆土 上面はやや乱れた埋土であり、下層はローム粒子、焼土、炭化物を含む。
壁高 確認面より、約65cm前後を測る。
床面 竈前から住居跡中央部にかけて堅く踏み締められ、中央部には貼り床が見られた。
周溝 南東隅を除き全周する。幅18cm~30cm、深さ9cmを測る。
竈 東壁南寄りの壁の延長線上に燃焼部を構築し、地山塊を含む褐色土を袖として利用する。燃焼

部形状はV字形を呈し、内壁は赤くアーチ状に焼土化している。煙道部へは緩やかに立ち上がる。燃焼部規模は、奥行き1.0m、幅0.38m、深さ0.32mを測る。
柱穴 調査時に3本の柱穴を検出したが、掘り方調査時に各柱穴脇より複数のビットを確認し、これらは建て替え時の柱穴と考えられる。
貯蔵穴 南東隅において遺物集中する部分があり、下層より不定形の掘り込みを検出した。
遺物 貯蔵穴及び竈周辺部にかけて集中する。
備考 掘り方調査時に住居跡中央部より2カ所の円形を呈する床下土坑を検出した。また、4本1組の柱穴を3組確認し、2度の建て替えが行われたと考えられる。

カマド

- 1 暗茶褐色土層 焼土ブロックを多量に含む。ロームブロックを僅かに含む。As-Bあり。締まり強く、粘性あり。
- 2 黒褐色土層 焼土粒、ローム粒を少量含む。粘性あり。
- 3 暗褐色土層 焼土ブロック、ローム粒を少量含む。
- 4 暗黄褐色土層 ソフトローム主体。下部にやや赤味をもつ。粘性あり。
- 5 赤褐色土層 カマド粘土の焼けたもの。
- 6 灰色土層 灰層。
- 7 暗茶褐色土層 焼土粒、As-Bを少量含む。粘性ややあり。
- 8 暗黄褐色土層 ソフトローム主体。下部焼けている。粘性ややあり。
- 9 暗黄褐色土層 焼土ブロック、ロームブロックを含む。

4章 B区の遺構と遺物



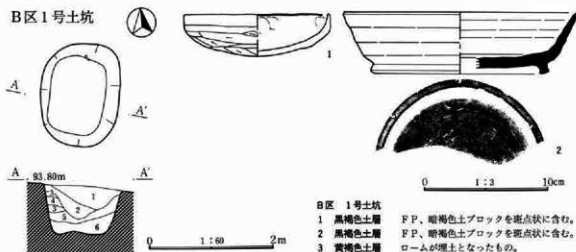
第97図 B区4号住居跡出土遺物

B区4号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器種	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
97-1 69	土師器 杯	口径(12.0) 器高(3.6)	口縁外傾気味。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半笠削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 1/4
97-2 69	土師器 杯	口径(12.1) 器高(3.1)	口縁直立する。	口 横撫で 体 笠削り・摩滅顯著	口 横撫で 体 摩滅顯著	I ABCDE 酸化 橙	覆覆土 1/4
97-3 69	土師器 杯	口径(15.0) 器高 3.1	口縁外反する。偏 平な丸底。	口 横撫で 体 笠削り・摩滅顯著	口 横撫で 体 摩滅顯著	I ABCDE 酸化 橙	覆土 1/4
97-4 69	須恵器 蓋	口径 12.3 胴径 2.8 器高 2.9	環状積み。体部弱 く外反し。カエリ は小さく鋭い。	口～体 縦縞整形 天井部 右回転削り	口～体 縦縞整形	I ACD 還元 灰	硬質 1/4
97-5 69	土師器 小形壺	口径 6.9 器高 6.5	口縁外反気味。胴 部球形を呈する。	口 横撫で 胴 笠削り	口 横撫で 胴 笠削り	I BCDE 酸化 橙	覆土 1/4
97-6 69	土師器 壺	口径(14.5) 器高(5.3)	口縁外反する。	口 横撫で 胴 笠削り	口 横撫で 胴 笠削り	I BCDE 酸化 鈍い青 口縁部	覆土 1/4
97-7 69	土師器 長胴壺	口径 23.3 器高 20.5	口縁外反する。胴 部膨らみ弱く直線 的。	口 横撫で 胴 笠削り	口 横撫で 胴 笠削り	III BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
図版番号 Pl.	器種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
97-8 69	砥	石 5.0×3.2×1.0 26	石英粗面岩	2面使用。		覆覆土	
97-9 69	磨	石 7.3×6.8×2.7 216	安山岩	両面に磨耗痕が認められる。		覆土	
97-10 69	磨	石 7.3×5.8×2.5 130	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。		覆土	

【2】 土坑・ピット群・柵列

B区1号土坑



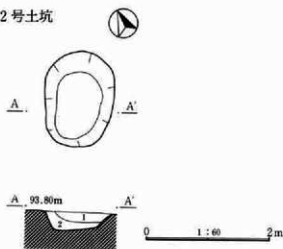
B区1号土坑

- 1 黒褐色土層 F P、暗褐色土ブロックを斑点状に含む。
 2 黒褐色土層 F P、暗褐色土ブロックを斑点状に含む。
 3 黄褐色土層 ロームが埋土となったもの。
 4 暗黄褐色土層 サラサラしている。
 5 暗黄褐色土層 ロームを主体。暗黄褐色土を含む。
 6 暗黄褐色土層 ロームを主体。暗黄褐色土を含む。

B区1号土坑遺物観察表

図版番号 PL.	遺物 種類	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	粘土・焼成・色調	出土状況・備考
98-1 69	土師器 坏	口径(11.4) 器高 3.3	口縁直立する。	口 横溝で 体 上半不明瞭な線で 下半直削り	口 横溝で 体 削で	1 BCDE 酸化 明褐色	覆土 埋付着 1/2
98-2 69	須恵器 埴	口径(18.3) 底径(13.1) 器高 4.8	付け高台低く、角 高台。体部直線的 に外傾する。	口~体 縦線形 底 回転攪切り	口~体 縦線形	1 CDE 還元 灰	覆土 1/2

B区2号土坑



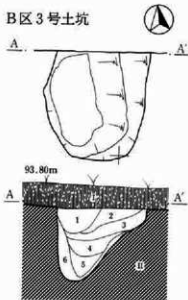
B区2号土坑

- 1 暗褐色土層 やや固く粘性あまりない。ローム粒、F Pを含む。
 2 黄褐色土層 ロームを多量に含む。

B区3号土坑

- 1 黒褐色土層 耕作土。白色の軽石を含む。 II ローム層 地山。 1 暗褐色土層 ロームを含み、白色の軽石を含む。 2 黄褐色土層 ロームが埋土となったもの。暗褐色土を含む。 3 暗褐色土層 1層より明るい色調。 4 黒褐色土層 暗褐色土を含む。 5 黒褐色土層 4層の類似層。4層より明るい色調。 6 黄褐色土層 2層の類似層。2層より明るい色調。

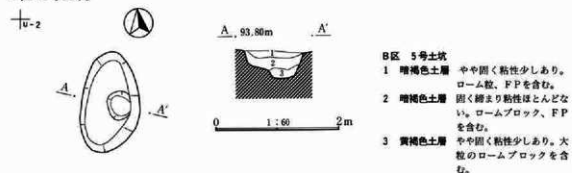
B区3号土坑



第98図 B区1～3号土坑と出土遺物

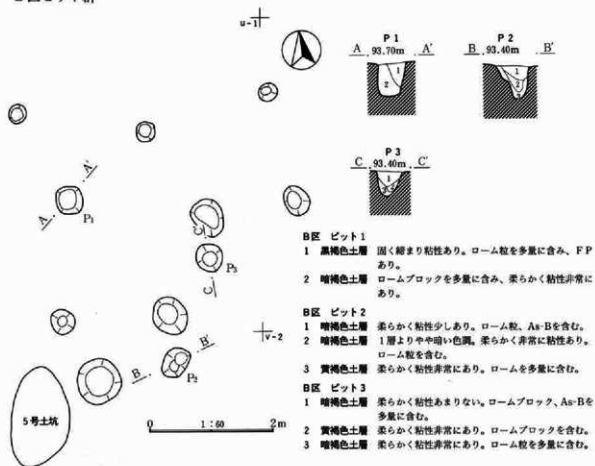
4章 B区の遺構と遺物

B区5号土坑



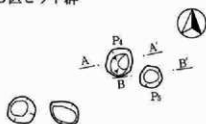
第99図 B区5号土坑

B区ピット群



第100図 B区ピット群

B区ピット群

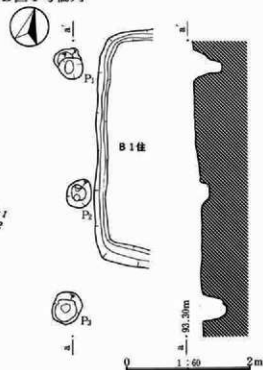


第101図 B区ピット群

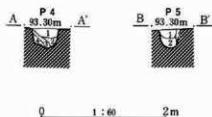
B区 ピット4

- 1 茶褐色土層 ロームブロックを含む。柔らかく粘性あまりない。As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 柔らかく粘性あり。ローム粒、As-Bを少量含む。
- 3 暗褐色土層 2層よりやや明るい色調。ロームブロックを含む。柔らかく粘性あり。
- 4 黄褐色土層 粘性あまりない。多量のロームを含む。

B区1号棚列



第102図 B区1号棚列



B区 ピット5

- 1 黄褐色土層 柔らかく粘性あまりない。ロームブロックを含む。As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 柔らかく粘性あまりない。ロームブロックを含む。As-Bを少量含む。
- 3 黄褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。多量のロームを含む。

B区1号土坑 (第98図、PL.43・69)

V-2グリッド内に位置し、重複は無い。形状は隅丸長方形を呈し、長径1.6m、短径1.2m、深さ70cmを測る。覆土は6層に分かれた。遺物は土師器環と轆轤整形底部調整を施す須恵器塊が出土している。時期は8世紀代と考えられる。

B区2号土坑(第98図、PL.43)

U-2グリッド内に位置し、重複は無い。形状は楕円形を呈し、長径1.5m、短径1.1m、深さ25cmを測る。

B区3号土坑(第98図、PL.44)

V・W-0グリッド内に位置し、重複は無いが調査区外に伸びる。形状は楕円形を呈し、規模は長径1.7m、短径1.6m、深さ1.1mを測る。

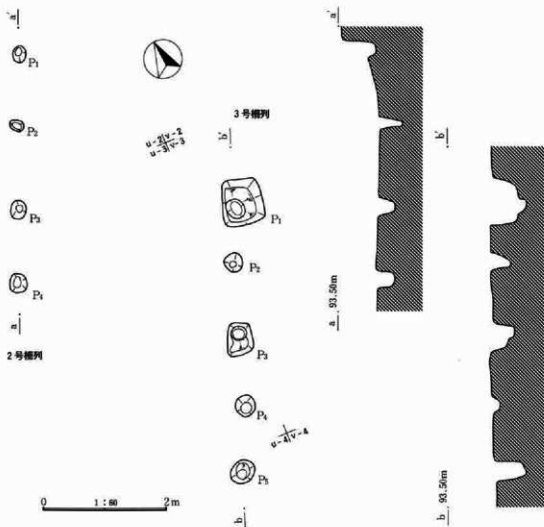
B区5号土坑(第99図、PL.44)

U-2グリッド内に位置し、重複は無い。形状は楕円形を呈する。規模は長径1.6m、短径0.9m、深さ40cmを測る。

その他にU-1、V-1のグリッド内にピット群(第100・101図)を検出した。覆土及び規模等は2種類に分けられるが、配置等に規則性は見られない。

4章 B区の遺構と遺物

B区2・3号柵列



第103図 B区2・3号柵列

B区1号柵列(第102図)

X-1・2グリッド内に位置し、1号住居跡に隣接する。主軸方位はN-17°-Wに傾く。柵列は3本(2間)のピットが直線的に並び、柱穴間はP₁-P₂2m、P₂-P₃1.8mを測る。

B区2号柵列(第103図、PL.47)

U-2・3グリッド内に位置し、主軸方位はN-26°-Eに傾く。柵列は4本(3間)の小ピットが直線

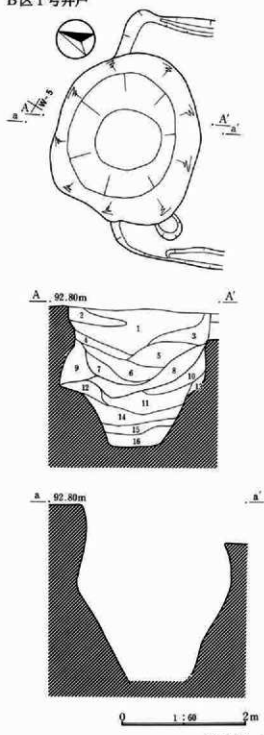
的に並び、柱穴間はP₁-P₂1.15m、P₂-P₃1.3m、P₃-P₄1.15mを測る。

B区3号柵列(第103図、PL.47)

U・V-3グリッド内に位置し、N-26°-Eに傾き2号柵列とはやや開く方向に伸びる。柵列は5本(4間)の小ピットが直線的に並び、柱穴間はP₁-P₂0.9m、P₂-P₃1.1m、P₃-P₄1.1m、P₄-P₅1.1mを測る。柱穴規模はP₁、P₅の掘り方が大きい。

【3】井戸

B区1号井戸



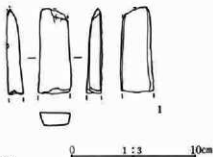
第104図 B区1号井戸と出土遺物

B区1号井戸(第104図, PL.44・69)

T・U-5グリッド内に位置し、2号住居跡を掘り込み掘削される。平面形は楕円形状を呈し、断面形は中段を有し、上段部はややハングシ、下段は台形状を呈する。底面は平坦であり、底径は1mを測る。また、全体の規模は、長径2.7m、短径2.3m、深さ2.2mを測る。覆土はローム塊や黒褐色土の混土が入り混じった状態で入り人為的な一括埋土と考えられる。

B区1号井戸

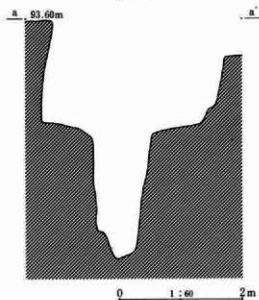
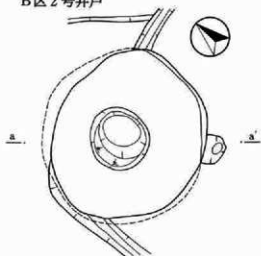
- 1 暗褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロックを少量含む。炭化物も含む。
- 2 黄褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性少しあり。多量のロームブロックからなる。
- 3 暗褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。少量のローム粒、炭化物を含む。
- 4 茶褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ローム粒を多量に、少量の炭化物を含む。
- 5 灰褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。大粒の白色粘土、ロームブロック、炭化物を少量含む。
- 6 暗褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。少量のローム粒を含む。
- 7 茶褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ローム粒、炭化物を多量に含む。
- 8 暗褐色土層 やや固く締まり粘性非常にあり。ローム粒を少量含む。
- 9 黄褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性非常にあり。壁の崩れ。
- 10 黒褐色土層 やや固くしまっている。粘性非常にあり。ロームブロックを少量含む。
- 11 暗褐色土層 非常に柔らかく粘性にとむ。ロームをサンドイッチ状に含む。
- 12 黄褐色土層 固く締まり粘性非常にあり。多量のロームからなる。
- 13 黄褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。壁の崩れ。
- 14 黒褐色土層 柔らかく締まり悪い。粘性非常にあり。
- 15 黄褐色土層 ロームブロックの層。
- 16 黒褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロックを含む。



B区1号井戸遺物観察表

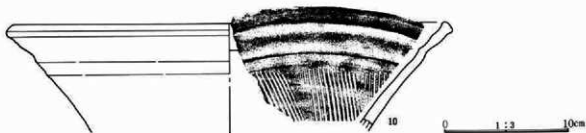
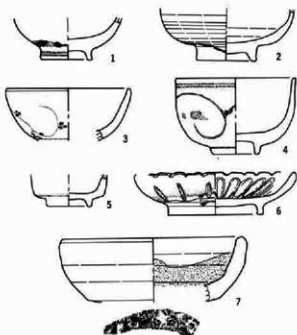
図版番号 PL.	物種	長×幅×厚cm 質量g	石材	特	備	出土状況・備考
104-1 69	紙石	6.7×2.6×1.1 28	石英粗面岩	1面使用。		覆土

B区2号井戸

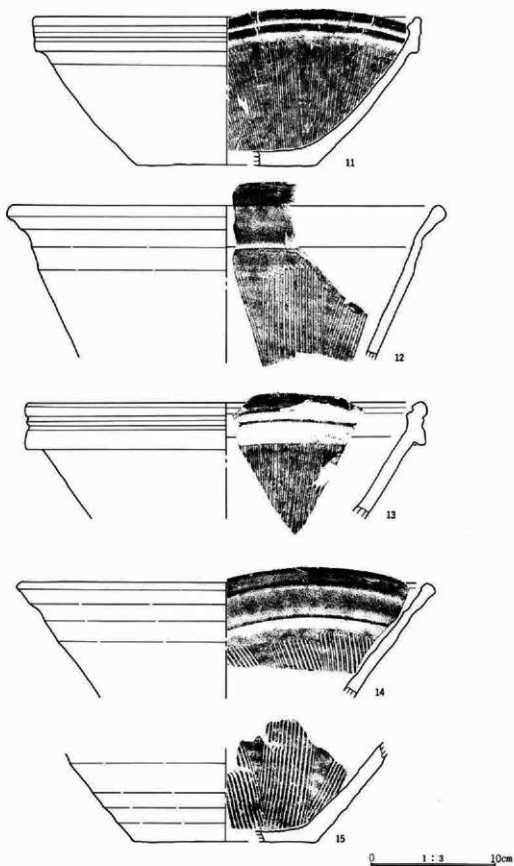


B区2号井戸(第105~107図, PL.44・69・70)

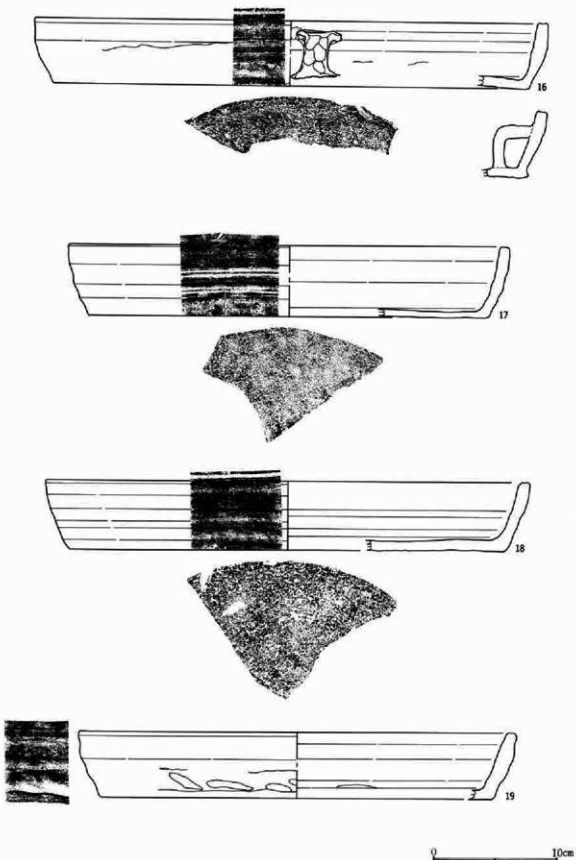
U-6グリッド内に位置し、4号住居跡を掘り込み掘削される。平面形は円形状を呈し、断面形はテラス状の明瞭な中段を有する。上段部は上端長径2.8m、短径2.4m、深さ1.7mを測り、垂直又はややハングする。下段部は、長径1m、短径0.9m、深さ2mを測り、中位がややハングするが直線的に掘り込まれている。覆土は記録されていないが、1号井戸同様の覆土であったと思われる。出土遺物は陶磁器類の碗類と摺鉢等の破片が出土している。



第105図 B区2号井戸と出土遺物(1)



第106図 B区2号井戸出土遺物(2)

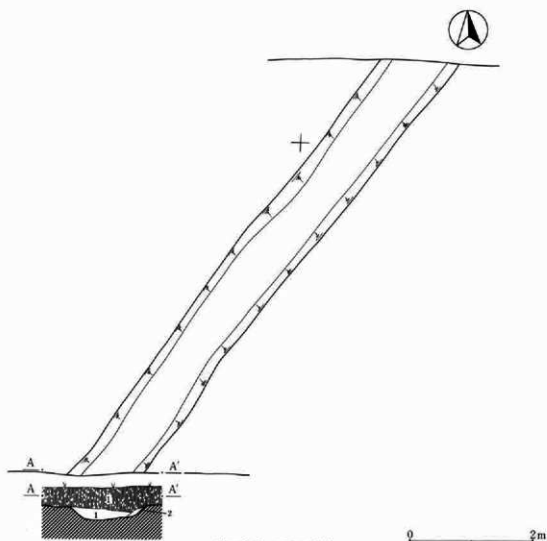


第107図 B区2号井戸出土遺物(3)

B区2号井戸出土遺物調査表

図版番号 PL	類別 器種	度量 (cm)	特 徴	色調・残存	出土状況・備考
105-1 69	肥前磁器 碗	底径 4.0 器高 (3.4)	高台内縁な圓縁。内底使用により釉摩滅。	灰白 △	覆土 波佐見系 17C末～18C中
105-2 69	瀬戸・美濃 陶器 碗	底径 4.8 器高 (4.1)	脚輪。高台胎以下無釉。高台径やや小さい。	オリーブ △	覆土 17C後～18C中
105-3 69	肥前磁器 碗	口径 (9.7) 器高 (4.1)	口縁部器壁厚。染付は不明瞭。	明緑灰 破片	覆土 波佐見系 17C末～18C中
105-4 70	肥前磁器 碗	口径 (9.4) 底径 (3.6) 器高 6.0	陶胎染付。やや小型の碗。外面唐草文。	灰 △	覆土 16C末～17C中
105-5 69	瀬戸・美濃 陶器 灰土し?	底径 3.4 器高 (2.5)	体部外面灰胎。内面と高台胎以下無釉。	灰白 底部	覆土 時期不詳 (江戸時代)
105-6 70	瀬戸・美濃 陶器 菊 皿	口径 (12.8) 底径 (7.6) 器高 3.3	内面菊花は型押し。内面花卉内にも布目痕。外面花卉はヘラによる押圧で間隔広い。	浅黄 △	覆土 17C
105-7 70	在土土器 香 炉	口径 (14.2) 底径 (10.2) 器高 (5.0)	口縁調整。底部外面に3個の半球形の脚が貼付されていたと、推定される。	灰白 破片	覆土 18Cか
105-8 70	在土土器 火 鉢	底径 (26.6) 器高 (8.0)	火鉢の高台。貼り付け部より本体から剝離。	灰黄 破片	覆土 時期不詳 (江戸時代)
105-9 70	在土土器 手あぶり	厚 (1.0)	手あぶりの高台か。円形の透かしが認められる。	鈍い黄橙 破片	覆土 時期不詳 (江戸時代)
105-10 70	瀬戸・美濃 陶器 漆 鉢	口径 (34.6) 器高 (8.5)	脚輪。口縁内面の段差はなく、低い突帯となる。	暗赤褐 破片	覆土 19C前
106-11 70	堺・明石 陶器 漆 鉢	口径 (30.4) 底径 (14.4) 器高 11.7	焼締陶胎。外面口縁部下へ削り。縁帯の張り小さく、口縁内面に凸帯を透らす。	赤褐 △	覆土 18C中
106-12 70	瀬戸・美濃 陶器 漆 鉢	口径 (34.0) 器高 (12.0)	脚輪。口縁部を外面に折り返すが、外面に段を有さない。	暗赤褐 破片	覆土 19C前
106-13 70	堺・明石 陶器 漆 鉢	口径 (31.0) 器高 (9.2)	焼締陶胎。口縁の縁帯やや発達する。内面の凸帯は段差となる。	鈍い赤褐 破片	覆土 18C後
106-14 70	瀬戸・美濃 陶器 漆 鉢	口径 (32.0) 器高 (9.0)	脚輪。口縁部形態は10と同じ。	極暗赤褐 破片	覆土 19C前
106-15 70	瀬戸・美濃 陶器 漆 鉢	底径 (14.6) 器高 (6.9)	脚輪。外底無釉。	鈍い赤褐 破片	覆土 時期不詳 (江戸時代)
107-16 70	在土土器 内耳焙烙	口径 (41.0) 底径 (38.0) 器高 5.2	口縁部直線的に開く。口縁部外面保付着。	灰黄褐 破片	覆土 江戸時代
107-17 70	在土土器 内耳焙烙	口径 (35.2) 底径 (32.0) 器高 5.6	口縁部やや内開する。外面は線状に凹む。体部下端へ削り。	黒 破片	覆土 江戸時代
107-18 70	在土土器 内耳焙烙	口径 (38.8) 底径 (34.8) 器高 5.5	口縁部肥厚する。外面体部下端へ削り。口縁部凹凸。口縁部外面保付着。	黒 破片	覆土 江戸時代
107-19 70	在土土器 内耳焙烙	口径 (35.0) 底径 (31.6) 器高 5.2	口縁部肥厚する。外面体部下端へ削り。外面保付着する。	黒 破片	覆土 江戸時代

【4】 溝



第108図 B区1号溝

B区1号溝

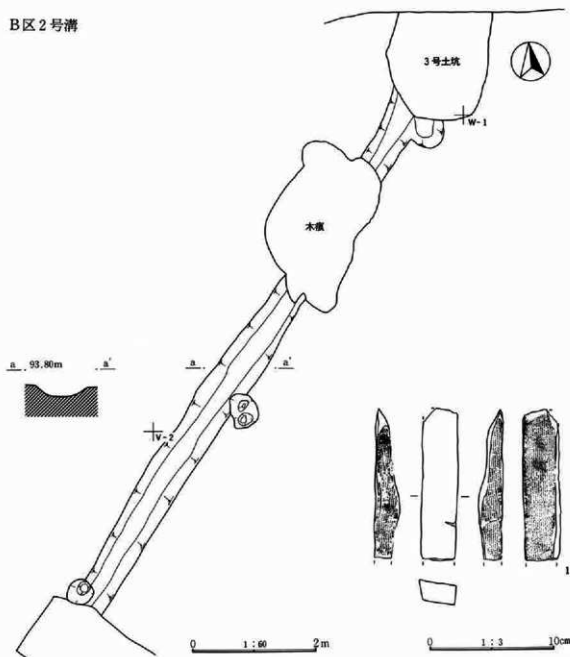
- 1 表土
- 1 暗褐色土層 粘性ない。ロームブロックを含む。
- 2 黄褐色土層 壁の崩れ。

B区1号溝(第108図、PL.44)

O-1・2、P-0・1グリッド内に位置し、主軸方位はN-40°-Eに傾く。確認全長は8.5mを測り、深さ

15cmの浅い掘り込みであり、断面船底状を呈する。掘り込み面は白色軽石粒子を含む黒色土を掘り込む。

B区2号溝



第109図 B区2号溝と出土遺物

B区2号溝(第109図、PL.44・70)

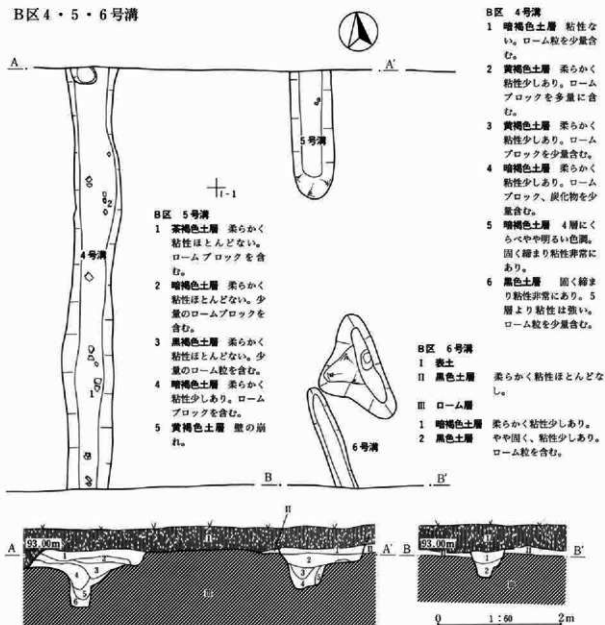
U-2、V-1・2グリッド内に位置し、主軸方位はN-40°-Eに傾く。調査区北端で3号土坑を掘り込み、中央部では後世の倒木痕に横されている。確認

全長は11mを測り、深さ15cmの浅い掘り込みであり、断面船底状を呈する。掘り込み面は1号溝同様白色軽石粒子を含む黒色土を掘り込む。出土遺物は砥石が1点出土している。

B区2号溝遺物観察表

図録番号 PL.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴	出土状況・備考
109-1 70	砥 石	12.0×2.9×2.0 86	石英質黒岩	1面使用。	覆土

B区4・5・6号溝



第110図 B区4・5・6号溝

B区4号溝(第110図、PL.46・70)

H-0・1グリッド内に位置し、主軸方位はN-7°-Eに傾く。確認全長は6.7m、深さ0.9mを測る。断面形状は台形を呈する。掘り込み面は1号溝同様白色軽石粒子を含む黒色土を掘り込む。出土遺物は陶磁器片や図化した内耳鍋・砥石等が出土している。

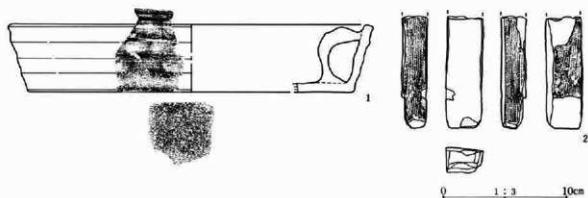
B区5号溝(第110図、PL.46)

I-1グリッド内に位置し、主軸方位はN-5°

-Eに傾く。確認全長は2m、深さ0.36mを測る。断面形状は台形を呈する。掘り込み面は1号溝同様白色軽石粒子を含む黒色土を掘り込む。

B区6号溝(第110図、PL.46)

I-1・2グリッド内に位置し、主軸方位はN-16°-Wに傾く。確認全長は1.7m、深さ0.25mを測る。断面形状は台形を呈する。掘り込み面は1号溝同様白色軽石粒子を含む黒色土を掘り込む。

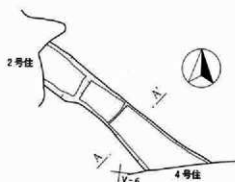


第111図 B区4号溝出土遺物

B区4号溝遺物観察表

図版番号 PL.	類別 器種	法量 (cm)	特 徴		色調・残存	出土状況・備考
111-1 70	在土土器 内凹網格	口径(31.2) 底径(28.2) 器高 5.8	幅広い耳を貼り付ける。口縁部外面保付着。		黒 破片	覆土 江戸時代
図版番号 PL.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴	出土状況・備考	
111-2 70	砥 石	8.9×3.0×2.0 82	石英粗面岩	1割使用。	覆土	

B区7号溝



B区 7号溝

- 1 黄褐色土層 やや固く粘性あり。ローム粒・ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや固く粘性あり。ロームブロックを少量含む。

0 1:60 2m

第112図 B区7号溝

B区7号溝(第112図、PL.46)

U-5グリッド内に位置し、2号・4号住居跡を掘り込む。主軸方位はN-54°-Wに傾く。確認全長

は3m、深さ0.32mを測る。断面形状は方形を呈する。掘り込み面は1号溝同様白色軽石粒子を含む黒色土を掘り込む。

【5】 水田遺構

B区 水田遺構(平安時代) (第113・114図、PL.48)

本遺構は、B区台地西側の沖積地において検出されたAs-Bにより埋没した水田遺構である。

本沖積地は、宮川により形成され、A区(大日塚)台地との間にあり、谷幅約300mを測る。上流部は枝分かれした幾つかの小谷を含みながら鶴ヶ谷遺跡の立地する台地東側を抜け、C区(大道)へ続き、更に柳窪遺跡のある荒口地区へと続く。

本調査区は支線道路38号の調査であり、宮川左岸部の最も沖積地が台地を挟り込んだ部分に位置する。調査区は、南北方向に長さ75m、幅8mのトレンチ状の調査区であり、南端部においては台地部へ立ち上がりを確認した。調査区内は南北両方向から中央部に向かい傾斜しており、中央部やや南寄りが最も低く標高約88.2mを測り、北端部は89.2m、南端部台地上では約88.9mを測る。

検出状況は、調査区北半分には現況の水田耕作土下にローム盛土が確認され、戦後台地部の削平が行われロームの盛土が成された。更に掘り下げたところ1~1.4mの深さでAs-Bの純層を確認した。

遺構面は傾斜に沿う形に東西南北の畦畔が見られ、南北方向の畦畔はN-67-Wに傾く。畦畔は傾斜方向である南北が通り、直交する東西方向の畦畔に水口が設けられる。畦畔規模は、上幅20~24cm、最大30cmを測り、下幅は40cm前後、最大50cmを測る。高さは4cm前後を測り明瞭な畦畔が確認できた。しかし、大畦や水路等は検出されなかった。

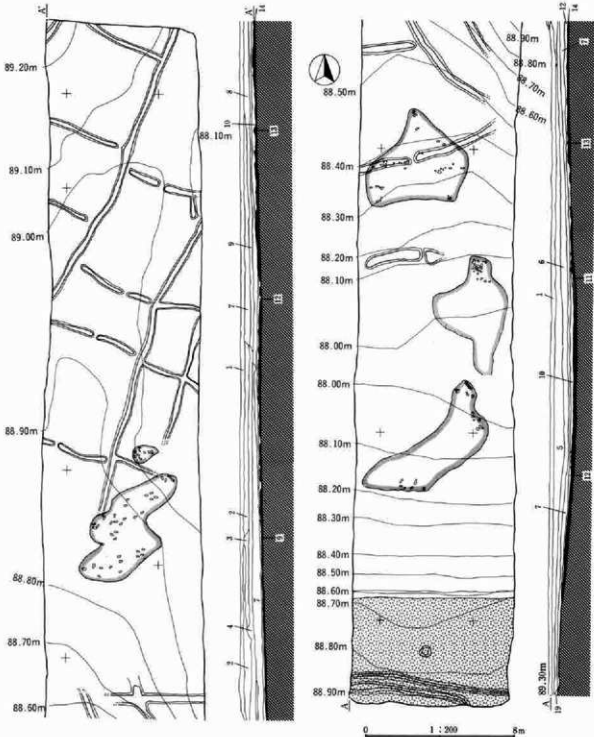
各水田面は水平にならされ、各水田間には僅か数cmの高低差が見られ、小さな棚田状に区画される。

水口は開いた状態で検出され、東西畦畔中央部1か所から多い所で両端部と中央の3ヶ所が切られる。水の移動は北から南に流れるように配置され、部分的に水口の無い水田も見られる。

調査区南端ではローム台地への立ち上がりが検出され、縁辺部に東西方向に平行に走る2条の溝が検出された。1号溝は上幅約40cm、下幅約20cm、深さ

約8cmの規模を持つ。2号溝は上幅約30cm、下幅約20cm、深さ15cm前後の規模を持つ。

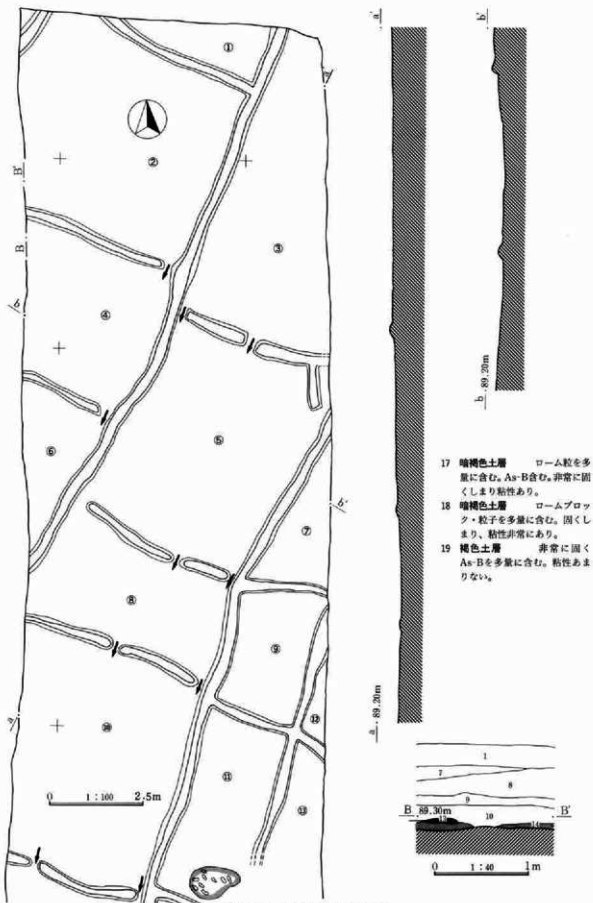
No.	水田面積
①	(4.51㎡)
②	(27.45㎡)
③	(23.46㎡)
④	(13.57㎡)
⑤	24.86㎡
⑥	(5.24㎡)
⑦	(4.41㎡)
⑧	15.60㎡
⑨	6.78㎡
⑩	(25.70㎡)
⑪	(11.04㎡)
⑫	(0.77㎡)
⑬	(7.29㎡)



第113図 B区As-B下水田跡

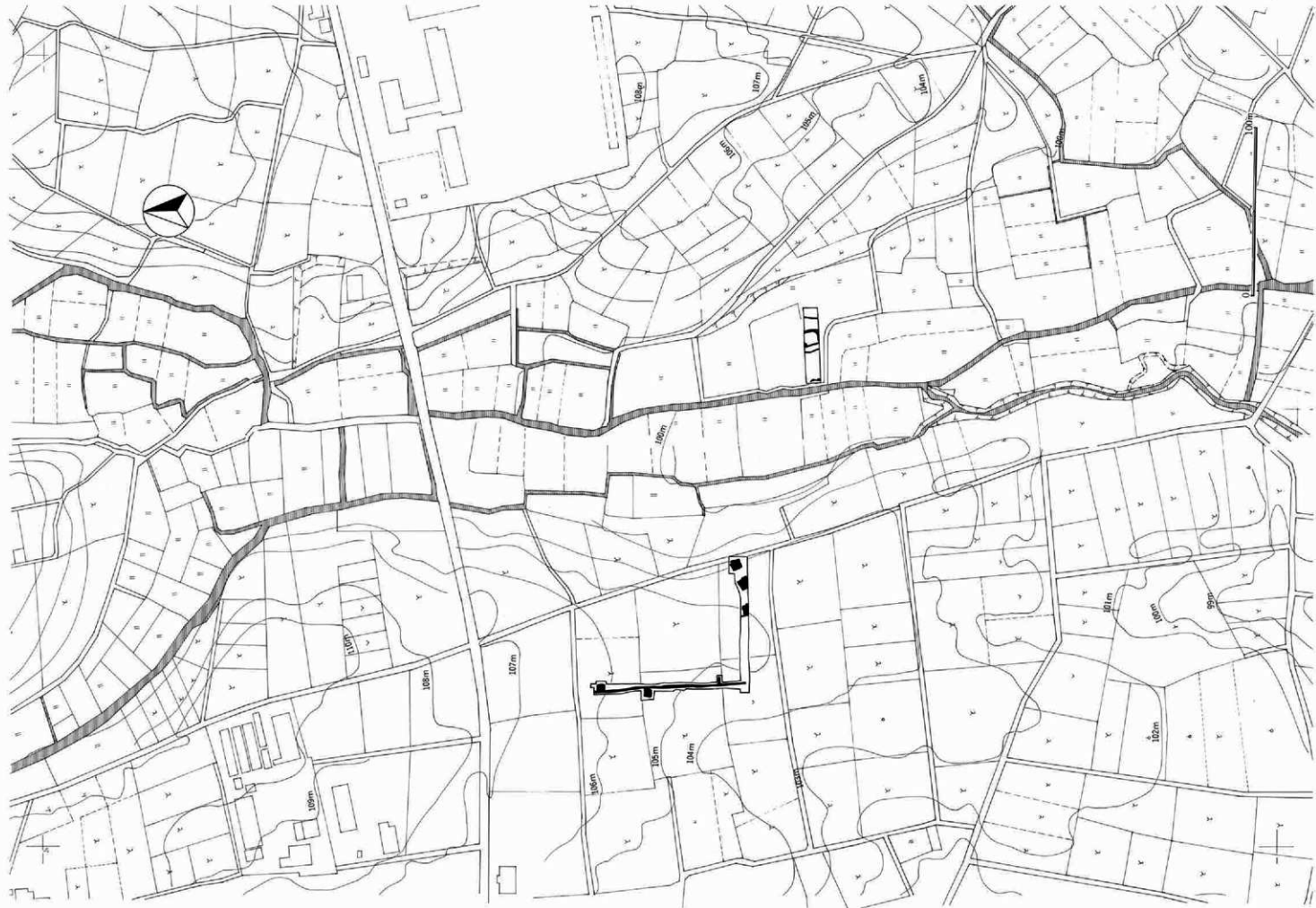
B区 水田跡

1 現水田 2 ローム盛土 3 茶褐色土層(盛土) 4 旧水田 5 灰褐色土層 やや固く粘性少しあり。 6 灰褐色土層 固く粘性非常にあり。 7 灰色土層 上層鉄分沈着あり。 8 茶褐色土層 鉄分沈着層。 9 灰褐色土層 下の層より明るい。やや固く粘性あり。As-Bを少量含む。 10 黒灰色土層 固く粘性にとむ。As-B含む。鉄分沈着あり。 11 黒褐色粘性土層 As-B少量含む。 12 黒灰色粘性土層 As-Bを多量に含む。 13 暗紫色土層 As-Bに伴う炭層。 14 As-B 15 灰褐色土層 As-B、ローム粒少量含む。非常に固く粘性あり。 16 灰褐色土層 非常に固く粘性あまりなし。As-Bローム粒含む。



第114図 B区As-B下水田跡

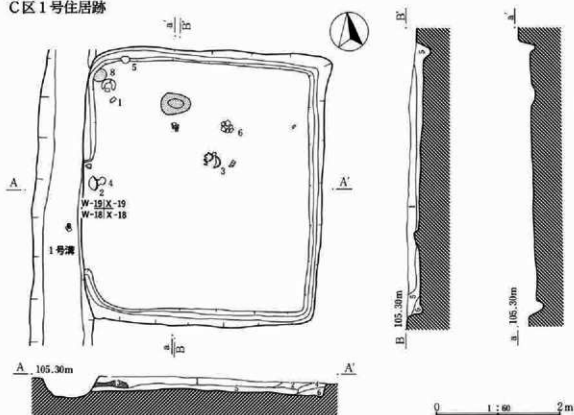
第5章 C区の遺構と遺物



第115图 C区全地形图

【1】 竪穴住居跡

C区1号住居跡



C区 1号住居跡

- 1 黒褐色土層 As-C多量を含む。粘性ややあり。締まり弱い。ローム粒下部に少量含む。
 2 暗黄褐色土層 As-C多量を含む。ローム主体。粘性あり。
 3 暗灰褐色土層 As-C主体。ローム粒、黒色粒含む。
 4 暗褐色土層 ロームブロック、黒色ブロックを含む。粘性、締まりややあり。
 5 暗黄褐色土層 黒色粒混じりの汚れたローム。粘性、締まりともに弱い。
 6 暗黄褐色土層 壁ロームが崩れたもの。ロームブロックを多量を含む。焼土粒を少量含む。粘性、締まり弱い。

第116図 C区1号住居跡

C区1号住居跡(古墳時代初期)(第116・117図、PL.50・70)

位置 W・X-18・19グリッド内に位置し、1号溝に西壁を築かれる。

形状 南北に長い長方形を呈し、規模は長辺4.35m、短辺3.9mを測る。主軸方位はN-9°-Eに傾く。面積 約15.6㎡。

覆土 大きく2層に分層でき中間にAs-Cのブロックが認められ、上層はAs-C混じりの黒色土、下層はローム塊を含む暗黄褐色土が堆積する。

壁高 確認面からの深さは、約20cmを測る。

床面 掘り方面とほぼ同一面であり、使用によりロームがくすみ若干締まりがある。

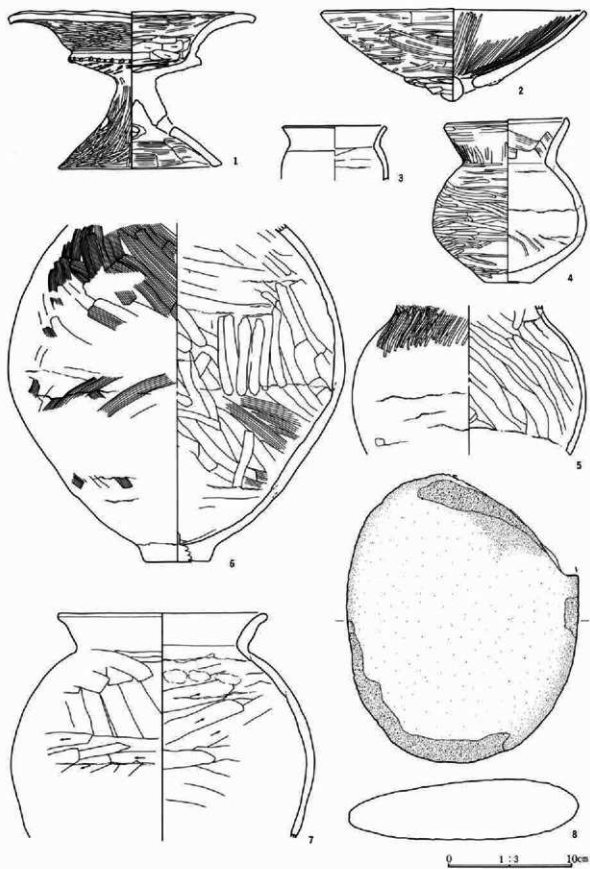
周溝 全周する。幅15cm、深さ10cmである。

炉 住居跡北西寄りに位置し、長径46cm、短径33cm、深さ7cmの規模を有し、楕円形状を呈する。壁面の焼けは弱く、灰・焼土等の堆積は見られない。

柱穴・貯蔵穴 いずれも検出されなかった。

遺物 住居跡中央部に壺類が、北西隅に高杯、台石が出土し、西壁壁際に小型壺に高杯の坏部(椗に転用)が重なった状態で出土している。

備考 覆土中にAs-Cブロックを含むことから4世紀代には既に廃絶され、埋まり始めた住居跡であり、2号住居跡と同一時期の住居跡である。

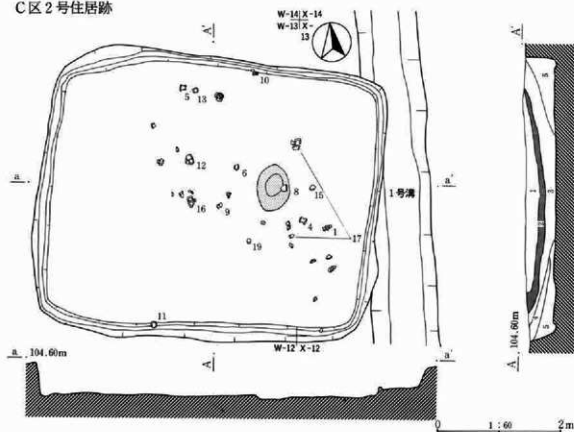


第117図 C区1号住居跡出土遺物

C区1号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器種	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
117-1 70	土師器 高 坏	口径 19.7 底径 12.9 器高 12.4	口縁反り返り、下半に明瞭な稜。胴中で緩曲気味。	坏 寛撫で後処理磨き・稜に等間隔の刻み 胴 寛撫で後処理磨き	坏 寛撫で・寛削り後処理磨き 胴 刷毛状工具の撫で	I ABCDE 酸化 褐色	覆土 脚部4孔 完形
117-2 70	土師器 高 坏	口径 21.0 器高 (7.4)	緩やかに内湾し、口縁端部面取り。下半稜を意図。	杯 寛削り後処理磨き	坏 放射状の処理磨き	I ABCDE 酸化 明黄色	覆土 焼成後の穿孔 坏部
117-3 70	土師器 小形甕	口径 (8.1) 器高 (4.3)	口縁外反する。胴部固く膨らむ。	口 横撫で 胴 撫で	口 横撫で 胴 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片
117-4 70	土師器 壺	口径 9.8 底径 3.8 器高 13.1	口縁外傾する。胴部中位に最大径。	口 寛磨き(縦後横方向) 胴~底 寛磨き	口 横撫で後処理磨き 胴 横撫で・寛出痕・輪横痕	II ABCDE 酸化 褐色	床面上 外面煤付着・丹影痕 完形
117-5 70	土師器 甕	胴部最大径 (18.6) 器高 (13.0)	球形状を呈す。	胴 上位撫で後刷毛目 中位~下位撫で・輪横痕	胴 指撫で?・輪横痕	I ABCDE 酸化 赤褐色	埋戻 内外面煤付着 破片
117-6 70	土師器 甕	底径 (5.1) 器高 (26.7)	胴部中位に最大径をもつ。底部肥厚する。	胴 刷毛目・意撫で・輪横痕 底 撫で	胴 横撫で・縦方向の指撫で・刷毛目・輪横痕	I BCDE 酸化 鈍い黄褐色	覆土 外面黒斑あり 1/2
117-7 70	土師器 甕	口径 16.5 器高 (18.5)	口縁外反する。胴部球形状を呈す。	口 横撫で 胴 寛撫で・中位位置削り	口 横撫で 胴 強い意撫で・指頭正痕・輪横痕	I ABCDE 酸化 鈍い黄褐色	覆土 外面黒斑あり 1/2
図版番号 PL	器種	長×幅×厚 cm 重量 g	石 材	特 徴		出 土 状 況・ 備 考	
117-8 70	台 石	22.8×18.3×4.7 2967	安山岩	全面に磨耗痕と煤の付着が認められる。		埋戻	

C区2号住居跡



第118図 C区2号住居跡

5章 C区の遺構と遺物

C区 2号住居跡

- 1 黒色土層 As-Cを多量に含む。 2 As-C層 部分的に1層及び3層のブロックが入る。 3 暗黄褐色土層 ロームを含む。
4 黒褐色土層 ロームを含む。 5 暗黄褐色土層 3層との類似層。3層よりやや暗い色調。炭化物を部分的に含む。

C区 2号住居跡(古墳時代初期) (第118~120図、PL.51・52・71)

位置 W・X-13グリッド内に位置し、1号住居跡同様1号溝に東壁を壊される。

形状 東西に長い長方形を呈し、長辺5.4m、短辺4.5m、深さ50cmの規模を有する。主軸方位はN-81°-Wに傾く。 **面積** 約25.2㎡。

覆土 1号住居跡同様中層にAs-Cブロックが見られるが、As-Cの入り方は1号住居跡とは異なり、本住居ではロームブロックを含む暗黄褐色土中にAs-Cブロックが含まれ、下層にはローム粒子及びブロックを含む地山混土の堆積が見られる。

壁高 確認面から50cmを測る。

床面 住居跡南側約1/3の部分に灰・炭化物の薄い広がりが見られ、中央部では僅かに高まりが見られ

若干硬化している。

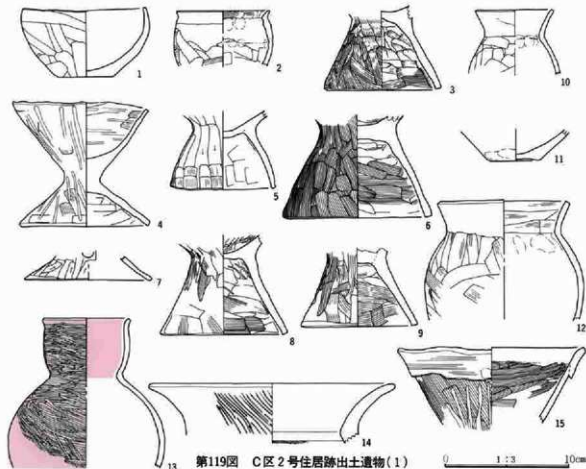
周溝 全周する。幅13cm、深さ5cmを測る。

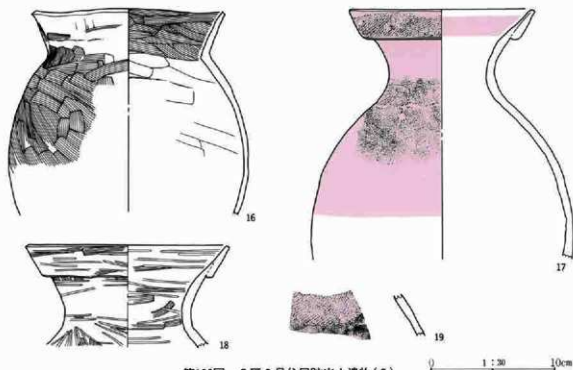
炉 住居跡中央東寄りに位置する。規模は長径75cm、短径53cmを測り楕円形を呈する。また、底面は丸底を呈し、深さ7cmを測る。炉内は僅かに赤茶色に焼土化する。

柱穴・貯蔵穴 いずれも検出されなかった。

遺物 住居跡中央部から東側に広がる。

備考 覆土最下層(床面直上)の土はロームブロック混じりの黄褐色土であり、地山主体の層である。この層が自然埋没である場合には本住居跡焼絶時間辺部には腐食土はなかったと考えられる。また人為的に埋め戻された状態であってもAs-C降下時には埋まりきっていなかったと考えられ、住居跡焼絶後の状態を考えるのに興味深い。





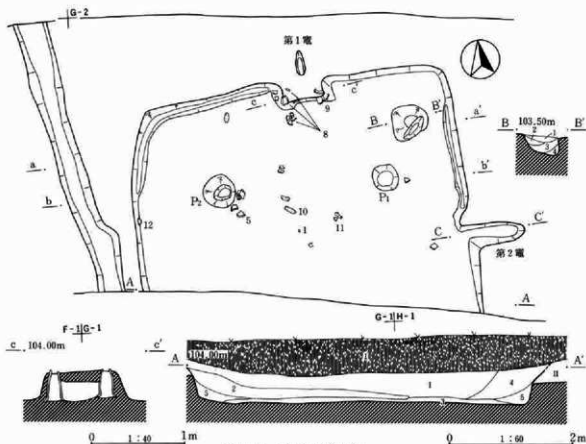
第120図 C区2号住居跡出土遺物(2)

C区2号住居跡遺物観察表

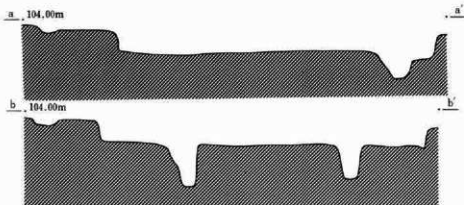
図版番号 PL	器種	法量(cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
119-1 71	土師器 鉢形土 器	口径 9.8 底径 4.5 器高 5.5	口縁内湾する。平底。	口へ体 撫で 底 撫で	口 横撫で 体 剥落著しく、不明瞭	II BCDE 酸化 橙	覆土 3/4
119-2 71	土師器 壺	口径(7.3) 器高(4.5)	口縁短く屈曲する。胴部球形状を呈する。	口 横撫で 胴 撫で・刷毛状工具の撫で	口 刷毛状工具の撫で 胴 撫で・輪横板・指頭 正直	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 3/4
119-3 71	土師器 台付壺	底径 8.7 器高(6.7)	脚部ハの字状に開く。	脚 刷毛目・接地面は面取り	脚 撫で 脚 上半指撫で 下半刷毛目	III ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 内外面保付着 脚部
119-4 71	土師器 高 環	口径 11.0 底径 10.0 器高 9.7	環部直線の外縁する。脚部低くハの字に開く。	環へ脚 刷毛状工具による撫で後擦磨き	環 刷毛状工具による撫で後擦磨き 脚 強い擦撫で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 環部多少・内 面に剥離痕・外面保付 着 ほぼ完全
119-5 71	土師器 台付壺	底径 7.8 器高(6.3)	脚部内湾する。接地面面取り。	脚 擦磨り後下位に刷毛目	脚 擦撫で 脚 擦撫で	II BCDE 酸化 淡黄	覆土 脚部
119-6 71	土師器 台付壺	底径 11.5 器高(8.1)	脚部ハの字状に開く。接地面面取り。	脚 刷毛目	脚 擦撫で 脚 上半指撫で 下半刷毛目	II ABCD 酸化 鈍い橙	覆土 脚部
119-7 71	土師器 高環?	口径(10.0) 器高(2.2)	脚部ハの字状に開く。	脚 擦撫で	脚 撫で	I ABCDE 酸化 淡黄橙	覆土 3+α孔 脚部
119-8 71	土師器 台付壺	底径 9.5 器高(8.0)	脚部やや外反する。接地面面取り。	屈曲部 寛による丁寧な撫で 脚 刷毛目	脚 撫で 脚 上半指撫で・直当底 下半刷毛目	II BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 内面保付着 脚部
119-9 71	土師器 台付壺	底径 8.9 器高(6.2)	脚部ハの字状に開く。接地面面取り。	脚 刷毛目	脚 擦撫で・刷毛目	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 脚部
119-10 71	土師器 壺	口径(6.0) 器高(5.2)	口縁外反し、頸部面取り。胴部扁平。	口 横撫で 胴 擦撫で	口 横撫で 胴 撫で・輪横板・指頭 正直	I ABCDE 酸化 褐色	破片 埋藏
119-11 71	土師器 壺	底径 4.0 器高(2.4)	平底。	胴 撫で・指頭正直 底 撫で	胴 撫で	II BCD 酸化 鈍い橙	破片 外面・断面保付 着 破片

図版番号 PL	器種 器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
119-12 71	土胎器 壺	口径 10.0 器高 (9.6)	口縁外反し、端部 面取り。胴部膨ら む。	口 横無で 胴 横無で後荒磨で	口 胎による横無で 胴 横無で・指頭圧痕	II BCD 酸化 橙	覆土 外面保付着 口縁部
119-13 71	土胎器 瓶 壺	口径 (6.8) 器高 (11.9)	口縁内弯し、端部 外反する。胴部球 形状を呈する。	口 横無で 口~胴 荒磨き	口 横無で 胴 胎無で・顕著な刮落	II BCD 酸化 赤褐色	覆土 丹彩 口縁部
119-14 71	土胎器 壺	口径 (19.2) 器高 (4.8)	口縁外反する。	口 刷毛目後横無で	口 横無で 胴 刷毛目工具の痕で	II ABCDE 酸化 明赤褐色	覆土 内面保付着 口縁部
119-15 71	土胎器 瓶又は 鉢	口径 (14.6) 器高 (6.5)	折り返し口縁。口 ~体部直線的に外 傾する。	口 粗い刷毛目・指頭痕 体 刷毛目後荒磨き	口 横無で・接合痕 体 刷毛目	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破砕後保付着 口縁部
120-16 71	土胎器 壺	口径 (14.8) 器高 (14.5)	口縁外傾し、端部 面取り。胴部球形 状を呈する。	口 横無で後刷毛目 胴 刷毛目	口 刷毛目 胴 横無で	II ABCD 酸化 橙	覆土 内外面炭化物付 着 口縁部
120-17 71	弥生式 土 器 壺	口径 (14.3) 器高 (19.8)	折り返し口縁。胴 部球状を呈する。	口~頸 縄文縄文原体 LR 刷磨き	口 縄文縄文原体LR 胴 胎無で	III ABCDE 酸化 鈍い黄褐色	覆土 丹彩・内外面保 付着 口縁部
120-18 71	土胎器 壺	口径 (15.8) 器高 (8.2)	折り返し口縁。端 部面取り。	口~頸 刷毛目後荒磨き	口~頸 刷毛目後荒磨き	II ABCDE 酸化 鈍い黄褐色	覆土 口縁部
120-19 71	弥生式 土 器 壺?	厚 0.6		刷 羽状縄文	刷 胎無で	I ABCDE 酸化 橙	覆土 外面丹彩 破片

C区3号住居跡

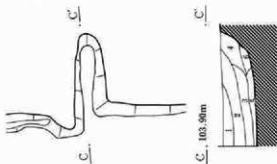


第121図 C区3号住居跡



C区 3号住居跡

- 1 黄土 II 黄土 I 暗褐色土層 ローム粒を含む。粘性弱く
にあり。
2 暗褐色土層 1層よりやや暗い。ロームブロックを少量含む。
粘性ややあり。
3 暗褐色土層 ロームブロックを少量に、FPを含む。粘性、
締まりややあり。
4 黒褐色土層 ローム粒、FPを含む。粘性、締まりやや弱い。
5 暗褐色土層 ロームブロックを含む。粘性、締まり弱い。



第2カマド

- 1 暗黄褐色土層 FPを含む。
2 暗黄褐色土層 1層よりやや暗い色調。黒色粒、焼土粒を少量
含む。締まり強い。
3 暗茶褐色土層 焼土粒を含む。粘性あり。
4 黄褐色土層 締まり、粘性弱い。
5 暗黄褐色土層 ロームブロックを含む。
6 灰白色土層 粘性にとむ。

0 1:60 2m

ビット

- 1 暗黄褐色土層 黒色ブロックを含む。粘性弱い。
2 黄褐色土層 粘性にとむ。やや締まり弱い。
3 黄褐色土層 やや灰色を帯びる。粘性にとむ締まり強い。
4 黄褐色土層 粘性にとむ。

0 1:40 1m

第122図 C区3号住居跡

C区3号住居跡(古墳時代後期)第121~123図、PL.52・71)

位置 G・H-1グリッド内に位置する。南辺は調査区外に伸びる。

形状 方形を呈するか?東西長5.4m、南北長(4m)を測る。主軸方位はN-2°-Wに傾く。

面積 現状では約17.5㎡。

覆土 全体的には自然埋没であるが、電前方には焼土・炭化物・ロームブロックが含まれる。

壁高 確認面から約35cmを測る。

床面 電前から住居跡中央部にかけて踏み締められ、第1窟及び第2窟前には焼土・灰の広がりが見られる。住居跡中央部がやや低い。

周溝 東壁の一部と北西隅から電左袖までの間。

窟 本住居跡内に2カ所で電が確認でき、北壁に設置された電を第1窟、東壁に設置された電を第2窟とそれぞれ呼称する。新旧は第1窟新・第2窟古。

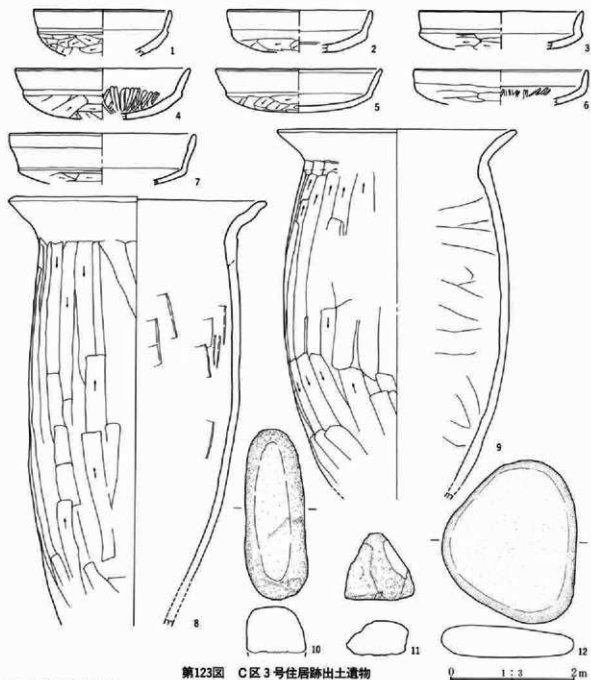
第1窟は、燃焼部を住居跡内に持ち、袖を有する。両袖には土師器壺を倒立状態で埋置し、周辺部を地山で覆い袖材として利用している。また、調査時に天井部が袖と同様の土質をしていたため崩落せずに残ったと判断し、断面観察を行わず内部を繰り抜いてしまったが、結果的に天井部の材質や掛け口位置など不明のままである。

第2窟は、煙道部のみ残存であり、床面と同レベルで壁外に伸び立ち上がる。燃焼部は住居跡内にあつたと考えられ、燃焼部位置と思われる部分に焼土・灰が僅かに認められ、レベルもやや低くなる。柱穴 北辺の2本を検出した。両柱穴とも掘り込みは深く50~60cmを測りしっかりしている。

貯蔵穴 北東隅部やや内側にて検出した。規模は長さ60cm、深さ30cmを測り、楕円形状を呈する。

遺物 電前と柱穴P、周辺部に集中する。

5章 C区の遺構と遺物



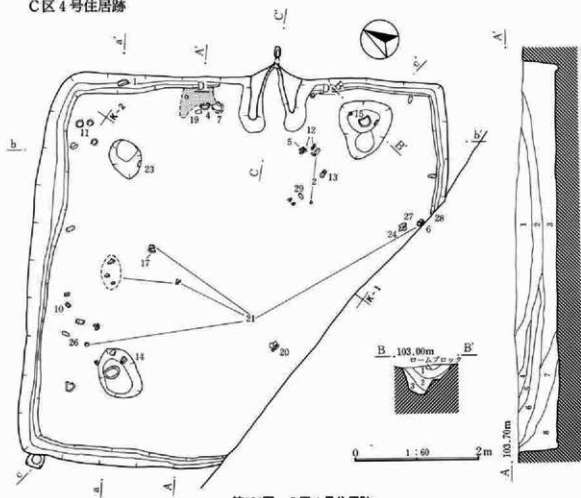
第123図 C区3号住居跡出土遺物

C区3号住居跡遺物観察表

図版番号 Pl.	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	土土・焼成・色調	出土状況・備考
123-1 71	土師器 坏	口径(10.8) 器高(3.6)	口縁やや外傾する。	口 横割で 体 段削り	口 横割で 体 削で	I BCDE 酸化	床直上 内外面保付着 破片
123-2 71	土師器 坏	口径(11.4) 器高(3.3)	口縁やや外傾する。	口 横割で 体 段削り	口 横割で 体 削で	II BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 内外面保付着 破片
123-3 71	土師器 坏	口径(12.8) 器高(3.0)	口縁外反気味。体 部は偏平。	口 横割で 体 段削り	口 横割で 体 削で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	覆 破片
123-4 71	土師器 坏	口径(13.8) 器高(4.0)	口縁外傾する。	口 横割で 体 段削り	口 横割で 体 放射状の磨き	II ABCDE 酸化 明赤褐	覆土 内外面保付着 破片

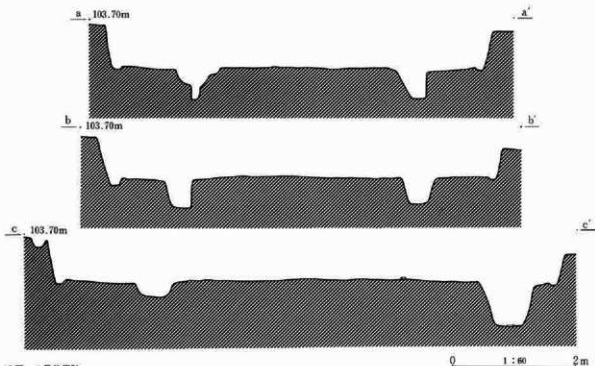
図版番号 Pl.	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
123-5 71	土師器 環	口径(13.1) 器高 3.5	口縁外傾し、端部 凹縁出る。体部偏 平。	口 横撫で 体 見削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 1/4
123-6 71	土師器 環	口径(13.7) 器高 (2.5)	口縁直立する。体 部は偏平。	口 横撫で 体 上半不明瞭な撫で 下半磨削り	口 横撫で 体 放射状の磨き	III ABCD 酸化 鈍い橙	覆 破片
123-7 71	土師器 環	口径(14.7) 器高 (4.0)	口縁長く外傾す る。体部は偏平。	口 横撫で 体 見削り	口 横撫で 体 撫で	I BCDE 酸化 灰黄褐色	覆土 内外面煤付着 1/4
123-8 71	土師器 長胴壺	口径 19.8 器高(34.0)	口縁くの字状に外 反する。胴部の強 りは弱い。	口 横撫で 胴 見削り	口 横撫で 胴 見撫で・露出砥・輪 襷痕	II ABCDE 酸化 鈍い橙	壺左袖材 煤付着 1/4
123-9 71	土師器 長胴壺	口径(18.8) 器高(28.2)	口縁くの字状に外 反する。胴部中位 に張りをもつ。	口 横撫で 胴 横撫で後見削り	口 横撫で 胴 見撫で	II ABCDE 酸化 鈍い橙	壺右袖材 1/4
図版番号 Pl.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
123-10 71	こも 扁石	13.4×5.1×3.7 396	安山岩			覆土	
123-11 71	砥 石	5.3×5.6×2.7 39	軽石	1面使用。		覆土	
123-12 71	台 石	12.9×10.6×2.6 483	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。		壁障	

C区4号住居跡



第124図 C区4号住居跡

5章 C区の遺構と遺物



C区 4号住居跡

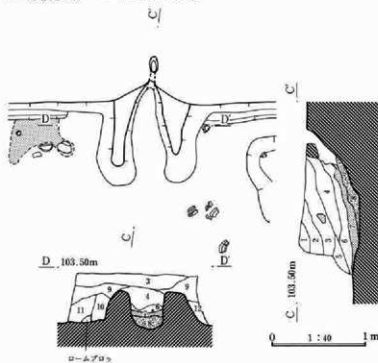
- | | |
|-----------|---|
| 1 暗黄赤褐色土層 | ロームブロック、黒色粒、濃茶褐色粘土ブロックを含む。 |
| 2 黒色土層 | ロームブロック、焼土ブロックを含む。白色粘土粒を少量含む。粘性締まりややあり。 |
| 3 暗褐色土層 | ロームブロック、FPを多量に含む。黒色土ブロックを少量含む。 |
| 4 暗黄褐色土層 | ロームブロック、黒色粒を含む。粘性、締まりややあり。 |
| 5 暗黄褐色土層 | ロームブロックを含む。やや粘性あり。 |
| 6 暗褐色土層 | 3層よりやや明るい色調。ロームブロックを含む。 |
| 7 暗黄褐色土層 | ロームブロックを多量に含む。粘性あり。サラサラした層。 |
| 8 暗黄褐色土層 | ロームブロックを含む。 |

貯蔵穴

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 黒色土層 | 僅かにローム粒含む。フカフカの層。 |
| 2 黒褐色土層 | ローム粒含む。フカフカの層。 |
| 3 暗褐色土層 | ローム粒含む。フカフカの層。 |

カマド

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色土層 | ローム粒、焼土粒を少量含む。 |
| 2 暗褐色土層 | 1層よりやや明るい。ローム粒、焼土粒を少量含む。 |
| 3 暗褐色土層 | ロームブロック、焼土粒、灰色粘土粒を含む。 |
| 4 灰茶色土層 | 焼土粒、ローム粒を含む。粘性にとむ。 |
| 5 灰褐色土層 | 焼土粒、ローム粒を少量含む。 |
| 6 灰赤茶色土層 | 4層より多量に焼土を含む。 |
| 7 赤茶色土層 | 焼土主体、灰色粘土を含む。 |
| 8 暗灰色土層 | 灰層。焼土粒を含む。 |
| 9 淡褐色土層 | 灰白色粘土ブロックを少量含む。焼土粒を含む。 |
| 10 暗褐色土層 | ローム粒、黒色粒、焼土粒を含む。 |
| 11 黒褐色土層 | ローム粒、黒色粒を含む。灰白色粘土粒を少量含む。 |
| 12 灰茶褐色土層 | 灰白色粘土ブロック、焼土粒を含む。 |



第125図 C区4号住居跡

C区4号住居跡(古墳時代後期)(第124~127図, PL.53-71-72)

位置 J・K-グリッド内に位置する。南西隅部は調査区外に伸びる。

形状 正方形を呈し、規模は一辺6m程を測る。主軸方位はN-65°-Eに傾く。

面積 (約31.3m²)

覆土 全体的にロームブロック・褐色土・黒色土を含み、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。

壁高 確認面から65cm前後を測る。

床面 掘り方面とほぼ同一面を利用している。竈前から中央部にかけて踏み締められ、竈左袖脇と北西壁際に焼土・灰・炭化物の広がりがみられる。

周溝 全周すると考えられる。

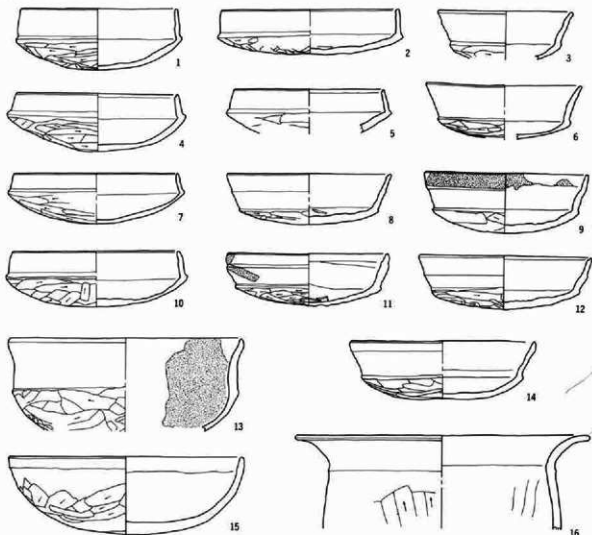
竈 東壁中央部に位置し、燃焼部を住居跡内に持ち袖を有する。袖は灰白色粘土を用い構築される。燃焼部内壁はやや焼土化し、覆土下層の灰層直上には天井部崩落土が見られた。

柱穴 各隅寄りに3本検出した。

貯蔵穴 南東隅寄りに位置し、柱穴に接する。規模は長辺1m、深さ0.4mを測り、楕円形状を呈する。貯蔵穴内より土師器杯が出土。

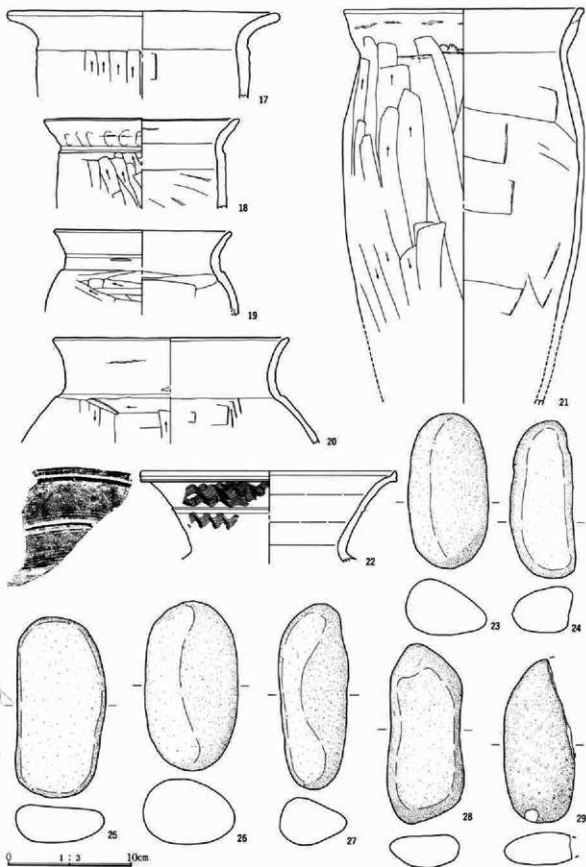
遺物 北壁際及び竈周辺部数カ所に遺物の集中する部分が見られる。遺物は土師器杯が多い。

備考 竈左袖脇で検出された焼土塊と、その内側より出土している土師器杯から、炉の可能性が考えられる。



第126図 C区4号住居跡出土遺物(1)

0 1:3 10cm



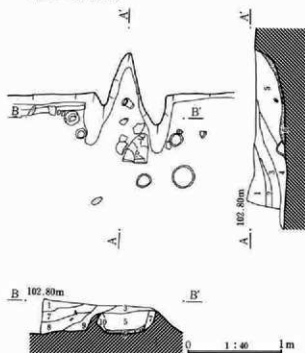
第127図 C区4号住居跡出土遺物(2)

C区4号住居跡遺物観察表

図版番号 PL	器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	粘土・焼成・色調	出土状況・備考
126-1 71	土師器 坏	口径 12.5 器高 4.9	口縁内傾する。縁は明瞭。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	I ABCDE 酸化 明褐色	埋蔵 外面保付着 完全
126-2 72	土師器 坏	口径(14.0) 器高 3.7	口縁直立し、端部は面取り。縁は明瞭。体部は偏平。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で・寛当痕	II BCDE 酸化 灰白	覆土 1/5
126-3 71	土師器 坏	口径 10.5 器高 3.8	口縁外傾する。体部やや偏平。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	I ABCD 酸化 鈍い橙	覆土 1/5
126-4 71	土師器 坏	口径 12.7 器高 4.6	口縁内傾し、端部凹線走る。縁は明瞭。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	II ABCD 酸化 鈍い橙	床直上 内外面保付着 1/5
126-5 72	土師器 坏	口径(11.9) 器高 (3.5)	口縁内傾する。端部凹線走る。縁は明瞭。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	III BCDE 酸化 灰白	床直上 破片 1/5
126-6 72	土師器 坏	口径 12.1 器高 (3.9)	口縁外傾する。体部やや偏平。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	I ABCD 酸化 橙	床直上 1/5
126-7 72	土師器 坏	口径(13.0) 器高 4.0	口縁内傾する。縁は明瞭。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	II ABCD 酸化 鈍い橙	覆土 破片後保付着 1/5
126-8 72	土師器 坏	口径(13.0) 器高 4.0	口縁外傾する。体部は偏平。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 瓦割で・寛当痕	II BCDE 酸化 灰	覆土 内面保付着 1/5
126-9 71	土師器 坏	口径 12.9 器高 4.8	口縁外反気味で、中位で直立する。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	I BCD 酸化 橙	覆土 保付着 1/5
126-10 72	土師器 坏	口径(13.1) 器高 4.4	口縁内傾し、端部内屈する。縁は明瞭。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	II BCD 酸化 褐色	覆土 1/5
126-11 72	土師器 坏	口径 12.7 器高 4.1	口縁外傾し、縁線走る。体部やや偏平。	口 横線で・下位瓦調整 体 瓦割り	口 横線で 体 瓦割で・寛当痕	I ABCD 酸化 橙	床直上 内外面保付着 完全
126-12 72	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.3	口縁内傾し、端部は凹線走る。体部やや偏平。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	床直上 1/5
126-13 72	土師器 坏	口径(18.3) 器高 (7.4)	口縁外反し、端部内湾する。体部は丸みをもつ。	口 横線で・輪横痕 体 瓦割り	口~体 横線で	II ABCDE 酸化 橙	床直上 内外面炭化物付着 1/5
126-14 72	土師器 坏	口径(14.5) 器高 4.6	口縁外傾する。	口 横線で 体 瓦割り	口 横線で 体 撫で	II ABCD 酸化 灰白	柱穴内 内外面保付着 1/5
126-15 72	土師器 坏	口径 18.4 器高 6.2	口縁内湾気味。体部は浅い球形。	口 横線で 体 上半不明確な輪で 下半瓦割り	口 横線で 体 撫で	II ABCDE 酸化 明赤褐色	貯蔵穴内 1/5
126-16 72	土師器 罍	口径(23.2) 器高 (7.4)	口縁強く外反する。胴部膨らみ弱い。	口 横線で 胴 横線で後瓦割り	口 横線で 胴 瓦割で	III ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 破片 1/5
127-17 72	土師器 罍	口径(21.2) 器高 (6.9)	口縁強く外反する。やや肥厚。胴部は直線的。	口 横線で 胴 横線で後瓦割り	口 横線で 胴 瓦割で・寛当痕	III ABCDE 酸化 明赤褐色	床直上 破片 1/5
127-18 72	土師器 罍	口径(15.4) 器高 (7.2)	口縁外反する。胴部は直線的。縁は明瞭。	口 横線で・指頭圧痕・ 輪横痕 胴 横線で後瓦割り	口 横線で・輪横痕 胴 瓦割で	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 外面黒炭あり 破片 1/5
127-19 72	土師器 罍	口径(13.9) 器高 (6.7)	口縁外反する。縁は明瞭。胴部膨らむ。	口 横線で 胴 瓦割り	口 横線で 胴 瓦割で	II BCDE 酸化 鈍い黄橙	床直上 外面保付着 破片 1/5
127-20 72	土師器 罍	口径(18.5) 器高 (8.4)	口縁外反する。胴部膨らみ強い。縁は明瞭。	口 横線で・輪横痕 胴 瓦割り	口 横線で 胴 瓦割で	I ABCDE 酸化 褐色	覆土 内外面保付着 破片 1/5

図版番号 Pl.	器 種	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
127-21 72	土師器 兵割甕	口径(18.9) 器高(31.2)	口縁外傾する。胴部上位に張りをもつ。	口 横撫で・輪積痕 胴 荒磨り	口 横撫で 胴 荒撫で	II ABCDE 酸化 赤褐色	床直上 床付着 シ
127-22 72	須恵器 甕	口径(20.2) 器高(7.0)	口縁外反し、端部凹縁巡る。中位に突帯巡る。	口 突帯の上下に波状文を施す	口 横撫で	I ACDE 還元 灰	電 口縁部
図版番号 Pl.	器 種	長×幅×厚 cm 重量	石 材	特 徴			出土状況・備考
127-23 72	こも 編石	12.2×6.4×4.3 507	安山岩	端部に敲打痕が僅かに認められる。			床直上
127-24 72	こも 編石	12.4×5.2×3.5 379	安山岩	両面に磨耗痕が認められる。			覆土
127-25 72	こも 編石	14.3×6.8×3.0 608	安山岩	片面に磨耗痕が認められる。			埋跡
127-26 72	こも 編石	13.3×7.4×5.1 802	安山岩	端部に煤の付着が認められる。			覆土
127-27 72	こも 編石	14.6×5.6×3.8 433	安山岩	端部に敲打痕と煤の付着が認められる。			覆土
127-28 72	こも 編石	14.0×6.1×2.8 384	滑結凝灰岩				埋跡
127-29 72	こも 編石	12.8×5.6×2.6 288	安山岩	全面に磨耗痕と端部に敲打痕が認められる。			覆土

C区 5号住居跡



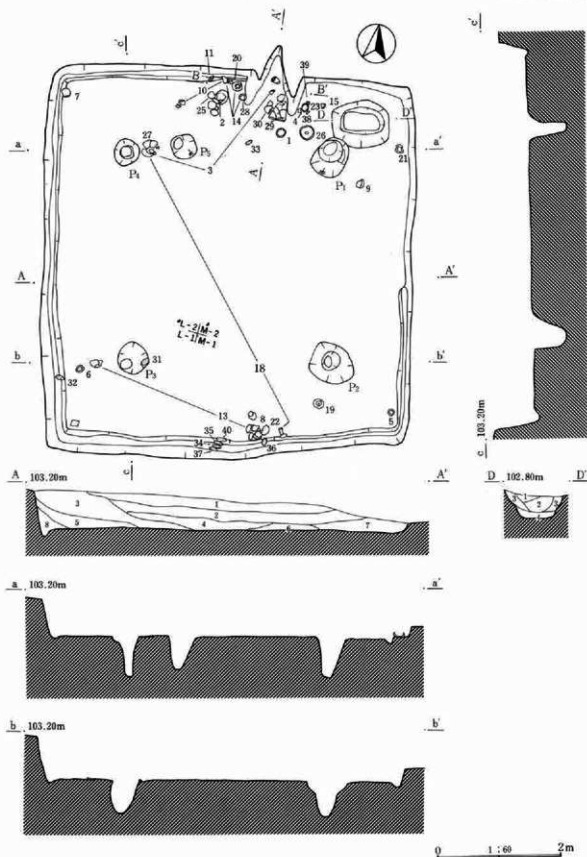
C区 5号住居跡

- 暗褐色土層 柔らかく粘性ほとんどない。ローム粒を少量含む。
- 暗褐色土層 1層よりやや明るい色調。やや固く粘性あり。ロームブロックを多量に含む。焼土粒を極少量含む。
- 黒褐色土層 固く締まり粘性少しあり。ロームブロック、F Pを多量に含む。
- 黄褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロックを多量に含む。
- 黄褐色土層 固く粘性非常にあり。ロームブロックからなり僅かに黒色土を含む。焼土粒を少量含む。
- 黒褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロックを多量にF Pを少量含む。
- 黄褐色土層 非常に固く締まり、粘性あり。ロームブロックからなり黒色土を少量含む。
- 暗褐色土層 柔らかく粘性非常にあり。ロームブロックを含む。

カマド

- 暗褐色土層 ローム粒、F Pを少量含む。
- 黒褐色土層 ローム粒、黒色土ブロックを少量、灰色粘土粒を含む。
- 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。灰色粘土粒、焼土粒を少量含む。
- 灰黄褐色土層 灰色粘土を多量に含む。ローム粒、焼土粒を含む。粘性にむ。
- 赤茶色土層 焼土ブロックを多量に。灰色粘土粒を少量含む。
- 青灰色土層 灰層。
- 暗黄褐色土層 ローム粒、黒色粒を含む。
- 黒褐色土層 ローム粒を含む。
- 黒褐色土層 ローム粒8層よりやや多く含む。締まりもある。

第128図 C区 5号住居跡カマド



第129图 C区5号住居跡

貯蔵穴

- 1 黒褐色土層 ローム粒含む。フカフカの層。
2 暗褐色土層 ロームブロック、黒褐色土を含むフカフカの層。

- 3 暗黄褐色土層 ロームブロック含む。フカフカの層。
4 灰黄褐色土層 粘性ややあり。

C区5号住居跡(古墳時代後期)(第128~132図、PL.54・72・73)

位置 L・M-1・2グリッド内に位置する。

形状 一辺6m前後を測る正方形を呈する。主軸方位はN-10°-Wに傾く。面積約35.9m²。

覆土 全体的にロームブロックを多量に含み人為的埋土の可能性が考えられる。

壁高 最も深い所で約60cm、浅い所で20cmを測る。

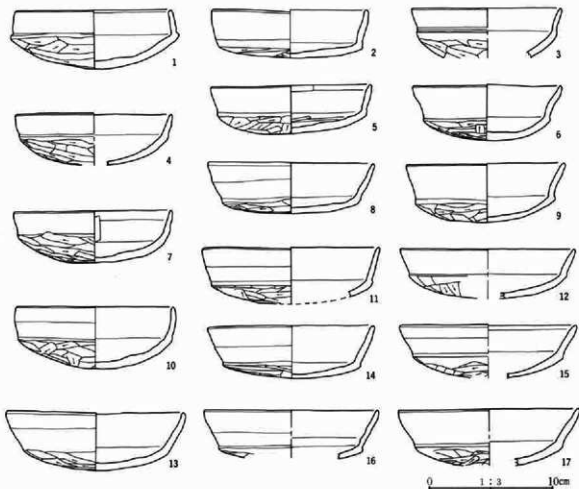
床面 掘り方面とほぼ同一であり、竈前から住居跡中央部にかけて踏み締められている。

周溝 北東隅及び東壁中央部を除き巡る。

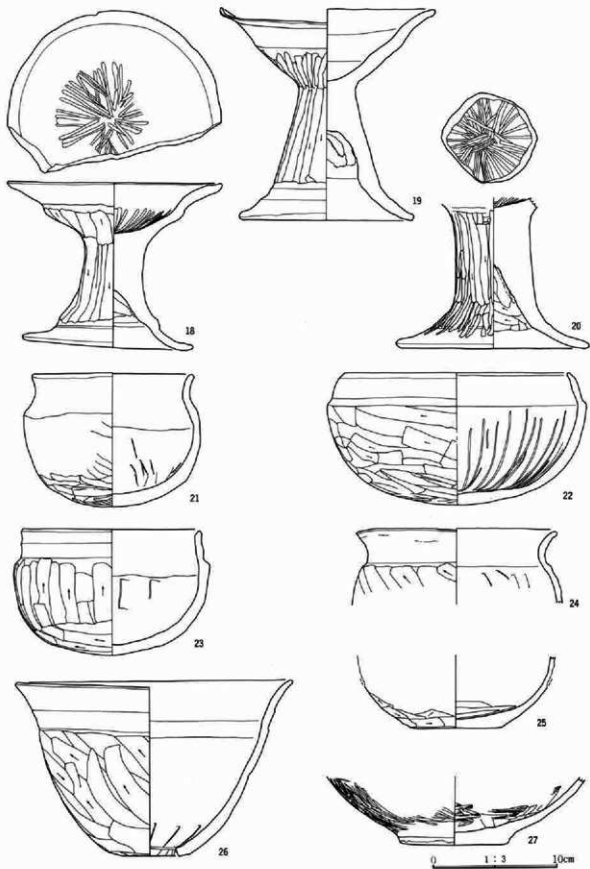
竈 北壁中央部やや東寄りに設置される。燃焼

部は壁の延長上にあり袖を有する。袖は灰白色粘土を用い構築される。竈形状はV字状を呈する。燃焼部覆土中には天井部崩落土や灰層の堆積も見られる。
柱穴 各隅対角線上に4本検出した。上端が広がり断面ロート状を呈し、深さ60cm前後を測る。

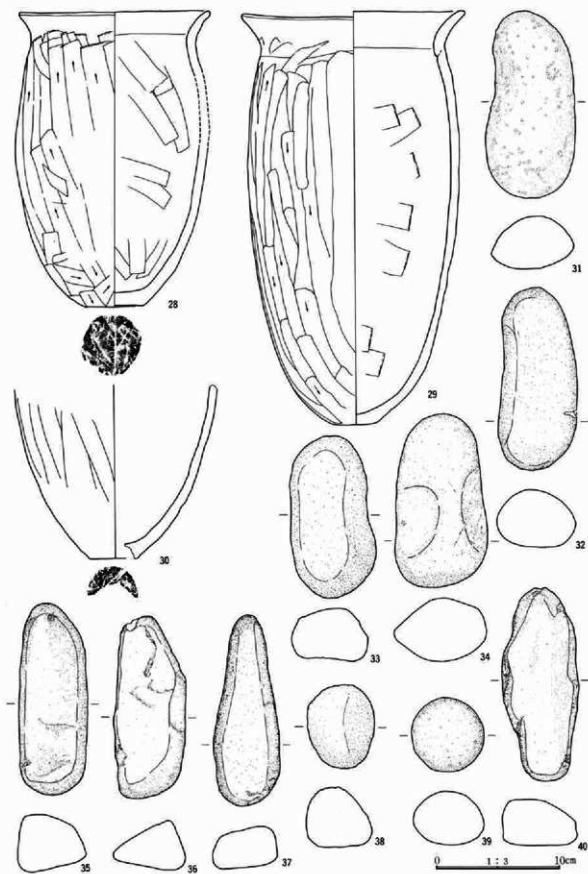
貯蔵穴 北東隅に位置し、長径95cm、短径75cm、深さ35cmの規模を有する。形状は隅丸長方形を呈する。
遺物 竈周辺部では土師器瓶・杯・高杯等が出土する。竈反対側の南壁中央壁際では、土師器杯・高杯の他、こも編み石と考えられる同一形状の柱状礫が8個出土。その他各隅部には杯が置かれる。



第130図 C区5号住居跡出土遺物(1)



第131图 C区5号住居跡出土遺物(2)



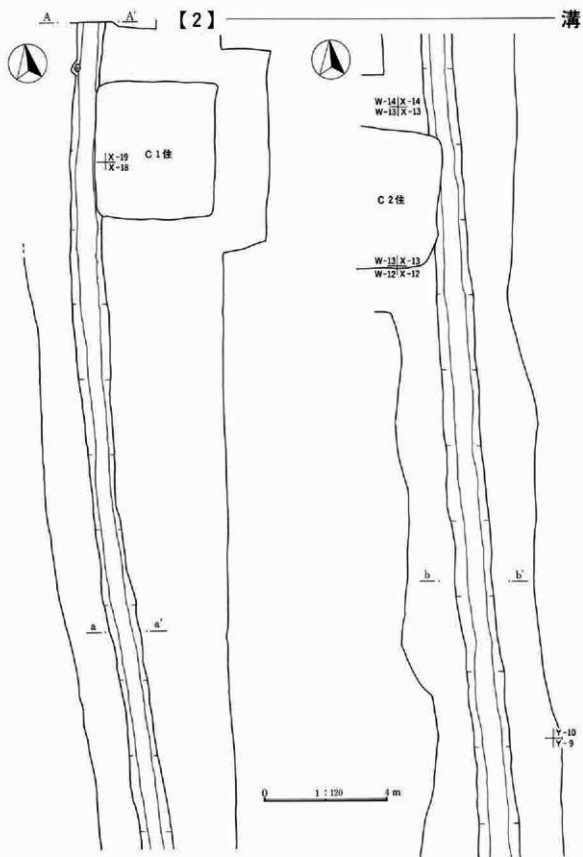
第132図 C区5号住居跡出土遺物(3)

C区5号住居跡遺物観察表

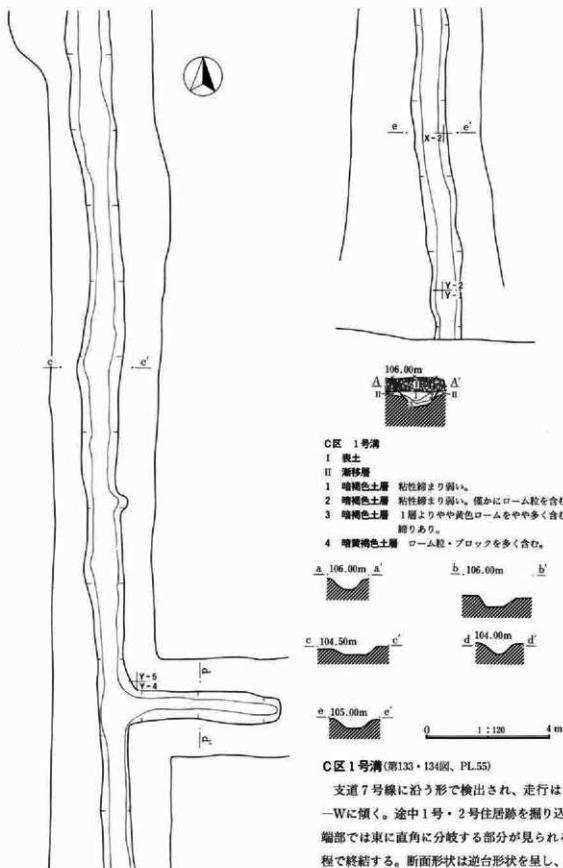
位置番号 PL	器 形 類	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
130-1 72	土師器 環	口径 12.4 器高 4.7	口縁内傾し、端部 凹縁突出。縁は明 瞭。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 完形
130-2 72	土師器 環	口径 12.3 器高 3.8	口縁直立気味。体 部は扁平。	口 横撫で・下位荒調整 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	床直上 外面煤片着 け
130-3 72	土師器 環	口径(11.8) 器高(3.9)	口縁やや外反す る。	口 横撫で・下位荒調整 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 外面黒斑あり 破片
130-4 72	土師器 環	口径(12.4) 器高(4.1)	口縁外傾する。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 明赤褐	覆土 破片
130-5 72	土師器 環	口径 12.7 器高 3.9	口縁外傾する。体 部やや扁平。	口 横撫で・下位荒調整 体 荒削り	口 横撫で・荒撫で 体 撫で・荒撫で	II BCDE 酸化 灰褐	床直上 内外面煤片着 けは完形
130-6 72	土師器 環	口径 11.7 器高 4.4	口縁外反し、端部 でやや内傾する。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 厚減著しい	I BCD 酸化 橙	床直上 完形
130-7 72	土師器 環	口径 12.5 器高 4.1	口縁内湾気味。	口 荒による横撫で 体 荒削り	口 荒による横撫で 体 荒削り	II ABCD 酸化 黒褐	埋土 外面煤片着 け
130-8 72	土師器 環	口径 13.0 器高 4.0	口縁外傾する。体 部は扁平。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	III ABCDE 酸化 灰白	床直上 破片
130-9 72	土師器 環	口径 12.5 器高 4.7	口縁外反する。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	I ABCDE 酸化 橙	床直上 完形
130-10 72	土師器 環	口径 12.4 器高 4.9	口縁内湾する。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	覆土 外面煤片着 け
130-11 72	土師器 環	口径 14.0 器高(4.5)	口縁外傾する。	口 横撫で後荒調整 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 黄褐	覆土 ほぼ完形
130-12 72	土師器 環	口径(13.8) 器高(3.4)	口縁外反する。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 灰褐	覆土 外面煤片着 破片
130-13 72	土師器 環	口径 14.1 器高 4.7	口縁内湾する。体 部やや扁平。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で・下位荒調整 体 撫で	II ABCDE 酸化 暗褐	床直上 ほぼ完形
130-14 72	土師器 環	口径 13.2 器高 4.2	口縁外傾する。体 部は扁平。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II ABCDE 酸化 鈍い黄橙	床直上 外面煤片着 ほぼ完形
130-15 72	土師器 環	口径(13.9) 器高(4.2)	口縁外反する。	口 横撫で・下位荒調整 体 荒削り	口 横撫で 体 荒削り?	II BCDE 酸化 橙	覆土 破片
130-16 72	土師器 環	口径(13.8) 器高(3.8)	口縁外傾する。体 部は扁平。	口 横撫で 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	II BCDE 酸化 鈍い橙	覆土 外面黒斑あり (破砕後) 破片
130-17 72	土師器 環	口径(14.4) 器高(4.5)	口縁外傾する。	口 横撫で・下位荒調整 体 荒削り	口 横撫で 体 撫で	III ABCDE 酸化 鈍い褐	覆土 破片
131-18 73	土師器 高 環	口径 17.0 底径 13.5 器高 13.3	坏部強く外反。坏 及び脚部稜をもち、 器も強く外反	坏 横撫で後荒削り 脚 横撫で後荒削り	坏 横撫で・放射状の磨 き 脚 荒削り・横撫で	II BCDE 酸化 鈍い橙	床直上 破片
131-19 73	土師器 高 環	口径 17.0 底径 13.5 器高 16.7	坏部深く、外反す る。脚部への字状 で、器は外反。	坏 横撫で・荒削り 脚 荒削り後横撫で	坏 横撫で・器当飯 脚 上半指撫で 下半横撫で	I BCDE 酸化 橙	床直上 破片
131-20 73	土師器 高 環	口径 14.7 器高(11.9)	坏部放射形で、器は 外反する。	坏 横撫で後荒削り・荒 撫で	坏 放射状の磨き 脚 荒削り・横撫で	II BCDE 酸化 明赤褐	床直上 破片

5章 C区の遺構と遺物

図版番号 PL.	器 種 形	注量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
131-21 73	土師器 鉢	口径 12.5 器高 10.6	口縁外反し、体部は球形を呈す。	口 横無で 体 荒削り・厚減	口 横無で 体 荒削り	I ABCDE 酸化 鈍い橙	覆土 外面煤付着 ほぼ完形
131-22 73	土師器 鉢	口径(17.8) 器高 10.5	口縁内弯する。後には明瞭。体部球形を呈す。	口 横無で 体 荒削り	口 横無で 体 荒削りで後放射状の磨き	I ABCDE 酸化 鈍い橙	埋部 外面底部黒斑 乏
131-23 73	土師器 鉢	口径 14.0 器高 10.0	口縁直立する。後には球形を呈す。	口 横無で 体 横無で後荒削り	口 横無で 体 荒削り	I ABCDE 酸化 淡黄	覆土 口唇部内 面厚減 外面煤 付着 完形
131-24 73	土師器 壺	口径 15.6 器高 (6.0)	口縁強く外反する。胴部膨らむ。	口 横無で 胴 横無で後荒削り	口 横無で 胴 荒削り	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆 破片
131-25 72	土師器 壺	口径 7.2 器高 (5.8)	胴部膨らむ。平底	胴 荒削り	胴 荒削り	II ABCDE 酸化 橙	覆土 破片 乏
131-26 73	土師器 甕	口径 21.8 底6.4・FL4.5 器高 13.8	口縁緩やかに外反し、後が直る。体部やや膨らむ。	口 横無で 体 横無で後荒削り	口 横無で 体 荒削り	I ABCDE 酸化 灰黄	床直上 外面煤付着 完形
131-27 72	土師器 壺	口径 8.5 器高 (5.5)	胴部強く張る。平底	胴 荒削り 底 無で	胴 荒削り	II BCDE 酸化 鈍い橙	床直上 外面黒斑あり 破片
132-28 73	土師器 壺	口径(15.0) 口径 4.6 器高 23.3	口縁外反する。胴部中心に最大径。平底	口 横無で 胴 横無で後荒削り	口 横無で 胴 荒削り	I ABCDE 酸化 鈍い橙	覆 木炭灰・煤付着 乏
132-29 73	土師器 長胴壺	口径 17.5 口径 3.5 器高 32.8	口縁外反する。胴部の膨らみは弱い。平底	口 横無で 胴 横無で後荒削り	口 横無で 胴 荒削り	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆 煤付着 完形
132-30 73	土師器 壺	口径 3.9 器高(13.7)	胴部の膨らみは弱い。平底	胴 荒削り・顕著な削落	胴 荒削り・顕著な削落	II ABCDE 酸化 鈍い橙	覆 木炭灰・2次使用か？ 破片
図版番号 PL.	器 種	長×幅×厚cm 重量g	石 材	特 徴		出土状況・備考	
132-31 73	こも 燧石	14.7×7.2×4.2 634	安山岩			床直上	
132-32 73	こも 燧石	14.4×6.4×4.6 612	安山岩	両面に磨耗痕が認められる。		埋部	
132-33 73	こも 燧石	12.8×6.9×4.2 529	安山岩	端部に僅かに敲打痕が認められる。		床直上	
132-34 73	こも 燧石	13.6×7.3×5.0 728	石英閃緑岩			埋部	
132-35 73	こも 燧石	15.0×5.5×4.5 629	溶結凝灰岩			埋部	
132-36 73	こも 燧石	14.5×5.8×3.9 439	溶結凝灰岩			埋部	
132-37 73	こも 燧石	15.0×5.3×3.2 453	安山岩			埋部	
132-38 72		6.7×5.4×4.7 193	輝石			覆土	
132-39 72		5.9×5.7×4.0 163	安山岩	被熱痕が認められる。		覆土	
132-40 73	こも 燧石	15.3×6.1×3.6 478	安山岩			埋部	



第133图 C区1号溝



第134図 C区1号溝

【3】 水田遺構

C区 水田遺構(平安時代)(第135図、PL.55)

本遺構は、B区から続く沖積地において検出されたAs-Bにより埋没した水田遺構である。

当地区の沖積地は幅約120mを測り、支線道路第16号はこの沖積地を横断する形で設定された。調査区は、長さ約50m、幅8mの調査範囲となる。検出面までの深さは約50cm前後を測り、水田面直上にはAs-Bの純層が堆積する。調査区内は緩やかに東から西へ傾斜し、標高は99.0m～99.2mを示す。

遺構検出状況は、水田畦畔と段差による区画が見られた。

水田畦畔は、調査区中央部において、約56m²の方形区画を呈する畦畔と、同区画西側に平行気味に南北方向に伸びる畦畔1本を検出した。方位はN-3°-Wに傾く。畦畔規模は、前者で上幅約30cm、下幅約60cm、高さ約3cmを測り、後者で上幅40cm、下幅20cm、高さ1cmを測る。畦畔の向きは南北方向に伸び、東西方向には伸びない。

その他に調査区東側において10cm程の段差を持つ水平面を検出した。この段差は南北方向に伸び、棚田状の水田と考えられる。

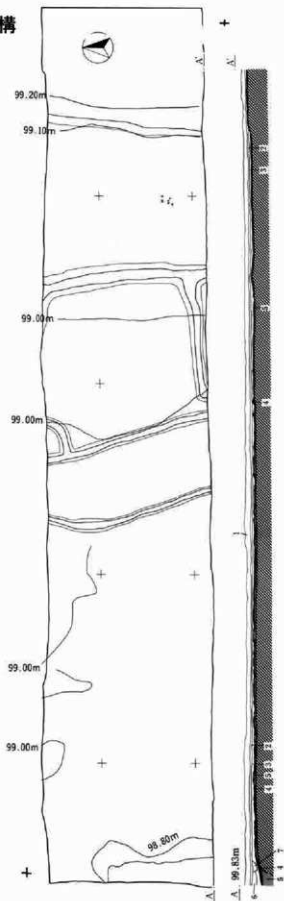
水口は、方形区画水田南西隅において1箇所開いた状態で確認された。

C区 水田

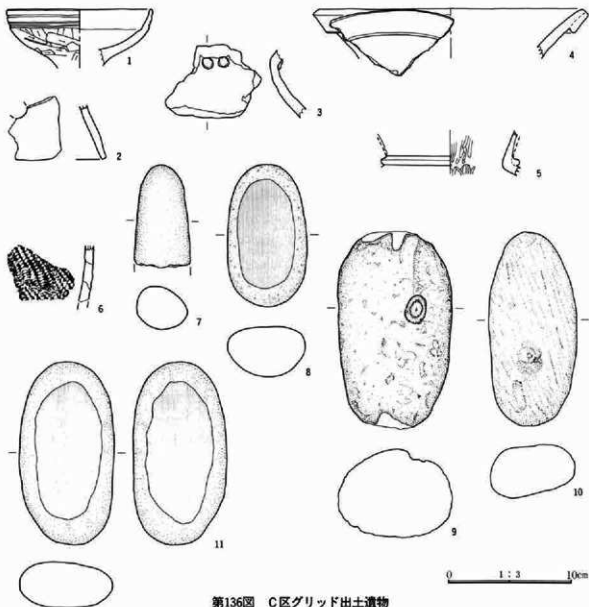
- 1 現水田
- 2 酸化鉄分層
- 3 灰褐色粘質土層
- 4 As-Bに伴う反層
- 5 As-B
- 6 黄褐色土層 柔らかく粘性強い。
- 7 暗褐色土層 固く粘性強い。

0 1 : 200 8m

第135図 C区As-B下水田跡



【4】 グリッド



第136図 C区グリッド出土遺物

C区グリッド出土遺物観表

図版番号 PL	器 種 形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
136-1 73	土師器 高 杯	口径 (11.4) 器高 (4.5)	口縁内寄気味。凹 線巡る。	口 横断で 体 笠削り	口 横断で 体 無で	Ⅲ ABCDE 酸化 鈍い黄	J-2グリッド 口縁縁付着 破片
136-2 73	土師器 高 杯	厚 0.6	胴部への字状に開 く。	脚 磨き	脚 無で	I ABCD 酸化 糖	J-2グリッド 穿孔あり 破片
136-3 73	弥生式 土 器 壺	厚 0.8	ボタン状の張り付 け。	胴 磨で	胴 磨で	Ⅲ CDE 酸化 鈍い黄橙	L-2グリッド 丹彩 破片
136-4 73	弥生式 土 器 壺	口径 (21.0) 器高 (3.9)	折り返し口縁。端 部削取り。	口 楕円形状の丹彩 下部丹彩	口 磨き	Ⅱ ABCDE 酸化 鈍い黄橙	J-2グリッド 内面縁付着 破片

図版番号 PL	器種 器形	法量 (cm)	形態の特徴	外面調整の特徴	内面調整の特徴	胎土・焼成・色調	出土状況・備考
136-5 73	土師器 壺	器高 (3.6)	頸部に粘土帯近 る。	頸部 顕著な剥落	頸部 磨き	II BCD 酸化 鈍い褐	J-2グリッド 破片

C区グリッド出土陶文土器観察表

図版番号 PL	部位	文様 (その他)	成形・器面調整の特徴と色調	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	出土状況
136-6 73	割部片	縄文施文。原形はR。中期前半	彈鉢型土器の割部片。器厚7mm。内面は丁寧な調整が行われている。内外面の色調は赤褐色。	①中粒の砂を混入。 ②良	C区4号住居跡 被覆土

C区グリッド出土陶文石器観察表

図版番号 PL	器種	遺存状況	計 全長 巾 厚 cm	重 g	石材	備 考	出土状況
136-7 73	磨石	完形	8.1 4.5	3.4 195	閃緑岩	全面に磨耗痕が認められる。	グリッド出土
136-8 73	磨石	完形	13.0 6.2	4.1 463	石英安 山岩	片面に磨耗痕が認められる。	C区4号住居跡 覆土
136-9 73	凹石	完形	15.6 9.0	7.0 830	軽石	端部に敲打痕と片面に1個の凹みが認められる。	C区3号住居跡 覆土
136-10 73	凹石	完形	15.2 7.1	4.2 582	安山岩	片面に僅かな凹みが認められる。	C区4号住居跡 覆土
136-11 73	磨石	完形	14.5 7.4	3.6 633	石英安 山岩	両面に磨耗痕が認められる。	C区4号住居跡 覆土

結

A区【大日塚地区】及びC区【大道地区】は、荒砥川及び宮川の形成した沖積低地に挟まれた台地上に位置している。荒砥川左岸部中流域から下流域にかけては、低地から低台地そして台地へと変化が見られ、部分的に小谷地が入り込んでいる。

A区検出の住居跡は谷地に面した東側斜面に分布している。24軒の竪穴住居跡の時期別軒数は次のとおりである。

- 6世紀後半—1号住居跡・2号住居跡・19号住居跡
- 7世紀前半—5号住居跡・7号住居跡
- 7世紀後半—8号住居跡・10号住居跡
- 8世紀前半—4号住居跡・6号住居跡・9号住居跡・11号住居跡・17号住居跡
- 8世紀後半—3号住居跡・13号住居跡・20号住居跡・21号住居跡・22号住居跡・24号住居跡
- 9世紀前半—15号住居跡
- 9世紀後半—14号住居跡・18号住居跡
- 時期不明—16号住居跡・23号住居跡

古墳時代の住居跡群は、発掘調査区からは散漫的な分布状況ではある。少なくとも西側部分に広がることは確実であるが、調査区西端には住居跡は検出されていないことから北西方向と南西方向に拡散しているものと考えられる。

奈良時代の住居跡は11軒と検出された住居跡のほぼ半数にのぼる。その分布状況は発掘区南端に比較的多く見られ、南方向に集落の展開が予想できる。

平安時代の住居跡は3軒と軒数は少ないものの、発掘区南端から検出されている。

また谷地からAs—B下水田跡が検出されている。

B区【峰下地区】の位置する台地上部部の荒砥中学校南東部には小谷地が入り込み、谷地内にはAs—B・C、FAが検出されている。

4軒の時期別軒数は次のとおりである。

- 7世紀後半—1号住居跡・3号住居跡
- 8世紀前半—2号住居跡・4号住居跡

発掘範囲は小規模であるが、谷地に面した南西斜面から検出されている。発掘区南端からは住居跡が検出されていないことから、北東から南西方向にかけて住居跡が展開していると考えられる。谷地からはAs—B下水田跡が検出されている。

宮川流域の沖積地は開折が進み、台地縁辺部との比高差はC区【大道地区】で5m以上を測り、縁辺部は急斜面となっている。検出された住居跡5軒の時期別軒数は次のとおりである。

- 5世紀—1号住居跡・2号住居跡
- 6世紀後半—3号住居跡・4号住居跡・5号住居跡

6世紀後半の住居跡3軒は谷地に面した東縁辺部から検出されている。これに対して5世紀代の住居跡は縁辺部がやや北西方向に入り込んだ場所から検出されている。明らかに集落の分布域を異にしている。

報告書抄録

ふりがな	あらとおおひづかいせき							
書名	荒砥大日塚遺跡							
副書名	県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第1集							
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告							
シリーズ番号	第 集							
編著者名	菊池 実							
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2 TEL 0279-52-2511							
発行年月日	1994年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯 ''''	東経 ''''	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらとおおひづかいせき 荒砥大日塚	まがひしにのみやま 前橋市二之宮町	10201		36度 22分 10秒	139度 9分 46秒	1981年11月5日 } 1982年2月28日	20,000	県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
荒砥大日塚 (A 区)	住居 水田	古墳・奈良・平安	竪穴住居	24軒	土師器・須恵器			
			竪穴状遺構	1基	石製品(砥品・紡錘車)			
			溝	7条	その他			
			井戸	1基				
			土坑	11基				
			水田					
(B 区)	住居 水田	古墳・奈良・平安 近世	竪穴住居	4軒				
			溝	6条				
			土坑	4基				
			井戸	2基				
			水田					
(C 区)	住居 水田	古墳・平安	竪穴住居	5軒				
			溝	1条				
			水田					

写 真 图 版



遺跡周辺航空写真 (A・B・C免振区)

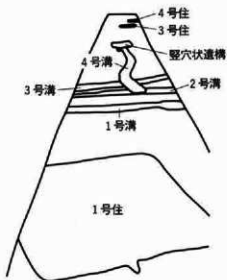


A区・B区航空写真 (昭和54年1月4日 1:4000)

PL. 3

1. A区全景(東から)

2. A区全景(北から)





1



2



3



4

PL. 4

1. A区1号住居跡全景(南から)
2. A区1号住居跡竪(南から)
3. A区1号住居跡遺物出土状況(南から)
4. A区1号住居跡遺物出土状況(南から)

PL. 5

1. A区2号住居跡全景(南西から)
2. A区2号住居跡遺物出土状況(南西から)



1



2





1



2

PL. 6

1. A区2号住居跡竈(南西から)
2. A区2号住居跡遺物出土状況(南西から)
3. A区3号住居跡全景(西から)
4. A区3号住居跡竈(南西から)
5. A区3号住居跡床面下埋設土器出土状況(北から)

PL. 7

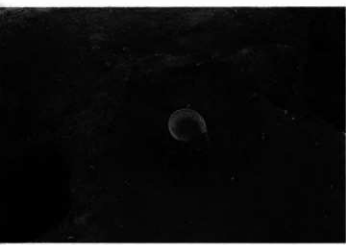
1. A区4号住居跡全景(西から)
2. A区4号住居跡竈(西から)
3. A区4号住居跡遺物出土状況(南西から)



3



1



2



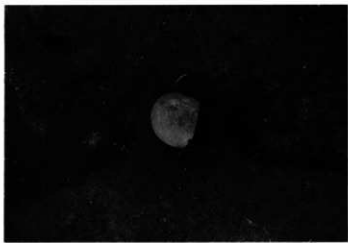
3

PL. 8

1. A区5号住居跡全景(北東から)
2. A区5号住居跡竈(北東から)
3. A区6号住居跡竈(西から)
4. A区6号住居跡遺物出土状況(北から)

PL. 9

1. A区6号住居跡全景(西から)
2. A区7号住居跡全景(西から)



4





1



2

PL. 10

1. A区7号住居跡電(西から)
2. A区7号住居跡遺物出土状況(西から)
3. A区7号住居跡全景(西から)

PL. 11

1. A区9号住居跡全景(南東から)
2. A区10号住居跡全景(東から)



3



1



2



1



2



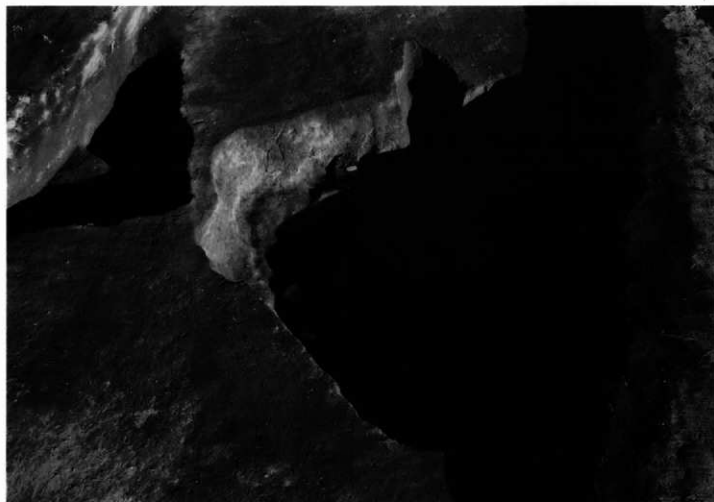
3

PL. 12

1. A区11号住居跡全景(西から)
11号住居跡東側にピット群
2. A区11号住居跡竈(西から)
3. A区11号住居跡鉄製品出土状況(北から)

PL. 13

1. A区12号住居跡全景(東から)
住居跡北側で6号溝と重複
2. A区13号住居跡全景(西から)
左上隅は拡張前のA区15号住居跡





1



2



3



4

PL. 14

1. A区13号住居跡電(西から)
2. A区13号住居跡遺物出土状況(西から)
3. A区14号住居跡全景(南から)
4. A区14号住居跡遺物出土状況(南から)



1



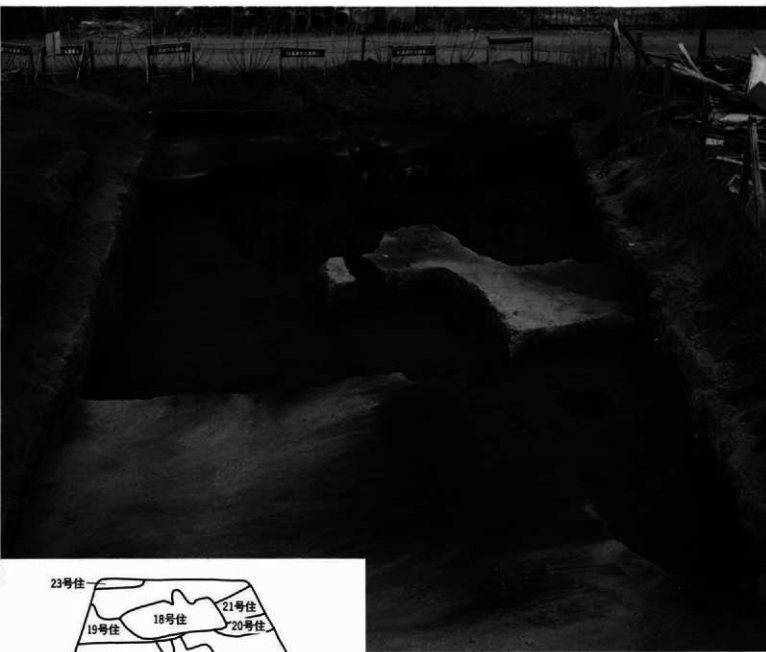
2



3

PL. 15

1. A区15号住居跡全景(西から)
2. A区15号住居跡電(西から)
3. A区15号住居跡遺物出土状況(南から)



PL. 16

1. A区16~23号住居跡・8号土坑全景(西から)

PL. 17

1. A区16号住居跡全景(北西から)

2. A区17号住居跡全景(西から)



1



2



1



2



3



4



6



5



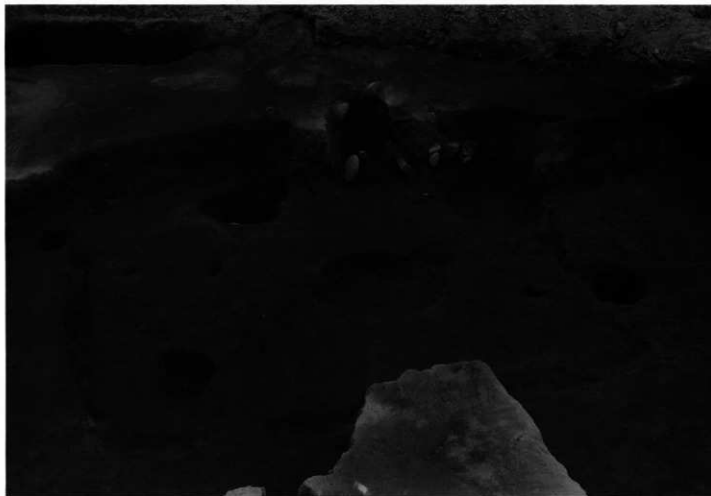
7

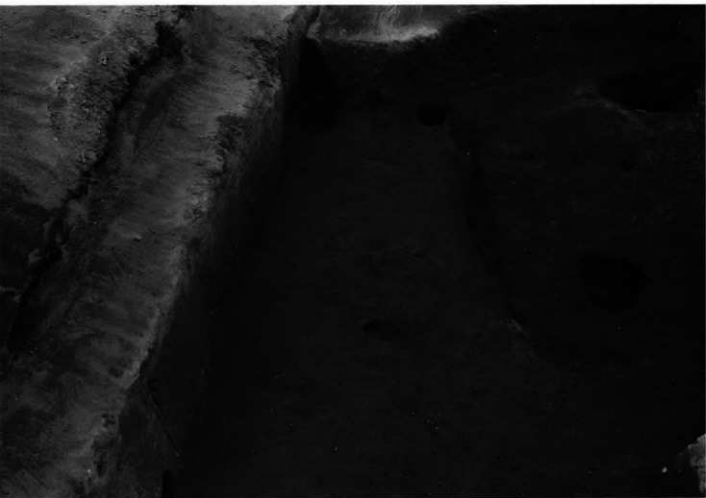
PL. 18

1. A区17号住居跡竈(西から)
2. A区17号住居跡竈内遺物出土状況(西から)
3. A区17号住居跡遺物出土状況(北から)
4. A区18号住居跡竈(西から)
5. A区18号住居跡内土坑(西から)
6. A区18号住居跡炭化材出土状況(西から)
7. A区18号住居跡遺物出土状況(北西から)

PL. 19

1. A区18号住居跡全景(西から)
2. A区18号住居跡遺物出土状況(西から)





1



2



1



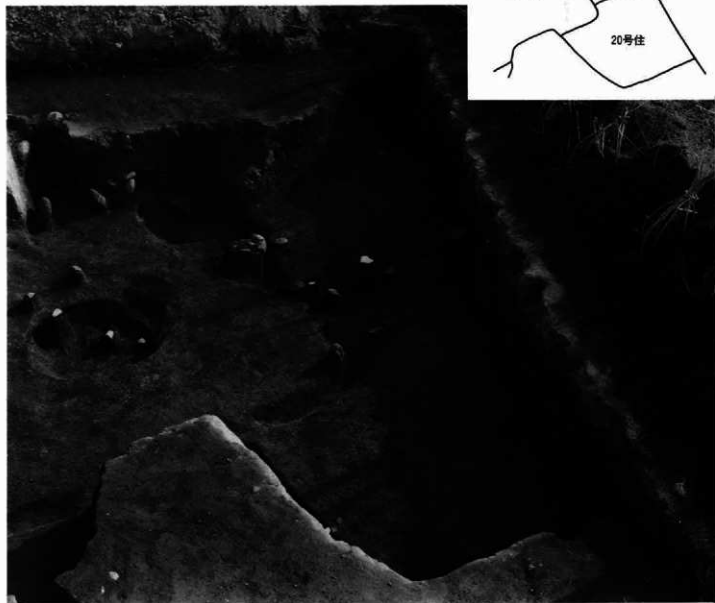
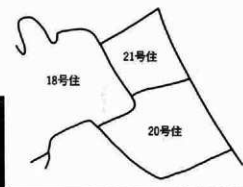
2

PL. 20

1. A区19号住居跡全景(西から)
2. A区19号住居跡遺物出土状況(西から)

PL. 21

1. A区19号住居跡竈(西から)
2. A区19号住居跡遺物出土状況(西から)
3. A区20・21号住居跡全景(西から)



3



1



2



P L .22

1. A区22号住居跡全景(西から)
2. A区22号住居跡遺物出土状況(西から)

PL. 23

1. A区22号住居跡遺物出土状況(西から)
2. A区22号住居跡遺物出土状況(南から)
3. A区22号住居跡紡錘車出土状況(西から)
4. A区23号住居跡全景(北から)





1



2

PL. 24

1. A区24号住居跡全景(西から)
2. A区24号住居跡竈(西から)
3. A区竪穴状遺構遺物出土状況(北から)
4. A区竪穴状遺構遺物出土状況(南から)

PL. 25

1. A区竪穴状遺構全景(北から)
2. A区1号土坑(西から)
3. A区2号土坑(東から)
4. A区3号土坑(東から)
5. A区4号土坑(西から)



3



4



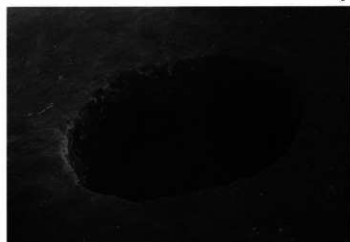
1



2



3



4



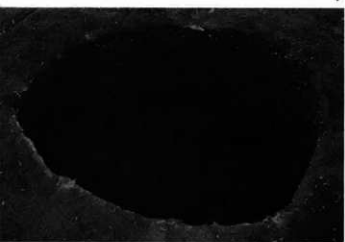
5



1



2



3



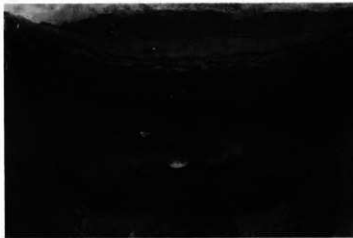
4



5



6



PL. 26

1. A区2～4号土坑全景(南から)
2. A区5～7号土坑全景(北から)
3. A区5号土坑(西から)
4. A区6号土坑(東から)
5. A区7号土坑(北から)
6. A区9号土坑(北から)

PL. 27

1. A区1号井戸全景(西から)
2. A区1号井戸土層断面(北から)
3. A区1号井戸内石出土状況(北から)
4. A区1号溝全景(東から)
5. A区2号溝全景(東から)



1

2

3

4

5



1



2



3



4

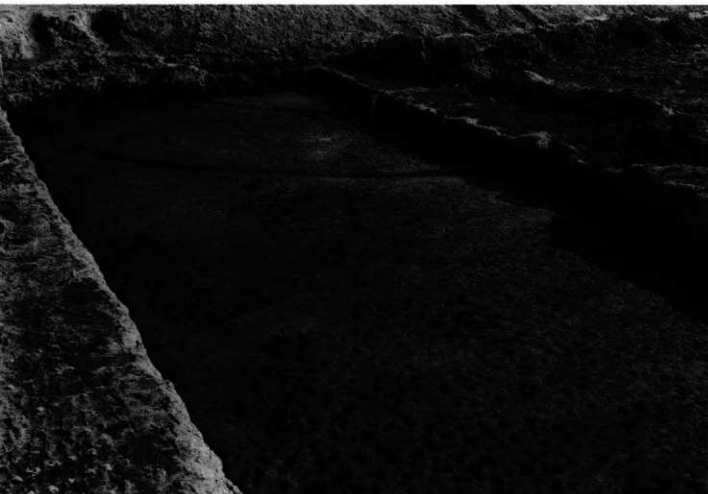
PL. 28

1. A区3号溝全景(東から)
2. A区4号溝全景(南から)
3. A区5号溝全景(北東から)
西側にA区9号土坑
4. A区6号溝全景(東から)
A区12号住居跡と重複

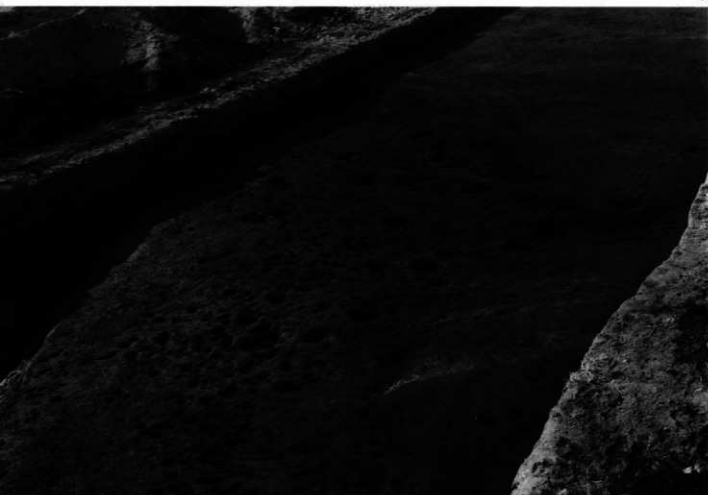


PL. 29

1. A区B軽石下水田全景(東から)



1



2



PL. 30

1. A区B軽石下水田畔(西から)
2. A区B軽石下水田足跡等(東から)

PL. 31

1. A区B軽石下水田水路(東から)
2. A区B軽石下水田土層断面(南から)
3. A区B軽石下水田土層断面(南から)
4. A区B軽石下水田土層断面(南から)



1

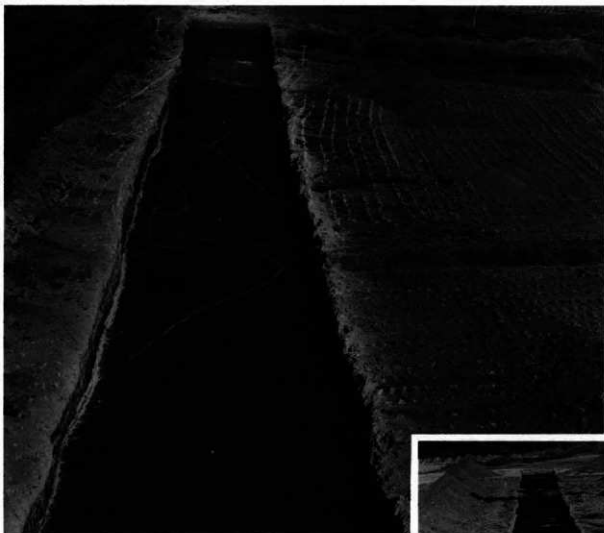
2



3



4

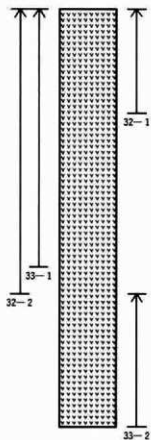


PL. 32

1. A区B軽石下水田(南から)
2. A区B軽石下水田(南から)

PL. 33

1. A区B軽石下水田(南から)
2. A区B軽石下水田(南から)







1



2

PL. 34

1. A区B区軽石下水田(南東から)
2. A区B区軽石下水田土層断面(東から)
3. A区B区軽石下水田土層断面(東から)
4. A区女堀全景(西から)

PL. 35

1. A区女堀全景(西から)
2. A区女堀全景(西から)



3



4



1



2



1



2



PL. 36

1. A区女場全景(北西から)
2. A区女場全景(北から)

PL. 37

1. A区女場全景(北西から)

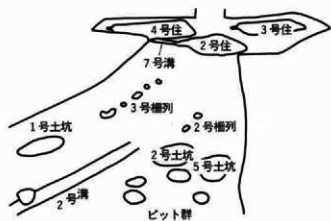
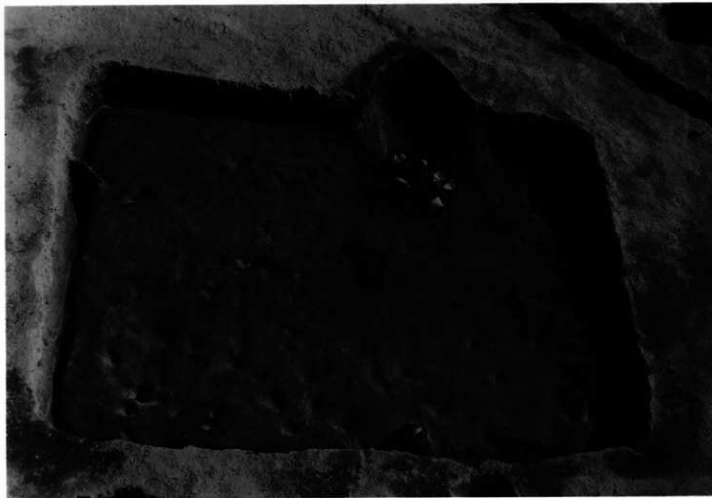
大日孁の調査区は、沖積地に設置されたもので、沖積地を女場がどの様に横断、通過するのかが解明が期待された地点であった。また、調査区の東端を南流する宮川の流河をどの様に女場が処理したのかが解明もあわせて期待された調査区である。

調査の結果、宮川の流河法については、宮川の侵食によって女場の底面が破壊されているため、明らかにできなかった。

沖積地の横断については、上層、底層ともに他地区の沖積地と比較すると規模が大きいこと、しかし、掘削深は1.5m内外で堀の両側に掘削粘土の土山が形成されていたこと以外に特徴の遺構の特徴は見られなかった。

なお、写真底面に見られる溝は、調査時の排水処理のために掘られたものである。





PL. 38

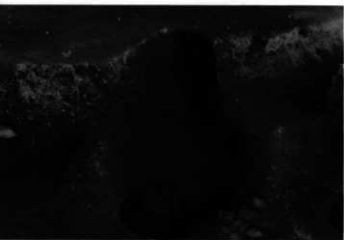
1. B区全景(西から)
2. B区全景(北から)

PL. 39

1. B区1号住居跡全景(西から)
右上隅はB区3号溝
2. B区1号住居跡(西から)



1



2



3



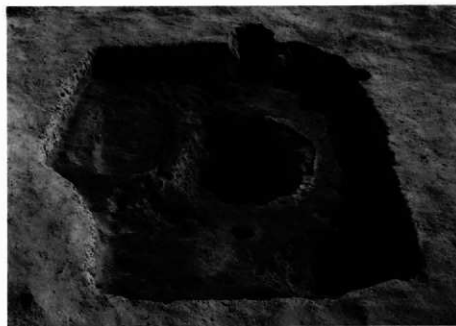
4



5



1



2

PL. 41

1. B区3号住居跡全景(西から)
2. B区3号住居跡掘り方(西から)
3. B区3号住居跡竈(西から)

PL. 40

1. B区2号住居跡全景(西から)
北西隅でB区1号井戸と重複
竈はB区7号溝と重複
2. B区2号住居跡竈(西から)
3. B区2号住居跡石製品出土状況(東から)
4. B区2号住居跡遺物出土状況(西から)
5. B区2号住居跡遺物出土状況(北から)

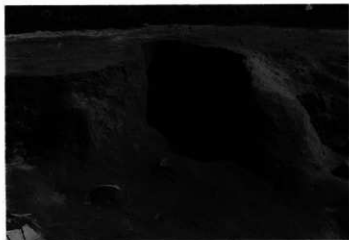
3



1



2



1



2



3



4

PL. 42

1. B区4号住居跡全景(西から)
北西隅でB区2号井戸と重複
2. B区4号住居跡掘り方(西から)

PL. 43

1. B区4号住居跡竈(西から)
2. B区4号住居跡遺物出土状況(北西から)
3. B区4号住居跡遺物出土状況(南西から)
4. B区4号住居跡遺物出土状況(北から)
5. B区4号住居跡発掘風景(南西から)
6. B区1号土坑(北から)
7. B区2号土坑(北から)



5



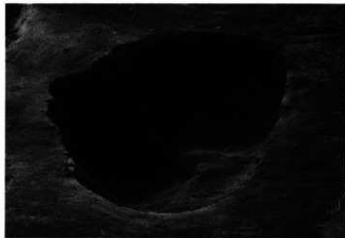
6



7



1



2



3



4



5



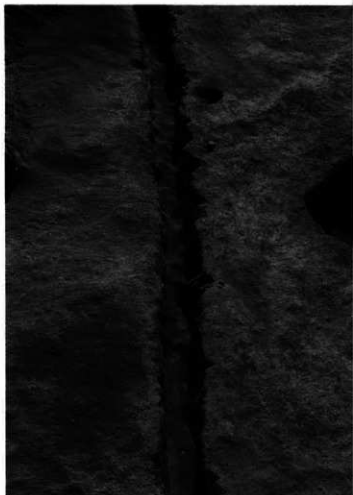
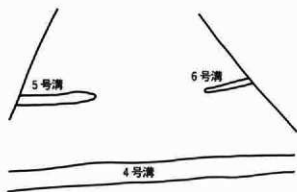
6

PL. 44

1. B区3号土坑(南から)
2. B区5号土坑(北から)
3. B区1号井戸(西から)
4. B区2号井戸(南西から)
5. B区1号溝(南西から)
6. B区2号溝(北から)

PL. 45

1. B区3号溝(北から)
2. B区4・5・6号溝全景(西から)



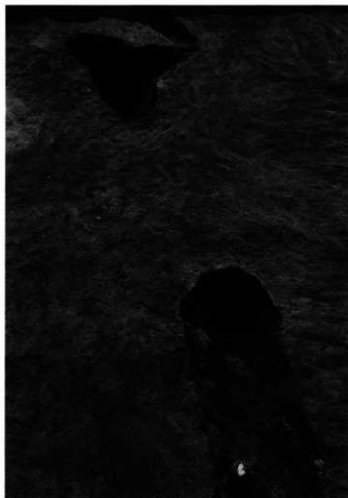
1



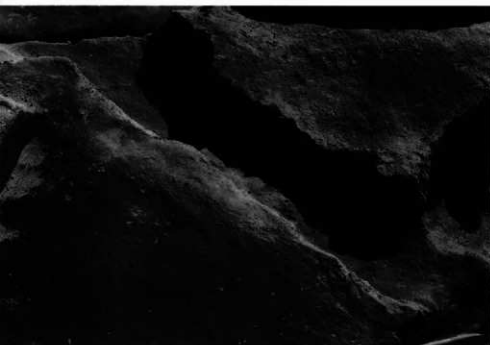
2



1



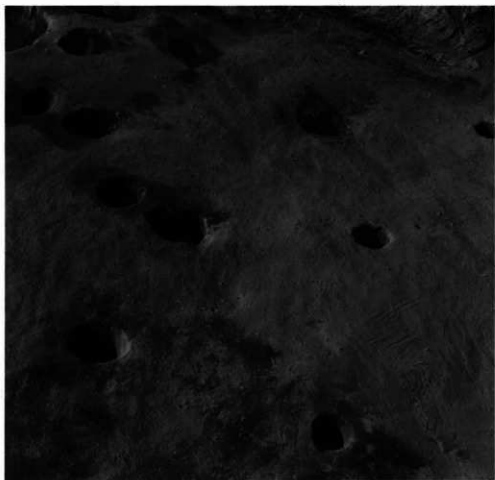
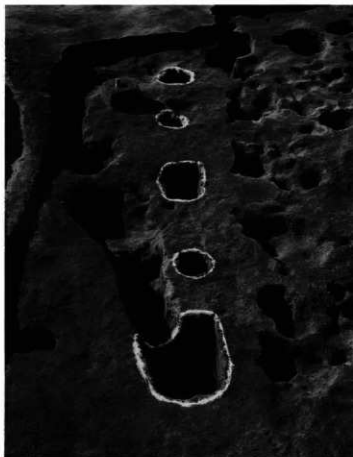
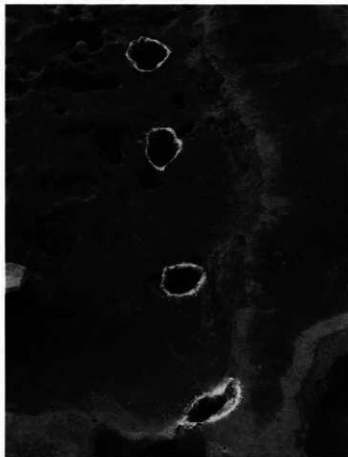
2



3

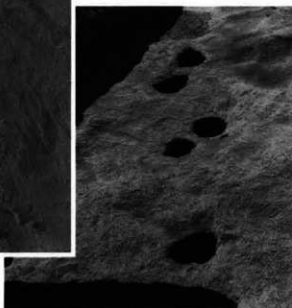
PL. 46

1. B区4号溝(北から)
2. B区5号(下方)・6号(上方)溝(北から)
3. B区7号溝(南から)



PL. 47

1. B区2号櫛列(北から)
2. B区3号櫛列(北から)
3. B区ビット群(北東から)
4. B区ビット群(北東から)



PL. 48

1. B区B軽石下水田全景(北から)
2. B区B軽石下水田土層断面(東から)
3. B区B軽石下の溝(東から)
4. B区B軽石下水田全景(南から)



2



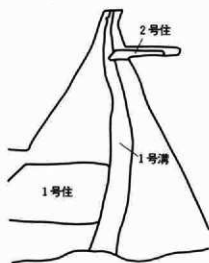
4



3

PL. 49

1. C区全景(北から)
2. C区全景(東から)





1



2



3



4

PL. 50

1. C区1号住居跡全景(西から)
西側でC区1号溝と重複
2. C区1号住居跡遺物出土状況(西から)
3. C区1号住居跡遺物出土状況(西から)
4. C区1号住居跡遺物出土状況(東から)



1



2

PL. 51

1. C区2号住居跡全景(西から)
北側にC区1号溝
2. C区2号住居跡土層断面(南から)
3. C区2号住居跡炉跡(西から)



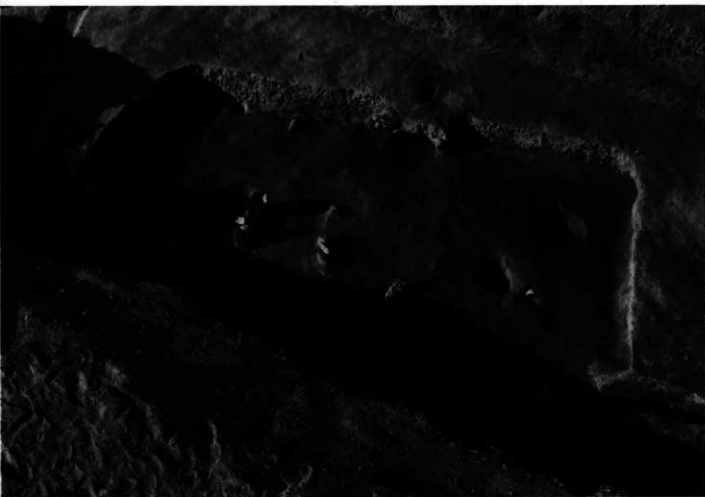
3



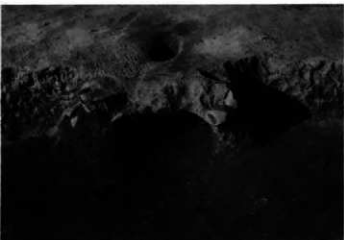
1



2



3



4

PL. 52

1. C区2号住居跡遺物出土状況(西から)
2. C区2号住居跡遺物出土状況(西から)
3. C区3号住居跡全景(南から)
4. C区3号住居跡竈(南から)

PL. 53

1. C区4号住居跡全景(南西から)
2. C区4号住居跡竈(南西から)
3. C区4号住居跡貯蔵穴内遺物出土状況(北西から)
4. C区4号住居跡遺物出土状況(南から)
5. C区4号住居跡遺物出土状況(南から)



1



2



3



4



5



1



2



3



4



5

PL. 54

1. C区5号住居跡全景(南から)
2. C区5号住居跡竈(南から)
3. C区5号住居跡遺物出土状況(北から)
4. C区5号住居跡遺物出土状況(東から)
5. C区5号住居跡発掘風景(東から)

PL. 55

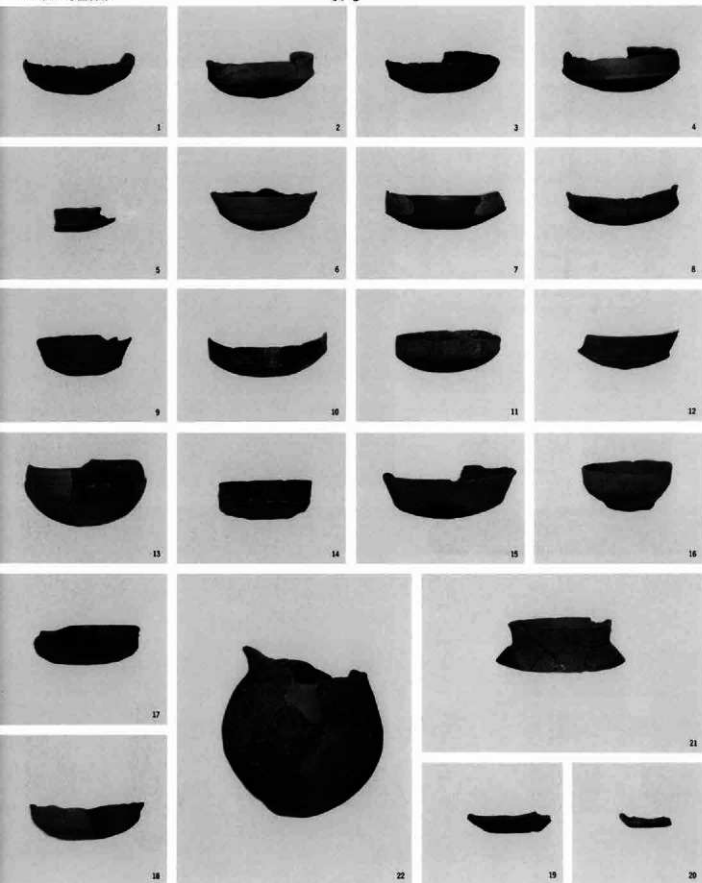
1. C区1号溝全景(北から)
2. C区B軽石下水田全景(東から)

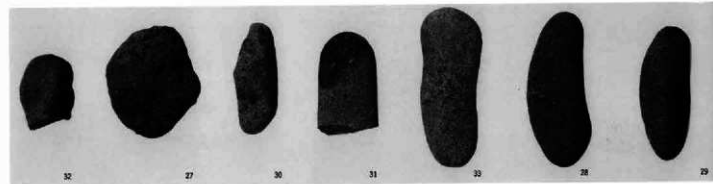
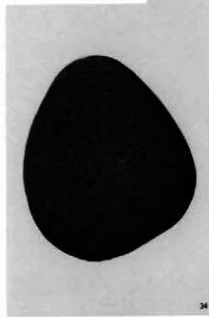


1

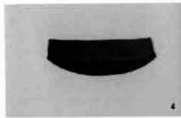


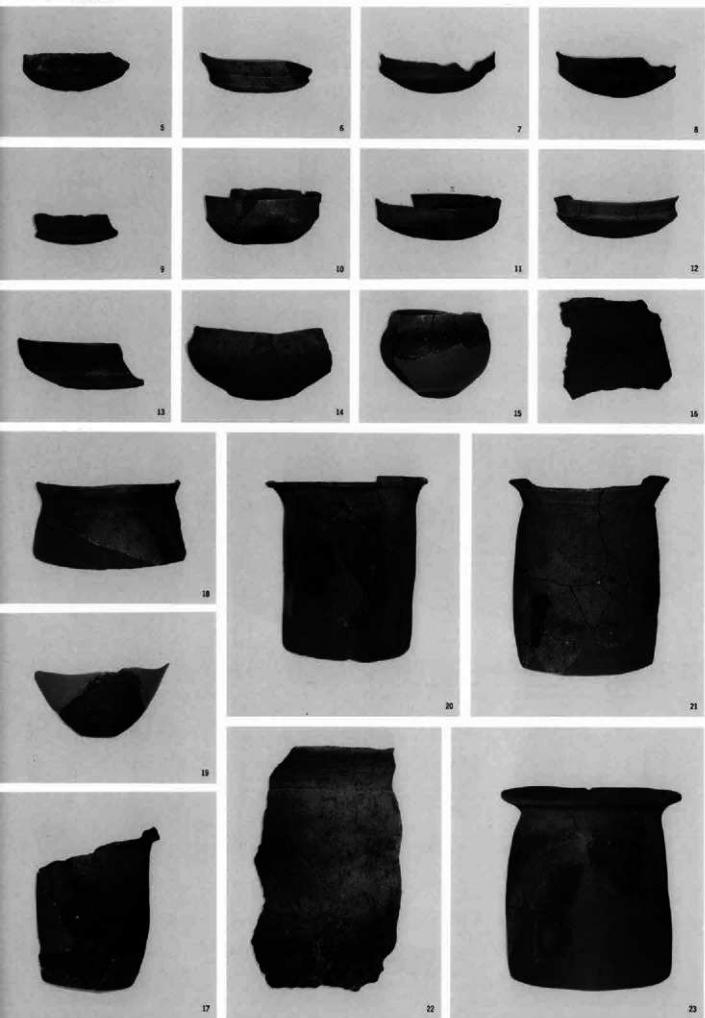
2

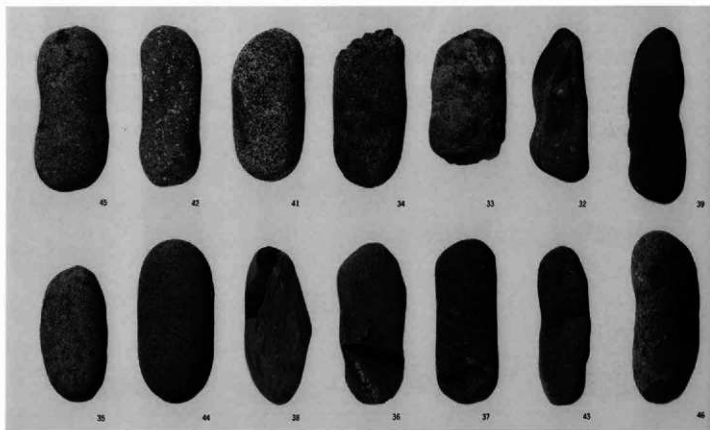




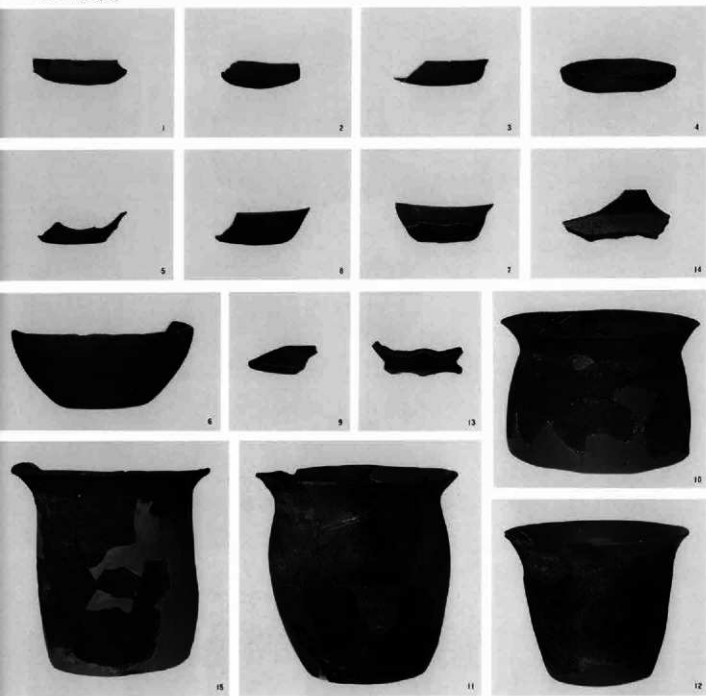
▼A区2号住居跡



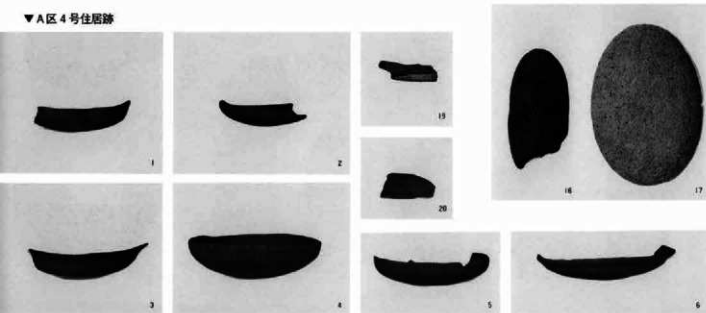


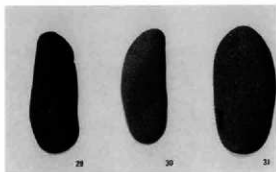
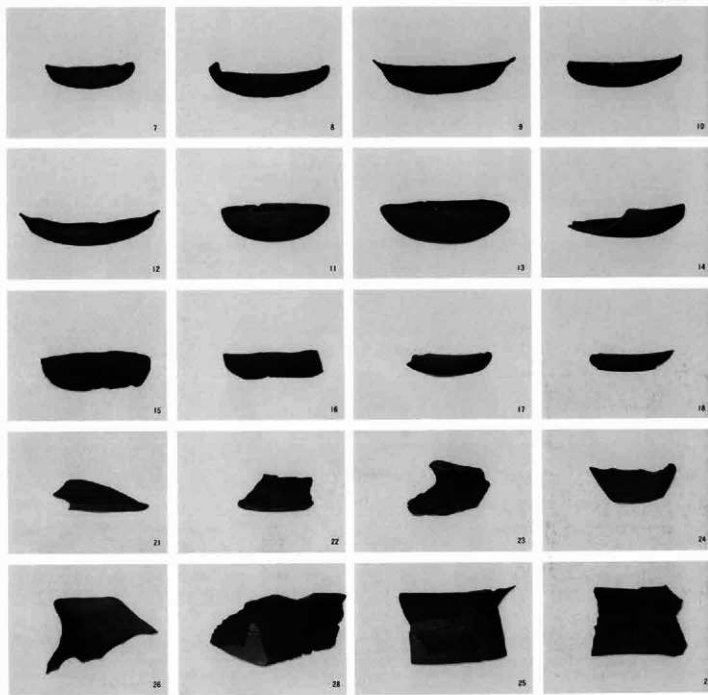


▼A区3号住居跡



▼A区4号住居跡





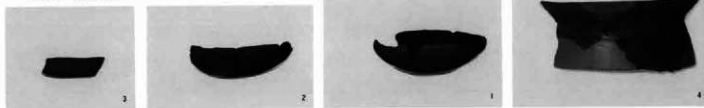
▼A区5号住居跡



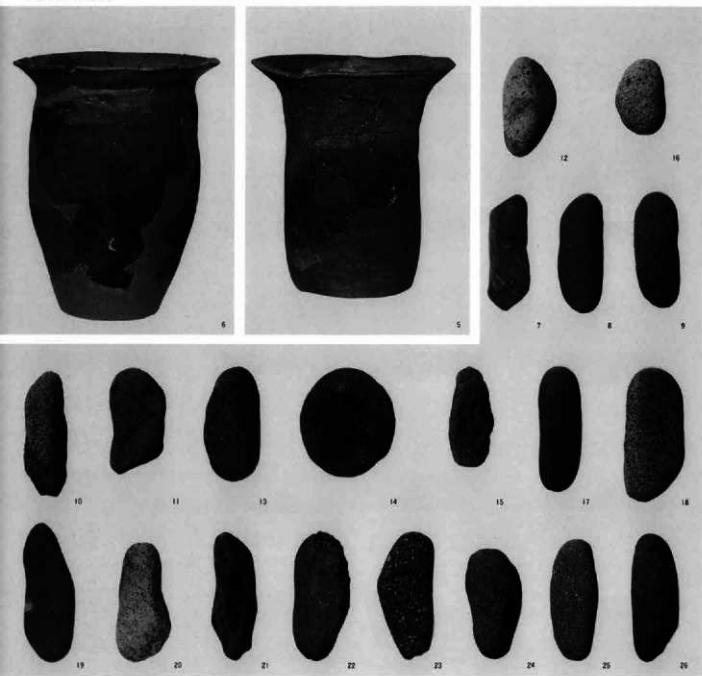
▼A区6号住居跡



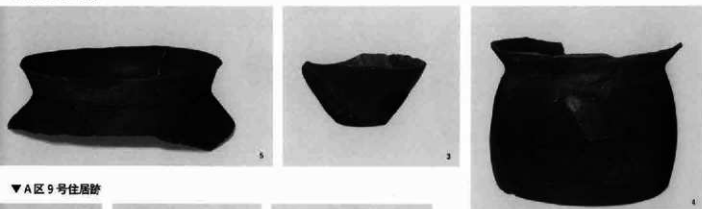
▼A区7号住居跡



▼A区7号住居跡

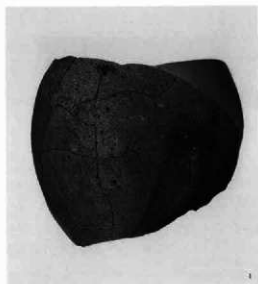


▼A区8号住居跡



▼A区9号住居跡





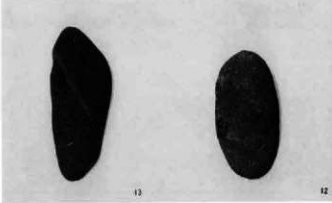
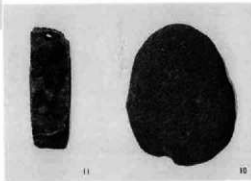
▼A区11号住居跡



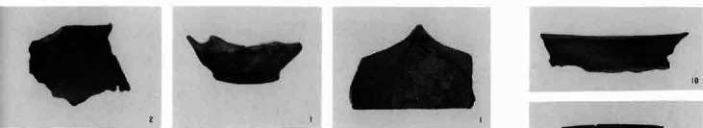
▼A区13号住居跡



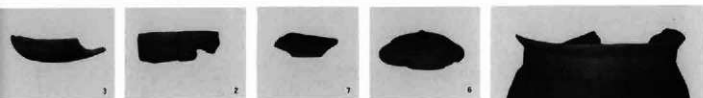
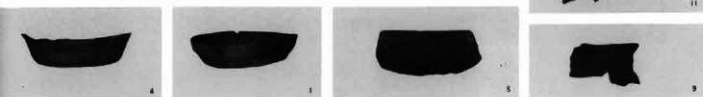
▼A区12号住居跡



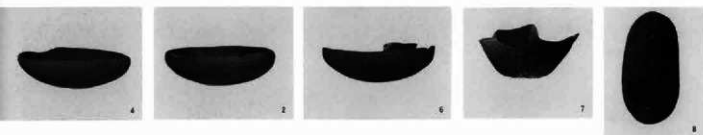
▼A区14号住居跡



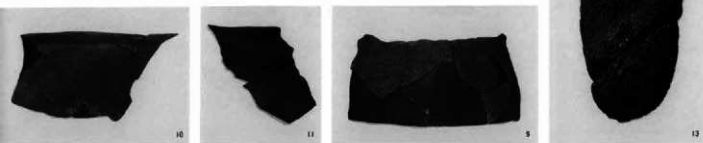
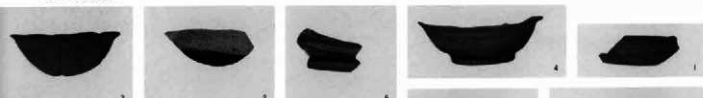
▼A区15号住居跡

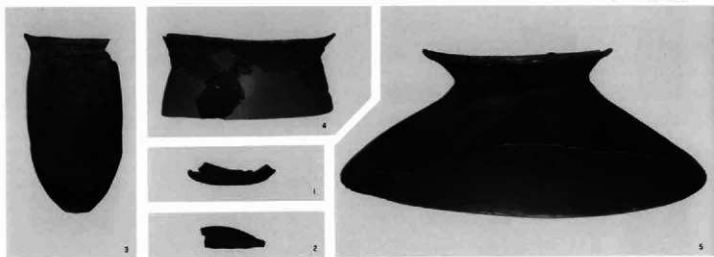


▼A区17号住居跡



▼A区18号住居跡

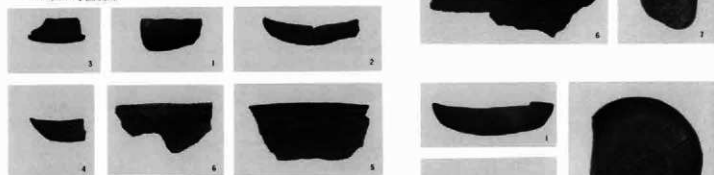




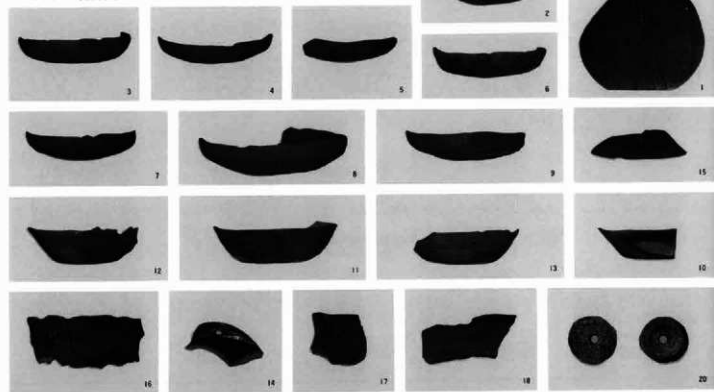
▼A区20号住居跡



▼A区21号住居跡



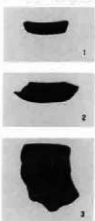
▼A区22号住居跡



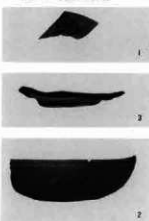
▼A区22号住居跡



▼A区24号住居跡



▼A区1号整穴遺構



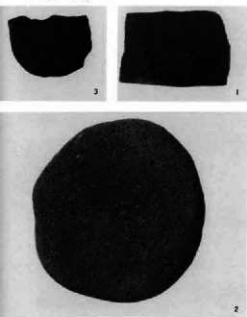
▼A区1号井戸



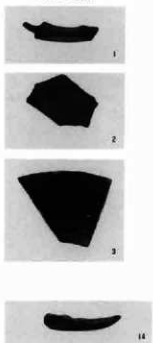
▼A区2号溝



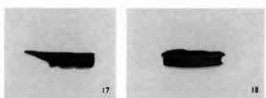
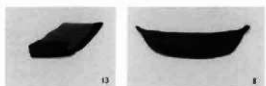
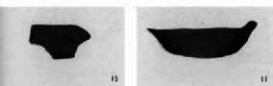
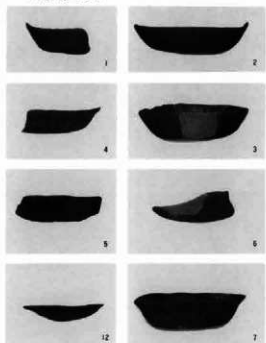
▼A区4号溝

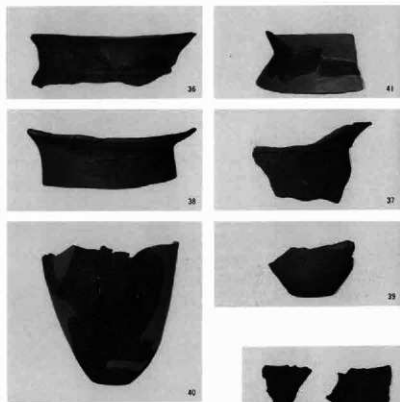
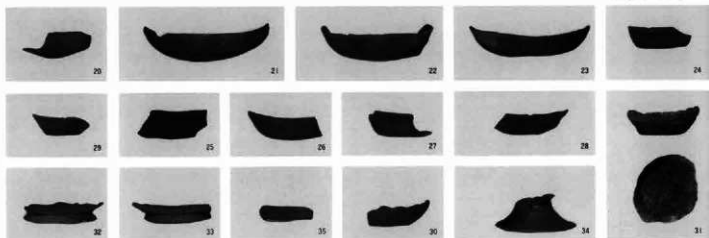


▼A区6号溝

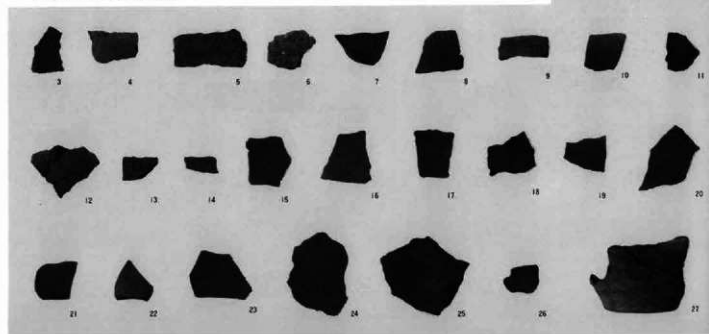


▼A区グリッド

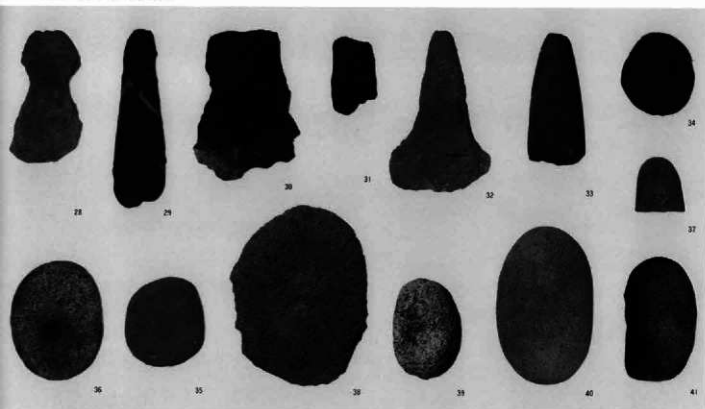




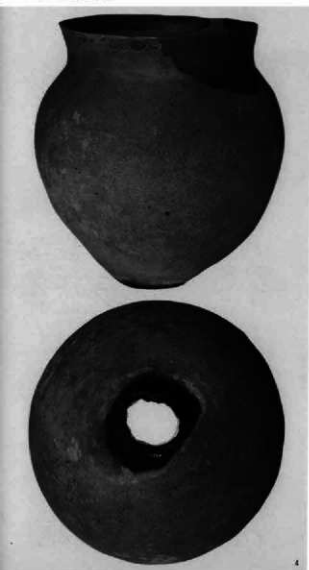
▼A区グリッド出土縄文土器



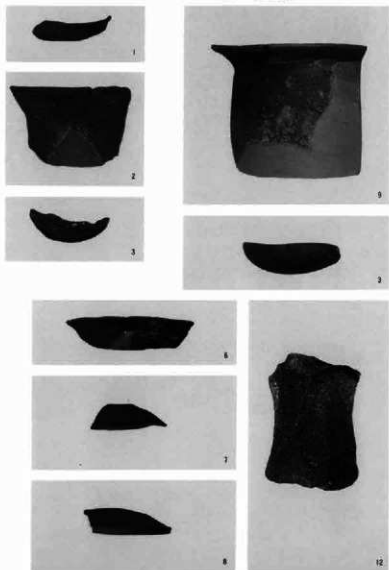
▼A区グリッド出土縄文石器

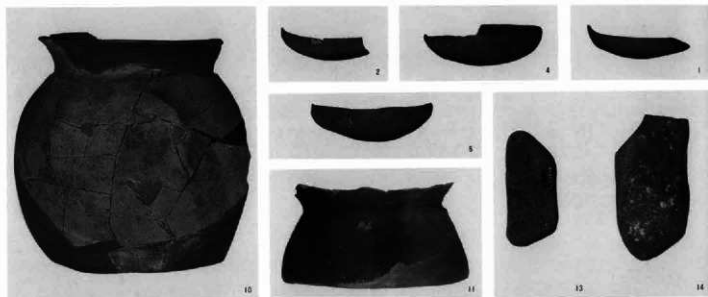


▼B区1号住居跡

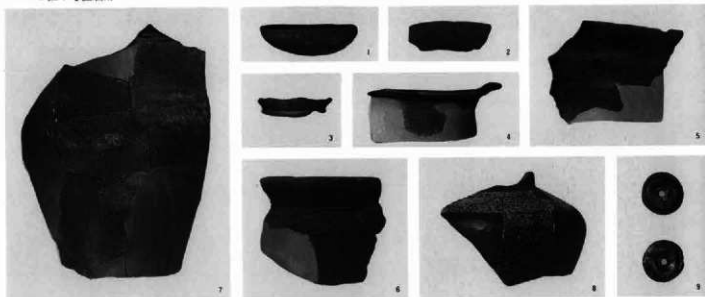


▼B区2号住居跡

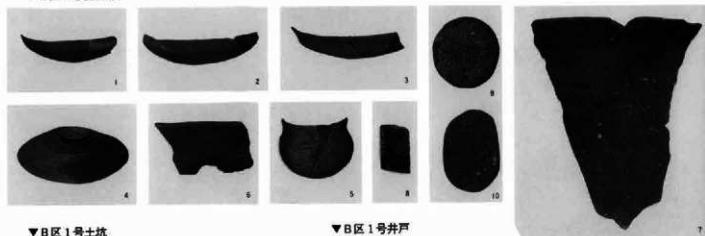




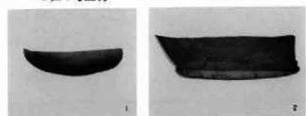
▼B区3号住居跡



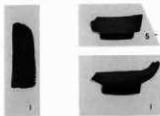
▼B区4号住居跡



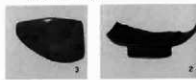
▼B区1号土坑

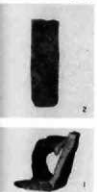
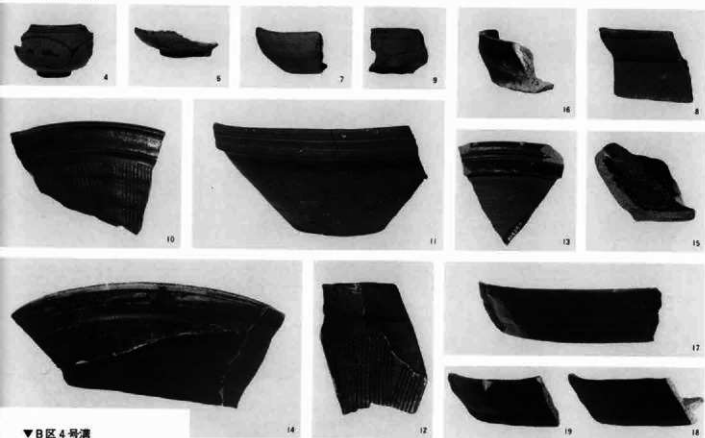


▼B区1号井戸

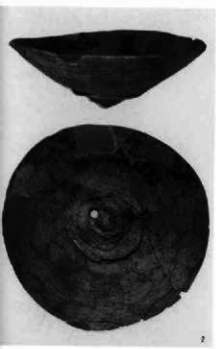


▼B区2号井戸



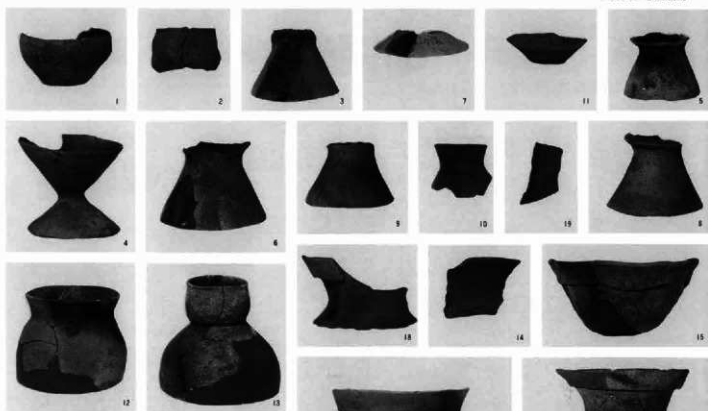


▼B区2号溝

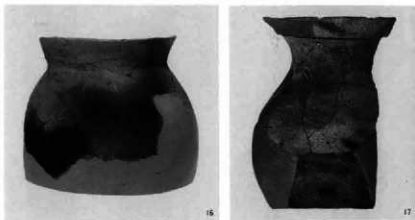
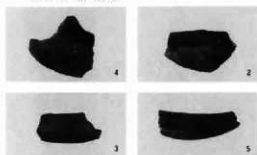


▼C区1号住居跡

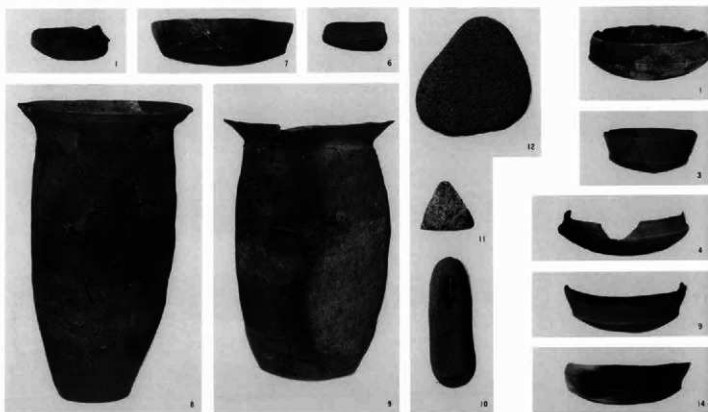




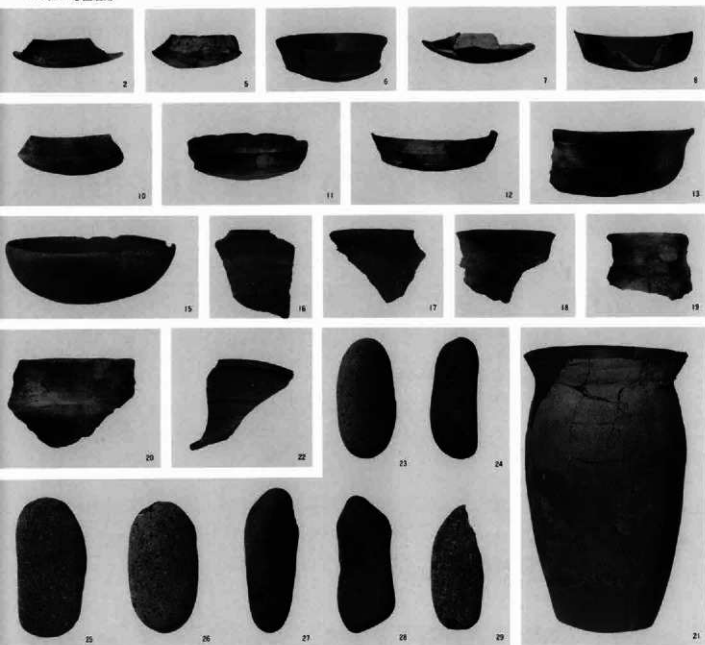
▼C区3号住居跡



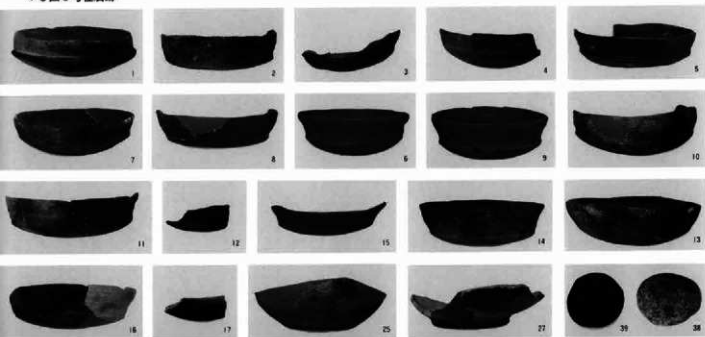
▼C区4号住居跡

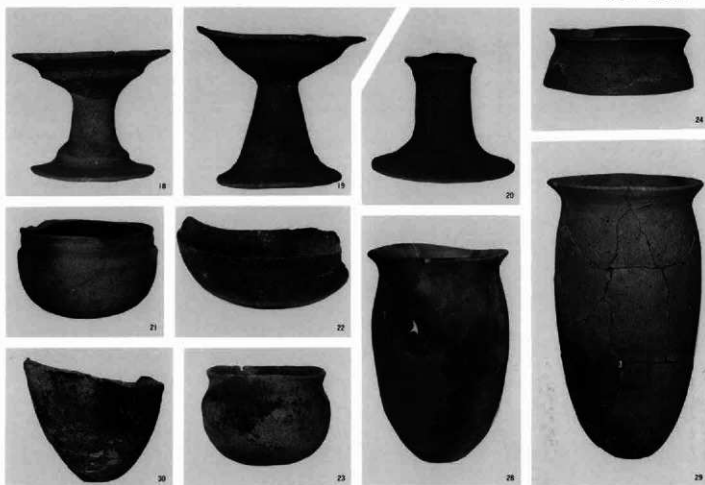


▼C区4号住居跡

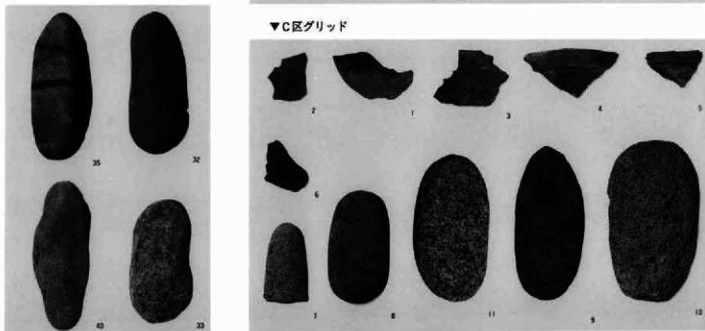


▼C区5号住居跡





▼C区グリッド



群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告 第178集

荒砥大日塚遺跡

昭和56年度県営埋蔵文化財発掘調査事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成6年3月20日 印刷

平成6年3月25日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会

〒371 前橋市大手町1丁目1番1号
電話 (0272) 23-1111(代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社